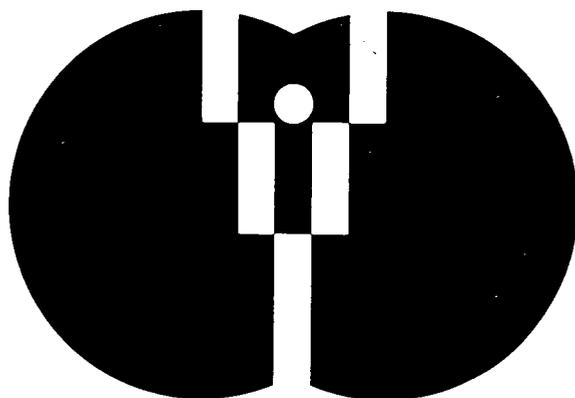


こどもの城

事業年報

昭和 60・61 年度

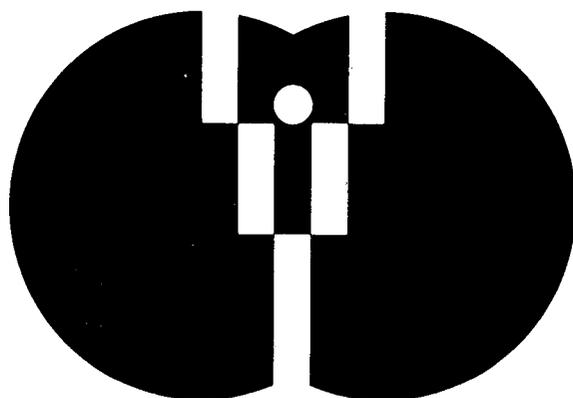


財団法人 日本児童手当協会

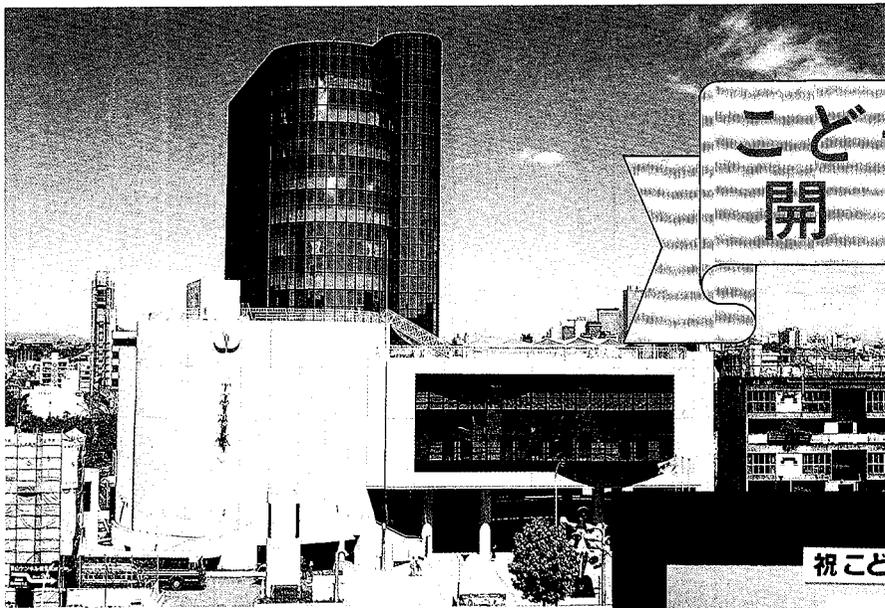
こどもの城

事業年報

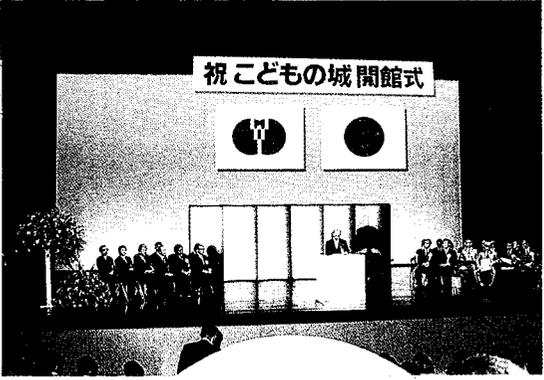
昭和60・61年度



財団法人 日本児童手当協会



こどもの城 開館



青山劇場での開館式 (60・10・22)



皇太子ご夫妻ご視察 (60・12・6)



竹内理事長の開館宣言 (60・11・1)



オープニングのにぎわい (60・11・1)



開館記念、かがやく子どもたち (60・11・1)

開館記念、ブルーノ・ムナーリ氏の公開指導 (60・11)



西独首相夫人ハネローレ・コールさん来館 (61・5・7)



100万人目の入館者、丸山夏希ちゃん (61・9・7)



子どもの本世界大会

(61・8・18)



開館1周年記念に「ガヤ研」が作った紙の特大ケーキ (61・11・2)



こどもの城開館一周年記念シンポジウム
世界最低になった乳児死亡率

開館一周年記念シンポジウム
世界最低になった乳児死亡率 (61・10・4)



こどもの城のアイドル

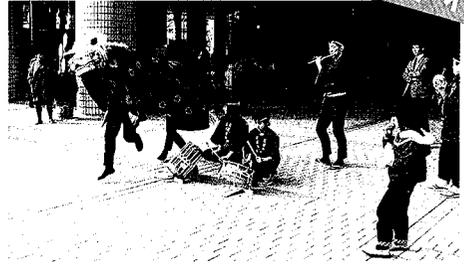
マウリ、マウリ



四季
それぞれに



みんなで豆まき「オニはソト」(62・2)



ミシ舞い(61・1)



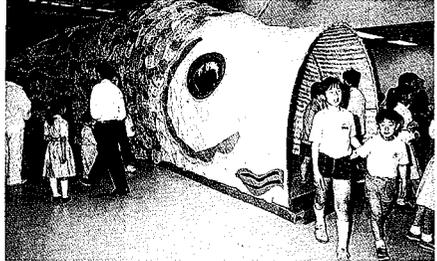
やし(61・1)



ボランティアによるひな祭り
(62・3・1)



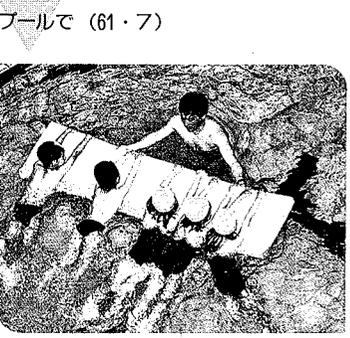
イースター国際子ども
フェスティバル(61・3・30)



みんなでつくろう
テカテカレイ(61・5)



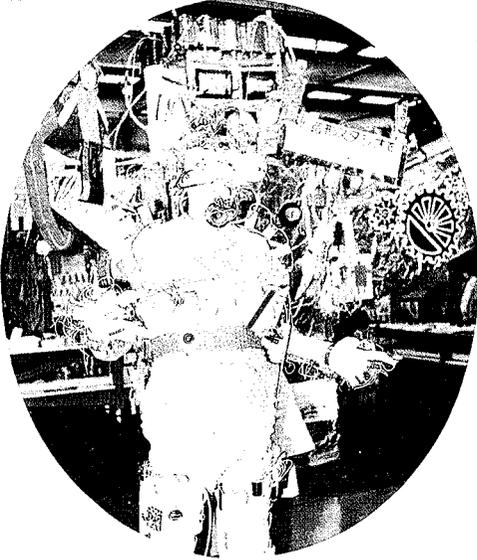
ニティ・スイミング同窓会(62・3・7)



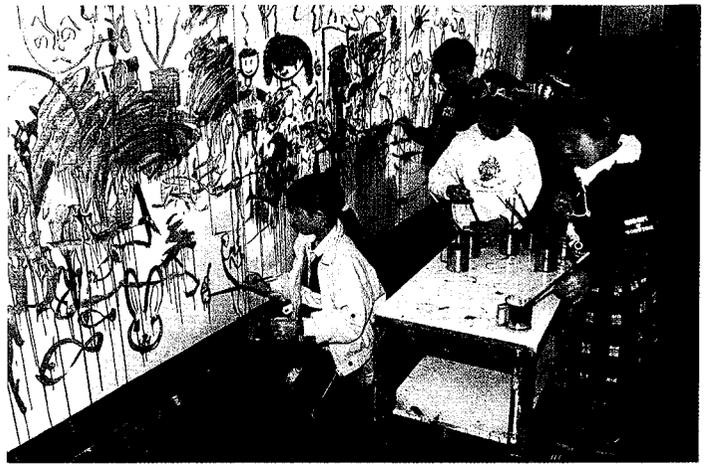
プールで(61・7)



こどもの城の夕涼み(61・8)

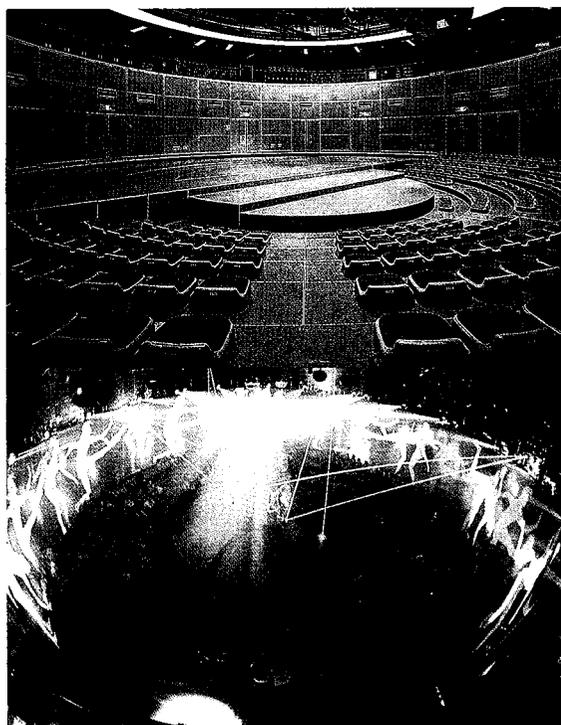


造形事業部職員のロボット(61・12)

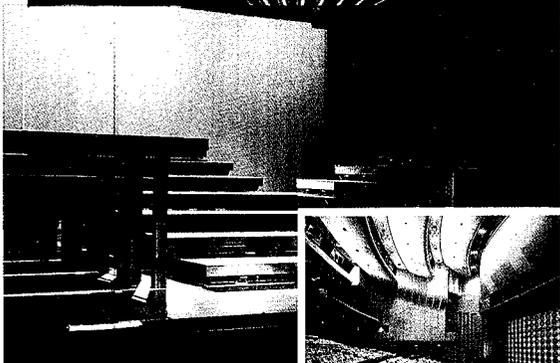
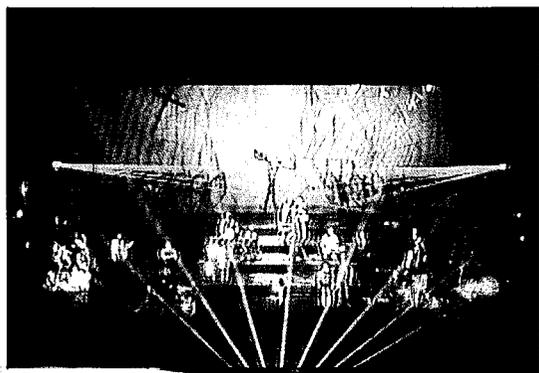


造形スタジオプレイングボード(62・3)

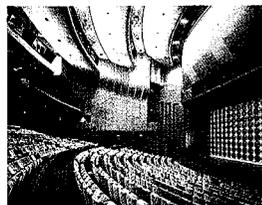
青山円形劇場



青山円形劇場
（60・12・28〜30）



青山劇場



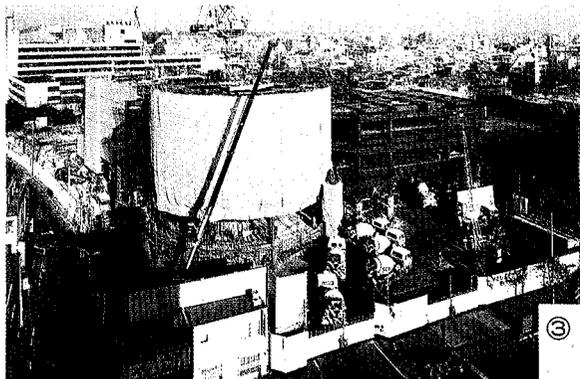
開館記念
「天地の夢」(60・11・2〜4)

千変万化する迫(せ)り

「こどもの城」ができるまで



① 57年2月



③ 58年12月



② 57年12月



④ 60年5月

はじめに

財団法人 日本児童手当協会

こどもの城

理事長 竹内 嘉巳

昭和60年11月1日に発足した「こどもの城」は、厚生省をはじめ、関係各方面のご協力とご支援を受け、多くの来館者をお迎えして、試行錯誤を繰り返しながらも、まずは順調な歩みを続けてまいりました。この年報は運営を開始して5か月間の60年度と61年度を合わせた「こどもの城」事業活動の概要でございます。

なんといっても、お手本となるべきものを持たず、世界でも初めてといってよい「こどもの城」ですから、未知数があまりにもたくさんあって、正に、不特定多数の子どもたち、その両親、家族、更には児童問題にかかわり、関心を持つ専門家の人々に、私どもの抱いている「こどもの城」はこうありたいという意気込みがどこまで通用するか、一時的な好奇心の対象で終わってしまいはしないか、不安と疑問とは次から次に出てきました。

そのため、私たちは、開館3年前から、各方面の専門家のかたたちの意見を聞き、懇談を重ねました。「こどもの城」の各部門を担当する主要スタッフと全員のブレーン・ストーミングを繰り返し、綿密な企画の検討、試作プログラムのシミュレーションも重ねてまいりました。

開館した60年度は、「こどもの城」の理念を魅力あるプログラムの展開を通してアピールすることに焦点をおきました。といっても、実際は無我夢中で、トライアンドエラーを続けながら、いわば、大部分が物見高い見物客的な開館当初の多数の来館者を、いかにして安定した「こどもの城」を活用してくれる来館者に結びつけていくかということに明け暮れた感がありました。

61年度は前年度5か月間の実績と課題を踏まえ、事業運営を固めることを第一の目標に活動を展開いたしました。この結果、開館後10か月余りで、61年9月7日には来館者数が100万人を超え、各部活動ならびに全館規模の事業とも将来へ向かっての必要な基本的態勢は整ったと考えております。

もちろん、前途に多くの課題があることは、この年報の中にも率直に示されております。私たちは、「こどもの城」創立の趣旨達成を目指して、新しい時代の子どもたちのための、先駆的な事業のプログラムの開発に常に情熱を燃やす一方、地道に課題を解決しながら、これからも着実な歩みを続ける決意でございます。

皆様がたの温かい励まし、ご叱正を賜りますよう切にお願い申し上げます。

目 次

はじめに	竹内 嘉巳
I 事業の概要	
1 事業と運営	1
(1) 基本構想	1
(2) 運営の基本的な考え方	1
(3) 活動の態様	3
1) 一般来館者を対象とした活動	3
2) グループ活動	3
3) 講座・クラブ活動	3
(4) 財団法人日本児童手当協会組織機構図	4
(5) 活動時間・入館料	5
(こども活動エリア)	
1) 平常期間	5
2) 学校の季節休み	5
3) その他	5
4) 入館料	5
II 開館	
1 開館式	7
厚生大臣式辞	7
児童家庭局長設立経過報告	8
理事長事業概要説明	9
2 開館記念行事	10
60・61年度事業経理収支計算書	12
III 活動状況一覧	
〔60年度〕	
1 入館者数	13
2 事業・催し	14
3 グループ活動	18
4 講座・クラブ等	20
〔61年度〕	
1 入館者数	13
2 事業・催し	24
3 グループ活動	32
4 講座・クラブ等	34
IV 各部の活動(1)	
1 体育事業部	37
2 プレイ事業部	59
3 造形事業部	90
4 音楽事業部	118
5 AV事業部	142
6 保育研究開発部	168
7 小児保健部	193
8 劇場事業本部	210
9 全館行事	223
V 各部の活動(2)	
1 研修教養部	231
こどもの城あそびガヤガヤ研究所	247
2 広報部	250
3 営業部	253
VI グループ活動	
グループ活動	257
VII その他の活動	
1 国際交流活動	275
2 こどもの城全国連絡協議会	276
3 チャリティー事業	280
4 こどもの城友の会	282
・主要年表(60・61年度)	目次裏
・内部施設の概要	2
・建築概要	22
・財団法人日本児童手当協会役員	末尾

主要年表 (60・61年度)

<60年>

- 9. 14 「こどもの城」の経営委託契約締結
- 10. 22 開館式
- 11. 1 開館(招待, 無料一般公開)
- 11. 2 平常運営開始
- 11. 2 中曽根首相視察
- 11. 22~
27 ブルーノ・ムナーリ氏招へい
- 11. 27 常陸宮殿下・同妃殿下ご来館
(60年度ねむの木賞・高木賞贈呈式)
- 12. 6 皇太子殿下・同妃殿下ご来館
- 12. 24~
61. 1. 7 冬休み特別期間(12. 29~1. 2は休館)

<61年>

- 1. 30 北京人民美術出版取材
- 2. 6 BBC放送取材
- 2. 12 ロンドンタイムス取材
- 2. 26 オーストラリアテレビ局取材
- 2. 28 こどもの城全国連絡協議会61年度総会
- 3. 4 今井厚生大臣視察
- 3. 19 フランス婦人誌「ル・フィガロ・マダム」取材
- 3. 27 紀宮殿下, 三笠宮殿下・同妃殿下ご来館(青山劇場・宮城まり子350人によるコンサート)
- 3. 26~
4. 6 春休み特別期間
- 4. 19 AP通信社取材
- 4. 26~
5. 5 児童福祉週間特別期間
(5日は18歳未満入館無料)
- 5. 7 西独首相夫人 ハネローレ・コールさん来館
- 5. 7 キーストン通信社取材
- 5. 8 カナダ首相夫人 ミラ・マルルーニーさん来館

- 5. 21 北京日報取材
 - 5. 23 新華社取材
 - 6. 21 スターズ&ストライプス取材
 - 7. 15 心中天網島のポスターにC L I O賞
 - 7. 20~
8. 31 夏休み特別期間
 - 8. 11 フランス国営テレビ取材
 - 8. 16 高円宮殿下・同妃殿下ご来館(青山劇場・第1回青山バレエ・フェスティバル)
 - 8. 18 鈴木東京都知事視察
 - 8. 18~
23 1986年子どもの本世界大会
 - 8. 27~
30 1986年国際社会福祉会議
 - 9. 7 入館者 100万人突破
 - 10. 5 浩宮殿下ご来館
(第36回児童福祉施設文化祭)
 - 10. 26 インドネシア国営テレビ取材
 - 10. 30 アメリカ科学誌「スミソニアンマガジン」取材
 - 11. 1~
3 開館1周年記念
(1日は18歳未満入館無料)
 - 11. 25 常陸宮殿下・同妃殿下ご来館
(61年度ねむの木賞・高木賞贈呈式)
 - 11. 30 タイ国営テレビ取材
 - 12. 9 常陸宮殿下・同妃殿下ご来館
(61年度肢体不自由児・者の美術展)
 - 12. 11 韓国主要新聞7社取材
 - 12. 23~
62. 1. 7 冬休み特別期間(12. 29~1. 2は休館)
- ### <62年>
- 3. 5 こどもの城全国連絡協議会62年度総会
 - 3. 26~
4. 5 春休み特別期間

I 事業の概要

I 事業の概要

1 事業と運営

「こどもの城」は、厚生省が1979年（昭和54年）の国際児童年を記念して計画、建設したものである。国が東京都から譲り受けた、渋谷区神宮前5-53-1の約1万平方メートルの敷地に、昭和56年11月、着工された。以来、4年の歳月と323億円の国費をかけ、地上13階、地下4階の、ミラーガラスに包まれた美しい建物が完成、60年11月1日に開館した。厚生省の委託を受けて、財団法人日本児童手当協会がその運営に当たっている。この経営委託契約の締結は同年9月14日に行われた。「こどもの城」は、新生児から高校生までの全児童を対象にした、幅広い福祉と文化活動を行うとともに、当然、ハンディキャップを持つ児童も一緒に活動する施設である。また、親たちをはじめ、児童の福祉、文化の関係者、研究者、教育者などのために開かれている。次代を担う子どもたちを心身ともに健やかに育成し、その資質の向上を図ることを目的に、常に先駆的で実験的なプログラムを企画、実践し、全国に普及させていくこと、そして、国際的視野に立ち、世界各国の子どもたちと、福祉・文化活動を通じて交流を図ることを運営の基本としている。

(1) 基本構想

「こどもの城」の創設に当たって、昭和54年、厚生省により、「こどもの城企画委員会（葛西嘉資座長）」が設けられ、委嘱を受けた有識者メンバーによって基本構想の検討が重ねられた。委員会は同年6月、この結果を「基本構想に関する意見」として取りまとめ、児童家庭局長に提出した。

意見書は「近年、わが国の社会の都市化、工業化に伴い、児童の健康や安全が損なわれており、また、核家族化、家庭規模の縮小に伴う児童の人間関係の変化によって、さまざまな問題が生じている。一方で、高年齢化が急速に進んでおり、この中で、豊かな活力ある社会を維持していくために、未来を担う児童の健全育成の必要性が高まってきている。このときにあたり、わが国の児童をとりまく諸問題に適切に対処し、明るい21世紀を展望する総合施設を建設することは、時宜に適したものである。（要約）」と述べ、「こどもの城」の性格、機能、運営に関して積極的な提言がなされ、基本方針が打ち出された。

以来、厚生省と財団法人日本児童手当協会は、この「基本構想に関する意見」を踏まえ、協力しながら、「こどもの城」の建設に当たり、運営に取り組んできた。

(2) 運営の基本的な考え方

(1) 出生率の低下傾向による人口構造の急速な老齢化、青少年の非行問題、体位に比べ

I 事業の概要

て劣る子どもの体力、その心をむしばむ要因の増加など、我が国の児童を取り巻く環境は、活力のある未来社会を期待するうえで、憂慮すべき現況にある。こうした、重要な課題に対応していくためには、単に国や自治体の行政に頼るだけではなく、家庭、学校、地域社会が相互に協力しつつ児童の健全育成に取り組んでいかねばならない。

「こどもの城」はこのような多くの問題を克服し、明るい21世紀の日本を築いていくための児童福祉、文化の拠点でありたいと願っている。

(2) 「こどもの城」は、全国の児童を対象とした施設であり、東京及びその周辺の児童だけの施設ではない。すなわち、「こどもの城」における事業について広く全国各地に情報を伝え、更には各地の児童センターなどでの児童福祉、文化活動を全国に紹介するといった全国的な広がりを持つ「こどもの城」として運営している。

(3) 「こどもの城」は、いわゆる幼児のみを対象とするのではなく、幅広く新生児から高校生までの全児童を対象とした福祉・文化活動に関する施設であるとともに、ハンディキャップを持つ児童も当然参加し、ともに活動する施設である。

更に、「こどもの城」は、親をはじめ、児童の福祉・文化の関係者、研究者、教育者など、子どもの幸せを願うすべての人が利用できるよう開かれている。

(4) 「こどもの城」は、既製のプログラムだけではなく、先駆的、実験的なプログラムを企画し、実践する。また、国内だけでなく、国際的な視野に立って世界各国の児童福祉・文化活動との交流を図る。

(5) 以上のように「こどもの城」は、①芸術、文化、科学、スポーツなどの活動による児童の健全育成、②児童福祉関係者の研修、現任訓練、③児童福祉に関する研究、開発、④国際交流といった各種の機能を併せ持つ総合施設である。これらの機能を相互に関連させな

内部施設の概要

こども活動エリア	○アトリウム（こども活動エリア入り口）・ギャラリー	[1・1～2階]
	○プール・体育室・健康開発室	[地下2階]
	○プレイホール・コンピュータプレイルーム (パソコンルーム)	[3階]
	○造形スタジオ	[10階]
	○音楽スタジオA, B・音楽ロビー・シンセサイザー室	[3階]
	○AVライブラリー	[4階]
	○屋上・ともだち広場・ふしぎが丘・まんまる広場	[4階]
保育健	○小児保健・診療・相談室	[3～5階]
	○保育研究開発・保育室I, II	[5階]
劇場	○青山劇場	[1・2階]
	○青山円形劇場	[3階]
サービスエリア	○駐車場	[地下2・3・4階]
	○フリーホール（休憩室・催し場）	[地下1階]
	○カフェテラス「アンファン・ひさご寿司」	[1階]
	○コーヒーラウンジ「アミティーエ」	[2階]
	○売店	[1・3・4階]
	○ホテル	[6・7階]
	○レストラン「ラブニール」	[8階]
	○研修室	[8・9階]

1 事業と運営

がら、総合的な運営を図ることが、肝要であると考えている。

(3) 活動の態様

「こども活動エリア」と総称される体育、プレイ、造形、音楽、AV（オーディオ・ビジュアル）の各事業部のほか、保育研究開発部、小児保健部、研修教養部、劇場事業本部が相互に連携、協力しながら、総合施設の機能を十分に生かし、来館者が生き生きと参加し、体験できる運営、そのための新しいプログラム開発に努めてきた。

事業活動は大別して、①一般来館者を対象とした活動、②グループ活動、③講座・クラブ活動の3つの柱で行われている。

1) 一般来館者を対象とした活動

「こども活動エリア」では一般来館者の児童や家族が楽しみながら参加し、活動できるプログラムをたくさん用意して活気のある日常活動を展開してきた。

学校の季節休みや児童福祉週間は特別期間として、集中的に季節にちなんだ楽しい催しを行った。季節感を大切に、活動プログラムの平板化を避ける意味からも季節行事は重視している。

2) グループ活動

保育所、幼稚園、小学校などを単位とした児童、及びハンディキャップを持つ児童たちが「こどもの城」で行う園外活動である。

保育研究開発をはじめ、各事業部が協力して、「こどもの城」ならではのプログラムを開発し、積極的に受け入れている。

3) 講座・クラブ活動

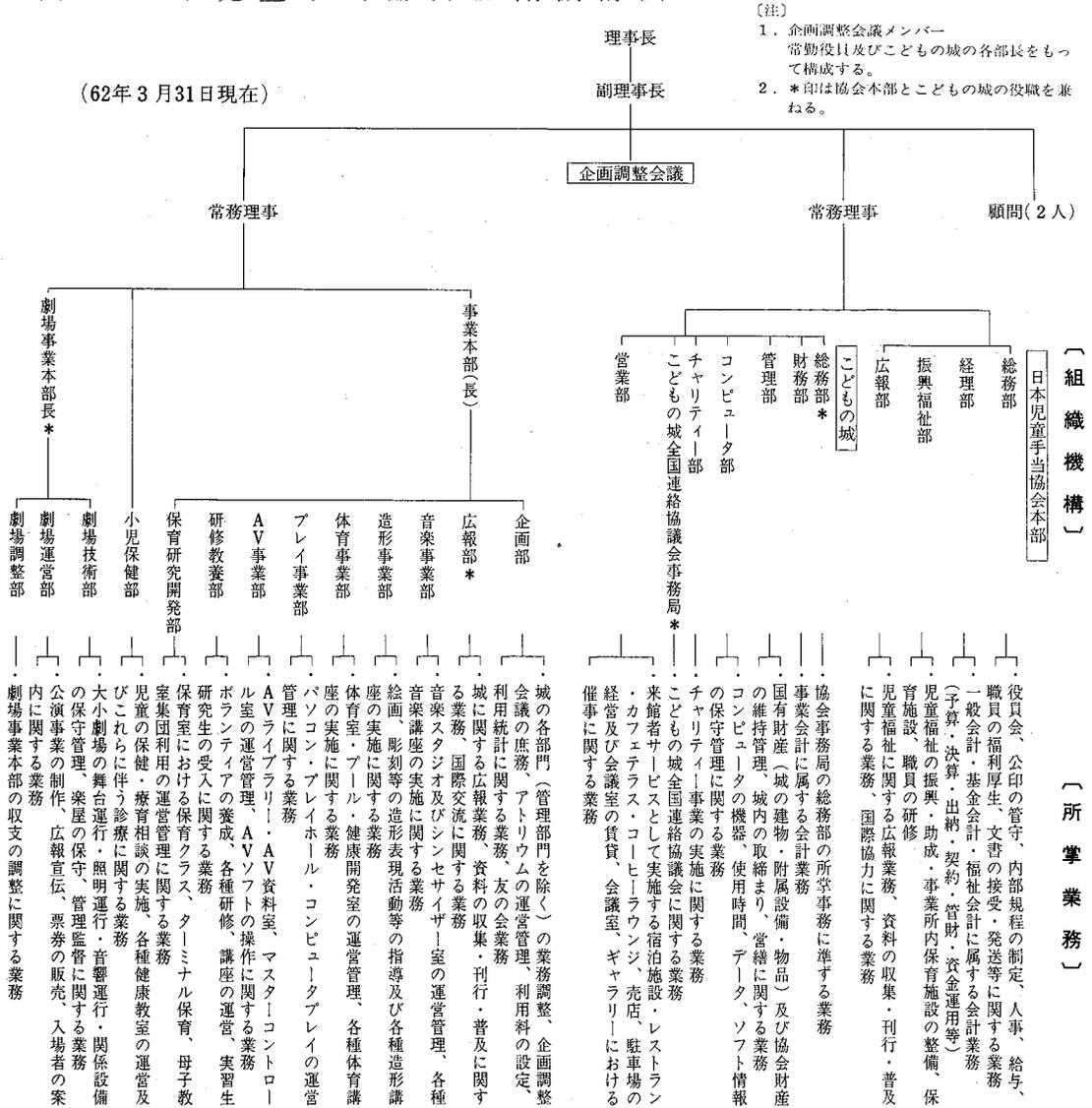
「こどもの城」を継続的かつ体系的に利用する各種の講座・クラブが設けられている。体育、音楽、造形、パソコン、ビデオや福祉関係の講座・クラブのほか、肥満児、ぜんそく児の健康教室など、多くの種類がある。いずれも「こどもの城」の特徴を生かすことに重点を置いた内容である。

そのほか、「こどもの城」の趣旨を推進するための事業として下記のような活動をしている。

①ボランティアの養成と実習生、研究生の受け入れ ②チャリティー事業 ③こどもの城全国連絡協議会 ④国際交流事業 ⑤こどもの城友の会

I 事業の概要

(4) (財)日本児童手当協会組織機構図



部	職員数			部	職員数			部	職員数		
	一般	嘱託	計		一般	嘱託	計		一般	嘱託	計
総務	8		8	営業	21	1	22	研修教養	4		4
経理	1		1	企画	5		5	保育研究開発	10		10
振興福祉	3		3	音楽事業	6		6	小児保健	10		10
広報	3	1	4	造形事業	6		6	劇場技術	9		9
財務	4		4	体育事業	6	1	7	劇場運営	8		8
管理	3		3	プレイ事業	8		8	劇場調整	1		1
コンピュータ	3		3	AV事業	7		7	合計	126	3	129

(5) 活動時間・入館料 (こども活動エリア)

1) 平常期間

平日 開館 (午後1時～午後5時30分)

土曜日 }
日曜日 } 開館 (午前10時～午後5時30分)
祝日 }

月曜日 休館 (祝日または振り替え休日に当たるときは開館＝午前10時～午後5時30分＝翌日の火曜日が休館)

(注) 1 夏時間 4月下旬～9月中旬 <61年度の場合, 4.26(土)～9.20(土)> 閉館時間を30分繰り下げ (午後5時30分→午後6時)。開館時間は変わらず。

2 入館券の発売 閉館時間の30分前まで (通常は午後5時まで, 夏時間中は午後5時30分まで)。

2) 学校の季節休み

曜日にかかわらず土・日曜日・祝日なみの午前10時～午後5時30分(夏は午後6時)。年末年始は休館。

60年度は12.29(日)～1.2(木)休館。1.3(金)は正午開館。

61年度は12.29(月)～1.2(金)休館。1.3(土)は正午開館。

*休館日の特例

夏休みの休館日は隔週月曜日 (61年度の場合 7.21, 8.4・18)。

春休み・冬休みの月曜日は原則として開館。

3) その他

都民の日 (10月1日) 午前10時開館。

アトリウムにおける講座, クラブ, 友の会の申し込み受け付け＝平日, 土・日曜日・祝日も午前10時～午後5時 (夏時間中は午後5時30分。休館日を除く)。

4) 入館料

(1) 文化体育事業部門 (こども活動エリア) を利用する一般来館者を対象として入館料を設定した。

一般 18歳未満 300円 (保護者に同伴される6歳未満児は無料)
18歳以上 400円

団体 20人以上の団体は一般の入館料の2割引

(2) 入館料について, 次の特例を設けた。

① 講座の受講者及びクラブの会員は, 受講証又はクラブ員証を提示することにより入館できることとした。

② 当分の間の措置として, 次の有料施設について200円の範囲内で入館券があれば

I 事業の概要

利用できるようにした。

屋内プール(おとな400円 こども300円),コンピュータプレイ (100円), AV視聴 (15分もの場合100円), 体力測定 (簡易測定100円)=体力測定についての特例措置は60年度のみ。

(3) 団体で館内を見学 (こどもの城の要員による案内を行う) する場合の料金として, 団体見学料を設けた。

団体見学料の額は, 一般団体の場合は1人200円とした (児童団体の場合は, 前記(1)の2割引きの団体入館か, 別記のグループ活動参加のいずれかの利用となるのが通例である)。

(4) 上記の料金は, 基本的には60年度・61年度共通である。

(5) 61年5月5日(こどもの日)及び同年11月1日 (「こどもの城」の開館記念日) には, 18歳未満児の入館料を無料とした。

II 開 館

II 開 館

1 開 館 式

「こどもの城」オープンに先立って、60年10月22日午後2時から、厚生省と財団法人日本児童手当協会の共催による開館式が、「こどもの城」青山劇場で行われた。好天に恵まれ、政・官界、福祉、報道、文化、地元関係等の代表者のほか、地元の小学生約300人を加え、合計約900人が出席した。

式典はNHKの伊集院礼子アナウンサーの司会により、厚生省児童家庭局市川企画課長の開式の辞のあと、増岡博之厚生大臣が式辞を述べ、厚生省坂本龍彦児童家庭局長が「こどもの城」設立の経過報告をし、当協会竹内理事長が「こどもの城」事業概要説明を行った。続いて藤森昭一内閣官房副長官が内閣総理大臣祝辞を代読され、東京都知事の祝辞を関岡武次福祉局長が披露された。また、渋谷小学校6年北山悦子さんが子ども代表として大きな声であいさつし、約30分で式典を終了した。

引き続き、青山劇場の舞台披露を兼ねてステージデモンストレーションが行われた。最新の舞台技術を駆使し、舞台、照明、音響が一体となって作り出す効果の一端をご披露した。

このあと、参加者に自由に巡回していただく形で館内をご披露し、1階カフェテラス、2階コーヒールーヅ、ファミリールーヅには、軽食と飲み物を用意し、午後5時半ごろすべての行事を終了した。記念品としてシンボルマークの入った特製の湯飲みセットが用意された。

記念すべき大事な行事を、無事予定どおり挙行することが出来たのは、共催行事とはいえ、厚生省の職員の方々に事前準備から当日の受付、案内に至るまで、全面的なご協力をいただいたからである。

厚生大臣式辞

本日ここにこどもの城開館式を挙行するに当たり、一言ごあいさつ申し上げます。

このこどもの城が、昭和54年の計画策定以来事業主の方々及び東京都はじめ地元関係各位の絶大な御協力により、6年の歳月を経て無事完成を見るに至りましたことは、誠に感謝に堪えないところであり、心から厚く御礼申し上げる次第であります。

御承知のように我が国は、本格的な高齢化社会に対する着実な対応を迫られておりますが、とりわけ、次代を担う児童につきましては、その健全育成と資質の向上を図ることが、ますます重要になってきております。児童を取り巻く環境は、人口の都市への集中、家族構成の変化、女性の社会参加の進展等に伴い、複雑・多様化してきており、様々な問題を生ずるに至っております。

II 開 館

こうした環境の変化に即応し、21世紀を展望しつつ児童の健全育成を図っていくため、国際児童年の記念事業の一環として、児童の様々なニーズに応じ得るよう各種の機能を備えた総合的な児童施設として、こどもの城を建設することといたしたわけであります。

幸いにして東京都の御協力により、早い時期にこどもの城にとってこの上ない適地を得ることができ、また、児童手当制度における拠出者である事業主の方々の御理解を得て、完成にこぎつけることができたのであります。

このこどもの城は、今後、我が国の児童福祉、児童文化の充実向上を図るための全国的な中核施設として、児童のニーズに応じて柔軟かつ弾力的に機能しうるよう、その運営については、財団法人日本児童手当協会に委託して行うこととしておりますが、厚生省としても所期の目的が達成されるよう今後とも一層の努力を払ってまいりたいと考えております。

最後に本日御列席の皆様方のこどもの城に対するこれまでの多大な御協力に対しまして重ねて深甚の敬意を表しますとともに、今後とも、一層の御理解、御協力をお願いいたしまして式辞といたします。

昭和60年10月22日

厚生大臣 増岡 博之

児童家庭局長設立経過報告

「こどもの城」の設立経過について、御報告いたします。

近年における都市化・工業化の進展等による環境の変化に即応し、次代を担う児童の健全な育成を図っていくことは、今日最も重要な課題でありますが、こうした政策を推進していくための拠点となるべき総合的な児童施設の必要性は、早くから指摘されておりました。

今回完成をみました「こどもの城」は、こうした事情を背景として、児童問題が国際的に取り上げられた昭和54年における「国際児童年」の記念事業として、計画されたものであります。

厚生省は、昭和54年2月この計画を具体化するため、各界の有識者による「こどもの城企画委員会」を設け、基本構想の検討をお願いいたしましたところ、同委員会においては、精力的に検討を進められ、同年6月児童福祉に関する総合施設「こどもの城」の基本構想に関する意見をとりまとめられました。この構想を受け、同年厚生省は「こどもの城」の基本設計に着手するとともに、東京都の御協力を得て、都電青山車庫の跡地である約1万平方メートルのこの地を、建設用地として取得いたしましたのであります。

その後、昭和55年から56年において施設の各部の詳細な設計を確定し、昭和56年11月から建設に着手いたしました。完成に至る工事経過といたしましては、昭和56年及び57年において基礎工事を仕上げ、58年に建築工事にかかるとともに、電気設備、舞台等の設備工事に着手し、60年には、内装工事及び備品整備を行う等3年11か月を経て、本年9月竣工を見るに至ったものであります。

この「こどもの城」は、地上13階、地下4階、延床面積約4万平方メートルに及ぶ規模を有し、劇場、体育、造形、音楽、保健、保育研究等に関する最新式の諸設備を備えた総合的な機能を持った、21世紀を担う児童の殿堂たるにふさわしい施設であります。

今日のような財政事情の下において、こうした立派な施設が実現できましたのも、ひとえに関係

1 開館式

者の方々の深い御理解と御協力の賜物であり、この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げる次第であります。

最後にこの「こどもの城」が児童の健全育成のために有効に機能するよう全力を尽くす決意を表明いたしまして経過報告といたします。

昭和60年10月22日

厚生省児童家庭局長 坂本 龍彦

理事長事業概要説明

「こどもの城」の事業概要について、ご説明いたします。

事業種目は、体育、プレイ、造形、音楽、AVの各事業部のほか、研修教養、小児保健、保育研究開発部、それに青山劇場、青山円形劇場を担当する劇場事業本部の計9部門でございますが、この実施に当たりましては、これがそれぞれ個別に、独自の活動に終始することなく相互に連携し合い児童の健全育成を基本とし、近代的施設の優れた機能をフルに発揮して、総合的、多角的な運営を図りたいと存じます。こうした活動の中で、先駆的、実験的な試みに積極的に取り組み、児童の福祉・文化推進の拠点としての役目を果たしていきたいと念願しております。

これらの事業を実施する態様でございますが、まず一般来館者のためのプログラム、学校、保育所、幼稚園、児童館などが数十名単位のグループで「こどもの城」を利用する場合のプログラム、継続的、体系的に各部門を利用してもらう講座や教室・クラブ活動、春、夏、年末年始などの季節休暇の期間などに行う特別行事の4つの形がございます。

児童が1人でも、グループでも、もちろん何らかのハンディのあるお子さんでも、あるいはご家族ぐるみでおいでになっても、多様な活動の中から好きなものを選んで、新しい体験をしてもらえる—そんなプログラムを用意し、受入態勢を整えております。

遠隔地からの修学旅行などの団体には見学・体験コースを設定し、積極的に受け入れるようにいたします。

青山劇場、青山円形劇場は、その最新鋭の機構と、ユニークな機能を生かし、子どもにも、“ほんものの舞台芸術”をモットーに活動を展開いたします。

以上のような事業活動は、常に全国の児童厚生員などの研修の場として開かれております。また事業の経過、結果は、その成否にかかわらず、全国の児童健全育成施設等にお伝えし、これらの関係施設と交流を図りながら、児童福祉・文化の向上を目ざす活動を全国的規模で盛り上げたいと願っております。このため、今年4月、全国の児童館、児童厚生文化施設と連携する「こどもの城全国連絡協議会」を結成いたしました。

また、「こどもの城」の近くにありますが東京都児童会館とは緊密な協力体制をとり、互いに補完し合いながら事業の発展を期したいと存じます。

そのスケール、設備内容で世界にも例がない「こどもの城」は、もちろんそれにふさわしい運営がされなければなりません。

厚生省から運営を委託された私たちは、いま「こどもの城」のスタートにあたり、感激と責任の重さを痛感して、身のひきしまる思いでございます。21世紀を支える子どもたちのために、この城

II 開 館

が、最善のプレゼントとなりますように、私たちは最大限の努力を傾けます。皆さまの、ご支援、ご指導を心からお願い申し上げます、私の説明を終わらせていただきます。

昭和60年10月22日

財団法人 日本児童手当協会

理事長 竹内 嘉巳

2 開館記念行事

「こどもの城」は昭和60年11月1日午前11時に開館し、活動を始めた。

午前11時、花火打ち上げとともに、まず招待者の受け付け、施設見学が始まった。次いで午後0時30分からは一般に施設の無料公開をした。

この公開に先立って午後0時15分からピロティ（正面広場）で、竹内理事長による開館宣言、バンドパレードなどの行事が行われ、同3時30分からはデンマークの「レゴみこし」の贈呈式があって、国際色も豊かに開館を祝った。

開 館 宣 言

ピロティでは色とりどりの風船が、屋上では大きなバルーンがゆれ、小雨の中をつめかけたピロティの人波は正午前から次第に増えていった。

午後0時15分、2度目の打ち上げ花火を合図に正面左側の舗道から創価大学ロイヤルキルティーズの演奏行進が始まった。ピロティ中央に設けられたステージ前で、見事なバトンさばきのドリル演奏があって、いよいよ開会宣言。

竹内理事長が「このこどもの城は皆さん方のものです。子どもも親も、みんないっしょに駆け回り、学び、楽しんで下さい。21世紀を担う子どもや若い人たちにとって、いつまでも、こどもの城が素晴らしい思い出になるように。これからオープンです。」と述べた。

次いで男女2人の子ども代表が、それぞれ「世界のお友達と仲よくしよう」とメッセージを読み、そのメッセージは大きな風船に下げた円筒形の容器に入れられた。ファンファーレが高鳴り、花火がとどろくうちに、大風船は子ども代表と竹内理事長の手を離れて、小雨けぶる大空へ。同時にピロティでは七色のテープが瀧のように落ち、0時30分、一般の入館が始まった。

レゴみこし贈呈式

「こどもの城だよドドンパ、みんなそろってこんにちは……」こどもの城の歌の先生、吉村温子さんの「ドドンパ音頭」の歌唱指導で、午後3時30分、にぎやかにデンマーク大使館からの「レゴみこし贈呈式」の前ぶれが始まった。

2 開館記念行事

こどもの城おはやしグループの鉦(かね)や太鼓の音にのって「わっしょい、わっしょい」の掛け声も勇ましく、朱の色もあざやかな、大きな「レゴみこし」が登場。かつぐのはこれを組み立てた板橋区の「はすのみ児童館」の子どもたち。このころ雨もすっかり上がり、日本の昔ながらのみこし2基も加わって、ピロティのお祝い気分は最高潮になった。

まずベニ・キンベア駐日デンマーク大使がステージに立って、「こどもの城」の完成を祝い「レゴとはデンマーク語で“よく遊べ”ということ。このレゴみこしがデンマークと日本の子どもたちの遊びの心を結ぶように」と贈る言葉を述べた。

竹内理事長は「デンマークと日本、さらには世界の心をつなぐレゴみこしを、いつまでも大切にします」と答え、両国の子ども代表が互いに、デンマークのレゴブロックと日本のこま、ビー玉のプレゼントを交換した。

このあと、モダンな「レゴみこし」と日本の伝統みこしが交錯しながら再びピロティを練り、「レゴみこし」は威勢よく「こどもの城」に入った。

記念公演

劇場では招待者を迎えて下記の開館記念公演が行われた。

◇青山劇場

「かがやくこどもたち」（1日午後1時開演）

企画・構成・演出 宮城まり子

出演 ねむの木学園の子どもたちと、京浜女子大・中・高等部の生徒50人

「天の舞・地の響き」～ジャワ・バリのガムランと舞踊（同午後4時開演）

企画 こどもの城劇場事業本部、音楽事業部

出演 ランバンサリ、スカル・ジュブン、インドネシアからの特別出演10人

◇青山円形劇場

「劇場ばんざい」「大どろぼうホッツェンプロッツ」（共催・日本児童演劇協会、出演・日本児童演劇劇団協議会加盟の劇団、1日午後1時と4時からの2回公演）

企画・監修 栗原一登

× × ×

招待者は観劇の前後に施設を見学、午前11時から午後1時までエントランスホールに招待者対象の立食パーティーの会場を設けた。

各事業部は、それぞれ趣向をこらしたプログラムで初日の来館者を迎え、翌2日から通常の有料による運営に入った。

なお、1日の招待による来館者は1,532人。

「こどもの城」の情景写真を表紙にデザインしたアルバム1セット（5冊）とパンフレットを記念品として招待者に贈った。

一般来館者は約10,000人にのぼった。

II 開 館

60・61年度事業経理収支計算書

事業経理収支実績

(単位：千円)

収 入 の 部					備 考	
款 項	60 年 度			61年度		
	合 計	開館前	開館後			
	60. 4. 1 61. 3. 31	60. 4. 1 60. 10. 31	60. 11. 1 61. 3. 31	61. 4. 1 62. 3. 31		
事 業 収 入	689,624	5,390	684,234	1,745,336		
管 理 運 営 収 入	110,612	2,467	108,145	149,475	入館料収入、友の会収入他	
文 化 体 育 事 業 収 入	86,432	2,923	83,509	191,291	受講料収入、集団利用収入 一般利用収入、施設使用料収入他	
保 育 事 業 収 入	8,125	0	8,125	17,315	保育収入、受講料収入他	
小 児 保 健 事 業 収 入	1,303	0	1,303	8,726	診療収入、相談指導収入 受講料収入他	
劇 場 事 業 収 入	235,981	0	235,981	807,385	公演収入 劇場使用料収入他	
利 用 者 サ ー ビ ス 収 入	247,171	0	247,171	571,144	宿泊収入、レストラン等収入他	
繰 入 金 収 入	1,275,689	560,008	715,681	1,269,204	基金経理より繰入収入等	
収 入 合 計	1,965,313	565,398	1,399,915	3,014,540		
支 出 の 部						
事 業 運 営 費	1,965,313	490,417	1,474,896	3,014,540		
役 職 員 給 与	422,019	189,724	232,295	533,211		役員報酬、職員給与他
諸 支 出 金	30,036	13,660	16,376	47,696		
退 職 手 当 及 び 引 当 金	12,925	6,390	6,535	15,160		
非 常 勤 嘱 託 手 当	25,682	11,701	13,981	25,362		
業 務 諸 費	1,098,775	260,551	838,224	1,115,967		諸謝金、旅費交通費 事業庁費、業務委託費他
開 館 事 業 費	34,475	0	34,475	0		
公 演 事 業 費	228,217	0	228,217	650,077		公演費、公演諸費他
舞 台 管 理 費	41,336	0	41,336	166,415		事業庁費、業務委託費他
利 用 者 サ ー ビ ス 事 業 費	0	0	0	432,722		営業費、業務委託費他
ボ ラ ン テ ィ ア 養 成 費	1,674	1,031	643	0		60年度は業務諸費で処理
特 別 事 業 費	35,798	0	35,798	0		61年度は業務諸費で処理
協 賛 事 業 費	29,888	4,750	25,138	23,170		協賛事業費、チャリティ事業費
こどもの城全国連絡協議会助 成金	4,488	2,610	1,878	4,760		
支 出 合 計	1,965,313	490,417	1,474,896	3,014,540		

III 活動状況一覧

〔60年度〕

1	入館者数	13
2	事業・催し	14
3	グループ活動	18
4	講座・クラブ等	20

〔61年度〕

1	入館者数	23
2	事業・催し	24
3	グループ活動	32
4	講座・クラブ等	34

1 入館者数

III 活動状況一覧

〔60年度〕 1 入館者数

	一般来館者			劇 場			そ の 他	計
	有 料	総 数		青山劇場	青山円形劇場	小 計		
11月	大 人	27,735(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
	こども	18,638	51,651	30,529	7,851	38,380	5,683	95,714
	団 体	1,797						
	小 計	48,170	推計 (79,386)					推計 (123,449)
12月	大 人	12,450	22,392	36,744	6,983	43,727	8,154	74,273
	こども	8,125						
	団 体	672	推計 (34,842)					推計 (86,723)
	小 計	21,247						
1月	大 人	20,646	36,812	32,956	5,504	38,460	6,920	82,192
	こども	13,171						
	団 体	893	推計 (57,458)					推計 (102,838)
	小 計	34,710						
2月	大 人	17,681	31,054	34,756	4,312	39,068	8,667	78,789
	こども	10,080						
	団 体	727	推計 (48,735)					推計 (96,470)
	小 計	28,488						
3月	大 人	21,076	44,211	13,747	5,274	19,021	8,030	71,262
	こども	16,099						
	団 体	4,384	推計 (65,287)					推計 (92,338)
	小 計	41,559						
計	大 人	99,588	186,120	148,732	29,924	178,656	37,454	402,230
	こども	66,113						
	団 体	8,473	推計 (285,708)					推計 (501,818)
	小 計	174,174						

(注1) カッコ内は、無料の6歳未満児の推計数を含めた数。6歳未満児は、大人1人に必ず1人が同伴されているものとして推計した。

(注2) 一般来館者総数には、有料入館者に招待券による入館数加わっている。

(注3) その他欄には、研修教養関係、保育関係、小児保健関係、講座・クラブ関係、その他催し・視察の来館者数を記入した。

III 活動状況一覧

2 事業・催し

	体 育	プ レ イ	造 形	音 楽
開館記念特別事業	スポーツ遊びの記録会 11.2～4	おはなし人形劇場 11.2～4	素材との出会い展 「紙と造形」PART I 11.1～17	楽器展示 11.1～4
	新体操 デモンストレーション 12.1	こどもパソコン 体験教室 11.2～4	ブルーノ・ムナーリ展 11.21～12.15	わいわいスタジオスペシ ャル「みんなで歌おう」 「三匹のこぶた」 11.2・4
		講演会「こどもを育て る」 11.3	ブルーノ・ムナーリを 囲む「シンポジウム」 11.21	やってみようコンサ ートスペシャル「ガムラ ン」「邦楽」 11.2・4
			ブルーノ・ムナーリの 「公開指導」 11.22～26	ハローこどもの城 ほくらのサウンド21 11.10
平常事業	プール一般利用 火～金曜日 土・日曜日	プラモデル 模型工作教室 日・祝日	一般来館プログラム 「うつつ」 61.1.8～2.9	わいわいスタジオ 日曜日
	体育室一般利用 球技・マット運動等 土・日曜日	パソコン こども体験教室 土・日・祝日	「うつつ」をテーマと したイベント 61.1.12～2.9 日・祝日	やってみよう コンサート 土曜日
	健康開発室 健康・体力測定 毎日	パソコン 母親体験教室 水曜日	一般来館プログラム 「うごく」 61.2.11～3.9	シンセサイザー・ガム ラン・打楽器などの自 由体験 毎日
		コンピュータプレイ 毎日	「うごく」をテーマと したイベント 61.2.16～3.9 日・祝日	
冬休 み特 別期 間	プール水上 クリスマス会 12.20	みんなで飾ろう クリスマス 12.17～22	素材との出会い展 「紙と造形」PART II 12.19～61.1.7	合唱団 クリスマスコンサート 12.22
	年末スポーツ大会 12.26～30	人形劇 「かえるとクリスマス」 12.21～25	「紙と造形」PART II 出品作家によるイベント 12.19～61.1.7	シンセサイザー クリスマスコンサート 12.25

2 事業・催し

AV	研修教養	小児保健	保育研究開発
ふしぎなふしぎな ビデオの世界 I 11.1~12.20		無料健康相談 11.2~4・9	親子で遊ぼう 11.1~4
ふしぎなふしぎな ビデオの世界 II 61.1.28~3.14	ボランティア 養成講習会(第4期) 6.10~7.11	診療相談(総合健康・心 理・育児生活・神経・言 語)	保育室一般開放 土・日・祝日と冬・春の 特別期間中
ビデオ体験活動 「アニメを作ろう」等 61.1.15~3.23	ボランティア 養成講習会(第5期) 2.18~3.18		保育クラブ 1~5歳児 毎日
おもしろビデオ館 木曜日	婦人ボランティア 養成講習会(第I期) 10.15~18		幼児グループ 水・金曜日 1・2歳児 月~金曜日 3~5歳児
			母子教室 1・2歳児 I・II期 月曜日
テレビディスプレイ 12.21~61.1.26		寒さに負けない 健康と栄養 12.25~61.1.7	
こんにちは こどもの城です 12.26~61.1.7			

III 活動状況一覧

	体 育	プ レ イ	造 形	音 楽
冬 休 み 特 別 期 間	新春スポーツ大会 61.1.3～7	人形劇の集い 12.24～28		新春コンサート 「こと・尺八・三味線」 61.1.3～5
		年忘れ ジュニア・ゲーム大会 12.24～28		新春特別企画 里神楽 61.1.6
		みんなで飾ろうお正月 12.26～61.1.15		新春特別企画 獅子舞 61.1.3～5
		新年餅つき大会 61.1.5		
		新春昔あそびコーナー 61.1.3～7		
春 休 み 特 別 期 間	春休みこども 集中水泳講習会 61.3.26～30	おもしろ チャレンジゲーム大会 61.3.26～30	春休み オープスタジオ 「みんなでつくろう」 61.3.11～4.7	
	春休み 楽しい球技大会 61.3.26～4.6		春休み オープスタジオ 「みんなでつくろう」 (一日造形教室) 61.3.25～4.5	音楽とお話でつづる 童話の世界 61.3.27・28・4.3・4
そ の 他 の 季 節 行 事 ・ 特 別 行 事	ジュニア スキースクール 12.26～30	節分会 61.2.1・2		
		こどもの城ひなまつり 61.3.1・2		
		ひなまつり人形劇 61.3.1・2		

2 事業・催し

AV	研修教養	小児保健	保育研究開発
春休み 8ミリビデオ教室 61.3.26		「おもちゃで遊ぼう」 障害をもった子のための コーナー 61.3.27～4.2	スプリングフェスティバル 講演と手作り音楽会 61.3.2
多摩美大卒業制作 ビデオ作品展示会 61.3.15～4.6	ジュニア・スキー ・キャンプ(第3回) 61.3.30～4.3		
	ジュニア・アウト・ドア ・スクール(第2回) 7.30～8.2		
	ふれあいセミナー (身障者介助法) 9.30～10.20		

(注) 以上のほか、各部合同による「ファミリー・クリスマス」(12.23～26・青山円形劇場、音楽スタジオ等)及び「イースター・国際こどもフェスティバル」(61.3.30・青山劇場)を実施。

III 活動状況一覧

3 グループ活動

区 分	件数 (A)	月別内訳					地域別内訳			参加児童				
		11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	東京都		埼 玉 県 神奈川県	10 人 未 満	10 ~ 19 人	20 ~ 29 人	30 ~ 39 人	40 ~ 49 人
							区	市町村						
保 育 所	21	1	1	5	5	9	16	3	2		4	9	4	
幼 稚 園	9	3			4	2	8	1			1	2	3	1
小 学 校	11		3	2	5	1	9	1	1	1		2	2	
養護学校(養護学級)	18	2	1	4	6	5	10	3	5	2	8	4		2
障害児施設	4	1	1			2	4			1	1	1		1
児 童 館	2					2	2				1	1		
P T A 等	11	3	5	1	1	1	9	1	1	1	4	4		
計	76	10	11	12	21	22	58	9	9	6	20	24	6	4

(注) 以上のほかに、インターナショナルスクールによる継続的な体育施設の利用がある(2校・4グループ延べ3,406人)。

3 グループ活動

数別内訳					参加児童数		活動部門						
50 ～ 59 人	60 ～ 79 人	80 ～ 99 人	100 ～ 149 人	150 人 以上	延べ数 (e)	1件当たり (e)/A	体 育	プ レ イ	造 形	音 楽	A V	円 形 劇 場	ア ン プ ア ン
2	1	1			672	32.0	4	1	7	6	6	1	
	1	1			321	35.6	1	4		5	1		
	1	2	2	1	801	72.8		3	2	3	8		
	2				449	24.9	1	5	4	10	5		
					82	20.5			1	3	1		
					39	19.5		2					
	2				275	25.0	1	7	2				
2	7	4	2	1	2,639	34.7	7	22	16	27	21	1	

III 活動状況一覧

4 講座・クラブ等

(1) 講 座

部 門	プ ロ グ ラ ム	対 象	コ ー ス	定 員	受 講 者 数
体 育	幼児体育	幼 児	1	40 ^(人)	40 ^(人)
	幼児体育 水泳	同 上	3	(各40)120	121
	小学生総合体育	小 学 生	1	40	36
	小学生体育	同 上	1	40	8
	小学生球技	同 上	1	40	12
	小学生新体操	同 上	1	40	35
	小学生水泳週2コース	同 上	1	50	24
	小学生水泳週1コース	同 上	7	(各50)350	153
	レディス・フィットネス	婦 人	2	(各30)60	13
	レディス・リズム&ストレッチ	同 上	2	(各30)60	49
	レディス・エアロビクス	同 上	2	(各30)60	77
	レディス・スイミング	同 上	2	(各30)60	78
	小 計(12種)		24	960	646
プ レ イ	こどもパソコン教室	小 学 生	3	(各20)60	54
	中学生ロゴ教室	中 学 生	2	(各20)40	31
	小 計(2種)		5	100	85
造 形	絵本を作る	成 人	1	20	18
	母のための現代造形	婦 人	1	25	6
	小 計(2種)		2	45	24
音 楽	パーカッション・アンサンブル	小 学 ・ 中 生	1	30	16
	リズム・ムービング	幼 児 ・ 小 学 生	2	(20,15)35	36
	お母さんもいっしょ	幼 児 ・ 親 母	2	(各15)30	32
	合 唱	小 学 生	1	30	35

4 講座・クラブ等

部 門	プ ロ グ ラ ム	対 象	コ ー ス	定 員	受 講 者 数
音 楽	おはやし	小 学 ・ 中 生	1	20 ^(人)	7 ^(人)
	三味線	同 上	1	30	13
	ガムラン	小・中・高 校 生	1	20	9
	シンセサイザー (初級)	同 上	2	(各6) 12	12
	小 計(8種)		11	207	160
AV	女性のためのビデオ教室	婦 人	1	16	5
研 修 教 養	思春期講座	成 人	1	50	20
	手話入門講座	高 校 生 ・ 成 人	1	30	34
	小 計(2種)		2	80	54
保 育 研 究 開 発	幼児グループ	幼 児	2	40	29
	母子教室	母 親 ・ 幼 児	2	(組) 25	(組) 30
	小 計(2種)		4	65	59
小児保健	健康教室肥満児クラス	小 学 生	1	30	17
合 計	30 種		50	1,503	1,050

(2) クラブ

部 門	プ ロ グ ラ ム	会 員 数 ^(人)
体 育	ダイナミック・ヘルス・クラブ	271
プレイ	パソコンクラブ	58
音 楽	児童合唱団	62
	おはやしグループ	7
	ユースバンド	26
	小 計	95
保 育 研 究 開 発	保育クラブ	449
合 計	6 種	873

III 活動状況一覧

視察・見学に約9,000人

開館以来、視察・見学のために「こどもの城」を訪れた人は、60年度、61年度合わせて636件、8,950人にのぼった。この数は、視察・見学をしたいとの申し込みがあった人のみの数であり、実際には視察・見学でありながら申し込みをしないで入館券を買って入ったケースがかなりあるので、総数はこれをかなり上回るものと推定される。視察・見学の目的は、施設建設上の参考、事業運営上の参考といったところが主なものであり、外国人も中国、アメリカ、西ドイツなど28か国、923人にのぼった。

10か月余で100万人突破

① 60年11月2日に有料運営を始めてから、61年度末までの1日の一般入館者数最高記録は、61年5月4日の11,333人（無料の6歳未満児を含めた推計）。有料入館者数も同日の7,251人が最高である。

② 劇場その他も含め、61年9月7日に、有料運営開始以来10か月余で入館者総数が100万人を超えた。

③ 61年度の場合、一般来館は推計数によると、6歳未満児とその同伴者で入館者総数の68%を占める。学齢以上の子どもは23%、招待5.5%、団体3.5%である。

こどもの城の建築概要

所在地……東京都渋谷区神宮前5丁目53番地1号
地域・地区……住居地域・商業地域
防災地域・準防火地域
一部第2種文教地域
建築主……厚生省
敷地面積……9,923.39㎡
建築面積……6,001.5㎡
延床面積……41,481.9㎡
建ぺい率……60.48%
容積率……344.19%
階数……地下4階・地上13階・塔屋1階
最高高さ……GL+57.6m
基礎下端……GL-28.5m
主要構造……高層部 鉄骨造
低層部 鉄骨鉄筋コンクリート造
地下 鉄筋コンクリート造
設計・管理……株式会社 山下設計
着工……昭和56年11月
完成……昭和60年9月

1 入館者数

〔61年度〕 1 入館者数

	一般来館者			劇 場			その他	計
	有	料	総 数	青山劇場	青山円形劇場	小 計		
4月	大 人	16,019人	(人) 33,367 推計 (49,386)	(人) 25,781	(人) 5,206	(人) 30,987	(人) 9,286	(人) 73,640 推計 (89,659)
	こども	14,076						
	団 体	1,613						
	小 計	31,708						
5月	大 人	16,817	30,743 推計 (47,560)	32,729	5,495	38,224	11,537	80,504 推計 (97,321)
	こども	10,984						
	団 体	982						
	小 計	28,783						
6月	大 人	10,175	18,460 推計 (28,635)	31,667	5,879	37,546	11,511	67,517 推計 (77,692)
	こども	5,761						
	団 体	1,549						
	小 計	17,485						
7月	大 人	11,861	24,145 推計 (36,006)	32,034	4,417	36,451	9,505	70,101 推計 (81,962)
	こども	8,842						
	団 体	2,065						
	小 計	22,768						
8月	大 人	31,526	68,962 推計 (100,488)	20,581	5,338	25,919	11,575	106,456 推計 (137,982)
	こども	25,828						
	団 体	2,096						
	小 計	59,450						
9月	大 人	14,132	24,187 推計 (38,319)	25,960	8,001	33,961	11,198	69,346 推計 (83,478)
	こども	7,617						
	団 体	826						
	小 計	22,575						
10月	大 人	11,211	21,430 推計 (32,641)	31,746	6,917	38,663	17,628	77,721 推計 (88,932)
	こども	7,843						
	団 体	1,231						
	小 計	20,285						
11月	大 人	13,239	25,427 推計 (38,666)	34,237	7,725	41,962	14,067	81,456 推計 (94,695)
	こども	8,290						
	団 体	1,896						
	小 計	23,425						
12月	大 人	5,743	11,288 推計 (17,031)	24,496	5,442	29,938	10,364	51,590 推計 (57,333)
	こども	3,615						
	団 体	723						
	小 計	10,081						
1月	大 人	11,603	20,333 推計 (31,936)	25,005	6,535	31,540	12,845	64,718 推計 (76,321)
	こども	6,463						
	団 体	596						
	小 計	18,662						
2月	大 人	11,129	19,586 推計 (30,715)	28,967	6,348	35,315	12,938	67,839 推計 (78,968)
	こども	5,358						
	団 体	1,288						
	小 計	17,775						
3月	大 人	14,636	31,015 推計 (45,651)	23,149	5,569	28,718	13,148	72,881 推計 (87,517)
	こども	10,905						
	団 体	2,779						
	小 計	28,320						
計	大 人	168,091	328,943 推計 (497,034)	336,352	72,872	409,224	145,602	883,769 推計 (1,051,860)
	こども	115,582						
	団 体	17,595						
	小 計	301,268						

III 活動状況一覧

2 事業・催し

	体 育	プ レ イ	造 形	音 楽
平 常 事 業	プール 一般利用 毎日	プラモデル 模型工作教室 日・祝日	「くむ」 4.19～5.11	わいわいスタジオ 日・祝日
	体育室一般利用 土・日曜日	おはなし人形劇場 木曜日	「つつむ」 5.17～6.15	楽器体験コーナー 4～7月 毎日
	健康体力測定 毎日	おはなし紙芝居の集い 水曜日	「きる」 6.21～7.8	ロビーライブ コンサート 9～62.3 火～土曜日
		パソコンクラブ 水・木・土・日曜日	「スタンプであそぼう」 9.2～10.1	
		パソコン こども体験教室 日・祝日	「おめでとうであそぼう」 10.2～31	
		パソコン母親体験教室 月1回 水曜日	「おもちゃをつくろう」 62.1.13～25	
		パソコン親子体験教室 月1回 日・祝日	「インテリアしよう」 62.1.27～2.8	
		コンピュータプレイ パソコン自由利用 毎日	「グルメとファッション」 62.2.10～22	
			「造形シアター」 62.3.4～4.7	
春 休 み 特 別 期 間	春休み水泳集中講習会 62.3.26～30	レゴ・ロゴ ワークショップ 4.1・2	春休み オープンスタジオ 「みんなであそぼう」 62.3.11～4.7	音楽おもしろクイズ 4.1～3・5
	春休み球技大会 62.3.26～30	春休み人形劇の集い 4.1～6	造形通りにはるがきた 62.3.17～4.7	わいわいスタジオ 春休みスペシャル 4.6

2 事業・催し

A	V	研修教養	小児保健	保育研究開発
AVライブラリー 一般利用 毎日		ボランティア 養成講習会 (第6期) 6.7~7.8	診療相談 (総合健康・心理・育児 生活・神経・言語)	保育室II一般開放 土・日・祝日
わいわいスタジオ 日曜日		婦人ボランティア 養成講習会 (第II期) 10.8~17		保育クラブ 火~土曜日
おもしろビデオ館 木曜日		ボランティア 養成講習会 (第7期) 11.8~12.11		幼児グループ 火~金曜日
ぱたぱたアニメを つくろう 水曜日		ボランティア 養成講習会 (第8期) 62.2.7~3.12		母子教室 月・木・土・日曜日
どうぶつランドへ ひとつとび (AVライブラリー) 62.3.25~4.6			マタニティ スイミング教室 同窓会 62.3.7	親子で遊ぼう 春がきた 62.3.27~29 4.2~4
おもしろビデオ館 スペシャル 4.2			春休み 育児相談コーナー 62.3.27~31	

III 活動状況一覧

	体 育	プ レ イ	造 形	音 楽
春 休 み 特 別 期 間	春休み健康体力測定 62.3.26～30	おもしろ チャレンジゲーム大会 62.3.26～30		クラウス・ルンツェ ライブ プレゼンテーション 4.17
	春休み自由水泳 62.3.21			
児 童 福 祉 週 間	球技大会 4.27・29	みんなでつくろうデカデカ鯉 5.3～5		スタジオゴーゴー 5.3～5
	成長の記録会 4.27・29 5.3～5			楽器チャレンジ コーナー 5.3～5
	親子で泳ごう 水泳記録会 4.27・29 5.3～5	おもしろチャレンジ ゲーム大会 5.3～5		こども太鼓 5.3～5
	スポーツ遊びの記録会 5.3～5	母の日 カードをつくって お母さんにおくろう 5.11		音楽ゲーム大会 5.3～5
		プラホビー大会 5.11		鯉のぼり披露 ミニ・コンサート 5.5
夏 休 み 特 別 期 間	夏休み体育スポーツ なんでも相談室 7.22～26 8.6～9		造形発見展 「音と造形」 7.19～8.31	わいわいスタジオ 夏休みスペシャル 8.7～13・17
		インドアキャンプ 7.24～25	「音と造形」 一日造形教室 7.22～8.29	楽器チャレンジ コーナー 8.1～5
		屋上ちびっこプール 7.18～9.10	こどものための 音のイベント 7.19～27 8.9～24	音楽ビデオ・フェア 8.6・11～13
		人形劇フェスティバル パートⅠ・Ⅱ 8.2・3・15～20	ザ・サウンド ウォッチング 7.30～8.3	アジア民族楽器展 8.14～24

2 事業・催し

A V	研修教養	小児保健	保育研究開発
しねまでいく 4.1			
おとぎばなしがいっぱい (AVライブラリー) 4.25～5.5		おもちゃで遊ぼう (障害児対象) 5.3～5	親子でつくろう 「こいのぼり」 5.3～5
あなたのおすすめ ベスト・スリー 7.18～8.10		健康教室集中講座 7.31～8.2	親子でつくろう 「でんでんだいこ」 8.10・24
おもしろビデオ館 スペシャル 8.1・14～16・19～21		育児相談コーナー 8.19～25	親子シアター 8.2・9・16
アニメーションフェスタ 8.1～3			
宿題に役立つかな 8.11～31			

III 活動状況一覧

	体 育	プ レ イ	造 形	音 楽
夏 休 み 特 別 期 間		夏休み子ども 体験コーナー 8.5～10		夏休み子ども ミュージック ウィーク 8.22～27
				子どもたちによる 郷土芸能展 8.26～31
				加勢園子 ピアノ・レクチャー コンサート 8.26
				金管バンドによる 楽しいファミリー コンサート(第1回) 7.26
				こどもの城 おまつり劇場 (第2回) 8.30・31
開 館 一 周 年 記 念	スポーツ遊びの記録会 11.1～3	人形劇フェスティバル 11.1～3	「造形の森」 11.1～12.7	1周年記念セレモニー 11.1
	1杯のカロリー消費に チャレンジ 11.1～3	こんにちわパソコン 11.1～3	「仮装舞踏会への招待」 12.7	1周年記念 ミニ・コンサート 11.1
	親子体力測定 11.1～3	ゲームとマジックの 集い 11.1～3	第1回 造形スタジオ展 11.22～12.7	1周年記念 ワイド・スタジオ 11.2・3
		おもしろ チャレンジゲーム 11.1～3		
冬 休 み 特 別 期 間	みんなでスポーツを 12.23～28	みんなで飾ろう クリスマス 12.10～25	「造形ファクトリー」 12.20～62.1.7	わいわいスタジオ スペシャル クリスマス ・コンサート 12.21
	親子体力測定 12.23～28	みんなで飾ろう お正月 12.26～62.1.7		わいわいスタジオ スペシャル ファミリー・スタジオ 12.23～25

2 事業・催し

A	V	研修教養	小児保健	保育研究開発
オリジナルソフト特集 11.1～3			シンポジウム 世界最低になった 乳児死亡率 10.4	保育相談 パネルシアター等 11.1～3
おとうさんおかあさんと 一緒に昔のヒーローに会 いにいこう 12.23～62.1.7			ベビー相談コーナー 12.26・27 62.1.4～6	親子で遊ぼう クリスマス 12.24～27
おもしろビデオ館 スペシャル 12.23～28 62.1.6・7				親子で遊ぼうお正月 62.1.3～6

III 活動状況一覧

	体 育	プ レ イ	造 形	音 楽
冬 休 み 特 別 期 間	年のはじめの バドミントン はねつき大会 62.1.3～6	冬休み人形劇 フェスティバル 12.25～28		わいわいスタジオ お正月スペシャル 62.1.3～5
	1987スタートの 体力測定 62.1.3～6	年忘れ おもしろクイズ大会 12.27・28		新春ロビーライブ コンサート 62.1.3～5
	親子水泳記録会 12.23～28	親子で楽しい昔あそび 62.1.3～6		こども獅子舞 62.1.3・4
	初泳ぎこども大会 62.1.3・6	お正月もちつき大会 62.1.4		
そ の 他 の 季 節 行 事 ・ 特 別 行 事		七夕行事 星飾りをつくろう 7.5・6	みんなでつくろう ひなまつり 62.2.24～3.3	七夕クイズ大会 7.5・6
		敬老の日 おたよりしよう 9.14・15		ぼくらのサウンド' 87 62.3.30～4.1
		さよなら ちびっ子プール ゲーム大会 9.13～15		
		こどもの城は かわいい鬼で いっぱいだ 62.1.31・2.1		
		ひなまつりの集い 62.2.28・3.1		

2 事業・催し

A	V	研修教養	小児保健	保育研究開発
しねまていく 62.3.20・21・26・27		第2回 ふれあいセミナー 4.21～6.6	第1回 肥満児指導者講習会 11.8	
		第1回児童厚生員等 実技指導講習会 6.13～15	第2回 肥満児指導者講習会 62.1.31	
		ジュニア アウトドア・スクール 7.31～8.3	マタニティ コンサート 9.5	
		三宅島 アドベンチャー キャンプ 8.5～9		
		第2回 児童厚生員等 実技指導講習会 12.5～7		
		ジュニア・スキー・ キャンプ 62.3.31～4.4		

主な全館行事（各部協力）

○こどもデパート 4.29 ○ミステリーゾーン 7.20～30 ○こどもの城の夕涼み 8.22～24

III 活動状況一覧

3 グループ活動

区 分	件数	月別内訳												地域別内訳		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	東京都		他府県
		月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	区	市	
保 育 園	25			2					3	5	3	6	6	17	6	2
幼 稚 園	12	1	1	2					1	1		3	3	9		3
児 童 館	1			1										1		
通 園 施 設	1			1										1		
幼 児 教 室																
研 究 所	3			2			1							3		
自主保育グループ	1			1										1		
自主訓練グループ																
小 学 校	13	1	4	1	1			1		1	2	2		10		3
中 学 校	2		2											2		
高 等 学 校																
養 護 学 校	14	1	1				1	1	2	1	1	3	3	3	3	8
精 薄 児 施 設																
肢 体 不 自 由 児 施 設																
小 学 校 特 殊 学 級	10			2	2		1	1			2	1	1	5	4	1
計	82	3	8	12	3		3	3	6	8	8	15	13	52	13	17

[プログラム一覧]

対象者	部門	プログラム名
幼児	音楽	まつりばやし ・ スカーフで遊ぼう ・ おむすびころりん ・ 動物園にゆこう ガムランで遊ぼう
	造形	木をつくろう ・ かげをうつそう
	体育	すてきな新体操 ・ フロアー運動
	A V	アニメーションってふしぎだね ・ フィルムに絵をかいてみよう

3 グループ活動

参加児童数別内訳										参加児童数		活動部門					
10人未満	10人～19人	20人～29人	30人～39人	40人～49人	50人～59人	60人～69人	80人～99人	100人～149人	150人以上	延べ数	1件当たり	体育	プレイ	音楽	造形	A V	劇場
1	9	10	1	2		2				654	26.1	9		10	4	5	
1	3	3	1	1	2	1				388	32.3	1		5	7	3	
		1								25	25.0			1			
			1							30	30.0		1				
	1	2								62	20.6	1		1	1		
	1									16	16.0			1			
	1	2		3	1	3	2	1		762	58.6	4	7	8	9	6	
					2					100	50.0			6	2		
3	5	2	2			2				333	23.7	1	5	9	3	4	
	6	2	1		1					214	21.4		3	6	5	2	
5	26	22	6	6	6	8		1		2,584	31.5	16	16	47	31	20	

対象者	部門	プログラム名
就学児	音楽	ガムランを体験しよう ・こどもディスコ ・パーカッションに触れよう 和楽器に触れてみよう ・レッツプレイシンセサイザー
	造形	木をつくろう ・かげをうつそう
	体育	すてきな新体操 ・フロアー運動
	A V	アニメーションってふしぎだね ・フィルムに絵をかいてみよう ・チャレンジビデオ ・ビデオカメラを使うおもしろいゲーム
	プレイ	大型遊具遊び ・グループレクリエーション ・コンピュータプレイ パソコン体験教室

III 活動状況一覧

4 講座・クラブ等

(1) 講 座

部門	プログラム	対 象	コース	定 員	受講者数
体 育	幼児体育	幼 児	1年 3	120 ^(人)	108 ^(人)
	幼児・母親水泳	幼児・母親	同上 1	30	27
	幼児水泳	幼 児	同上 6	240	257
	小学生総合体育	小 学 生	同上 1	40	36
	小学生体育	同上	同上 1	40	12
	小学生球技	同上	同上 1	40	17
	ジュニア新体操	同上	同上 1	25	22
	シニア新体操	同上	同上 1	25	21
	小学生水泳週 2 コース	同上	同上 1	40	31
	小学生水泳週 1 コース	同上	同上 6	260	250
	中・高生体育	中・高校生	同上 1	30	6
	レディス・マイルドエアロビクス	婦 人	同上 2	60	9
	レディス・リズム&ストレッチ	同上	同上 2	80	43
	レディス・エアロビクス	同上	同上 4	120	121
	レディス・スイミング	同上	同上 2	100	107
	小 計 (15 種)		33	1,250	1,067
プレイ	小学生パソコン教室	小 学 生	2 か月 4	80	35
	中学生パソコン教室	中 学 生	同上 2	40	14
	小 計 (2 種)		6	120	49
造 形	絵本をつくる	一 般	3 か月 1	20	18
	こどもクリエイティブクラブ	小 学 生	2 か月 2	20	16
	小 計 (2 種)		3	40	34
音 楽	パーカッションアンサンブル	小・中学生	1年 1	20	12
	リズム・ムービング	幼児・小学生	同上 2	40	28
	合 唱	小 学 生	同上 1	30	36
	三味線	小・中学生	同上 1	30	12

4 講座・クラブ等

部門	プログラム	対象	コース	定員	受講者数
音楽	ガムラン	小・中・高校生	同上 1	10 ^(人)	10 ^(人)
	おとなのためのガムラン	高校生以上	同上 1	20	16
	混声合唱	同上	同上 1	20	7
	お母さんもいっしょ	幼児・母親	3か月 6	120	120
	シンセサイザーⅠ	小・中・高校生	同上 2	12	10
	シンセサイザーⅡ	同上	同上 6	36	24
	小計 (10種)		22	338	275
A V	女性のためのビデオ教室	女性	3か月 1	16	5
	母と子のビデオ教室	母親・子	同上 3	24	20
	小計 (2種)		4	40	25
研修教養	手話講座 (入門編)	高校生以上	3か月 1 6か月 1	60	50
	手話講座 (実用編)	同上	3か月 1	30	14
	点訳入門講座	同上	6か月 1	30	21
	お話講座	一般	同上 1	25	28
	小計 (4種)		5	145	113
保育研究開発	幼児グループ	幼児	通年 1	25	21
	母親教室 (幼児を考える)	母親	2か月 2	45	26
	母子教室	母親・幼児	2か月 4	50	50
	小計 (3種)		7	120	97
小児保健	健康スポーツ教室 <肥満児>	小学生	3か月 1 6か月 1	60	24
	健康教室 <ぜんそく児>	同上	3か月 2	40	27
	母と子のリトミック <ダウン症児>	幼児・母親	同上 1	10	4
	マタニティ・スイミング	妊婦	通年 1	33	31
	小計 (4種)		6	143	86
合計	42種		86	2,196	1,746

III 活動状況一覧

- (注) 1. 以上は、個人を対象とした継続的参加の講座である。
 2. 表の中の「定員」及び「受講者数」の整理方法は、次のとおりである。
 (1) 2コース以上ある講座については、各コースの合計数とした。
 (2) 1年コースの講座については、第1期、第2期及び第3期の平均数とした。
 (3) マタニティ・スイミング(小児保健)については、各月の平均数とした。
 3. 夏休み及び春休み期間においては、短期の集中講座を実施した。
 (体 育) こども水泳集中講習会 (夏) 6コース (春) 1コース
 のびのびスイミング (夏) 3コース
 のびのび体育教室 (夏) 1コース
 (プ レ イ) 小学生パソコン教室 (夏) 1コース (春) 1コース
 中学生パソコン教室 (夏) 1コース (春) 1コース
 (音 楽) シンセサイザー (夏) 1コース
 三味線 (夏) 1コース
 ガムラン (夏) 1コース
 おはやし (夏) 1コース
 パーカッション (夏) 2コース
 (A V) こどもビデオ教室 (夏) 1コース
 母と子のビデオ教室 (夏) 2コース
 おとうさんのためのビデオ相談教室 (夏) 1コース
 (小児保健) 健康スポーツ教室〈肥満児〉 (夏) 1コース
 4. 以上のほか、継続的に開講しているが参加者は月ごと、又は1回ごとに変わるものとして次のプログラムを実施した。
 成人集中水泳講習会 パソコンこども体験教室
 プラモデル・模型工作教室 パソコン母親体験教室
 一日造形教室 パソコン親子体験教室

(2) クラブ

部 門	プ ロ グ ラ ム	会 員 数 (人)
体 育	ダイナミック・ヘルス・クラブ	223
プレイ	パソコンクラブ	53
音 楽	児童合唱団	54
	おはやしグループ	10
	ユースバンド	23
	小 計	87
A V	ファミリー・ビデオクラブ	9
保育研究 開 発	保 育 ク ラ ブ	698
合 計	7 種	1,070

(注) 会員数は、昭和61年度末の数である。

IV 各部の活動 (1)

1	体育事業部	37
2	プレイ事業部	59
3	造形事業部	90
4	音楽事業部	118
5	A V 事業部	142
6	保育研究開発部	168
7	小児保健部	193
8	劇場事業本部	210
9	全館行事	223

- ◇ この年報は、こどもの城のオープンした60年11月から61年3月までの5か月間を「60年度」とし、61年4月から62年3月までを「61年度」としての合併号です。
- ◇ 外部からお招きした講師の方の敬称は、一部を除き略させていただきました。
- ◇ 講座等の表中で※印のついたものは、「こどもの城」職員です。

1 体育事業部

1 体 育

(1) 60年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	火		水		木		金		土		日	
	ジ ム	プ ール	ジ ム	プ ール	ジ ム	プ ール	ジ ム	プ ール	ジ ム	プ ール	ジ ム	プ ール
10:00		レディース スイミング A	レディース リズム& ストレッチ A			レディース スイミング B	レディース リズム& ストレッチ B					
11:00									一般利用	一般利用 ①		一般利用 ①
12:00			グループ 利 用			保育利用	JIS	JIS				一般利用 ②
13:00	ダイナミック・ ヘルス・クラブ		ダイナミック・ ヘルス・クラブ		ダイナミック・ ヘルス・クラブ		ダイナミック・ ヘルス・クラブ		ダイナミック・ ヘルス・クラブ			
14:00	レディー スフィット トネス A				レディー スフィット トネス B		JIS	JIS		一般利用 ②	一般利用	一般利用 ③
15:00		幼児水泳 A	小学生 体 育	小学生 水泳A	幼児体育 A	幼児水泳 B		幼児水泳 C		一般利用	一般利用 ③	一般利用 ④
16:00	小学生総 合体育		小学生 球 技	小学生 水泳B		小 学 生 総合体育	小学生 球 技	小学生 水泳G		一般利用		一般利用 ⑤
17:00		小 学 生 水泳週2	新体操	小学生 水泳C		小 学 生 水泳週2	新体操	小学生 水泳E				
18:00				小学生 水泳D				小学生 水泳F				
19:00	ピエ クア スロ A				ピエ クア スロ B							ダイナミック・ ヘルス・クラブ
20:00	ダイナミック・ ヘルス・クラブ		ダイナミック・ ヘルス・クラブ		ダイナミック・ ヘルス・クラブ		ダイナミック・ ヘルス・クラブ		ダイナミック・ ヘルス・クラブ			
21:00												

IV 各部の活動(1)

2) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(開館記念) スポーツ遊びの記録会	11. 2～4	10:00～ 17:30	体 育 室 屋 上	職員 3 (人) ボランティア 8	参加人数約1,500人
(同上) 新体操デモンストレー ション	12. 1	第1回 13:00～14:00 第2回 15:00～16:30	青 山 円 形 劇 場	職員4	参加人数約450人 出演人数60人
(冬休み) プール 水上クリスマス会	12. 20	16:00～ 17:30	体 育 室 と プ ー ル	職員 3 ボランティア 4	参加人数150人
(同上) ジュニアスキースクール	12. 27～31	4泊5日	グリーンプア 津南	職員 2 リーダー10	参加人数70人
(同上) 新春スポーツ大会	61. 1. 3～7	1. 3 13:00～17:00 1. 4～7 10:00～17:00	体 育 室	職員延べ6	参加人数約1,500人
(春休み) こども水泳集中講習会	3. 26～30	9:30～ 10:30	プ ー ル	職員 1 講師 2	参加人数11人
(同上) 楽しい球技大会	3. 26～4. 6	10:00～ 17:00	体 育 室	職員 5	参加人数2,000人

3) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員 (人)	受 講 数 (人)						
幼児体育	3～6歳	40	40	木曜日 14:30～ 15:30	体育室	11. 14～ 61. 3. 13 全15回	(円) 14,000	※秋本宏之 ※西山里美 ※小林弘子	延べ出席人数445人 平均出席人数29.7人
幼児水泳 A	3～6歳	40	41	火曜日 14:30～ 15:30	プール	11. 12～ 61. 3. 18 全15回	15,000	※大野 元	延べ出席人数435人 平均出席人数29.0人
幼児水泳 B	同上	40	40	木曜日 14:30～ 15:30	同上	11. 14～ 61. 3. 13 全15回	同上	同上	延べ出席人数428人 平均出席人数28.5人
幼児水泳 C	同上	40	40	金曜日 14:30～ 15:30	同上	11. 15～ 61. 3. 14 全15回	同上	※秋本宏之	延べ出席人数426人 平均出席人数28.4人

1 体 育

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員 (人)	受 講 数 (人)						
小学生体育	1～4年	40	8	水曜日 14:30～ 15:30	体育室	11.13～ 61.3.19 全15回	14,000 (円)	※秋元宏之	延べ出席人数103人 平均出席人数6.9人
小学生球技	3～6年	40	12	水・金曜日 15:30～ 16:30	同上	11.13～ 61.3.19 全29回	20,000	※羽崎泰男	延べ出席人数143人 平均出席人数4.9人
小学生 総合体育	1～3年	40	36	火・木曜日 15:30～ 16:30	体育室 プール	11.12～ 61.3.18 全29回	21,000	同上	延べ出席人数438人 平均出席人数15.1人
小学生 新体操	1～6年	40	35	水・金曜日 16:30～ 17:30	体育室	11.13～ 61.3.14 全29回	20,000	※西山里美	延べ出席人数429人 平均出席人数14.8人
小学生水泳 A	1～6年	50	18	水曜日 14:30～ 15:30	プール	11.13～ 61.3.19 全15回	15,000	※大野 元	延べ出席人数262人 平均出席人数17.5人
小学生水泳 B	同上	50	43	水曜日 15:30～ 16:30	同上	同上	同上	同上	延べ出席人数587人 平均出席人数39.1人
小学生水泳 C	同上	50	16	水曜日 16:30～ 17:30	同上	同上	同上	同上	延べ出席人数196人 平均出席人数13.1人
小学生水泳 D	同上	50	7	水曜日 17:30～ 18:30	同上	同上	同上	※羽崎泰男	延べ出席人数121人 平均出席人数8.1人
小学生水泳 E	同上	50	36	金曜日 16:30～ 17:30	同上	11.15～ 61.3.14 全15回	同上	同上	延べ出席人数498人 平均出席人数33.2人

IV 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員 (人)	受 講 数 (人)						
小学生水泳 F	1～6年	50	15	金曜日 17:30～ 18:30	プール	11.15～ 61.3.14 全15回	(円) 15,000	*羽崎泰男	延べ出席人数211人 平均出席人数14.1人
小学生水泳 G	同上	50	18	金曜日 15:30～ 16:30	同上	同上	15,000	*秋元宏之	延べ出席人数206人 平均出席人数13.7人
小学生水泳 週2	同上	50	24	火・木曜日 16:30～ 17:30	同上	11.12～ 61.3.18 全29回	22,000	*羽崎泰男	延べ出席人数283人 平均出席人数18.9人
レディース・ スイミング A	18歳以上 女子	30	39	火曜日 10:00～ 11:00	同上	11.12～ 61.3.18 全15回	週1. 18,000 週2. 24,000	*常藤恒良	延べ出席人数430人 平均出席人数28.7人
レディース・ スイミング B	同上	30	39	木曜日 10:00～ 11:00	同上	11.14～ 61.3.13 全15回	同上	*大野 元	延べ出席人数353人 平均出席人数23.5人
レディース・ フィットネス A	18歳以上 女子	30	6	火曜日 13:30～ 14:30	体育室	11.12～ 61.3.18 全15回	週1. 18,000 週2. 24,000	*西山里美	延べ出席人数82人 平均出席人数5.5人
レディース・ フィットネス B	同上	30	7	木曜日 13:30～ 14:30	同上	11.14～ 61.3.18 全15回	同上	岡村真奈美	延べ出席人数86人 平均出席人数5.7人
レディース・ リズム& ストレッチ A	18歳以上 女子	30	17	水曜日 10:00～ 11:00	同上	11.13～ 61.3.19 全15回	週1. 18,000 週2. 24,000	*西山里美	延べ出席人数147人 平均出席人数9.8人
レディース・ リズム& ストレッチ B	同上	30	32	金曜日 10:00～ 11:00	同上	11.15～ 61.3.14 全15回	同上	田中冬子	延べ出席人数235人 平均出席人数15.7人

1 体 育

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員 (人)	受 講 数 (人)						
レディース・ エアロピクス A	18歳以上 女子	30	36	火曜日 18:30~ 19:30	リハー サル室 B	11.12~ 61.3.18 全15回	(円) 週1. 18,000 週2. 24,000	波多野恵子	延べ出席人数338人 平均出席人数22.5人
レディース・ エアロピクス B	同上	30	41	木曜日 18:30~ 19:30	同上	11.14~ 61.3.13 全15回	同上	三ツ矢八千代	延べ出席人数400人 平均出席人数27.2人
ダイナミック ・ヘルス・ クラブ	18歳以上 男女	1,000		火~土曜日 12:00~ 13:30 18:30~ 21:00 日曜日 18:00~ 20:00	体育室 プール 健康開発 室	11.2~ 1年単位	入会金 5,000 年会費 60,000 利用料 (1回) 300	体育部職員 全員	

IV 各部の活動(1)

(2) 61年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	火		水		木		金		土		日	
	ジ ム	プール	ジ ム	プール	ジ ム	プール	ジ ム	プール	ジ ム	プール	ジ ム	プール
9:00							JIS					
10:00		レディース スイミング	レディース リズム&ス トレッチA	水 幼・母 泳		レディース スイミング	レディース リズム& ストレッチ	JIS		一般 利用	一般 利用①	一般 利用①
11:00	活 動	グルー プ	マタニ テイ	保 育	活 動	グルー プ	マタニ テイ	JIS	ル ス	西 町 イ ン タ ナ シ ョ ナ ル	一 般 利 用	一 般 利 用 ①
12:00											一	一 般 利 用 ②
13:00		ダイナミック・ ヘルス・クラブ	ダイナミック・ ヘルス・クラブ	ダイナミック・ ヘルス・クラブ	ダイナミック・ ヘルス・クラブ	ダイナミック・ ヘルス・クラブ	ダイナミック・ ヘルス・クラブ	ダイナミック・ ヘルス・クラブ	ダイナミック・ ヘルス・クラブ	ダイナミック・ ヘルス・クラブ	一 般 利 用	一 般 利 用 ③
14:00	ア ロ ビ ク ス	レ デ イ ス エ ス	幼 児 水 泳 A	幼 児 水 泳 B	ア ロ ビ ク ス	レ デ イ ス エ ス	幼 児 水 泳 C				一 般 利 用	一 般 利 用 ②
15:00	幼 児 体 育 A	幼 児 水 泳 D	幼 児 体 育 B	小 学 生 水 泳 A	幼 児 体 育 C	幼 児 水 泳 E		幼 児 水 泳 F	一 般 利 用	一 般 利 用	一 般 利 用 ③	一 般 利 用 ④
16:00	小 学 生 総 合 体 育	小 学 生 水 泳 B	ジュ ニア 新 体 操	小 学 生 水 泳 C	小 学 生 体 育	小 学 生 総 合 体 育	ジュ ニア 新 体 操	小 学 生 水 泳 D	一 般 利 用	一 般 利 用	一 般 利 用 ⑤	一 般 利 用 ⑤
17:00	小 学 生 球 技	一 般 利 用	小 学 生 水 泳 週 2	シ ニア 新 体 操	一 般 利 用	小 学 生 球 技	一 般 利 用	小 学 生 水 泳 週 2	健 康 中 ・ 高 生 体 育	健 康 中 ・ 高 生 水 泳		
18:00	ス エ ア ロ ビ ク A		成 人 水 泳		ス エ ア ロ ビ ク C			成 人 水 泳				ダ イ ナ ミ ッ ク ・ ヘ ル ス ・ ク ラ ブ
19:00	ス エ ア ロ ビ ク B	ヘ ル ス ・ ミ ッ ク ・ ク ラ ブ		ヘ ル ス ・ ミ ッ ク ・ ク ラ ブ	ス エ ア ロ ビ ク D	ヘ ル ス ・ ミ ッ ク ・ ク ラ ブ		ヘ ル ス ・ ミ ッ ク ・ ク ラ ブ	ヘ ル ス ・ ミ ッ ク ・ ク ラ ブ	ヘ ル ス ・ ミ ッ ク ・ ク ラ ブ		
20:00												
21:00												

1 体 育

2) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(児童福祉週間) 成長の記録会	4. 27・29 5. 3～5	11:00～ 17:00	健康開発室	職員1 (人)	身長、体重、握力、垂直とび、反復横とび、立位体全屈、閉眼片足立ち、肺活量を測定し、日本人の標準値と比較。
(同上) 親子で泳ごう水泳記録会	4. 27・29 5. 3～5	10:30～ 18:00	プール	職員2 プールガード2	クロール、バック、ブレスト。25メートル、50メートルを泳ぎ、記録証を発行。
(同上) スポーツ遊びの記録会	5. 3～5	10:00～ 17:00	体育室	職員3 ボランティア3	ボールリフティング、ラグビーボールスラローム、縄とび2重とび、縄とびあやとび、リンポードダンスなど8種目のスポーツ遊び。
(同上) 球技大会	4. 27・29	10:00～ 17:00	同 上	職員3	ミニバスケットの試合
(夏休み) こども水泳集中講習会A B	7. 22～26	{ 8:30～ 9:30 9:30～ 10:30	プール	*常藤恒良 ほか3	小学生15人 小学生(初心者)37人 参加費6,000円
(同上) こども水泳集中講習会C D	7. 29～ 8. 2	{ 8:30～ 9:30 9:30～ 10:30	同 上	*下村 一 ほか3	小学生16人 小学生(初心者)23人 参加費6,000円
(同上) こども水泳集中講習会E F	8. 5～9	{ 8:30～ 9:30 9:30～ 10:30	同 上	*羽崎泰男 ほか3	小学生7人 小・中学生22人 参加費6,000円
(同上) のびのびスイミング教室 (小3以上)	①7. 22～ 26 ②7. 29～ 8. 2 ③8. 19～ 23	16:30～ 18:00	同 上	*伊藤信吾 ほか2	参加 ① 8人 ② 3人 ③ 6人 参加費5,000円
(同上) のびのび体育教室 (小学生)	8. 6～9	9:00～ 10:30	体育室	*羽崎泰男	定員30人 参加16人 参加費4,000円
(同上) 新体操合宿	7. 23～26	3泊4日	体育室 プール	工藤ゆかり *西山里美	定員35人 参加27人 参加費20,000円

IV 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員 (人)	備 考
(夏休み) 球技合宿	7.28～31	3泊4日	大規模年金保 養基地 グリーンピア 津南	※羽崎泰男 ※小林弘子	小3～中3年 定員40人 参加19人 参加費29,000円
(同上) 水泳合宿	8.4～7	同上	大規模年金保 養基地 グリーンピア 津南	※秋元宏之 ※下村 一 ※大野 元	小学生 定員40人 参加19人 参加費29,000円
(開館1周年記念) スポーツ遊びの記録会	11.1～3	10:00～ 17:00	体育室	職員3 ボランティア2	ボールリフティング、 クロックバスケット、 まも当て、縄とびなど 8種目を実施、記録証 を発行。
(同上) 1杯のカロリー消費に チャレンジ	11.1～3	11:00～ 17:00	健康開発室 ロビー	職員3	8種目10項目の体力測 定と6歳以上の人がエ アロ・バイクによりジ ュース1杯、ご飯1杯 のカロリー消費を体験。
(同上) 親子体力測定	11.1～3	11:00～ 17:00	健康開発室	職員3	親子で体力測定を行い、 比較をすると同時に標 準値と比較し、判定。
(冬休み) みんなでスポーツを	12.23～28	10:00～ 17:00	体育室	職員3	体育室での遊びや球技 など。
(同上) 親子体力測定	12.23～28	11:00～ 17:00	健康開発室	職員2	8種目10項目の体力測 定を親子で。
(同上) 親子水泳記録会	同上	10:30～ 18:00	プール	職員2	1年のしめくくりとし て親子でクロール、バツ ク、プレスト、25メー トル、50メートルの記録 会。
(同上) きらきらシュプール'86 (スキー合宿)	12.26～30	4泊5日	大規模保養基 地グリーンピ ア津南	※羽崎泰男 ほか4	定員75人 参加73人 参加費42,000円
(同上) 年のはじめのバドミント ン はねつき大会	62. 1.3～6	10:00～ 17:00	体育室	職員2	はねつきとバドミント ン、新旧のゲームを相 互に楽しむ。
(同上) 1987スタートの体力測定	同上	11:00～ 17:00	健康開発室	職員2	8種目、9項目の体力 測定。
(同上) 初泳ぎこども大会	同上	10:30～ 18:00	プール	職員	年の始めて、クロール、 バック、プレストの25 メートル、50メートル の記録をとり記録証を 発行。
自由水泳	62. 3.21	10:30～ 18:00	同上	職員1 プールガード2	

1 体 育

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(春休み) 球技大会	62. 3.26～30	10:00～ 17:00	体 育 室	(人) 職員 4	バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球などを日替わりで実施。
(同上) 健康体力測定	62. 3.26	11:00～ 17:00	健康開発室	職員 2	8 種目、10 項目の測定。
(同上) 子ども水泳集中講習会	62. 3.26～30	9:30～ 10:30	プール	*常藤恒良 *羽崎泰男 ほか 2	参加費6,000円

3) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 数						
幼児体育A	3・4歳	1 (人) 40	(人) 38	火曜日 14:30～ 15:30	体育室	(回) 14	(円) 17,000	*下村 一 ほか 2 人	1. 幼児期に必要な自分の体を自由に調整できる力を養う。 2. 定員には満たなかったが出席状況はよい。
		2 40	39			14	17,000		
		3 40	30			10	12,000		
幼児体育B	4・5歳	1 40	36	水曜日 14:30～ 15:30	同 上	14	17,000	*西山里美 ほか 2 人	
		2 40	38			14	17,000		
		3 40	34			10	12,000		
幼児体育C	3・4歳	1 40	38	木曜日 14:30～ 15:30	同 上	14	17,000	*秋元宏之 ほか 2 人	
		2 40	42			14	17,000		
		3 40	28			10	12,000		
幼児・母親 水泳	1・2歳 児と母親	1 (組) 30	(組) 25	水曜日 10:00～ 12:00	プール	14	25,000	*羽崎泰男 ほか 2 人	泳ぐことより、水の中で親子で遊び、新しい親子関係の形成に力点をおいている。
		2 30	25			14	25,000		
		3 30	30			10	18,000		

IV 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受講数						
幼児水泳A	3・4歳	(人) 1学期 40	(人) 29	火曜日 13:30~ 14:30	プール	(回)	(円)	*常藤恒良 ほか5人	<ol style="list-style-type: none"> 3・4歳児クラスの子は幼稚園・保育園に行っていない子で、家庭の枠を出て、生まれて初めて社会的な関係を広げる場に来た子どもが多い。 水を怖がらないで水に親しみ、浮くという感覚を身につけることを目標としている。 その上に立って、泳ぐために必要な身体動作の開発をしている。 受講者は、4・5歳児クラスは定員を大きく超過した。 出席の状況は各クラスとも良好で、皆勤者が5~7人あった。 練習の結果は「評価表」を作り保護者との連絡の1つとしている。
		40	33			14	18,000		
		40	32			14	18,000		
幼児水泳B	同上	1 40	40	水曜日 13:30~ 14:30	同 上	14	18,000	1学期 *小林弘子 2・3学期 *下村 一 ほか6人	
		2 40	45			14	18,000		
		3 40	49			10	13,000		
幼児水泳C	同上	1 40	31	木曜日 13:30~ 14:30	同 上	14	18,000	*大野 元 ほか6人	
		2 40	40			14	18,000		
		3 40	33			10	13,000		
幼児水泳D	4・5歳	1 40	50	火曜日 14:30~ 15:30	同 上	14	18,000	1学期 *小林弘子 2・3学期 *大野 元 ほか5人	
		2 40	50			14	18,000		
		3 40	51			10	13,000		
幼児水泳E	同上	1 40	47	木曜日 14:30~ 15:30	同 上	14	18,000	*下村 一 ほか5人	
		2 40	51			14	18,000		
		3 40	44			10	13,000		
幼児水泳F	同上	1 40	47	金曜日 14:30~ 15:30	同 上	14	18,000	同 上	
		2 40	50			14	18,000		
		3 40	51			10	13,000		
小学生体育	1~6年	1 40	16	木曜日 15:30~ 16:30	体育室	14	16,000	*秋元宏之 ほか1人	人数は少ないが体育の不得意な子を対象として、活発な動きをつくるよう運営。
		2 40	11			14	16,000		
		3 40	9			10	11,000		

1 体 育

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受講数						
小学生 総合体育	1～4年	(人) 1学期 40	(人) 41	火・木曜日 15:30～ 16:30	(火) 体育室 (木) プール	(回)	(円)	*下村 一	1. 水泳とフロアーでの体育を週に1回ずつ採り入れている。 2. 受講の状況はたいへんよい。
		2	40			28	22,000		
		3	40			20	16,000		
小学生球技	3～6年	1	40	火・水曜日 16:30～ 17:30	体育室	28	21,000	*下村 一 *小林弘子	1. バスケットを中心に指導。 2. 小4以上になると塾などに通う子どもが多くなり人数が減少する傾向がみられる。
		2	40			28	21,000		
		3	40			20	15,000		
ジュニア 新体操	小 1～3年 女子	1	25	水・金曜日 15:30～ 17:00	同 上	28	24,000	工藤ゆかり *西山里美	1. 3年生を境に2つのクラスを編成して来た。本年3年生がジュニア・シニアに分かれたのは昨年よりの受講者をシニアに入れたため。 2. 週2回のクラスでチーム・ワークもよく、受講者も増加して来ている。 3. 10月小児保健クリニック部門のシンポジウムに、1つのアトラクションとして技を披露し、好評を博した。 4. 7月合宿を行いチーム・ワークづくりのよい機会となった。
		2	25			28	24,000		
		3	25			20	19,000		
シニア 新体操	小 3～6年 女子	1	25	水・金曜日 16:30～ 18:00	同 上	28	24,000	同 上	
		2	25			28	24,000		
		3	25			20	19,000		
中学生体育	中1～ 高3	1	30	土曜日 17:00～ 18:00	同 上	14	17,000	*羽崎泰男	中高生へのアプローチの1つとして本年設置したが参加者が少なく所期の目的を達成できなかった。
		2	30			14	17,000		
		3	30			10	12,000		
小学生水泳 A	1～6年	1	50	水曜日 14:30～ 15:30	プール	14	18,000	*秋元宏之 ほか5人	クロールを導入して、標準4泳法の習得を目指している。
		2	50			14	18,000		
		3	50			10	13,000		
小学生水泳 B	同上	1	50	土曜日 15:30～ 16:30	同 上	14	18,000	*大野 元 ほか5人	
		2	50			14	18,000		
		3	50			10	13,000		

IV 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受講数						
小学生水泳 C	1～6年	1 50	54	水曜日 15:30～ 16:30	プール	(回) 14	(円) 18,000	*下村 一 ほか5人	
		2 50	53			14	18,000		
		3 50	49			10	13,000		
小学生水泳 D	同上	1 50	46	金曜日 15:30～ 16:30	同 上	14	18,000	*秋元宏之 ほか5人	
		2 50	52			14	18,000		
		3 50	54			10	13,000		
小学生水泳 アドバンス A	1～6年	1 30	28	水曜日 16:30～ 18:00	同 上	14	18,000	*大野 元 ほか3人	1. 16:30以降18:00 までのクラスは一般 利用と併用であり、 クラス人数を30人と して運営。 2. アドバンスで比較 的上級者で構成する ようにしたが以前と の関係で、100%この ことを満たすことは できなかった。
		2 30	30			14	18,000		
		3 30	28			10	13,000		
小学生水泳 アドバンス B	同上	1 30	29	木曜日 16:30～ 18:00	同 上	14	18,000	*下村 一 ほか3人	
		2 30	26			14	18,000		
		3 30	28			10	13,000		
小学生水泳 週2コース	1～6年	1 40	41	火・金曜日 16:30～ 18:00	同 上	28	23,000	*大野 元 ほか3人	1. 受講者の泳力のバラ つきが多く、指導 上困難があった。 2. 漸減傾向にあり、 対策が必要。
		2 40	29			28	23,000		
		3 40	23			20	18,000		
レディース・ マイルド エアロビクス A	18歳以上 の女性	1 30	4	火曜日 13:30～ 14:30	体育室	14	1単位 20,000	*西山里美	午後の婦人体育のクラ スとして設置。第2学 期からマイルドエアロ ビクスと名を変えたが 受講者は多くならなか った(1学期はフィット ネスA,B)。
		2 30	6			14	2単位 26,000		
		3 30	6			10	1単位 15,000 2単位 18,000		
レディース・ マイルド エアロビクス B	同上	1 30	5	木曜日 13:30～ 14:30	同 上	14	1単位 20,000 2単位 26,000	岡村真奈美	
		2 30	3			14			
		3 30	5			10	1単位 15,000 2単位 18,000		

1 体 育

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 数						
レディース・ エアロビクス A	18歳以上 の女性	1 30	(人) 32	火曜日 18:00~ 19:00	B リハ ーサル 室	(回) 14	(円) 1単位 20,000 2単位 26,000	波多野恵子	3学期少しづつ受講者 が減少したが、これは スペース的な面もあり、 20人ぐらいが適 切かと思われる。
		2 30	23			14	26,000		
		3 30	17			10	1単位 15,000 2単位 18,000		
レディース・ エアロビクス B	同上	1 30	40	火曜日 19:00~ 20:00	同 上	14	1単位 20,000 2単位 26,000	同 上	
		2 30	32			14	26,000		
		3 30	23			10	1単位 15,000 2単位 18,000		
レディース・ スイミングA	18歳以上 の女性	1 50	48	火曜日 10:00~ 11:00	プール	14	1単位 20,000 2単位 26,000	*常藤恒良 ほか2人	1. 受講希望者の多い クラスで水泳のマス ターと、体育のクラ スとして、運動不足 を補うよう指導。 2. 待機者も多く、今 後充実したい。
		2 50	50			14	26,000		
		3 50	61			10	1単位 15,000 2単位 18,000		
レディース・ スイミングB	同上	1 50	50	木曜日 10:00~ 11:00	同 上	14	1単位 20,000 2単位 26,000	1学期 *小林弘子 2・3学期 *秋元宏之 ほか2人	
		2 50	50			14	26,000		
		3 50	61			10	1単位 15,000 2単位 18,000		
レディース・ エアロビクス C	同上	1 30	40	木曜日 18:00~ 19:00	B リハ ーサル 室	14	1単位 20,000 2単位 26,000	三矢八千代	
		2 30	31			14	26,000		
		3 30	24			10	1単位 15,000 2単位 18,000		
レディース・ エアロビクス D	同上	1 30	43	木曜日 19:00~ 20:00	同 上	14	1単位 20,000 2単位 26,000	三矢八千代	
		2 30	28			14	26,000		
		3 30	27			10	1単位 15,000 2単位 18,000		
レディース・ リズム&スト レッチA	同上	1 40	24	水曜日 10:00~ 11:00	体育室	14	1単位 20,000 2単位 26,000	工藤ゆかり *西山里美	受講者は定員に満たな かったが、内容のある クラスを形成。
		2 40	13			14	26,000		
		3 40	14			10	1単位 15,000 2単位 18,000		

IV 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受講数						
レディース・ リズム&スト レッチB	18歳以上 の女性	(人) 1学期 40	(人) 33	金曜日 10:00~ 11:00	B リ ハ ー サ ル 室	(回) 14	(円) 1単位 20,000 2単位 26,000 1単位 15,000 2単位 18,000	田中冬子	
		2 40	26			14			
		3 40	18			10			
ダイナミック ・ヘルス ・クラブ	18歳以上 の男女	1,000		火~土曜日 12:00~ 13:30 18:30~ 21:00 日曜日 18:00~ 20:00	体育室 プール 健康開発 室		4か月 22,000 1年 60,000		
成人水泳 集中講習会	18歳以上 の男女	毎月 20		火・金曜日 毎月7回 コース 18:00~ 19:00	プール	毎月7回 コース 年12回	8,000	中野 満 田村浩志 *下村 一 *羽崎泰男 *秋元宏之 *常藤恒良 *大野 元	

(3) 60年度の活動

体育事業部には活動の場として体育室（336平方メートル）、プール（縦25メートル、横10メートル、深さ1～1.1メートル、総水量265トン）がある。この施設を有効かつ高度に利用・運営するために健康開発室（131平方メートル）があり、心肺機能測定、形態測定、運動・体力測定を行い、児童はもちろん、全年齢を対象に成長度、健康度、発達度、体力、運動能力などを多角的に計測・分析し、面接相談により、必要かつ望ましい運動の種類と、その運動の強度、継続時間などについてアドバイスを行う。楽しみのうちに目標をもって運動に参加し、体力はもちろん、精神面の安定、社会性など、調和のとれたトータルな健康づくりに資することができるよう運営に取り組んできた。

体育事業に課せられ、遂行が期待されている事業は次の5項目に集約される。

- (1) 特別活動やイベントなど、望ましい企画を立案・実施して、参加する子どもや父母に対して、健全育成についての正しい知識、理念を示し、楽しみのうちにこれを実践できる動機付けを行うこと。
- (2) 日常活動として講座・クラブ・講習会の運営。継続的な指導によって成長・発達を援助し、体力・健康、運動技能の向上を図る。
- (3) 外部諸団体、保育園、幼稚園、学校などグループの求めに応じ、そのプログラムの指導を行う活動。
- (4) 一般利用の活動、土曜・日曜日、祝祭日及び学校休暇期間の公開プログラムの実施。
- (5) 研究活動と啓発活動。

1) 平常・特別期間

一般利用は、ほかの活動に比べ、予測が困難であるが、いろいろ検討した結果、土・日曜日、祝祭日及び学校の季節休みに体育室・プールを一般に開放し、それに対応できるプログラムを提供した。体育室では土・日曜日は主に球技（バスケット、ポートボール、バドミントン、ユニフォック、ミニサッカー）を中心に、祝祭日は特別なプログラムを用意するよう心がけた。

学校休暇期間は、冬休みスポーツ大会（1月3～7日）としてバドミントン、羽根つきなどを行った。春休みは「楽しい球技大会」としてバスケット、卓球、ミニサッカーなどの指導と試合を行った。

健康開発室では8種目10項目の体力測定を実施し、多くの参加者があった。測定後、結果を見ながら短い時間ではあるが、カウンセリングを実施し、健康づくりについて指針を与えるよう心がけた。

プールは使用時間を90分に区切り、できるだけ多くの人が泳ぎ、水泳に親しむことができるようアレンジした。冬期にしては予想を上回る参加者があった。また、12月20日（土）、

IV 各部の活動(1)

プールで水上クリスマス会を開き、子どもたちとともにキャンドル・サービスを行った。

不特定多数の来館者に、自由に遊んだり、体育や水泳に参加していただくべきか、それとも指導的な1つの線を出すべきか、その折衷でいくべきか、プログラムは難しいが、長期的見通しの中でプログラムを組み、生活の忙しくなった子どものスケジュール・ダイアリーにも書き込んでもらえるよう地味であっても心に残るものを考えたい。

体育一般利用実績

	プー ル (人)	健 康 開 発 (人)	ダイナミック・ ヘルス・クラブ (人)	ビ ジ タ ー (人)	そ の 他 (人)	計 (人)
11月	2,713	253	417	42	1,367	4,792
12月	859	80	449	36	534	1,958
61.1月	2,055	109	462	81	1,303	4,010
2月	1,885	463	583	157	1,231	4,319
3月	2,687	371	729	238	1,394	5,419
計	10,199	1,276	2,640	554	5,829	20,498

開館記念

子どもたちが、親しみを持って楽しく参加できる開館記念行事として「スポーツ遊びの記録会」(11月2～4日)と「新体操デモンストレーション」(12月1日)を実施した。

(ア) スポーツ遊びの記録会

このプログラムはさまざまなスポーツ種目の基本的動きを取りあげ、ゲーム化したもので、小学生年齢を想定して編成した。参加者の中には、素晴らしい成績を出す子が多く、楽しいプログラムになった。しかし、場所が体育室と屋上に分かれたので、一部だけに参加した子どもたちが多く、次回からは場所を統合しコンパクトに実施する必要がある。

(イ) 新体操デモンストレーション

最近、新しいスポーツとして脚光を浴びてきた新体操への理解をより深めてもらい、「子どもの城」で始めた新体操講座のPRを兼ね青山円形劇場で実施した。

プログラム種目は①オープニング基本運動＝日本女子体育大学新体操部(40人)②棒体操＝国士館大学新体操部(10人)③集団体操(縄とこん棒)＝東京ジュニア新体操クラブ(13人)④縄とびの体操＝ぴゅあスポーツクラブ(13人)⑤個人体操(布)＝八木淑江さん、奥田さやかさん⑥個人体操(こん棒)＝岡田美和さん、二関亜由美さん⑦団体操、輪とボールのアンサンブル＝日本女子体育大学団体チーム(6人)⑧団体操、男子＝国士館大学団体チーム(6人)⑨創作集団体操(扇)＝日本女子体育大学新体操部(40人)⑩個人体操(ボール)＝日本女子体育大学・原田千江美さん⑪創作集団体操(ボール)＝日本女子体育大学新体操部(40人)⑫個人体操(なわ)＝日本女子体育大学・原田千江美さん⑬団体創作体操(リズム)＝日本女子体育大学新体操部(40人)⑭個人体操(布)＝日本女子体育大学・原田千

1 体 育

江美さん⑮エンディング、旗とゴースのアンサンブル=日本女子体育大学新体操部（40人）。

以上盛りだくさんなプログラムで1日2回実施し、約500人の観衆をその美しい動きに引き込んだ。

2) 講座・クラブ・講習会

「こどもの城」の立地条件と社会的ニーズを予測して、3～5歳の幼児を対象に4講座、小学生対象13講座、婦人対象8講座を設け、レディース・フィットネスA、Bコース以外はほぼ定員を満たして好調にスタートした。

(ア) 幼児プログラム

本年度は全幼児クラスで3～5歳までを受け入れた。しかし、3歳と5歳では理解力、体力、行動力に大きな差が生じ、運営に支障を来したばかりでなく、カリキュラム実施に当たっても未消化部分が生じた。この点を反省し、次年度からは3歳児、4～5歳児と区分するように検討したい。

また、いつの時点で3歳、4歳とするかにも問題があり、1年間の講座では4月1日に3歳、4歳になっていること、講習会ではその講習の開始日に規定の年齢に達していることを条件としたい。

このほか、幼児の場合、保護者が必ず付き添って来館されるので、この方々へのプログラムの開発、受講生に行っている指導内容などの解説も試みたいと考えている。

このプログラムのこの期の平均出席率は78～80%で、冬期ということを考え合わせると良好といえる。また、3月末現在、新年度への継続手続きを完了した者は61%で、この点でも、高く評価してよいと考えている。

次年度は幼児プログラムに重点を置き、本年度の経験をもとに、カリキュラムの研究、クラス運営、小集団づくりと活動参加へのモラルを高めると共に、父母への連絡など、いっそうの努力を重ね、将来への礎石としてこのプログラムを強化したいと考えている。

(イ) 小学生プログラム

小学生は週1回水泳コースが7、週2コースが1と総合体育の水泳を加えると10コマを入れ、体育室で球技体育、新体操と総合体育の体育を加え6コマを入れた。いずれのコースも数的には予想どおりで、ほぼ満足することができるものであった。特に低年齢のクラスは受講者が多く、4年生以下が全体の90%を占めた。しかし、小学高学年、更には中学、高校生世代の欠落は問題といえるであろう。

低学年で養った基礎体力と技能を發揮しながらスポーツプログラムに参加し、体力を蓄積すべき時期に、体育への関心が少なくなることには問題があると考え。機会あるごとに啓発に努め、健康の大切さと体育の必要性を説き続ける必要がある。

(ウ) レディース・プログラム

エアロビクス2コース、水泳2コース、リズム&ストレッチ2コース、フィットネス2コースの計8コースを設けた。これを8単位とし、1または2単位を受講できるようにした。水

IV 各部の活動(1)

泳は満員になり、エアロビクス、リズム&ストレッチは定員の80%に達したが、フィットネスは少なく、婦人たちの午後後の時間帯の利用困難なことをうかがい知ることができた。

指導は職員と外部講師を配したが、各コースとも調和のとれた指導で、日常生活で体を動かす機会の少ないこの層に、健康づくりのための刺激として、よい機会となったことを評価している。

(エ) ダイナミック・ヘルス・クラブ

子どもたちの参加できない正午から午後1時半、同6時半から同9時まで、(ただし日曜日、祝祭日は午後8時まで)の時間帯で18歳以上を対象に、「ダイナミック・ヘルス・クラブ」を設け、成人の健康づくりを目指すプログラムとした。

初年度、会員600人を想定してスタートしたが、61年3月末、約300人で、設備面を考えるとこの程度がスタート年次として妥当ではないかと考えられる。

しかし、体育室のプログラムを開発し、トレーニング機器を導入しながら、将来大きな活動にしていきたいと考えている。これには、水泳への集中を避け、チームや同好会づくりを進めて、全体として活発なクラブづくりを図りたい。

(オ) 講習会

3月26日から5日間、「春休みこども水泳集中講習会」を実施した。また、大規模保養基地、グリーンピア津南でのスキーキャンプ(12月27～31日)を実施し、多くの参加者があった。

本年度の集中講習は水泳だけにとどまったが、次年度からは体育室でのプログラムなども含めて活動を拡充したい。

(カ) 肥満児・ぜんそく児健康教室

小児保健部との協力で肥満児健康教室、ぜんそく児健康教室を、体育室、プールで実施し、運動による消費カロリー、体重調整などを行った。また水泳中の心拍の測定など試験的な活動を実施し、将来への展望を開こうとした。

3) グループ活動

健康開発室、体育室、プールを使つての、学校、保育所などのグループ利用は2月、3月に集中的に申し込みがあり、「楽しい新体操」「楽しいマット、跳び箱運動」などを行った。小グループではあるが、健康開発室における体力測定の利用もあった。また金曜日の午前と午後、ジャパン・インターナショナル・スクールにプール及び体育室で指導を行い成果を上げた。

(4) 61年度の活動

前年度の経験を生かし、「こどもの城」にふさわしい活動展開をするために鋭意事業に取り組んだ1年として評価している。

児童福祉週間、夏休み特別期間などに特別活動（イベント）を企画したいという願いを実現し、満足のいくプログラムであったばかりでなく、通常期間とは異なり、より広域に活動をアピールし、「こどもの城」の存在感を広め得たことで、活動に取り組む意義を見いだすことができた。

講座では1, 2歳児を対象に幼児・母親水泳を開き、多くの参加者を集め、有意義な活動展開ができた。0歳児を除き、全年齢層を対象とする活動になり、これを更に充実させれば、多くの人の健康づくりに奉仕し、体育、スポーツ文化の享受と振興に寄与することができるものと思う。

小学生の年代では球技、新体操、水泳の上級者コース（アドバンスドコース）など、より高度の運動技能を要するものについては90分コースとし、充実したクラス運営で参加児童の希望にこたえた。コーチング技術にも新機軸を出し、コンピュータによる運動軌跡の分析をはじめ、科学技術時代に育った児童に説得力ある方法の創出を試みている。

レディース・エクササイズは8コースを10コースに増設、単位制をとりながら、楽しいクラス運営により、心身のバランスある健康づくりを推進するとともに、活動中に脈拍の測定による運動の強度やトレーニング効果などの話し合いを交え、興味と関心、そしてそれが知識に結びつくよう工夫した。

ダイナミック・ヘルス・クラブは「こどもの城」に成人のクラブがあるという周知が難しく、会員数が350人を前後し、日常の利用者も60～70人にとどまったが、利用者の人間関係も深まり、クラブライフの基盤ができてきたので、今後もPRに努め、発展を期したい。

前年度から小児保健部の健康教室で体育の職員が指導に当たってきた。これに加えてマタニティ・スイミングの水泳指導、水中での体操指導も行った。また、保育研究開発部に協力して、幼児の水泳プログラムを水曜日に実施してきた。これらは内部専門職員のよりよい協力の中で、研究・実験的な試みにより、多人数の指導を行う、他の講座ではできにくい成果を期待したい。

講座・クラブだけでもプール、体育室の利用はほとんどフル稼働の状態、これにグループ活動の時間帯を入れ、ウイークデーの一般利用を入れて、施設的には十分な活動をしてきた。内容的には1年で達成できないものもあり、なおいっそう努力し、事業の充実に努めたい。

1) 平常・特別期間

土・日曜日の体育室の一般利用は第1土・日曜日はバスケット、第2土・日曜日はバドミントン、第3土・日曜日は卓球、第4土・日曜日はミニサッカー、第5土・日曜日はユニホッ

IV 各部の活動(1)

ク、とプログラムを決めて実施し、軌道に乗ってきた。また、祝・祭日及び夏、冬、春休みには2、3日連続のプログラムと1日だけの小イベントを組み合わせ、実施した。

プールは火曜日から金曜日まで午後4時30分から同6時まで、土曜日午前10時半から正午と、午後1時半から同4時まで、日曜日は午前10時から90分の入替制をとりながら5回、午後6時までのプログラムを実施した。夏、冬、春休み特別期間は日曜日と同様であるが正午から午後1時半はダイナミック・ヘルス・クラブとの併用になるので、20～30人と入場を制限しながら実施した。

プログラムとして、ワンポイント・アドバイス、水泳記録会を時に応じて実施し、アクセントを持たせるようにした。ほぼ軌道に乗ってきたので、部分的修正を加えて、いっその発展を図りたい。

健康開発室は体力、成長度、健康度などの啓発的意味を持たせて8種目10項目の測定を実施するとともに、エネルギー消費の実践としてエアロバイクを活用するプログラムの実施など幅を広げることができた。

夏、冬、春休み、児童福祉週間、開館記念日などに、社会的にアピールする価値のあるプログラムの企画・実施を図ったり、前年と同様にスポーツ遊びの記録会を実施した。親子の参加を期待して、「親子で測ろう健康と体力」「親子で泳ごう水泳記録会」などのような企画も立てたが、アピール力が弱く、今後の一工夫が望まれる。次年度はスポーツ活動に焦点を当て、よりダイナミックなものに仕立てるよう努力したい。

なお、日常活動の中で幼児体育の進め方、小学生球技におけるオフェンス・ディフェンスのフォーメーションとイメージトレーニング、レディーススイミングにおける心拍と運動の強度、健康教室におけるカロリー消費の問題など多くの課題を職員間で協議する機会を持った。

体育一般利用実績

	プ ー ル (人)	健康開発 (人)	ダイナミック・ヘルス・クラブ (人)	ビジター (人)	そ の 他 (人)	計 (人)	備 考
4月	2,687	371	729	238	1,394	5,419	別に屋上ちびっ子プール 8月 3,603 9月 2,006 計 5,609
5月	2,331	370	820	301	1,098	4,920	
6月	2,857	150	918	445	930	5,300	
7月	3,634	249	1,075	544	967	6,469	
8月	7,602	924	971	481	1,994	11,972	
9月	2,939	377	973	406	878	5,573	
10月	1,812	264	963	361	953	4,353	
11月	1,779	300	929	345	674	4,027	
12月	1,067	243	829	306	432	2,877	
62. 1月	2,063	204	831	252	810	4,160	
2月	2,004	201	919	300	707	4,131	
3月	2,421	460	982	414	1,009	5,286	
計	33,196	4,113	10,939	4,393	11,846	64,487	

1 体 育

2) 講座・クラブ・合宿・講習会

幼児の講座が10講座、小学生が13講座、インターナショナル・スクール4コース、レディース10コース、小児保健との提携3講座4コース、保育研究開発部との提携1コース、このほか1年を通して成人集中水泳講習を週2回実施した。また中高生のコースを設けたが年間を通して参加者が少なく、低調に終わった。

(ア) 幼児プログラム

全講座を3, 4歳と4, 5歳に分けて、クラスを編成し、カリキュラムの立案と指導がより有効に実施できるようにした。

(イ) 小学生プログラム

水泳は低学年では標準競泳4泳法のマスターに重点を置き、上級者は一般利用との併用時間帯に当たることから、時間を90分とし、インターバル、持久力養成などトレーニング的なものに力を入れ、バラエティーに富ませた。

体育室では新体操をジュニア、シニアの2コースに分け、基本動作のマスターから演技力・表現力の養成へと進むよう指導した。小児保健部主催のシンポジウムにも特別出演し、その美しい動きで参加者をなごませ、出演した児童にも励みとなった。このような経験から、小学生球技も、交流試合などの導入や、外部からの刺激を得て、更に発展できるようにアレンジしたい。

(ウ) レディース・エクササイズコース

本年度からエアロビクスを2クラス増やして10コースを設け、より充実を図ったが、午後1時半からのレディース・フィットネスは参加が少ないので、来年度は廃止することを決定した。スイミングコースは希望者が多く、今後講座の増設も含めて検討しなければならない。

(エ) ダイナミック・ヘルス・クラブ

前年度、参加者のほとんどはプール利用が目的だったが、これに体育室のプログラムを加え体力のアップを図るよう努力するとともに、健康開発室の一部にウェイト・トレーニングのコーナーを設けたので、サーキットトレーニングに励む人が増加してきた。この傾向は加速するものと考えられるのでトレーニング・マシンの導入などを図る必要がある。

(オ) 小児保健部との提携

前年に引き続いて健康教室（肥満児・ぜんそく児）を担当するとともに、マタニティ・スイミングを行った。これは参加者が多く、妊婦に必要なトレーニングとリラクゼーション、呼吸法などを取り入れ、活発な活動を展開してきた。この成果についても専門職員間に共有する機会をつくり、今後の指導協力の関係を強化したい。

(カ) 講習会

こども水泳集中講習会を夏休みに6コース、春休みに2コースを実施し、また夏休みの夕刻、一般来館児が少なくなる時間帯に、水泳ファンの参加を期待し、「のびのびスイミング」を開いた。

IV 各部の活動(1)

また、鉄棒、跳び箱、マット運動などが不得意な子どもに対し、「夏休みのびのび体育教室」を開き、楽しく、有意義なプログラムを展開した。

(キ) 水泳集中講習会

成人を対象に1年間継続して週2回開いた。予想どおりの受講者があり、ダイナミック・ヘルス・クラブへのインターク・プログラムとして価値あるものとなった。

(ク) 夏休み、冬休みの合宿

新体操、球技、水泳、スキーと合宿による集中トレーニングを実施し多くの参加児童により、有意義なプログラムとなった。

3) グループ活動

1年間を通してグループ活動は1～3月に集中し、全体で12を数えた。他の月の利用が少なく、わずかに4団体のみであった。プログラムとしては「すてきな新体操」「フロア運動」を行ったが、参加した幼児や児童は積極的な動きをみせ、集団士気の高いプログラムであった。

今後の対応として、「こどもの城」の機能を生かして、さまざまな活動を創りだす必要がある。また、体育活動だけではなく、体力測定などを組み込み、運動解析などを行うことにより、指導者にも、本人自身にも興味と関心を抱かせ、繰り返して利用するよう方向付けができるのではないかと考えられる。

2 プレイ事業部

2 プレイ

(1) 60年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	火		水		木		金		土		日	
	プレイ ホール	パソコン ルーム	プレイ ホール	パソコン ルーム	プレイ ホール	パソコン ルーム	プレイ ホール	パソコン ルーム	プレイ ホール	パソコン ルーム	プレイ ホール	パソコン ルーム
10:00												
11:00	グ ル ー プ 活 動		グ ル ー プ 活 動	体 験 教 室 母 室 親	グ ル ー プ 活 動		グ ル ー プ 活 動			体 験 教 室	一 般 利 用 (火曜日に同じ)	体 験 教 室 子 ども
12:00									一 般 利 用	ク ラ ブ パ ソ コ ン		ク ラ ブ パ ソ コ ン
13:00										体 験 教 室	工 模 ラ 作 モ デ ル 室 型	体 験 教 室 子 ども
14:00	一 般 利 用	パ ソ コ ン	一 般 利 用	パ ソ コ ン	一 般 利 用	パ ソ コ ン	一 般 利 用	パ ソ コ ン				
15:00	プレイ ホール コンピ ュータ プレイ フリー ホール											
16:00	ともだ ち広 場 まん まる 広 場 ふし ぎが 丘		(火 曜 日 に 同 じ)		(火 曜 日 に 同 じ)		(火 曜 日 に 同 じ)					
17:00												
18:00												

IV 各部の活動(1)

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
プラモデル模型工作教室 (協賛事業)	11.10～ 61. 3.30 (日・祝日)	13:00～ 15:00 (1日1回)	研 修 室 プレイホール	(人) 職員1 ボランティア1 外部協力者2	年間24回 参加人数785人 公募・入館料のみ
パソコン子ども体験教室	11. 9～ 61. 3.21 (土・日・ 祭日)	10:00～ 11:30または 12:30～ 14:00	パ ソ コ ン ル ー ム	職員1 ボランティア1	年間31回 参加人数327人 公募・100円
パソコン母親体験教室	11.13～ 61. 3.19 (水曜日)	10:00～ 12:00 (1日1回)	同上	職員2	年間15回 参加人数92人 公募・300円
コンピュータプレイ	11. 2～ 61. 3.31	平日 13:00～ 17:30 土・日曜日 10:00～ 17:30	コンピュータ プレイルーム	同上	集団プレイ 4,971人 個人プレイ 20,142人 計25,113人

3) 特別期間・季節行事プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(開館記念) おはなし人形劇場	11. 2～4	2日 14:00 3日 } 11:00 4日 } 14:00 (全5回)	プ レ イ ホ ー ル	(人) 高津人形座6 総合司会1 職員1 アルバイト2	1公演1時間30分 参加人数1,800人
(同上) 子どもパソコン体験教室	11. 2～4	11:00～ 17:00 (1回1時間 1日6回)	パ ソ コ ン ル ー ム	職員1 ボランティア3	3日間 1回・20人 参加人数360人
(同上) 講 演 会 「子どもを育てる」 (協賛事業)	11. 3	13:00～ 15:00	研 修 室	職員2	ねむの木学園学園長 宮城 まり子 京浜女子大学教授 谷田貝 公昭 参加人数成人140人

2 プレイ

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(冬休み) みんなで飾ろうクリスマス	12.17～22	17～20日 13：00～ 17：00 21～22日 10：00～ 17：00	制作 プレイホール 展示 3階ロビー 4階ロビー フリーホール アトリウム	(人) 職員 2 ボランティア 3	クリスマスツリーの下 絵のパネルに子どもた ちが自分で好きなもの を書いたり作ったりし てはる。 参加人数1,120人 プ レ イ 研 修 教 養 ボランティア } 共同 造 形
(同上) クリスマス人形劇 「かえるのクリスマス」	12.21・22・ 24・25	21・22日 14：00～ 15：00 24・25日 19：00～ 20：00	プレイホール	職員 5	実施回数 4 回 参加人数760人 音 楽 2 人 } 協力 振興福祉 1 人 研修教養 1 人
(同上) プレイ 人形劇の集い	12.24～28	13：00～ 14：00 15：00～ 16：00 (毎日 2 回)	フリーホール	職員 1 外部協力者20	宝仙女子大・ホッピー 学芸大・麦笛 影絵劇団シルエットセア 和気みずえグループ 実施回数 8 回 参加人数480人 研 修 教 養 ボランティア } 共同 プ レ イ
(同上) 年忘れ ジュニアゲーム大会	12.24～28	11：00～ 14：00～ 16：00～ (毎回 1 時間)	屋上ふしぎが丘 プレイホール	職員 1 ボランティア 7	レクリエーションゲーム レクリエーションダンス 実施回数15回 参加人数750人 研 修 教 養 ボランティア } 共同 プ レ イ
(同上) みんなで飾ろうお正月	12.26～28 展示 61.1.15ま で	11：00～ 17：00	制作 プレイホール 展示 アトリウム 3Fロビー 4Fロビー フリーホール	職員 2 ボランティア 2	門松、松飾り、羽子板、 とら、しし、たこ、こ まの下絵のパネルに子 どもたちが、それぞれ 色紙をちぎってはる。 参加人数450人 プ レ イ 研 修 教 養 ボランティア } 共同 造 形

IV 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(冬休み) 新年餅つき大会	61.1.5	11:00~ 15:30	屋上ともだち 広 場	職員7 (人) 婦人ボランティア7 地元有志13 音楽おはやしク ラブ	(1,300食) 参加人数1,800人 プ レ イ 研 修 教 養 ボランティア 企 画 } 共同
(同上) 新春昔あそびコーナー	61.1.3~7	10:00~ 16:00	屋 上 (ふしぎが丘) プレイホール 音楽ロビー	職員2 ボランティア7	双六オリエンテーリング 竹馬, 羽根つき, けん 玉, こま, めんこ, 紙 ずもう大会, ジャンボ かるたとり, ジャンボ 福笑い 参加人数3,500人 研 修 教 養 ボランティア プ レ イ 音 楽 } 共同
節 分 会	61.2.1・2	11:00~ 16:00	造形スタジオ プレイホール 音楽ロビー 体育ロビー アトリウム	職員5 ボランティア12	鬼の面づくり 節分クイズ大会 豆まき 参加人数2,500人 造 形 プ レ イ 研 修 教 養 ボランティア 音 楽 体 育 企 画 } 共同
ひなまつり人形劇 (ケロ子とケロ吉のひな まつり)	61.3.1・2	14:00~ 15:00 (1日1回)	プレイホール	職員4	実施回数2回 参加人数350人 音 楽 } 協力 振興福祉
こどもの城ひなまつり	61.3.1・2	11:00~ 16:00	プレイホール 音楽ロビー	職員4 ボランティア7	ひなまつりクイズ大会 ひなまつりファッショ ンショー ひなあられプレゼント 参加人数500人 プ レ イ 研 修 教 養 ボランティア } 共同

2 プレイ

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(春休み) おもしろチャレンジゲーム大会	61. 3. 26～ 30	11:00～ 16:00	屋上 ふしが丘 プレイホール	(人) 職員 1 ボランティア 6	大声コンテスト ビンゴ輪投げ 1分間カウンター ゾロメだめ ほか 参加人数2,800人 (チャレンジカード配布) プレイ 研修教養 } 共同 ボランティア }

4) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員 (人)	受 講 数 (人)						
こどもパソコン教室 Aコース	小 4～6年	20	20	土曜日 15:00～ 17:00	パソコンルーム	61. 1.11～ 2.8 全5回	(円) 5,000	越谷保育専門 学校講師 小倉康仁 *小川能男	出席率89%
こどもパソコン教室 Bコース	同上	20	13	土曜日 15:00～ 17:00	同上	2.15～ 3.15 全5回	同上	同上	出席率92%
こどもパソコン教室 Cコース	同上	20	20	毎日 10:00～ 12:00	同上	3.25～ 29 全5回	同上	同上	出席率92%
中学生ログ 教室 Aコース	中 1～3年	20	12	日曜日 10:00～ 12:00	同上	1.12～ 2.9 全5回	5,000	同上	出席率92%
中学生ログ 教室 Cコース	同上	20	19	毎日 16:00～ 18:00	同上	3.25～ 29 全5回	同上	同上	出席率93%
パソコン クラブ	小4～ 高3	400	58	こども活動 エリア開館 時間内の 1日1回 1時間 (講座中を 除く)	同上	1年間	年間会費 3,000	*小川能男	延べ利用人数 11月 13人 12月 37人 61.1月 77人 2月 97人 3月 21人 計 245人

IV 各部の活動(1)

(2) 61年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	火		水		木		金		土		日	
	プレイル ホールか ぼ	パソコ ンム										
10:00	グ	グ	グ	グ	グ	グ	グ	グ			一	パー
11:00	ル	ル	ル	ル	ル	ル	ル	ル			一	ソ
12:00	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト			一	コ
13:00	プ	プ	プ	プ	プ	プ	プ	プ			一	ン
14:00	活	活	活	活	活	活	活	活			一	ク
15:00	動	動	動	動	動	動	動	動			一	ラ
16:00											一	ブ
17:00											一	用
18:00											一	用

13:00	一般利用	一般利用(火曜日に同じ)	パソコンクラブ	一般利用(火曜日に同じ)	パソコンクラブ	一般利用	一般利用(火曜日に同じ)	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用
14:00	一般利用	一般利用(火曜日に同じ)	パソコンクラブ	一般利用(火曜日に同じ)	パソコンクラブ	一般利用	一般利用(火曜日に同じ)	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用
15:00	プレイル ホール コンピ ュータ プレイ	おはなし紙 芝居の集い (10月から)	一般利用	おはなし 人形広場	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用
16:00	フリー ホール ともだ ち広場 まん まる広場 ふしぎ が丘	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用
17:00												
18:00												

13:00	一般利用	一般利用(火曜日に同じ)	パソコンクラブ	一般利用(火曜日に同じ)	パソコンクラブ	一般利用	一般利用(火曜日に同じ)	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用
14:00	一般利用	一般利用(火曜日に同じ)	パソコンクラブ	一般利用(火曜日に同じ)	パソコンクラブ	一般利用	一般利用(火曜日に同じ)	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用
15:00	プレイル ホール コンピ ュータ プレイ	おはなし紙 芝居の集い (10月から)	一般利用	おはなし 人形広場	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用
16:00	フリー ホール ともだ ち広場 まん まる広場 ふしぎ が丘	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用	一般利用
17:00												
18:00												

2 プレイ

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
プラモデル模型工作教室 協賛-日本プラスチック モデル工業協同組合	4～ 62.3 日曜日・ 祝日	13:00～ 15:00	プレイホール	職員 2 外部協力者 2 1回 2	(人) 小学1年生以上 事前申し込みおよび当 日受け付け 各回30～35人 原則的に日曜日、ただ し、特別期間等は土曜 日・祝日にも実施。 年間58回、計1,780人
おはなし人形広場	4～ 62.3 木曜日	15:00～ 16:00	同上	職員 3～4	各回30～50人 特別期間を除く毎週木 曜日 年間38回
おはなし紙芝居の集い	10～ 62.3 水曜日	15:00～ 16:00	同上	研修教養 1 プレイ職員 1 婦人ボランティア ア3	各回30～50人 特別期間を除く毎週水 曜日 年間22回
ラジオコントロールカー グランプリ大会 関東模型専門店会主催	4～ 62.3	10:30～ 14:30	ふしぎが丘	職員 1 関東模型専門店 会会員	事前申込者 各回30～40人 毎月第3日曜日 年間10回
パソコン子ども体験教室	4～ 62.3 日曜日・祝日	14:00～ 15:30	パソコン ルーム	職員 1～2	小3～中学生 事前申し込みと当日受 け付け 年間29回 参加 287人 参加費100円
パソコン母親体験教室	4～ 62.3 水曜日	10:00～ 12:00	同上	職員 1	母親、事前申し込み 年間11回 参加 74人 参加費300円
パソコン親子体験教室	4～ 62.3 日曜日・祝日	13:00～ 15:00	同上	職員 1～2	小3～中学生・親 事前申し込みと当日受 け付け 年間9回 参加 157人 参加費400円
コンピュータプレイ	4.1～ 62. 3.31	開館時間中	同上	職員 パート職員 2	集団プレイ 7,868人 個人プレイ 40,925人 計 48,793人

IV 各部の活動(1)

3) 特別期間・季節行事プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(春休み) レゴ・ロゴ・ワーク ショップ	4.1・2	10:00～ 15:00	研 修 室	(人) 職員1 外部協力者4	事前募集 (くもん出版コペル21 パソコンルームのポス ター) 小学高学年生20人
(同上) 人形劇の集い	4.1～6	13:00～ 13:45 15:00～ 15:45	プレイホール (4.1～4) フリーホール (4.5・6)	研修教養職員1 職員3 外部協力者延べ 27	幼児～小学生 各回200～250人 (パペット・マーケット ほか協力)
(児童福祉週間) みんなでつくろうデカデ カ鯉 (展示は5月8日まで)	5.3～5	11:00～ 16:30	プレイホール	研修教養, 造形, プレイ職員 ボランティア 8～10	全日で延べ5,000枚のウ ロコが完成した。 (子どもたちがウロコを作 成し, 全体で大きな鯉を完 成させた)。
(同上) おもしろチャレンジゲー ム大会	同 上	11:00～ 16:00	ふしぎが丘	研修教養, プレ イ職員 ボランティア 5.3 14 4 19 5 14	参加者 3日 651人 4日 1,076人 5日 823人 計 2,550人
(同上) 母の日 カードをつくってお母さ んにおくろう	5.11	11:00～ 17:45	プレイホール	職員3	母の日にちなんで, 子 どもたちが母親に送る カードを作成。 参加者約380人
七夕行事 (展示は7月13日まで)	7.5・6	10:30～ 17:30	同 上	職員4	プレイホール天井に天 の川をつくり, 願い事 を書いた紙をつり下げ る。
(夏休み) インドアキャンプ	7.24・25 (1泊2日)		プレイホール ふしぎが丘	職員5 管理部職員1 ボランティア6	事前にハガキ申し込み (城ニュース・チラシ ・新聞等で募集) 小2～4年 37人
(同上) 屋上ちびっこプール	7.18～ 9.10	10:00～ 18:00 (悪天候時を 除く)	屋 上 遊 園	職員2～4 パート職員4～6	幼児とその保護者 稼働日数37日 利用者数5,167人 1日平均134人 体育, プレイ共同

2 プレイ

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(夏休み) 人形劇フェスティバル パート I	8.2・3	8.2 15:00～ 16:15 8.3 12:30～ 13:45 15:00～ 16:15	フリーホール	(人) 職員 2 外部協力者 1日 10	各回200～250人 延べ3回 (宝仙女子大・ホッピ ー協力)
(同上) 人形劇フェスティバル パート II	8.15～20	13:00～ 14:00 15:00～ 16:00	プレイホール	職員 2 外部協力者52	各回100～150人 延べ12回 (パペット・マーケッ トほか協力)
(同上) こども体験コーナー	8.5～10	13:30～ 15:00	フリーホール	造形, AV, プレ イ職員 パート職員 8 外部協力者12	8.5・6 機械の声 延べ49人 8.7・8 自然の声 延べ15人 8.9・10 人間の声 延べ48人 10歳～中学生 事前募集及び一般来館 者の当日受け付け 延べ6回112人参加
敬老の日 おたよりしよう	9.14・15	9.14 11:00～ 16:30 9.15 10:30～ 14:30	プレイホール 造形スタジオ	職員 婦人ボランティ ア	敬老の日にちなんで、 おじいちゃんおばあ ちゃんに手紙を書く機 会とする。 参加延べ約1,200人
さよならちびっ子プール ゲーム大会	9.13～15	9.13・15 13:00～ 16:00 9.14 12:00～ 16:00	屋上遊園	研修教養, プレ イ職員 ボランティア 1日 14	水鉄砲・笹舟など
(開館1周年記念) ゲームとマジックの集い	11.1～3	13:00～ 14:00 15:00～ 16:00	フリーホール	職員 2 外部協力者15	各回約200人 延べ6回
(同上) おもしろチャレンジゲー ム大会	11.1～3	11:00～ 16:00	ふしぎが丘	研修教養, プレ イ職員 ボランティア 11.1 15 11.2 14 11.3 12	参加者 約600～700人/日

IV 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(開館1周年記念) 人形劇フェスティバル	11. 1～3	12:30～ 13:30 14:30～ 15:30	音楽スタジオ A	(人) 職員2 外部協力者10	各回約200人 延べ6回 人形劇団チョコほか
(同上) こんにちはパソコン	11. 1～3	13:00～ 13:45 14:00～ 14:45 15:00～ 15:45 16:00～ 16:45 11. 2・3は 11:00～ 11:45 の計5回	パソコンルー ム	職員 1～2	延べ14回
みんなで飾ろう クリスマス	12.10～25	開館時～ 16:00	プレイホール 4Fロビー 3Fロビー アトリウム	企画, プレイ, 造形, 音楽, 保 育, 小児保健, AV各職員 ボランティア 婦人ボランティ ア	クリスマスらしい飾り を作り, 展示パネルに 作ったツリーに飾る。 参加者 平均1,000人/日
みんなで飾ろうお正月	12. 26～ 62. 1. 7	開館時～ 16:00	同 上	同 上	うさぎ年にちなんでウ サギをつくりパネルに 飾り付ける。 ピロティ柱の飾り付け も子どもたちの作品で 行った。 参加者 平均1,000人/日
(冬休み) 人形劇フェスティバル	12. 25～28	12:30～ 13:30 14:30～ 15:30	12.25 プレイホール 12.26～28 音楽スタジオ A	職員2 外部協力者10	参加者50～60人 延べ8回 (パペット・マーケッ トほか協力)
(同上) 年忘れ おもしろクイズ大会	12. 27・28	13:00～ 14:00 15:00～ 16:00	プレイホール	研修教養, プレ イ職員 ボランティア 12. 27 15 12. 28 12	小学生以上 参加者各回約40人 計160人 (“飾ろう”期間中に 対象を小学生以上に向 けたゲーム大会)

2 プレイ

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(冬休み) 親子で楽しい昔あそび	62. 1. 3～6	11:00～ 16:00 1. 3 12:30～ 16:00	同 上	(人) 研修教養, プレ イ職員 ボランティア 1. 3 8 1. 4 12 1. 5 15 1. 6 7	福笑い・紙ずもうなど
(同上) お正月 もちつき大会	1. 4	11:00～ 12:05 14:00～ 15:30	屋上遊園	企画, 研修教養, 音楽, AV, 体 育, プレイ各職 員 婦人ボランティ ア 外部協力者16	午前の部約500人 午後の部約700人
(同上) こどもの城はかわいい鬼 でいっぱいだ	1.31～ 2. 1	10:00～ 17:30	プレイホール 造形スタジオ	造形, プレイ職 員 婦人ボランティ ア, ボランティ ア	小学生以上 豆まき, つのつくり, ゲーム 参加者延べ約1,500人
ひなまつりの集い	2.28～ 3. 1	2.28 14:00～ 15:00 3. 1 12:00～ 13:00 14:30～ 15:30	プレイホール	研修教養, プレ イ職員 婦人ボランティ ア, ボランティ ア11	2.28 人形劇と折り紙 3. 1 ひなまつりクイ ズ大会 参加多数
(春休み) おもしろチャレンジゲ ーム大会	62. 3.26～30	11:00～ 16:00	ふしぎが丘 (雨天フリー ホール)	研修教養, プレ イ職員 ボランティア 3.26 16 27 20 28 9 29 16 30 12	ダブリン・あ音連続・ 早射ちなど。 参加者 約450～500人/日

IV 各部の活動(1)

4) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員 (人)	受 講 数 (人)						
小学生パソコン教室A	小 4～6年	20	19	日曜日 10:30～ 12:30	パソコン ルーム	4.20～ 5.18 全5回	(円) 5,000	越谷保育専門 学校講師 小倉康仁 *小川能男 *宗像桃子	登録料別 出席率89%
小学生パソコン教室B	同 上	20	3	同 上	同 上	6.8～ 7.6 全5回	同 上	*小川能男	登録料別 出席率100%
小学生パソコン教室C	同 上	20	8	10:30～ 12:30	同 上	7.29～ 8.2 全5回	同 上	小倉康仁 *小川能男	夏期連続 登録料不要 出席率92%
小学生パソコン教室D	同 上	20	7	日曜日 10:30～ 12:30	同 上	9.7～ 10.12 全5回	同 上	同 上	登録料別 出席率77%
小学生パソコン教室E	同 上	20	6	同 上	同 上	11.9～ 12.7 全5回	同 上	同 上	登録料別 出席率93%
小学生パソコン教室G	同 上	20	13	10:30～ 12:30	同 上	62. 3.26～30 全5回	同 上	小倉康仁 *小川能男 *宗像桃子	春期連続 登録料不要 出席率92%
中学生パソコン教室A	中学生	20	12	土曜日 15:00～ 17:00	同 上	4.19～ 5.17 全5回	5,000	小倉康仁 *小川能男	登録料別 出席率71%
中学生パソコン教室C	同 上	20	3	16:00～ 18:00	同 上	7.29～ 8.2 全5回	同 上	*小川能男	夏期連続 登録料不要 出席率93%
中学生パソコン教室D	同 上	20	2	土曜日 15:00～ 17:00	同 上	9.6～ 10.4 全5回	同 上	同 上	登録料別 出席率100%
中学生パソコン教室G	同 上	20	6	15:00～ 17:00	同 上	62. 3.25～ 29 全5回	同 上	同 上	春期連続 登録料不要 出席率86%

(3) 60年度の活動

プレイ事業部は、プレイホール・屋上遊園・フリーホール・コンピュータプレイルーム・パソコンルームと、「こどもの城」の中で最も広いスペースを活動エリアとして持っている。プレイホールには室内アスレチックやふしぎの館などの大型遊具があり、また屋上遊園には跳んだりはねたりできる風船ラッシュなどの大型遊具や3輪・4輪などの乗り物遊具が置かれ、子どもたちが自由に遊ぶことができる。フリーホールは、プレイホールを利用する子どもたちよりも、低年齢の子どもたちを対象にして、ままごとなどで安全に遊べるスペースである。コンピュータプレイルームには20台のパソコンがあり、グラフィックスや鉄道レイアウトなどといった、遊びながら自然に考えたり工夫していけるようなゲームソフトが準備されている。20台のうちの4台は、大型スクリーンを見ながら4人で同時に1つのゲームができるという「こどもの城」のオリジナルシステムである。パソコンルームでは、小・中学生を中心とする子どもたちが教室やクラブに入会して20台のパソコンを利用できるようになっている。

これらの活動エリアを活用するために、プレイ事業部では、「子どもたちが汗を流して思い切り遊ぶ」をモットーに、①大声を出して遊ぶこと ②汗を流して遊ぶこと ③遊びに満足できることの3点を子どもたちに与えることを基本的な考えとした。現在の子どもの日常生活の中では生活環境的にも以上の3点は基本的に欠落しており、また体全体で充足感を味わう機会も極めて少ないのが現状である。発達段階でのこれらの影響は非常に大きく、本来子ども自身に潜在的に備わっているものが正常に発達していくためには、これらが必要不可欠のものとされている。

さきに掲げた活動エリアの中ではこれらの条件が満たされるように配慮されており、利用する多くの子どもたちは、年齢を超え性別を超え、自由に楽しく遊んでいる。一方、固定式の大型遊具からブロックなどの細かい遊具に至るまで遊具全般にわたって、予想を上回る数の子どもたちが毎日思い切って遊んでいるだけに、消耗・損傷が激しい。このような施設における遊具の在り方を考えさせられる現象でもある。

利用者は、当初想定していた年齢よりも低年齢の子どもが多くみられた。平日は、親子での幼児の利用が多く、小学生は学校・学習塾の都合などから利用が少ない。日曜日・祝祭日には近県など遠距離からの人たちも多く、小学生以上の児童の利用が多いのも特徴である。また、子ども会、ボーイスカウト、ガールスカウト、児童館グループなどグループ単位の利用も多くみられた。

プレイ事業部の今後の展開として次の5点を掲げる。

- (1) 各スペースの自由利用を主体において運営してきたが、1人で来た子が1人で帰るといことがなくなるような活動をしていかなければならない。そのため初めて来た子どもでもグループの輪に入ってほかの子どもと語り、活動をともにする者が、十分にスキ

IV 各部の活動(1)

ンシップのできる条件やプログラムを整備し、提供する。

- (2) 人形劇などの児童文化活動を日常活動の中で充実させ定期的、恒常的に提供する。
- (3) 小学生以上の児童が参加できるイベント、プログラムを企画・提供する。
- (4) 年齢混合（幼児と児童）の自由遊びは保育園などでも事故率が高い活動であるが、異年齢集団遊びは児童の成長に大切な要素である。指導に当たる職員の十分な配慮と安全対策を講じることにより継続、発展させる。
- (5) パソコン体験教室などを含めてグループ・団体のためのプログラムの充実を図る。

1) 平常期間

日常活動としてプレイ事業部のスタッフは、ボランティアの協力を得て、子どもたちとともに自由な遊びを展開した。それ以外に定期的な事業として、以下にあげる催しのプログラムを実施した。

(ア) プラモデル模型工作教室

プラモデル模型工作教室は、子どもたちがプラモデルを制作する過程で、手作りの楽しさや作り出す喜びを習得し、工具の使い方、着色の仕方、遊び方などを身につけることを目的に、日本プラスチックモデル工業協同組合の後援で60年11月に開始した。プレイホールの一 corner を区切って会場とし、毎日曜日及び祝祭日に各会社の指導員とプレイ事業部の職員が指導に当たりながら、小・中学生30人を対象に2時間の内容で実施した。教材は、同工業協同組合加盟の23社が会社ごとに提供し、参加希望の子どもたちは教材内容とその対象学年によって希望日を選択して事前に申し込む方式をとった。

60年度は24回実施され、延べ700余人が参加した。「ガンダム」などのキャラクターが教材として取り上げられたときは小学低学年から中学生まで多数が申し込み、逆に船や模型飛行機という教材のときは申し込みが少なかった。また、お城、だんご屋、鉛筆立てなどのときには通常より女子の参加が多かった。使用した教材内容は下表のとおりである。

回数	月 日	教 材 名	対 象	内 容	メーカ－
1	60.11.10	スズキジムニー 4WD	小3～	モーター使用の4輪駆動の自動車。接着剤不要。コースを作り遊ぶ。	タ ミ ヤ
2	11.17	カワルドスーツ ガンダムMK. II	小1～	ガンダムシリーズ。ほかにハイザクを作った。完成後色を塗った。	バ ン ダ イ
3	11.23	ヒートパワーボート	小5～	船。ろうそくの熱を動力に走る。完成後一部走らせた。	東 京 マルイ玩具
4	11.24	可変クラウンターボ	小3～	モーターを使わずディスプレイタイプに仕上げた。	フジミ模型
5	12. 1	スーパー4WD	小3～	バギータイプの車。モーター使用で実際に走る。	長谷川製作所
6	12. 8	ワーゲンバギー	小1～	同 上	日 本 模 型
7	12.22	スーパーフライ	小5～	同 上	青 島 文 化 教 材 社

2 プレイ

8	61. 1. 5	ウィリーバンチ リモコン4WD	小3～	バギータイプの車でモーター使用で走る。 リモコン操作で前進、バックができる。	有井製作所
9	1. 12	ロボダッチ 宇宙基地	小1～	小さいロボットが6体と、宇宙基地のセット。 4つの種類があった。	今井科学
10	1. 15	ひょうきん ウォークスルーミラ	小1～	トラックタイプの車でプルバックゼンマイ使用で 走る。シールもはった。	エルエス
11	1. 19	ニッサンバルサー	小4～	前輪駆動をプラモデルで再現している。モーター で走る。	オオタキ
12	1. 26	だんごや	小4～	予定では、おし屋であったがだんご屋を作った。 ディスプレイタイプのプラモデル。	河合商会
13	2. 2	光ファイバー 通信実験	小3～	電気の実験キットを使って、電波や光ファイバー の実験を行った。	学研
14	2. 9	ボンボン船やまと	小4～	ろうそくを利用した船。完成後屋上仮設のプール を使って走らせた。	クラウン モデル
15	2. 11	アンティークな鉛筆 立て	小2～	セメダインと鉄・銅粉などを混ぜボール紙に塗 り、形を作り上げた。	セメダイン 通商
16	2. 16	チョコQ 改造工作	小4～	チョコQ(車)をより速くするための改造をした り、そのゼンマイを使ってロープウェイを作った。	タカラ
17	2. 23	鶴ヶ城	小3～	お城をディスプレイ(ジオラマ)タイプに組み上 げた。	童友社
18	3. 2	トヨタソアラ	小5～	車をディスプレイタイプに組み上げた。エンジン 部分なども製作するようになっていた。	ナガノ
19	3. 9	BOY自動車 塗装仕上げ	小4～	塗装の使い方を中心に勉強した。 スプレーガンを使用。ゼンマイの車。	グンゼ産業
20	3. 16	木工作 歩くロボット	小4～	木の台にギヤーをつけて、歩くロボットを作る。 きり、ドライバーなど使用。	マブチ モーター
21	3. 21	ザ・フリーバギー	小4～	モーター使用の車。	ミツワモデル
22	3. 23	インドアプレーン	小3～	発泡スチロール製の飛行機。ゴム動力で飛ぶ。	ユニオン モデル
23	3. 29	トヨタ ランドクルーザー	小3～	ジープタイプの車。モーターで走る。	ヨーデル模型
24	3. 30	動物工作 基本セット(象)	小2～	木工作タイプ。木とギヤーを組み合わせて作る。 ドライバーを使用。	タミヤ

今後の展開としては次の2点が考えられる。①単なる工作としての“作りっぱなし”にならないよう細かい点の指導や助言を行い、技術を身につけさせる方向に進める ②参加者同士が工作をしながら、友達を作ったり、言葉を交わしたりして交流を図れるように働きかける。これらを考慮したうえで今後は、友達同士が協力して作り上げる作品や、各種の技術を取り入れた作品を教材とするなどの展開が考えられる。また、同時に小学高学年から中学生などの高学年指向のプログラムや、女子が参加しやすいようなプログラムを考えていくことも必要であろう。

(イ) コンピュータプレイ

コンピュータプレイルームは、プレイホールの奥にあり、20台のパソコンを備え、開館中いつでも利用できるスペースである。20台のうち16台は個人プレイと呼ぶ、1人又は2人用

IV 各部の活動(1)

のパソコンであり、残る4台は集団プレイ用で、1つのゲームに同時に4人が参加できる。

個人プレイのソフトは落ち落とす早さを競うなどの、いわゆる反射ゲーム的なものは設置せず、「マウスのお絵かき（コンピュータグラフィックス）」、「マイクロマウス（迷路に入ったネズミを出口まで誘導する）」、「鉄道レイアウト（線路や駅、ポイントなどを組み合わせて、好みの線路を作る）」など創造的で楽しいものになるよう考慮

した。集団プレイ用には2種類のソフトを開発した。1つは「ホットバルーンアドベンチャー」という熱気球のゲームで、風の方向や気球内の温度を調整しながら目的地に着陸させ、着地点の正確さや安全性を競う。もう1つは、「エキサイティングヨットレース」といい、ヨットの舵（かじ）や帆を操って、風向きや風力を考えながら一定のコースを走らせ、所要時間や操作性を競うゲームである。2本とも本物さながらのシミュレーションゲームであり、風のぐあいなどで微妙に動くため、初めての子どもたちにはかなり難しい。しかし、内容を理解すれば徐々に得点が上がるので、小学高学年以上の子どもたちを中心に2度、3度と挑戦する姿も見られる。

このコンピュータプレイは、受付で希望するゲームを申し込むと、1回25分ほどゲームができる。台数が限られているうえに1回のゲームに30分近くの時間を要するために、日曜日・祝祭日などには限られた人数しか利用できないので、申し込みの行列ができてしまう。

予約時の受付表からうかがえる年齢別の利用傾向として、平日は幼児と大人の比率が高く、日曜日・祝祭日などは、小・中学生の利用者数が平日を大きく上回っている。いずれにしても幼児の利用が多く、途中であきてしまったり、内容を理解させるのに手間がかかったりと、コンピュータプレイ独自の課題も幾つか出てきた。今後は、新たな集団プレイのソフトを開発して小学高学年以上の利用が、平日にも継続されるように図りたい。また、コンピュータプレイをグループ活動のプログラムとして有効に取り入れるなどの展開も考えられる。

コンピュータプレイ利用実績

	個人 (人)	団 体		計 (人)
		組 数 (組)	人 員 (人)	
11 月	4,428	341	1,233	5,661
12 月	3,660	247	849	4,509
61. 1 月	3,875	260	862	4,737
2 月	3,394	225	681	4,075
3 月	4,604	260	855	5,459
計	19,961	1,333	4,480	24,441

2) 特別期間・季節行事

(ア) おはなし人形劇場（開館記念）

人形劇を媒介に、児童文化活動の幅を広げていく出発点として、「おはなし人形劇場」を実施した。プロの人形劇団「高津人形座」が出演、プレイ事業部職員、ボランティアも人形操作に参加した。

3日間にわたり、同一プログラムを5回上演した。「こんにちは」コーナーでは舞台に手袋をはめた手が登場し、参加した子どもたちとじゃんけんをして、プログラムが開始された。続く「この歌知ってる？」では、子どもたちがよく知っている「かえるの合唱」などの曲に合わせて手袋やタオル、毛糸玉や靴下が愉快的な踊りを披露した。次の「うさぎを作ろう」

2 プレイ

は、開始時に配布したチラシを使って、うさぎの折り紙をするコーナー。そして最後に人形劇「タマゴを食べたかった魔女」を上演した。全日程を通じ2,000人近くの参加者があったが、手袋の踊りや、折り紙など新しい演出と展開が盛り込まれていたため、子どもたちは一様に強い印象を受けたようだ。

この公演はプレイ事業部の文化的なイベントや、その創作活動に対する意識に大きな影響を与え、後にプレイ事業部職員を中心に人形劇活動を定期的に行うことになった。

(イ) 講演会「子どもを育てる」(開館記念)

講演会「子どもを育てる」は、140人余りの母親たちが参加し、次の2つの講演が催された。

(1) 障害児教育の立場から「今」=ねむの木学園学園長 宮城まり子氏

子どもを育成する立場の保護者、特に母親たちを対象として、宮城氏が自分の生い立ち、自分の人生に大きな影響を与えた母親の姿、現在のねむの木の子どもたちを通しての、真の子育て、教育の在り方と体験などを話した。

(2) 10年間の調査を踏まえて「ここまできた不器用っ子」=京浜女子大学教授 谷田貝公昭氏

この10年間に、全国の子どもたちの基本的な生活習慣における技術（はしを使う、タオルを絞るなど）の未熟さが目立っている。それは子どもが社会人として自立していないことであり、原因は家族教育にある、という趣旨で、母親のなすべき責任について具体例をあげ、ユーモアを交えて話した。

参加した母親たちは、忘れていたこと、何気なく見過ごしていた素朴なことが大切なのだという両講師の話に深く示唆を受けていた。

(ウ) 季節行事

期間中に催された11の行事は、①季節行事活動 ②人形劇・児童文化活動 ③“みんなで飾ろう” ④チャレンジゲーム大会、の4項目に大別される。

季節行事活動は日本古来の伝統的な風物・風習・習慣に、遊びの要素を取り入れ、子どもたちと一緒に体験し、継承していくことを目的にした。行事ごとに他事業部と共同事業の形をとり、特に研修教養部のボランティアグループとは、全行事を通して協力体勢をとり作業を行った。

「新年餅(もち)つき大会」は、臼(うす)・きねなどの用具をはじめ、材料の準備からプログラムの実施まで地元の渋谷区青少年関係指導者有志の方々に奉仕的な協力をしていただいた。このように、伝統的行事のしきたりに従って実施する場合には、用具・やり方など近隣地域の人たちとのコミュニケーション、協力関係が大切になってくる。餅つき大会で多数の参加者が楽しめたのも、地元の手慣れた方々の指導、援助に負う部分が多く、行事を通じて地域の人たちとの交流が積み重ねられていく成果も大きい。餅つき大会当日は、「こどもの城おはやしグループ」の協力で「獅子舞」や「おはやし」を行った。雰囲気づくりのため、参加した家族連れ希望者に、実際におもちをついてもらい、薄れかけている伝統行事

IV 各部の活動(1)

への関心を高めるよい機会ともなった。

「新春昔あそびコーナー」は、ボランティアグループが中心となって、手製の竹馬、紙ずもう、羽根つき、けん玉、こま、めんこ、ジャンボ福笑い、ジャンボかるたとり、双六（すごろく）オリエンテーリングなどを実施した。特に、竹馬、けん玉、羽根つき、こまといった伝承遊びは寒い屋上で実施したにもかかわらず関心が高かった。

節分会では、「こどもの城はかわいい鬼でいっぱいだ」をテーマに、子どもたちが鬼のお面を作るプログラムを組んだ。参加者は、まず造形スタジオに行き鬼のお面の台紙を受け取り、プレイホール、音楽スタジオ、体育室を回り、各所に設定された課題をこなすと、目、はな、くち、つものスタンプがもらえて鬼のお面が完成する。顔の真ん中につのがあったりなどスタンプの位置を間違えたユニークなお面もでき上がり、その日の「こどもの城」はかわいい鬼でいっぱいになった。職員、ボランティアがふんする鬼をやっつける豆まき大会や、節分にちなんだクイズ大会も盛り込んだ。子どもたち自身の作品をその日に持ち帰ることで、子どもたち自身の祭りとする趣向にした。

「ひなまつり」では、ひなまつりにちなんだクイズ大会と、ファッションショー、ひなあられのプレゼントを行った。ひなあられのプレゼントのときには、ボランティアグループが折り紙で三宝を作り、ひなあられを配った。ファッションショーではグループ単位の子もたちが新聞紙や色紙、折り紙などを使っておひなさま、お内裏（だいら）さまの衣装を作った。節分会に続き、子どもたちによる積極的参加があり、子どもたち自身の祭りとして実施された。

今後は季節行事活動として、夏休みに地域の方々と協力して盆おどりや縁日などを実施したい。また、新春昔あそびコーナーで行われた竹馬・けん玉・こま回しなどは、その後もボランティアグループによって日曜日などに実施されており、参加者も多く、かんぼつくりを作るなど活動の幅も広がりを見せている。これら伝承遊具は季節に関係なく、日常的にも活用したい。

(二) 人形劇・児童文化活動

開館特別記念行事の「おはなし人形劇場」をきっかけに、プレイ事業部備品の人形を使って人形劇を企画・実施することに発展した。企画・実施はプレイ事業部全職員が分担して、ストーリーの作成、背景・小道具の制作、人形操作の練習、せりふの吹き込みなどの作業をした。舞台作り、背景作り、録音・テープ編集などの段階では研修教養部と音楽事業部の協力を得た。クリスマスには「かえるのクリスマス」、ひなまつりには「ケロ子とケロ吉のひなまつり」を上演し、プレイ事業部所有のかえるの人形を子どもたちに定着させることができた。

12月24日から28日まで行った人形劇の集いでは、宝仙女子大学人形劇団「ホッピー」、学芸大学人形劇団「麦笛」、和気みずえグループ、影絵劇団「シルエットセアー」が出演し、動物コンサート・ワニに食べられた王様(宝仙)、なかよし・ほーらやっぱりキツネサン(学芸大)、なかよし・うさぎとカメ・大きなカブ(和気グループ)、影絵クイズ・かさじぞう・

2 プレイ

アヒルのはなし（影絵劇団）を上演した。内容としても人形劇を専門とする人たちによってレベルの高い作品を子どもたちに提供することができた。更に、協力を得られるセミプロ・有志サークルの数を広げ、季節ごとに定期的に公演し、さまざまな文化を子どもたちに伝えていきたい。

(オ) みんなで飾ろう

造形事業部・研修教養部との共同企画で、来館した子どもたちと一緒にクリスマスやお正月の飾りを作って、子どもたち自身の行事にしようと、節分会、ひなまつりと同様、子どもたちの積極的参加による行事を実施した。クリスマス、お正月ともに子どもたちが多く出入りするアトリウム、プレイホール、音楽スタジオ、フリーホールに展示用の大きなパネルを設置した。このパネルにクリスマスにはクリスマスツリーの輪郭を、お正月には重ね餅・こま・羽子板・とら（干支）の輪郭を分かりやすくかたどり、そのうえに子どもたちがそれぞれのテーマにちなんだ作品を折り紙や色紙、ペンなどを使って作成し、パネルにはりつけていった。電飾やモールを飾り付け、1枚1枚のパネルを共同作品として完成させた。自分で作ったものが展示されるという参加の喜びと充足感を子どもたちに与える参加行事であった。

(カ) チャレンジゲーム大会

研修教養部との共同行事として実施したが、準備・遊具の制作についてボランティアグループが主体的に取り組んだ。ボランティアグループは、日曜日・祝祭日の午後4時半ごろから、プレイホールでの日曜日活動としてレクリエーションダンスの集いを行っており、初めて会った子ども同士が手を取り合って、ときには母親を交えて踊っていた。これらの活動の積み上げの中から生まれたのが「年忘れジュニアゲーム大会」である。レクリエーションゲームとダンスを組み合わせ、ダンスではリーダーが中に入ってグループになって活動し、子ども同士を結びつけるきっかけをつくった。

おもしろチャレンジゲームは春休みに初めて実施された企画である。ボランティアチームが中心になり、屋上でゲームを実施した。参加した子どもたちがそれぞれゲームの記録を記入するカード（チャレンジカード）を持ち、ゲームコーナーを回って行く。ゲームを全体的につなげる意味でも、また記念として持ち帰る意味でもこのチャレンジカードの発想は成功だった。今回のゲーム大会で取り上げた種目は大声コンテスト、ゾロメだめ、シャトルコック投げ、1分間カウンター、ビンゴ輪なげの5種目である。今後ゲームの種目を増やし、竹馬、縄とびなど伝承ゲームを組み込んでの展開が考えられる。

3) グループ活動

プレイ事業部が携わった本年度のグループ活動は77件にのぼる。プレイホール・屋上というスペースの性質上、自由遊比的な利用、あるいは食事場所としての利用が全体の半分以上を占めている。一方、プログラムを組んだ活動としても「インディアン村のおまつりだ」「大型積み木遊び」「ロープワーク」「コンピュータプレイゲーム」の4種類を実施した。

IV 各部の活動(1)

自由遊びのときはプレイホールにある遊具などを使って遊び、より連帯感を深めていくことを目的とする。食事場所としての利用は、天候や人数に左右されてやむなくというケースが多く、衛生的にも不相当で、改善されるべきである。自由遊びについては、子どもたちの生き生きとした姿を見ていると、ねらいどおりにいっていると思われるが、今後は職員が一部介入して遊びの指導を行っていくなど発展的展開が考えられる。プログラム活動については、少ない機会ではあったが、十分な手ごたえが感じられた。今後はコンピュータプレイやパソコン体験など新しいプログラム活動を積極的に行っていきたい。

4) パソコン

(ア) パソコンルームのプログラム活動

パソコンルームでの活動のねらいはコンピュータのプログラミングを通して、創造性や筋道だった思考力を伸ばすこと、そして科学する心を育て上げることである。しかも、その活動は子どもたちが飛びつきたくなるような楽しい遊びでなくてはならない。点数が何点以上必要だとか、これだけの知識は持っていなければという基準はなく、子ども1人1人がそれぞれのレベルで納得のいく経験を積みよいわけである。したがって、子どもの自由な発想をいかに大切にすることが重要となる。このことはコンピュータに限らず、子どものために展開される活動のプログラムすべてについて言えることではないだろうか。

(イ) パソコン教室

子どもパソコン教室、中学生パソコン教室の2つのコースで計5回の教室を実施した。両コースとも2時間×5回の計10時間で、プログラミング言語はロゴ言語を使用した。

試行錯誤の連続で、参加した子どもたちにほんとうに意味のある経験をしてもらえたか心配であったが、子どもたちの楽しそうな、そして真剣に取り組む姿が印象的であった。

小学生のクラスは、パソコン教室としての本来の目的以外に、もう1つ重要なテーマがあった。それは、参加者相互のグループ活動を促進することである。参加者20人を5人程度のグループに分け、ロゴ言語のグラフィックスを利用して共同作品を作ろうというものである。例えば、グループで大きな家の絵を作ろうとすれば、メンバーが屋根、壁、窓……というぐあいに分担し、最後に合成して完成させるなどのプログラムを作るという内容である。

子どもパソコン教室

1 回	パソコンの使い方、ロゴの導入 (絵を描く仕組みと基本命令)
2 回	図形を描くプログラムの作り方
3 回	繰り返し処理のプログラム (多角形、円の描き方)
4 回	図形プログラムの組み合わせ、グループでの共同制作
5 回	グループでの共同制作(続き)

中学生パソコン教室

1 回	パソコンの機器操作、ロゴ言語の導入
2 回	プログラムの作り方、プログラムのセーブとロード
3 回	繰り返し処理のプログラム
4 回	プログラムの組み合わせ、変数を使ったプログラム
5 回	プログラムの再帰呼び出し

2 プレイ

子どもパソコン教室参加者数

(人)

学 年	Aコース	Bコース	Cコース	計
3	3	1	1	5
4	7	5	10	22
5	7	3	5	15
6	3	4	4	11
	20	13	20	53

中学生ロゴ教室の参加者数

(人)

学 年	Aコース	Bコース	計
1	6	13	19
2	5	2	7
3	1	4	5
	12	19	31

なお、パソコン教室のカリキュラム編成や実際の指導には、越谷保育専門学校講師小倉康仁先生にお願いした。

(ウ) パソコン子ども体験教室

体験教室は、パソコンに触れたことのない子どもたちにパソコンを楽しく親しみのあるものとして理解させ、パソコン利用への関心を高めることを目的として行った。

この教室は、子どもパソコン教室と中学生ロゴ教室の導入部分ともなる内容である。11月からスタートしたこの体験教室も、ベーシックを使ったカリキュラムを、12月中ごろからロゴ言語を使った内容に変更した。

(エ) パソコン母親体験教室

ほぼ毎週水曜日の午前中に母親のための体験教室を開いた。今後、子どもたちがますます触れる機会が多くなっていくコンピュータを、母親の立場として知っていただこうという意図からスタートした。

参加者の意識は多様である。家計簿や住所録といった家庭内の仕事をパソコンで処理したい、どんなものかとかく触れてみたい、我々の思惑どおり子どもと共通の話題を持ちたいという人もいた。

(オ) パソコンクラブ

講座などに参加した子どもたちに、引き続きパソコンを利用してもらうため、登録されたメンバーが参加できるパソコンクラブを設けた。まだまだ内容は乏しいが、定期的にテーマを持った勉強会や、交流の場としていきたい。

多くの人と知り合い、そして多くのことをその人々から学ぶ場になることが理想である。

(カ) グループ活動

本年度はグループでの利用は特に考慮していなかったが、体験教室参加という形での利用があり、今後も増えていくと思われる。利用したグループは、絵画造形的活動の1つとして10人の小学生が2回、養護学校に通う軽度の障害児20人の計3グループであった。

(4) 61年度の活動

プレイ事業部は開館以来「こどもの城」のインテーク部門としての役割を果たしてきた。「こどもの城」の中の多くの専門的色彩を持つ部門への導入として、広い意味での“遊び空間”としての機能を発揮してきた。試行錯誤の期間であった前年度を踏まえ、本年度は次の6点を目標にした。

- (1) 職員は遊具を管理すると同時に、来館者に対して十分な安全管理を行う。
- (2) 職員と来館者との人間的交流を軸として、固定来館者の把握に努める。
- (3) 各所に設置されている遊具、及び実施されている“遊び”を改めて検討し、利用者の発達や年齢に合った独自の遊び場整備を進めていく。
- (4) 固定来館者の増加、定着を図るための定期的イベントの開発を進める。
- (5) 季節行事に関するイベントは、事業の中における位置づけを明確にしていく。
- (6) グループ活動のプログラム開発を進めていく。

これらの目標に基づき、年齢別コーナーの設置、平日の定期的イベントの実施、新イベントの実施など現有の遊具で可能なシミュレーション的活動を展開した。その結果、定期的来館者、小学校高学年児童の増加など、顕著な変化が見受けられた。

本年度は、冒頭で述べた6つの目標に加え、ボランティアグループに対して助言しながらともに活動し1年間の事業を実施してきた。

プレイホールで幼児を遊ばせる保護者からの「安心して遊ばせることができない」という声や、小学校高学年以上の子どもたちからの「幼児が邪魔するので思い切り遊べない」というような年齢が混合されている遊び場への不満の声もあり、これらを考慮して、「幼児コーナー」「高学年コーナー」を設置し、遊具を置いた。これと並行して、子どもたちの帰宅時間や来館時間、曜日別の利用傾向をもとに、各年齢を対象とする「週間小イベント」を展開した。これは、常連の子どもたちの把握を目的として実施したが、これらを機に、小学校高学年の子どもを中心に顔なじみが徐々に増え始めている。来年度は更に、実施面及びプログラム面で個々の子どもへのニーズに添ったさまざまな展開を心がけたいと考えている。

事業全般にわたって研修教養部ボランティアグループとの共同事業が多く、今後も積極的にボランティアグループと企画・立案を行い、実施時・評価時を含めたトータルな助言などの機会を持っていきたい。

1) 平常期間

(ア) プラモデル模型工作教室

前年度に引き続き、プラモデル模型工作教室を開き、全58回、延べ1,780人が参加した。参加申し込みの総数は前年度より若干減少しているが、低学年を対象としたものや、木工作など特殊な教材は人気が高く、申し込み段階で締め切りになるものが多かった。地域別に申

2 プレイ

込者をみると、「こどもの城」近隣の子どもより、電車などの交通機関を利用して来る子どもが多く、PRが徐々に浸透してきていることがわかる。また、片道1時間程度またはそれ以上を要する遠距離からの申込者が参加する姿勢には、教室への意識の高さや期待感が感じられる。

回ごとに教材、対象学年が異なるので、多様な子どもたちが参加できる。無料という点も、魅力であるようだが、逆に申し込みに対して無責任になる場合もあり、連絡なしに欠席したりするケースも時々あった。

11月には開館1周年記念行事の一環として、養護施設、母子寮の子どもたちを教室に招待した。

(イ) おはなし人形広場

60年12月にプレイ事業部を中心とする職員で人形劇「ケロ子とケロ吉のクリスマス」を実施した。これを契機に61年4月から職員の手で人形劇を定期的に始め、子どもたちに、人形劇を通じて新しい体験をさせるとともに、固定来館者を確保することに努めた。年間38回、現有の人形を使って作成したオリジナル作品と、「日天さん・月天さん」「三匹のこぶた」など古典的な作品も上演した。勉強を重ねながらの地道な催しではあったが、職員が各種のプログラムを定期的に行うという広がりの可能性を示した。

(ウ) おはなし紙芝居の集い

おはなし紙芝居の集いは、婦人ボランティアグループにより61年10月から毎週水曜日に定期的実施された。プレイホール入り口の幼児コーナーを利用して、生の声で各種の紙芝居を上演した。おはなし人形広場と同様に、参加者の中心は幼児である。定期的に参加する子どもたちもあり、上演する婦人ボランティアの方々も“紙芝居かあさん”と慕われ、子どもたちとお母さん方がコミュニケーションをする場面も多かった。おはなし人形広場と並ぶ、平日の定期的プログラムとして期待される。

(エ) ラジオコントロールカー・グランプリ大会

この競技会は、関東模型専門店会と「こどもの城」が協力して月1回行っている。参加する小学校高学年から高校生までの子どもたちが「こどもの城」を利用するので、この年齢層へのPR効果もねらっている。

電動のラジコンカーでレースを行い、小・中・高校のクラス別、またオンロードタイプ・オフロードタイプについても分けて行った。参加者は、各加盟店単位に事前に申し込みをした初心者に限り、他の大会で入賞した者などは除外した。参加者の増減が月ごとに激しいうえに、夏、冬には実施しなかったので、一概に評価できないが、高い年齢層へのより効果的なPRや、よりオープンな形で参加できる方法を考えなければならないなどが課題としてあげられる。

(オ) コンピュータプレイ

個人プレイ・集団プレイともソフトの変更はなかった。本年度全般を通して受付表に記録して残したところでは、「買い物ゲーム」は女子が多く、「ゴルフ」や「将棋」のソフトは

IV 各部の活動(1)

男子が多い。しかし、何回も足を運んでいる子どもたちの傾向をみていると、ゲームの指向に性別の影響は特に無いと思われる。

一般に、コンピュータプレイでは子どもたちの年齢差がほとんど感じられない。幼児が家族とゲームに向かい合っている隣で、中学生がゲームに熱中していたりする。また、小学校高学年以上になると“くちこみ”で友達の間を広まっていくケースもあり、高学年の来館者を増加させるためにもコンピュータプレイは大きな役目を果たしている。しかし、利用者に飽きが見えてきている個人プレイのソフト、集団プレイのソフトは変えていく必要があるだろう。

また、入館料のみで利用できるスペースなので、来館者の少ない平日には繰り返しゲームをしたがる子も多い。ゲーム1回で30分近く画面を見つめることになるので、あまり続けることは目に与える影響も考慮されなければなるまい。幼児の場合には付き添いの親の注意にも期待したいが、職員が統一された考え方で対応していく必要も増している。

コンピュータプレイ利用実績

	個人 (人)	団 体		計 (人)
		組 数 (組)	人 員 (人)	
4 月	3,721	251	735	4,456
5 月	3,280	228	609	3,889
6 月	2,895	208	587	3,482
7 月	4,192	249	696	4,888
8 月	6,981	412	1,268	8,249
9 月	2,842	216	589	3,431
10 月	2,732	203	549	3,281
11 月	3,317	247	694	4,011
12 月	2,294	172	449	2,743
62. 1 月	2,895	200	539	3,434
2 月	2,211	159	439	2,650
3 月	3,565	248	714	4,279
計	40,925	2,793	7,868	48,793

2) 特別期間・季節行事

(ア) 春休み

「レゴ・ロゴ・ワークショップ」と「春休み人形劇の集い」を行った。

「レゴ・ロゴ・ワークショップ」は、子どものためのコンピュータ言語であるロゴとレゴ（組み立てブロック）を使って子どもがどのような創造活動を展開するかを探るパイロット研究として、器材貸し出しと宣伝に、くもん出版などの協力を得て実施した。まず2人1組でレゴの基本セットを組み立て、パーツの基本的な使い方や動き方の確認を行った。次にMSX-LOGOによるロゴのデモンストレーションを行った。最後に4人1組になり、ロゴ2セットを使って車などロゴによるコントロール可能な作品を製作し、作品をMSX-LOGOにより動かした。

子どもにとってロゴ言語とレゴブロックの可能性が一致し、もっと可能性が増すのではないかというテストプログラムとして実施したものだが、連続2日間、子どもたちがこれほどまで飽きずに集中したのは驚かされた。具体的な物を作りあげる楽しさ、作品が見ている前で動き出す喜び、使用したレゴセットの内容とマニュアルの分かりやすさが子どもたちを強く引き付けた要因と思われる。自由に来て自由に帰るような、自然に流れるプログラムに対して、時間を限定し、ねらいを絞って実施するプログラムとして成功を収めた例といえる。

「春休み人形劇の集い」は、前年度に続き、特別期間に定期的に行った事業の1つである。

2 プレイ

外部の人形劇サークルの協力で、6日間に計12回上演した。出演グループと上演演目は次のとおりである。

和気みずえグループ＝「日天さん・月天さん」「おはなばたけ」「なかよし」，ブンブン＝「はなのあなのはなし」「日天さん・月天さん」，プレイ職員＝「日天さん・月天さん」，とつぜん座＝「日天さん・月天さん」「ぼくのおじいちゃん」，佐藤和子グループ，わむわむ人形劇場＝「がちょうのこ」ほか。

各回とも200人以上が集まり、人形劇に対する根強い期待が感じられた。

(イ) 児童福祉週間

「みんなでつくろうデカデカ鯉」「おもしろチャレンジゲーム」を行った。

「デカデカ鯉」は、5月5日のこどもの日にちなみ、ゴールデンウィーク中の3日間、子どもたちに鯉のウロコを作らせ、プレイホールに設けた巨大な鯉のワク組みに貼りつけて完成させた。1人1人の作るウロコは小さくても、みんなのウロコを持ち寄れば巨大な鯉が完成していくことを子どもたちに示し、“みんなでつくろう”の意味を体験的に知らせてることを目的にした。子どもたちは1枚の紙を受け取り、決められたウロコの大きさに切り抜き、クレヨンと絵の具を使って自由に絵を描き、ワクに貼りつけた。開館以来、クリスマス・お正月・ひなまつりなど、みんなでつくろう、みんなで飾ろうのシリーズを実施してきたが、こどもの日のプログラムを企画するに当たり、最も考慮したことは、今までの、どちらかといえば静的・平面的なものよりも、動的・立体的、そしてプレイホールのスケールに合わせた大きな構造物をみんなで作ろうということであった。

完成した鯉は全長12メートルで中に入って遊ぶこともできた。また、この種のイベントは期間が長いので、完成した姿を見られない子どもがいるという点を考え、骨組みと頭、尾を事前に作っておくことで完成像をイメージしてもらうことにした。大きな鯉を見た驚きと、多くの子どもたちの手で作りあげたという喜びが感じられたプログラムであり、自分の作品を数千枚のウロコの中から長い時間かけて探している親子の姿が印象的だった。

「おもしろチャレンジゲーム大会」は前年度に続き、研修教養部ボランティアグループが中心となって企画・実施した。今回の種目は、三輪車スラローム、ビンゴ輪なげ、カンガルーボール、クッションボール、迷路、はちまき早まきであった。ゴールデンウィークも重なって、1日に1,000人を超える参加者があった。幼児から中・高生まで、年齢に関係なく参加できるプログラムとして定着してきたことの1つの指標である。今後もゲーム内容を充実させながら、長く継続させたい行事である。

(ウ) 母の日

母への感謝をこめ、お母さんにプレゼントするカードを作り、参加した子どもたちがそれぞれ持ち帰った。“お母さんありがとう”と印刷した台紙を配り、クレープ紙やペンを使ってカーネーションを作ったり絵を書いたりしながら、子どもたち自身で思い思いのカードを作った。男の子よりは女の子向きであり、高学年というよりは低学年指向の内容になったのは、“お母さんありがとう”というテーマと、その場で作ってカードを持ち帰るプログラム

IV 各部の活動(1)

のためと思われる。熱中してカードを書いている子どもたちの姿に胸を打たれた母親もいたのではなからうか。

(エ) 七夕

短冊に願い事を書く風習をプレイホールで試みた。星型の紙に書いた願いごとを、ビニールホースを利用して作った銀河のうずにつるした。夜空の星にみたとて、うずの中央にミラーボールをつるし、宇宙的な演出をねらった。小さな子どもたちには、ミラーボールの効果そのものが魅力的のようで、プレイホール中をピョンピョンはねているかわいい姿もあった。子どもたちに「さあ、これに願い事を書いてね」といってもキョトンとしていることが多く、七夕の説明を繰り返すことになった。七夕の由来を知らない子も多いので、次回には日本の伝統にのっとった形で実施したい。

(オ) 夏休み

「インドアキャンプ」「ちびっこプール」「夏休み人形劇フェスティバル パート I・パート II」「夏休みこども体験コーナー」を行った。

「インドアキャンプ」は、小学校2年生から4年生までの、外泊経験の少ない子どもたちに、楽しく規律ある宿泊体験をさせ、いろいろなプログラムやグループ活動を通じて新しい人間関係を作ることを目的に、1泊2日で行った。テント設営、屋上花火大会、記念として持ち帰る作品を作る野外工作教室など盛りだくさんであった。館内見学や他事業部の催し参加といったプログラムもあり、全館を有効に活用したユニークなものであった。来年度はもっと回数を増やしたい。

「ちびっこプール」は、夏休み期間中、屋上にオープンし、名のとおり幼児と親たちのかっこうの遊び場になった。水深60センチの仮設プールではあるが、縦14メートル、横5.5メートルと幼児用にしては規模が大きいことや、都内で手軽に日光浴ができることもあって、1日130人以上の利用者があり、夏の屋上利用として人気を集めた。9月13日～15日のプールじまいには、「さよならちびっこプールゲーム大会」をボランティアグループが中心となり実施した。

親子で楽しむプログラムとして、水鉄砲を使った的当て、笹(ささ)舟、折り紙舟を取り上げたが、笹舟は、初めて見る子どもたちより、むしろ親の方が楽しんでいただようだ。子どもたちの興味を持続させるためには、川のように流れる水の工夫が必要であったかもしれない。来年度には、ただ泳ぐだけではなく、プールを使った遊びのプログラムを盛り込んでいけばよいだろう。

「人形劇フェスティバル パート I」は、61年12月の人形劇の集いに続き、宝仙女子大学人形劇団「ホッピー」の協力で実施した。演目は、「歌えなかったポチ」「動物コンサート」「ガイコツとピエロ」「何ができるかな」。蛍光塗料とブラックライトやOHPを駆使した新しい展開の人形劇であり、幼児たちも、1時間余りを熱心に見入っていた。

「人形劇フェスティバル パート II」では、和気みずえグループ、ヒートンクラブ、お花見劇場、ピーポッポ、YSCクラブ、あめだまの各グループが日替わりで担当し、「みんな

2 プレイ

集まれ」「イースタースクランブル」「カレーライス」「なかよし」「サマータイム」「大きなカブ」「日天さん・月天さん」「とんとこトンちゃんあわてんぼう」「南の島のカメハメハ大王」「おもちゃのチャチャチャ」などを上演した。子どもたちが自由に遊んでいるプレイホールの一角を区切って上演したが、お盆の時期にもかかわらず、夏休み中で最も来館者が多かったため、やや混乱した。

上演する側も、観賞する子どもたちにとっても、もっと広くて静かな上演スペースがほしかった。

「夏休みこども体験コーナー」は、ふだん気にとめないようなさまざまな音や声に注目させ、その音や声で遊ぶことによって音や声の不思議さ、面白さを体験させることをテーマにした。題材を、機械の声（人工の声）、自然の声（自然の音）、人間の声の3点に絞り、それぞれに2日間ずつを当てた。「機械の声」は、人間が出す声や言葉の仕組み、声を機械（コンピュータ）で人工的に作る方法などを、実演を交えて説明したり、パソコンによる音声合成と音声認識を体験させた。

「自然の声」はビデオを使って音だけを聞き何の音かを考えさせた。ビデオカメラを使い、館内でサウンドハンティングを行い、音を出している物を撮影した。「人間の声」は、ボーカルパフォーマーの内田房江さんの指導で、体を動かしながら発声を行った。いろいろな声の出し方に合わせて、体を動かした。発声の仕方ひとつにもいろいろあることを学び、またその声で遊んでみた。「こどもの城」で初めて行ったセミナー形式のプログラムであった。内容的にどうしても参加人数が限られてしまうが、今後とも充実を図り、日常生活の中では子どもたちが経験できないようなプログラムを盛り込んだ体験コーナーとしたい。

(カ) 敬老の日

おじいちゃん、おばあちゃんに感謝の手紙を書く、「おたよりしよう」を行った。参加した子どもたちにハガキ大の紙を配り、折り紙やペンでハガキを作り、持ち帰るプログラムであった。造形事業部との共同事業として、自分でもスタンプを作りたいなど工夫をする場合は造形スタジオへ、という流れを作った。

(キ) 開館1周年記念

「人形劇フェスティバル」では、夏休みの人形劇フェスティバルの経験から、参加する子どもたちが集中できるよう音楽スタジオを上演スペースとした。人形劇団“ちこ”による「かさじぞう」、「ばねるっば」による「カレーライス」「おもちゃのチャチャチャ」「ポケットの話」などを上演した。

「こんにちはパソコン」は、パソコンに初めて触れる子どもたちを対象に、45分のプログラムを組み、ロゴ言語の体験教室を入れ替え制で実施した。

「おもしろチャレンジゲーム大会」は、シリーズ第3回目。趣向を変えて、それぞれのゲームに“名人”を仕立てて挑戦しようというテーマにした。種目と、仕立てた“名人”は、三輪車スラローム（中野選手）、ファミコン早射ち（高橋名人）、銀玉鉄砲（両さん＝マンガの主人公）、速球王（江川投手）、カウンター早押し（後樂園の切符係）、大声コンテスト（た

IV 各部の活動(1)

まや) である。

ボランティアチームが主体となって実施したこの催しは、人気を定着させるためにも、春休み、ゴールデンウィーク、開館記念の年3回、定期的を実施したい。

「ゲームとマジックの集い」は、小学館レクリエーションクラブの協力により、地下1階フリーホールでゲームとマジックを行った。同じ時期に開催された人形劇フェスティバルより対象年齢を上を設定し、自由に入出りできる形にした。レクリエーションクラブのメンバーも中学生、高校生が中心なので子どもたち同士のにぎやかな笑い声でいっぱい楽しい催しであった。

(ク) 冬休み

「飾ろうクリスマス」と「飾ろうお正月」は、基本的には前年度に引き続いたものであり、スタッフは全館的の協力を得て行った。前回同様、展示用パネルを各所に設置し、立体感が出るようにネットや鏡、TVモニターを使って工夫した。クリスマスには、星などの装飾品を、正月にはウサギ(干支)を子どもたちと一緒に作った。子どもたちの手による、「こどもの城」ならではの装飾となったが、正月初めにウサギを飾りたいので、年末にウサギを作らせてしまった点や、紙を切ったり、絵をかいたりという作業が、どうしても幼児中心や低学年対象となってしまう点が課題として残された。

「人形劇フェスティバル」は、定例化してきたシリーズの冬休み版として、人形劇、パネルシアター、ペープサートを上演した。出演は、和気みずえグループ、お花見劇場、パペットマーケット、プレイ職員で、演目は「ふしぎなたまご」「かえるのクリスマス」「なかよし」「ネコふんじゃった」などの人形劇と、「だあれ」「カレーライス」「しゃぼん玉」などのパネルシアター、ペープサートの「日天さん・月天さん」である。

「年忘れおもしろクイズ大会」は、飾ろうクリスマスと並行する形で、対象を小学生以上に設定した。ボランティアグループから解答者になる3人の博士を選んで、「博士クイズ」の形式をとった。1つのクイズについて三人三様、おもしろおかしく解答するのを聞いて、子どもたちは正しい答えを出していると思った博士を1人選ぶ。クイズの楽しさに加え、博士がリーダーシップをとることによって楽しいグループづくりを意識して行った。

「親子で楽しい昔あそび」は、昨年引き続き、ジャンボ福笑い、ジャンボカルタ、紙ずもう、こま、めんこ、けん玉、お化けカルタ、百人一首、すごろく、竹馬、三つ馬を取り上げた。三つ馬などは初めて見る子も多く、伝統に触れるよい機会となった。

「お正月もちつき大会」は、昔あそび同様、都会の子にはなかなかできない体験をさせることを目的にした。前年度の反省を生かし、1人1人がキネでつく機会を与え、イベントとして獅子舞などで充実を図った。恒例の行事として確立していきたい。

(ケ) 節分

節分を子どもたちに理解させるために「こどもの城はかわいい鬼でいっぱいだ」というテーマで催しを行った。

前年度は鬼の面を作ったが、本年度は頭につけるツノを作るプログラムにした。加えて、

2 プレイ

4人組を作るゲームには福豆をプレゼントしたりして、新しく友達を作る体験や、みんなで悪い鬼をやっつけ豆まきをするプログラムも実施した。ツノは水玉模様やストライプなどの楽しい作品ができたが、新しい友達を作ってほしいと意図して実施したゲームは、子どもたちを動かす動機づけとしてはやや不十分であった。しかし、子ども同士を結びつけるためのプログラムをテスト的に実施した意味は大きく、よりいっそう中身の濃いプログラムを目指したい。

(ロ) ひなまつり

「ひなまつりの集い」では、幼児向けには人形劇や折り紙、ひなまつりの歌をとりあげ、小学生向けにひなまつりの風習や季節感にちなんだクイズ大会を実施し、折り紙で作った角香箱（つのこうばこ）にひなあられを入れて配った。司会はボランティアのメンバーが行ったが、プログラム内容が進行役の力量に左右されることが多いので、経験の積み重ねとトレーニングが不可欠である。

(ハ) 春休み（62年）

「おもしろチャレンジゲーム大会」も4回目になった。種目にダブリンスラローム、あ音連続発声、ジグザクタッチ、1分間カウンター、ファミコン早射ちを取り上げた。開館以来、必ず参加している子どもたちも多く、次の大会には、5回連続参加した子どもたちを“スーパーウルトラチャレンジャー”に認定しようと計画中である。おもしろチャレンジゲーム大会を、春休み期間、ゴールデンウィーク、開館記念の年3回、新たな工夫を加えながら定期的の実施していきたい。

2) グループ活動

プレイ事業部で本年度実施したグループ活動は、パソコン体験教室、グループレクリエーション、コンピュータプレイゲームの各プログラム、及び自由遊びの4種類であった。本年度は昨年に比べてプログラム活動が増加し、また昨年度の検討事項であった食事場所の問題（プレイホールでの食事は衛生上よくない）も地下1階フリーホールの開放により解決した。

(ア) パソコン教室

基本的なパソコンの操作からLOGO言語を使って、図形や絵を描くプログラムを作るまでを行った。対象は小学校3～6年生の児童であった。教室という形態ではあるが、遊びの要素を加えて実施するよう心がけたため、アンケートにおいても“良くわかった”“楽しかった”と好評であったようだ。

今後の課題として、次回への利用（参加）への機動づけになるような内容のプログラムを考えること、および2回目以降の参加者へのプログラムの充実である。

(イ) グループレクリエーション

障害児を対象とする参加劇と、小学校の健常児を対象とするクイズ大会の大きな2本の柱を立てて実施した。参加者は小学校から中学生までといった幅広い年齢層に対応が可能である。また、健常の幼児にも対応できるプログラムを創造していく必要もある。しかし、障害

IV 各部の活動(1)

児を対象にするだけに、内容的にも複雑なものを限られた時間に行うのは難しく、参加する子どもたちに“楽しい”という以外に何をどのように伝えてゆけばよいのか、という大きな課題が残されている。

(ウ) コンピュータプレイゲーム

少ない回数であったが、障害児に対して実施した。一般利用ではないため、よりじっくりとていねいに指導をする必要があり、そのような対応を心がけたが、比較的障害の軽い子どもでないと参加が難しい点、また、コンピュータという個人が行う活動を、グループ活動としてどのように取り上げていくかという2点に課題が残された。

(エ) 自由利用

プレイホールの自由利用は、グループ活動に必ずといってよいほど付随して実施された。一般利用の時と異なり、限られた人数で、しかも仲間同士で広い場所を使えるというのが魅力のようである。全体的な課題として、障害児も含めて、もっとも楽しく遊べるような遊具の準備、フロア準備をしていくこと、およびプログラム活動の開発と充実を図っていきたい。

3) パソコン

(ア) プログラム活動

開館後、パソコンルームの活動も2期目に入った。この間の最も大きな変化は、一般来館者にもパソコンルームを自由に使うよう開放したことである。

それまでは、小学生や中学生のパソコン教室、体験教室、そしてクラブメンバーの利用だけであったが、それ以外の時間帯を一般来館者向けのプログラム活動に変更した。

(イ) パソコン教室

パソコン教室は小学生、中学生の2つのクラスともほぼ前年度と同じ内容で実施したが、小学生クラスは、子どもパソコン教室を小学生パソコン教室に改称、ロゴ言語の導入時にロボットを使用し、また、グループ活動をより重視し、その時間を多くとるようにした。

(1) 教室の課題

①延べ10時間のコースでは、プログラミング言語など基礎的知識の修得に多くの時間がとられ、各人が個性に基づいたプログラムを展開したり、グループ活動の時間が十分とれない。

②小学生クラスの場合、4～6年生という学年でも予備知識や経験の差が大きく、教室の進行上不都合なことがある。

③この教室で学んだことを生かし発展させる機会が少ない。

(2) 今後の展望

①既存のコースに上級コースを設定し、ロゴ言語やパソコン自体を知ることから、それをどう利用するかに結びつける。

②小学校低学年のクラス、また経験を考慮し、3、4年と5、6年といったクラス編成を検討する。

2 プレイ

③中学生クラスはパソコンを自分で持っているなど、既に、基礎的理解をしている者もあり、パソコンの導入部だけの内容では不十分である。教室の応募状況が悪く中止したコースもあり、今後、内容や開催期間についても再検討の必要がある。

(ウ) 体験教室

体験教室では以下の3種類を開催した。

- (1) 子ども体験教室 小学3年生～中学3年生
- (2) 母親体験教室 母親
- (3) 親子体験教室 小学3年生以上の子どもと親

親子体験教室は本年度から実施した。この親子体験教室もロゴ言語を使用し、2時間で簡単な図形や絵のプログラムを作る内容である。日ごろ子と親と一緒に話し、遊ぶ場面は少ないといわれるなかで、パソコンを利用することより、特に父親の活躍を期待した。また、教室の進め方も、子どもだけの操作、親だけの操作、そして親子協同での作業などさまざまな場面を展開し、できるだけ対話が進むように考慮した。

(エ) 一般来館者の利用について

今まで教室やクラブ活動だけで使用していたパソコンルームを、一般来館者にも自由に使えるよう解放した。プログラムではパソコンルームの簡単な使い方とロゴ言語によるプログラミングの初歩を楽しめるように、パソコンへの命令語や参考プログラムを書いた説明書を用意し、インストラクターの助言を得ながら自由に取り組んでもらうようにした。学校の休み期間には非常に多くの子どもたちがパソコンルームにやって来て熱心に遊んでおり、テレビゲームよりずっと面白いといった声も聞かれた。一過性の子どもたちだけでなく、何回となく来てどんどん上達していく子もたいへん多く、今後さまざまなプログラム展開が期待できる。

(オ) 結 び

子どもたちは今後ますますコンピュータに触れていくことになるであろうし、またそのコンピュータは子どもの発達のためのプログラムとして利用されていくであろう。しかし、そのようなコンピュータ利用の歴史は浅く、さまざまなプログラム作りが必要であり、コンピュータそれ自体が目的でないということも忘れてはならない。

3 造形事業部

IV 各部の活動(1)

(1) 60年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 時間	火	水	木	金	土	日	
9:00							
10:00		スタッフミーティング					
11:00	グループ活動		グループ活動	グループ活動	イベントデー活動	イベント活動	
12:00							
13:00							
14:00	ウイークデー活動	ウイークデー活動	ウイークデー活動	ウイークデー活動	イベントデー活動	イベント活動	
15:00							講座 母のための 現代造形
16:00							
17:00							
18:00							
19:00			講座 絵本をつくる				
20:00							
21:00							

3 造 形

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
動詞シリーズ1 「うつす」	61. 1. 8～ 2. 9	火～金曜日 13：00～ 17：30 土・日曜日・祝日 10：00～ 17：30	造形スタジオ	職員 指導員	乳幼児（2～6歳）の 親子連れが多数。
「うつす」 イベント	61. 1. 12・15・ 19・26 2. 2・9	日曜日・祝日 14：00～ 16：00	同 上	水島尚喜 職員 指導員 AV職員	小学生 定員105人 参加85人
動詞シリーズ2 「うごく」	61. 2. 11～ 3. 9	火～金曜日 13：00～ 17：30 土・日曜日・祝日 10：00～ 17：30	同 上	指導員	乳幼児（2～6歳）の 親子連れが多数。
「うごく」 イベント	61. 2. 16・ 23 3. 2・9	日曜日・祝日 14：00～ 16：00	同 上	職員 指導員 AV職員	小学生 定員90人 参加82人

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(開館記念) 素材との出会い展 「紙と造形」Part I	11. 1～17	火～金曜日 13：00～ 17：30 土・日曜日・ 祝日 10：00～ 17：30	造形スタジオ	日比野克彦 安田奈緒子 内倉ひとみ 鈴木昭男 田中昭作 鹿島達郎 職員 指導員	幼児、小・中学生及び 親子連れが多数。
(同上) ブルーノ・ムナーリ展 「作品展とムナーリプロ グラムによる造形指導」	11. 22～ 12. 15	火～金曜日 13：00～ 17：30 土・日曜日・ 休日 10：00～ 17：30	造形スタジオ プレイホール	職員 指導員 ボランティア	プレイホールでの作品 展示と造形スタジオで のムナーリプログラム に約1万人の入場者が あった。

IV 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(開館記念) ブルーノ・ムナリーを囲む 「シンポジウム」	11.22	10:30～ 18:00	青 山 劇 場	ブルーノ・ムナリー 福田繁雄 岸田今日子 坂根巖夫 職員 劇場部門	午前中のムナリー氏の 講演と午後のシンポジ ウムに約600人の入場者 があった。 1,500円
(同上) ブルーノ・ムナリーの 「公開指導」	11.23・24・ 26・27	14:00～ 17:00	青山円形劇場	職員 指導員 ボランティア 保育部門 劇場部門	8テーマの実技指導が 行われた。毎回250人の 参観者があった。 各日500円
(冬休み) 素材との出会い展 「紙と造形」PartII	12.19～ 61.1.7	火～金曜日 13:00～ 17:30 土・日曜日・ 祝日及び学校 休暇中 10:00～ 17:30	造形スタジオ	玄 美和 有川高志 職員 指導員	幼児、小学生及び親子 連れ多数。 日・祝日及び正月休み の家族連れ多数来館。
(春休み) オープスタジオ 「みんなでつくろう」 〈一般プログラム〉	61.3.11～ 4.7	同 上	同 上	職員 指導員	幼児、小学生の参加多 数(東京近郊の親子連 れなど)。
(同上) オープスタジオ 「みんなでつくろう」 〈一日造形教室〉	61.3.25～ 4.5	13:00～ 17:30	造形スタジオ の高学年用ス ペース	指導員	各日20人定員のプログ ラムに160人の参加が あった。 小学3年生以上

4) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 数						
絵本を つくる	一般	(人) 20	(人) 18	木曜日 18:30～ 20:30	造形 スタジオ	61. 1.23～ 3.6 全7回	(円) 21,000	小野かおる 松居 直	出席率85%
母のための 現代造形	一般	25	6	金曜日 14:00～ 16:00	同上	1.24～ 3.7 全7回	14,000	和田守弘	出席率93%

(2) 61年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 時間	火	水	木	金	土	日	
9:00							
10:00	グループ活動 (保育グループ)		グループ活動				
11:00							
12:00							
13:00							
14:00	一 般 来 館 者 の た め の プ ロ グ ラ ム						
15:00	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> こども クリエイティブ クラブ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> こども クリエイティブ クラブ </div> </div>						
16:00	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> こども クリエイティブ クラブ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> こども クリエイティブ クラブ </div> </div>						
17:00	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> こども クリエイティブ クラブ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> こども クリエイティブ クラブ </div> </div>						
18:00							
19:00			講座 「絵本をつくる」 第2期 61. 4. 17～ 7. 10				
20:00							
21:00							
22:00							

IV 各部の活動(1)

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
動詞シリーズ3 「くむ」	4. 19～ 5. 11	火～金曜日 13:00～ 17:30 土・日曜日・ 祝日 10:00～ 17:30 (18:00)	造形スタジオ	職員 指導員	幼児、小学生の参加多 数。
動詞シリーズ4 「つつむ」	5. 17～ 6. 15	火～金曜日 13:00～ 18:00 土・日曜日・ 祝日 10:00～ 18:00	同 上	同 上	同 上
動詞シリーズ5 「きる」	6. 21～ 7. 8	同 上	同 上	同 上	同 上
「スタンプであそぼう」	9. 2～ 10. 1	火～金曜日 13:00～ 17:30 土・日曜日・ 祝日 10:00～ 17:30	同 上	同 上	同 上
「おもんであそぼう」	10. 2～31	同 上	同 上	同 上	同 上
おもちゃのスタジオシ リーズ1 「おもちゃをつくろう」	62. 1. 13～25	同 上	同 上	同 上	同 上

3 造 形

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
おもちゃのスタジオシリーズ2 「インテリアしよう」	62. 1. 27・28	火～金曜日 13:00～ 17:30 土・日曜日・ 祝日 10:00～ 17:30	造形スタジオ	職員 指導員	幼児, 小学生の参加多数。
おもちゃのスタジオシリーズ3 「グルメとファッション」	62. 2. 10～22	同 上	同 上	同 上	同 上
「みんなでつくろうひなまつり」	2. 24～ 3. 3	同 上	同 上	同 上	同 上
おもちゃのスタジオシリーズ4 「造形シアター」	3. 4～15	同 上	同 上	同 上	同 上

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(児童福祉週間) 「みんなでつくろうデカデカ鯉」	5. 3～5	10:00～ 18:00	プレイホール	職員・指導員 プレイ職員 ボランティア	幼児, 小学生の参加多数。
(夏休み) 造形発見展「音と造形」	7. 19～ 8. 31	10:00～ 18:00	造形スタジオ	職員 指導員	幼児, 小学生, 大人の参加多数(地方からの人たちも多く見られた)。
(同上) 造形発見展「音と造形」 一日造形教室	7. 22～ 8. 29	火～金曜日 13:30～ 17:00	造形スタジオ クリエイティブコーナー	職員 指導員	各日20人定員24日間プログラム(定員480人)に対して約400人参加(参加料700円)。
(同上) 造形発見展「音と造形」 こどもたちのための音のイベント	7. 19・20 26・27 8. 9・10 16・17 23・24	{ 13:30～ 17:30 15:30～ 16:30 15:00～ 16:30 13:30～ 17:30	造形スタジオ	加藤 到 月刊カセット 菅谷昌弘 鈴木昭男 松本秋則 吉村 弘 職員 指導員	幼児, 小学生, 大人の参加多数。

IV 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(夏休み) 造形発見展「音と造形」 スペシャルイベント 『サウンド・ウォッチン グ』	7.30・31 8.1 2.3	{ 19:00～ 20:30 13:00～ 14:30 17:00～ 18:30	青山円形劇場	フロム・スクラ ッチ 鈴木昭男 吉村 弘 職員 指導員	一般大人、学生多数、 各日定員300人 7公演 入場者1,132人 (入場料2,500円)
(開館1周年記念) 「造形の森」	11.1～ 12.7	火～金曜日 13:00～ 17:30 土・日曜日・ 祝日 10:00～ 17:30	造形スタジオ	職員 指導員 学生アルバイト	乳幼児の親子連れ、小 学低学年・高学年多数
(同上) 「造形の森」 イベント 『仮装舞踏会への招待』	12.7	日曜日 10:30～ 12:00 13:30～ 15:00	造形スタジオ クリエイティ ブコーナー	職員 指導員	音楽事業部と共同イベ ント、音楽スタジオB と造形スタジオをつな いだプログラム。 定員40人(各回20人) 参加23人
(同上) 「第1回造形スタジオ 展」	11.22～ 12.7	火～金曜日 13:00～ 17:30 土・日曜日・ 祝日 10:00～ 17:30	ギャラリー	職員 指導員 学生アルバイト	親子連れ、大学生など 多数(無料)。
(冬休み) オープスタジオ 「造形ファクトリー」	12.20～ 62. 1.7	10:00～ 17:30	造形スタジオ	職員 指導員	幼児、小学生の参加多 数。
(春休み) 素材との出会い展 「紙と造形—造形通りに はるがきた」	62. 3.17～ 4.7	10:00～ 17:30	同 上	職員 指導員	同 上
(同上) 素材との出会い展 「紙と造形—造形通りに はるがきた」 一日造形教室 『焼石に紙』	3. 19・20・ 22・26・ 27・29 4. 2・3・5	13:00～ 17:00	同 上	同 上	小学4年生以上 各日定員10人 参加33人 (参加料金700円)

3 造 形

4) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員 (人)	受 講 数 (人)						
「絵本をつくるII」	大人	20	17	木曜日 16:30~ 20:00	コク造 リ形 エ ス イ タ ジ イ ブ オ	4. 17~ 7. 10 全12回	(円) 36,000	小野かおる 松居 直	
こども クリエイテ ィブクラブ I期 「オリジナル Tシャツを つくろう」	小 1~6年	20	8	水曜日 16:00~ 17:30	同 上	4. 16・23 5. 7 全3回	4,500 教材費 1,000	職員 指導員	登録料不要
(同上) II期 「でんきゅう をかざろう」	同 上	20	8	同 上	同 上	5. 21・28 6. 4 全3回	同 上	同 上	同 上
(同上) III期 「おとをはっ けんしよう」	同 上	20	8	同 上	同 上	6. 18・25 7. 2	同 上	同 上	同 上
(同上) IV期 「うごくオブ ジェをつく ろう！」	同 上	10	9	同 上	同 上	9. 24 10. 1・8 全3回	5,000 (教材費 含む)	同 上	同 上
(同上) V期 「ガラス絵 をかこう」	同 上	10	8	同 上	同 上	10. 22・29 11. 5 全3回	同 上	同 上	同 上
(同上) VI期 「うごくオブ ジェをつ くろう! パート2」	同 上	10	8	同 上	同 上	11. 19・ 26 12. 3 全3回	同 上	同 上	同 上

IV 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員 (人)	受 講 数 (人)						
こどもクリ エイティブ クラブ 「染めて織 る」	小 4年以上	10	5	水曜日 16:00~ 17:30	コ リ エ イ テ ィ ブ ナ イ ジ ョ	62. 1. 21~ 3. 11 全7回	(円) 10,000 (登録料 1,000)	職員 指導員	
(同上) 「楽しい本 作り」	小 1~6年	10	11	土曜日	同 上	1. 24~ 3. 7 全7回	10,000 (登録料 1,000)	同 上	

(3) 60年度の活動

造形スタジオは、子どもたちがものを見たり、触ったり、造ったり、あるいは造ったもので遊んだりして造形を身近に楽しむことを目的に活動している。

春・夏・冬の学校休暇期間中は、特別事業として「素材との出会い展」「造形発見展」「オープンスタジオ」のワークショップ活動を年間の主眼として開催している。

さまざまなテーマの中で、小さい子どもたちはお母さんとともに造り、大きい子どもたちは自分の持っている経験を生かして工夫しながら造る。指導員は作り方や技術的な指導をするほかに、友達として話し合える兄や姉の役を果たす。初めて出会う子や年齢の違う子が隣同士で造るという環境は、知らず知らずのうちにお互いを参考にしながら制作する状況を生む。

このような活動を通して、素材、作り方、あるいは思いもかけない人との出会いから、子どもたちがそれぞれに新しい発見をすることを願っている。

手を動かしながら創っていく過程で、子どもたちが体験することそのものが大切だと考えている。

(1) 「動詞シリーズ」

日ごろ、よく使われている動詞で、造形と密接に関係のあるものを取り上げ、造形テーマとした。「うつす」「うごく」「つつむ」「くむ」「きる」これらの動詞の造形的な意味を具体的な制作活動の体験を通して探り、造形の楽しさを深めることを意図したものである。

(2) 「素材との出会い展」

身の回りにある素材を、造形的立場から新しい視点で見直していくワークショップである。展示・体験・制作が活動の構成要素である。素材そのものをテーマとし、子どもたちが素材と広くかかわり、手を動かし頭を使って、創る中から素材の特質を体験していく活動である。

(3) 「造形発見展」

子どもたちの視点・発想を広げるためのテーマを設け、表現領域の拡大を目指した活動である。「素材との出会い展」同様、展示・体験・制作が活動の構成要素で、造形とは直接かかわりのないものを造形と結びつけ、新しい発見を促すワークショップである。もともと造形はさまざまなものとの関係の中で、いろいろなものを発見して来た。子どもたちにとって、新しいイメージを喚起させ、制作活動を活性化するものである。

(4) 「オープンスタジオ」

木・針金・布・紙・樹脂などの材料を使っていろいろな素材を体験するプログラムである。道具・素材・技法の密接なかかわりあい、具体的な制作を通して体験する活動である。素材の特質や素材の違いについて、活動の中から自然に感じることができるよう設定した造形環境である。

1) 平常期間

(ア) 動詞シリーズ「うつす」

スタジオ設定は展示・体験・制作に分けて行った。版画の各種類、コピー、図形楽譜など「うつす」に関する参考例を展示した。子どもたちに「うつす」ということがいろいろな形で表現され、展開できることを分かりやすく伝えることができた。しかし、手で触れることができる展示物が少なかったため、今後はその点について留意し、改善していきたい。

プログラムについては「穴あき版画」のように紙、クレパスなど、一般的な材料だけを使用したものでも、子どもたちは孔版技法を非常に分かりやすい形で制作・体験できた。これは一般来館児プログラムが身近な材料を用いて、造形を深めたり広げたりすることができた例である。

(イ) 動詞シリーズ「うごく」

スタジオ設定は、展示・体験・制作に分けて行った。展示については各プログラムのモデルをモーターなどを使用したプーリー（滑車機構）、クランクや、シミュレーションで子どもたちが制作したバネ人形・おきあがりこぼしなどを展示した。

モーターを使用した展示物は子どもたちにも分かりやすく「うごく」テーマを提示できた。ただ当初考えていた以上に準備期間が必要であった。

制作と体験については、制作部分を描画、紙工作を中心に考え、それらをプーリー、クランクなどの機構に結びつけて「うごく」ことを通して色や形の変化を楽しみ、造形表現の幅を広げていくことを目的とした。しかし、プーリーなどを動かすこと自体に子どもの興味が集まらないうえ、制作と体験のつながりが弱くなってしまった。また、制作プログラム「バネ人形」ではバネを曲げるところと、紙粘土工作との2つの部分にしたので親子の共同プログラムの要素を持たせた。これは今後親子プログラムを考えていくうえで参考になる。

全体を通して、材料の吟味、準備計画の綿密化、分かりやすいプログラム提示法（技法、進行をパネル掲示する）が今後の課題として残った。

イベントについてはAV事業部との共同プログラムによって、ビデオ・映像を通して造形の幅を広げることができた。イベントの参加申し込みの受付場所をアトリウムとスタジオなど幾つか試みたが、スタジオ内での直接募集の方が何を造るのかが分かるので効果があった。今後、受付場所、受付方法には掲示、整理券配布、インフォメーションなどの点について再考を必要とする。

2) 特別期間

(ア) 素材との出会い展「紙と造形 PART I」（開館記念）

素材との出会い展「紙と造形 Part I」は、紙に関する体験・展示・制作コーナーを設定し、素材はいろいろな種類の紙に限定した。伝統的な技法や紙漉（す）きを体験し、和紙と洋紙の違いに気づいたり、身近な素材の紙、例えば梱（こん）包用のダンボール、広告紙、

3 造 形

古雑誌などを使って制作を行った。

造形スタジオにおける指導法は、固定人数にして指導する場合と、全くフリーに指導する場合の2つを常に考える必要がある。また平日（火～金曜日）と土・日曜日、祝日のプログラムもそれぞれ別個に考える必要があるように思われる。

イベントに関して、パフォーマーの選択とその内容については子どもの興味と関心をそそぐものであるかどうか、設定した意図が伝えられたかどうかを確認する必要がある。

スタジオのスペースの使い方については指導法及び指導者の人数によって考慮する必要がある。

プログラムの設定については「何を伝えたいか」を明らかにして、テーマ及び制作過程の表示はより分かりやすい方法を考える。

紙漉きのプログラムは子どもにとって、有意義な体験であったようだ。そのほかのプログラムに関してはその内容と個々のプログラムの組み合わせについて整理すること、材料・道具については時間的にも数量的にも余裕をもって準備すること、工作台やパネル機の使い方はプログラムのテーマによって工夫することなどが今後の課題である。

(イ) 素材との出会い展「紙と造形 PART II」(冬休み)

Part I に引き続き展示・体験・制作からなるワークショップを造形活動のコンセプトにした。

展示には、「見る」という視点から考えて楽しいものが多かったように思う。例えば、動くもの、生き物を題材としたものなどである。反面、最初に意図していたような「触る」体験が展示において設定できなかった。今後、展示における「触る体験」について考えていきたい。

体験・制作では、制作していく過程で紙の性質を体験するように配慮した。そのため、コーナーを乳幼児、小学生の中学年、高学年の3つに分け、年齢の違いにより紙との体験の仕方を変えた。このスペース配分の試みは比較的うまくいったように思う。しかし、個々のプログラム内容については、次のような反省がある。

- ・乳幼児のプログラム-新聞紙を細かくちぎり、寄せ集めた「紙のおふろ」は、子どもが喜ぶ題材である。しかし、今後は乳幼児プログラムにも描画や粘土などの造形要素を盛り込んだものにしていきたい。

- ・小学生の中学年のプログラムは各日のイベント内容に則したものにしたが、一般プログラムでは、紙の性質を生かして1つのものを作り上げるという目的を遂行することはできなかった。プログラム内容の充実を図りたい。

- ・高学年のプログラムは、素材の特質を生かし自由工作するが、その過程で自分が計画して制作することも学ぶように配慮した。高学年の指導は比較的うまくいった。今後、機材の配置を考慮したスペース配分について再考したい。

Part II のメインであるイベントについては、各イベント担当者が手際よく準備・指導を行った。またバラエティーに富んだ内容であったように思う。それぞれのイベント内容は、

IV 各部の活動(1)

今後の造形スタジオの一般プログラムとして実施できる内容のものである。

造形スタジオの活動は不特定多数の来館児を対象としている。それは造形活動を広く一般の子どもたちに体験してもらい、造形の楽しさを知り、調和する心を養ってもらおうとする意図のもとに行っている。不特定多数を対象としたプログラム作成は、固定人数を対象としたものとは違った難しさがあるが、意義あるものであるから、今後も活動のよりよいプログラム化を図りたい。

(ウ) オープンスタジオ「みんなでつくろう」(春休み)

「オープンスタジオ」は木、布、土、金属、樹脂などのいろいろな素材を用いて、比較的長い時間をかけて制作できる環境を設定し、制作に重点をおいたプログラムである。

スペースは「紙と造形」の経験を生かして、高学年のスペースを広くとり、器材も常設して、内容の豊かなプログラムにするように心がけた。

乳幼児のコーナーではスタンプとクレパスを用意し、親子で造形遊びを行うことができるようにした。コーナー設定はよかったが、制作過程を分かりやすく知らせるための表示が不足していた。今後乳幼児のプログラムは親子プログラムとして作成していきたい。

一般プログラムは、曜日ごとに素材を決めて設定した。

- ・火曜日の染色。「染め紙」は楽しめるものであるが、年齢の高い子どもには、少し単純すぎた。もうひと段階工夫した染め紙を考慮する必要があった。
- ・水曜日のコピー。「コピーをして、描く」は年齢を越えて描けるものであった。今後は1人1人の子どもがじっくり工夫できるような内容の表示と言葉がけがけるように思われる。
- ・木曜日の木。「街をつくる」は個々の作品が集まって1つの大きな街になる、木の切れはしを利用したプログラムである。不特定多数の来館児を対象としたプログラムとしては適当なものであった。子どもが使いやすい大きさに木を切るという準備はかなり時間がかかり、また制作したものを展示するスペースにも問題があるので、今後は設定の仕方に十分気をつけたい。
- ・金曜日の紙と針金。「生き物をつくる」は素材が単純なもの(日常使用する新聞紙や針金や麻ひも)であるにもかかわらず、いろいろなものが制作できることを提示した。子ども連れの親が素材の生かし方に強い関心を示していた。「ぞう」や「わに」などの共同制作は今後も造形スタジオの活動の1つに展開できると思われる。
- ・土曜日の版画。「紙版画」は① 厚紙にいろいろな材質の紙をはって版を作る、② ローラーで版にインクを乗せる、③ 版に紙を置いてバレンで刷る、という3段階の明確な制作工程があるので、子ども自身が分かりやすく制作体験できることと、版から実際に刷り上がったものが思いもかけない効果が出るという楽しさを味わうことができるプログラムである。版画用インクは高価なので途中で水彩の絵の具に変えたが、やはり版画用のインクを用いて版を刷る感触を経験させるようにしたい。そのためにどうしたらよいかは模索中である。
- ・日曜日の紙。「仮装」は、紙の帽子・アクセサリ・紙の服・ベルトを新聞紙や広告紙で造るプログラムであった。紙の帽子は彩色したり、リボンをつけることで楽しいものになる

3 造 形

と思われる。更にテーマを持ったもの、例えば、「動物達のお祭」などにしてもよかったように思う。

初めての試みである一日造形教室（参加料を取ったもの）は参加率（8割）及びプログラム内容ともによかった。今後の特別期間の企画にも参考になるように思われる。

造形スタジオの活動をよりよく体験させるためには10人の子どもに対して1人の指導員が指導するのがよいように思われる。学校休み期間中は特に来館児が多い。今後、休み期間中の指導員の人数を適切な数にし、活動のための準備も十分に行わなければならない。

3) 講 座

(ア) 「絵本をつくる——新しい絵本のために」第I期

子どもの成長期に大きな役割を果たす絵本、その絵本がほかの映像文化に押され閉塞しそうな現在、絵本の原点を常に見つめながら、子どもたちの絵本を作りたい人、あるいは作らなくても絵本を読み手として見たい人のために、意図された。

- カリキュラム
1. 1月23日 オリエンテーション
 2. 1月30日 絵本についての考え方と作品研究
 3. 2月6日 絵本構成と表現（I）
 4. 2月13日 絵本構成と表現（II）
 5. 2月20日 絵本構成と表現（III）
 6. 2月27日 <課題>絵本の仕上げと評価（I）
 7. 3月6日 <課題>絵本の仕上げと評価（II）

内容は特に難しいものではなかった。しかし、現在よく言われている<手づくり絵本>の安易さを排したため、一見厳しさが先立つように思えたが、絵本の構成と表現とのためには基本文法的なもので、特についていけない内容ではなかった。

参加者がいちばん困難に思ったのは、宿題を課されたことである。1回2時間なので、時間内で制作指導が全員に行えないこともあり、宿題を提出して講評を受ける形式であるために、家で宿題をこなせないことが、約半数の人々にとって悩みであった。しかし、耳で聴くだけの講義や実技のみのほかのどんな講座であっても、いくばくかは家で復習することは必要であると思われる。その点に関しても、この講座は例外ではなく、ただ<主体的>にかかわってもらうように働きかけることが必要であると思われた。

(イ) 「母のための現代造形」

日常身の回りにあり鍵や容器の素材として使われている金属、銅と真鍮（しんちゅう）を切ったり曲げたり、たたいたり、ひっかいたりして、最終回にはその技法を用いて作品を作り上げる。お母さんたちが造形の世界に親しみながら、造形を理解できるように企図された。

- カリキュラム
1. 1月24日 銅・真鍮をたたく
 2. 1月31日 銅・真鍮をスクラッチする
 3. 2月7日 銅・真鍮を切る

IV 各部の活動(1)

4. 2月14日 銅・真鍮を腐食する
5. 2月21日 銅・真鍮を接続する
6. 2月28日 銅・真鍮を彩色する
7. 3月7日 1～6回までの技術を用いて作品制作

受講生は6人(20人定員)で開講された。

第1回のたたきでは、用具類や材質そのまま未加工の銅や真鍮を目の前にして、お母さんは、どうなるやらという表情をしていた。作業中は、金属特有の固くて強い抵抗感と、たたきときに出る大きな音にへきえきしている様子であったが、第1回の終了が近くなるにつれて、しだいに作業に熱中し、非日常的なものを作っていく楽しさを全員が表明してくれた。

第2回目には、この講座が終了したとき、受講者がスタジオ及び用具類を日を決めて使えないかと提案してきたが、現状では受け入れる用意がないので断った。

参加者全員とも作る楽しさを味わったと表明してくれたので、今後ともこれに類する企画は行いたい、募集の仕方をよく考えてから実行したい。

4) グループ活動

60年度は一般プログラムに添った形で、さまざまなテーマで行った。

「紙のふしぎ」「ムナーリおじさんのプレゼント」「紙の服のファッションショー」「かげをうつそう」「うごくちょうこく」「モービルのコンサート」である。それぞれのプログラムは主に幼児のグループが利用した。初年度ということもあり、スタッフや指導員の緊張感がよい雰囲気を作り、活動に反映して子どもたちも楽しく参加したようである。予想より時間がかかることも分かった。ただ、めまぐるしくテーマを変えていったので、プログラムそのものの反省と修正を行わないうちに新しいプログラムに入ってしまうという結果になった。グループ活動は日ごろまとまって学習や行動をしている集団に対するものなので、造形スタジオの一般来館者と異なり、事前に子どもたちの様子や特徴を把握できる。今後は内容の充実を図るため、プログラムを整理して実施したい。

ブルーノ・ムナーリ氏を迎えて

<開館記念特別行事>

開館の記念行事として、イタリアのアーティスト、ブルーノ・ムナーリ氏を迎え、子どもの創造性を考えるシンポジウム、公開指導参観を行った。アーティストとしての氏の造形思考を表す幅広い活動の全ぼうを紹介する作品展も開催した。実施概要は次のとおりである。

(1) シンポジウム 60年11月22日(金) 青山劇場

基調講演 午前10時30分～正午

ブルーノ・ムナーリ「こどもの創造性をいかに愛情をもって引き出し育てるか」

3 造 形

パネルディスカッション 午後2時～同7時30分

パネラー 岸田今日子 坂根厳夫 福田繁雄 (敬称略)

(2) 公開指導参観 11月23日(土) 24日(日) 26日(火) 27日(水)

青山円形劇場 午後1時～同4時

23日 お茶の水女子大附属小学校の児童

「いろいろな線であらわす」「木をつくろう」

24日 港区立青葉幼稚園と「こどもの城」幼児グループの子どもたち

「いろいろなあか」「コラージュ」

26日 渋谷区立広尾小学校と加計塚小学校の児童

「テクスチャー」

27日 青山学院大附属幼稚園の園児

「さまざまなかたち」「直接の映写」

(3) ブルーノ・ムナーリ作品展 (11月22日～12月15日・プレイホール)

〔シンポジウム〕

シンポジウムの基調講演では、ムナーリ氏がコミュニケーションとしての造形の重要性を指摘し、そのためには大人がどのような指導をすべきかをスライドや映像を使って、丁寧で分かりやすい話をした。著名なアーティストとしての長い経験と直感から生みだされた子どもたちの創造性を刺激する氏の指導法のコンセプトを短く、かつ適切にまとめた講演として興味深いものであった。午後はムナーリ氏のこの話をめぐって3人のパネラーから各人の立場で発言があった。

ムナーリ氏からデザインの原点を触発されたというグラフィック・デザイナー福田繁雄氏は「遊びなくしてデザインや造形はありえないし、一見無用であるものが実は人間にとって、非常に重要な役割を果たすものである。したがって、そういうものを体験して、考えを豊かにしていく造形へのかかわり方が必要である」と発言した。

女優の岸田今日子氏は、少女時代の思い出が強烈に今なお体験として生き続けていることを語り、豊かな環境こそ情操を育てるのであると母親の立場から発言した。

朝日新聞編集委員の坂根厳夫氏には司会も兼ねて参加していただいた。科学と芸術のかかわりという領域において精力的な評論を行っている氏は、ムナーリ氏のユーモアあふれる作品に厳として存在する合理主義に着目し、その合理的なところから子どもの造形指導へと架橋する氏の造形思考を映像を用いて明らかにした。

パネルディスカッションのあと、参加者から熱心な質問や指摘があったが、進行に不手際があり、それらに応じる十分な時間的余裕がなく閉会したことは非常に残念であった。

〔公開指導参観〕

この公開指導はムナーリ氏がイタリアのミラノやブレラの美術館などで行ったさまざまなワークショップを日本の子どもたちにも体験してもらい、大人—造形に興味のある人々、子どもに興味のある人々、実践家など—にはムナーリ氏の指導の現場に臨席して、その方法な

IV 各部の活動(1)

どを目撃してもらうため特に設定したものである。この4日間のプログラムに各回250人ほどの参加者があった。

この4日間も含めて、ムナーリ展が終了するまでの間、造形スタジオでは、繰り返し同じプログラムが指導された。なお、円形劇場では、子どもたちがプログラムを終了して出ていった後も参加者からムナーリ氏への熱い質問が続いた。

〔ブルーノ・ムナーリ作品展〕

スペースの点から、プレイ事業部との話し合いにより、会場はプレイホールの半分を使用させてもらうことになった。作品は、グラフィック・アート、オブジェ、プロダクトデザイン、プレイングス、絵本、書籍など代表作約170点が展示された。そのほかにイタリア各地でムナーリの方式を継いでいるラボラトリオから児童たちの作品が参考出品された。

会期中、1万人が来場した。なお、本展のため約150ページのカatalogを編集制作し、また、シンポジウム・公開指導・展覧会をまとめた約15分のビデオ・フィルムも完成している。

子どもの触覚・視覚・体感覚を使って造形感覚を磨こうという、すなわち心身ともに豊かに発展させるというムナーリ氏を迎えてのこの事業は、「こどもの城」の創立運営理念に照らしていえば、まことに開館にふさわしかったものといえるだろう。

(4) 61年度の活動

1) 平常期間

(ア) 動詞シリーズ「くむ」

いろいろな素材、形などを用い、組むという作業を通して、平面、立体、抽象形などを制作するプログラムである。子どもたちのイメージーションを喚起し、造形表現の広がりや楽しさに気づかせるようにした。

展示ではネフ社の組立遊具、ムナーリの遊具「ABC」「迷路」を触って体験できるようにした。これは日常、一般的に売られていたり、使われていたりする遊具の中に潜んでいる組むという行為の一部がより分かりやすく提示され、子どもたちが「くむ」ということを理解するきっかけになったと思う。またスタジオ奥のコーナーでは、組む遊具レゴとポリドロンを置いて、子どもたちが自由な発想でいろいろなものを組んで遊んだ。そして、スタジオ入り口外側にプレイ事業部からパイプユニットを借りてジャングルジムのように組み立て、スタジオの入り口には4メートル前後の丸太を番線や荒縄で組んだり、日常の中にある“組まれたもの（はしご、格子など）”の写真スライドを常時、映写し、遊具だけでなくいろいろな「くむ」を提示し、制作へのきっかけづくりをした。

制作では、割りばしを4面体や立方体に輪ゴムで組んだり、家や車などを作った。幾何学形体をどんどん組み合わせてスタジオ中央床から天井まで、巨大な共同制作オブジェを作り上げた。子どもたちは幾何学形体を次から次へと組み合わせてつないでいく中で新しい形の発見を体験したようである。また、高学年コーナーでは、木やボール紙を使ったジグソーパズルなどを制作した。

同期間中プレイホールで行った「みんなでつくろうデカデカ鯉（こい）」の準備に多くの時間や労力を費やしてしまい、本来のプログラム準備が遅れて計画の半分くらいのプログラムしか実施できなかった。実施できなかったプログラムはテーマを変えたり内容を検討し直して後日実施したい。

(イ) 動詞シリーズ「つつむ」

日常使われているものや伝統的なパッケージ類などを展示して、その成立と構成美を理解させ、制作コーナーでその体験を生かしていろいろな形の物を包めるようにスタジオ設定した。

形が崩れたり、壊れないよう保護する目的や、直接形を見せず、隠したり覆ったりした儀礼的な目的で包んだりするいろいろなもの（祝儀袋、卵、菓子、しょうゆなど）を展示した。これらはわらや和紙を使った伝統的なものからモダンデザインのものまで、また写真やスライドを併用して、素材や包まれるものの目的の違いによる包み方の数々を、子どもたちに提示できたと思う。それらが制作時の参考となった。

IV 各部の活動(1)

制作コーナーでは、ポリ瓶（びん）を始め、あらかじめ切って準備した幾何学形体や、いろいろな形の木端を紙や色セロハンなどさまざまな材料を使って包んだ。小学生の中学年や高学年生が数人集まったときは、巨大な箱や物を梱包（こんぼう）するミニワークショップも随時行った。スタジオ奥のコーナーではポリドロンを使って、巨大な箱やつぼ型のを組み立てたり、ふろしぎや布を使っていろいろなもの（ボールや箱など）を包む体験コーナーも好評であった。

(ウ) 動詞シリーズ「きる」

展示は、実際スタジオで使われているさまざまな道具と、それらの使用目的や適合素材を組み合わせて構成した。日常、名前や形は知っていても、実際どのような切り方をし、どんな切り口になっていくのかということ子どもだけでなく大人にも分かりやすく提示できたようである。

制作コーナーでは、はさみやカッターなど年齢や用具の使用能力にしたがい、切り絵やはり絵を行った。来館児の年齢が低いうえ、はさみしか使えなかったり、またはさみすら上手に使えない子どもたちも多く、道具を使って切るということを中心にプログラムを考えていたので、低年齢層の子どもたちにも対応できる幅の広いプログラムの検討が必要であることを痛感した。

(エ) 「スタンプであそぼう」

“うつしとる”ことを数種の方法を用いて体験させるプログラムである。

導入として、スタンプ粘土・フロッタージュ・ローラーはんが・マーブリング・ステンシル・紙版画、の簡単な説明を示し、使用する道具、材料もコンパクトにキット化して並べた。このコーナーでは、体験したいものを子どもたちがみずから選択し、材料、道具を準備して制作した。小さいスペースだったが、小さい子、大きい子が入り交じりながら好きなものを体験した。

中央スペースでは「ガムテープのいとはんが」を実施した。制作順序を図式化して提示したので、子どもたちも比較的早く手順を理解し、版画を作った。ガムテープと糸、土台にダンボールを使ったもので経済的な材料でありながら、作り方も簡単で、できたものは繊細な表現が可能な、よい内容のプログラムであった。

高学年のためのコーナーでは、空き缶と建築材のエンビシートを利用した「ローラーはんが」を行った。版画の図版だけでなく、ローラーそのものを制作すること、更に素材が硬質なものや軟質なものとの組み合わせというバランスのよさが、訪れた教育関係者の興味を引いた。

(オ) 「おめんであそぼう」

4種類のお面を表示し、来館児の興味と年齢にあったものを選ばせて、制作させた。いろいろなお面のAV展示とブルーノ・ムナーリ氏の作品「祖先の重み」の展示が効果的であった。

中央スペースの「ふくろお面」では、乳幼児が母親と一緒に制作する風景がよく見受けら

3 造 形

れた。袋を母親が作り、顔を子どもがクレパスで描くといったぐあいである。

7歳以上のコーナーでは「マスクをつくろう」を行った。ケント紙に面白い顔を線書きし、色紙を切つてのり付けしていくものである。お面自体のフォルムが自在にできること、色彩が明快であること、更に目の穴あけにポンチと木づちを使い、仕上げに割りばしを取り付け、持つことができるマスクに仕上げるという完結性が分かりやすかったようだ。

10歳以上のコーナーでは「ダンボールでつくるお面」「張子面」を実施した。ダンボールに、細かく切った紙や布（ロープ）を使って、表情に変化の出やすい素材の工夫をした。張子面では粘土で顔を作らせてからラップをかけ、張り込む方法をとったので凹凸の明確な作品ができた。

3スペースとも鏡を置いたので、子どもたちは制作後の“変身”を楽しんだ。

(カ) 「おもちゃのスタジオシリーズ」

春休み特別プログラム「紙と造形」のサブプログラムとしてスタジオシリーズ「おもちゃをつくろう」「インテリアしよう」「グルメとファッション」「造形シアター」を実施した。その間、ひなまつり週間を設け「みんなでつくろう、ひなまつり」として季節行事も行った。

<おもちゃをつくろう>すきなおもちゃの絵をかこう・紙でつくろう楽しいおもちゃ・ピョンピョンレース・クルクルかぎぐるまをつくろう・おもしろめがねをつくろうなどのプログラムを行った。かぎぐるまは母親が子どもとともに作るものとして人気があり、めがねは子どもの変身願望を満たしたようだ。

<インテリアしよう>染紙の花、空想の花・部屋の中の様子を描こう・ドアやまどのある絵をかこう・部屋の模型をつくろう、などのプログラムを行った。子どもたちは自分の世界、ミニチュールの世界を楽しんで作っていた。

<グルメとファッション>アクセサリをつくろう・紙でおいしい物をつくろう・紙の帽子をつくろう・ねんどでおいしいものをつくろう、などのプログラムを行った。子どもたちの食べ物に対する興味が深いことがうかがえ、作品にも反映して、楽しくおもしろいフードがたくさん作られた。

<造形シアター>かげであそぼう・野菜の劇場のプログラムを実施した。両方とも子どもが作って動かすことによって、その物になりきるという設定である。小さいスペースだったが、演じる空間を作ったことで、子どもの作った物（魚や野菜の人形）に対する感情移入を誘ったようである。しかし、大きい子どもたちの造形するスペース設定を工夫する必要があった。

<みんなでつくろう、ひなまつり>おひなさまに変身しよう・おひなさまのぬり絵をしよう・かたつむりをつくろう・かんむりに飾りをつけよう、のプログラムを実施した。季節行事に共通のことだが、親子ともに親しみやすいテーマのようだ。

このように「おもちゃのスタジオシリーズ」はすべて紙を素材にし、立体と平面の制作ができるように考慮したプログラムである。春休み、冬休みなどと違って、平常期間はゆったりした空間で制作活動ができるので、指導員は個別に言葉がけや指導ができた。一方では子

IV 各部の活動(1)

どものためのサンプル作りや春休みに向けてのキャッチ・アイとしての大型サンプル作りなども子どもの興味を判断しながら作成した。これらの期間を持つことによって、次の特別プログラムへの移行がスムーズに行われたように思われる。今後もサブプログラムのシステムをとりながら、プログラム内容を深めたい。

2) 特別期間

(ア) 「みんなでつくろうデカデカ鯉」(児童福祉週間)

児童福祉週間プログラムは造形スタジオでの一般来館児プログラム「くむ」期間中の約1週間を短期特別プログラムとして、新聞紙のかぶと、ボール紙、ダンボールで作るかぶとや、いろいろな素材を使ったこいのぼり作りを造形スタジオで行った。また「みんなでつくろうデカデカ鯉」は、プレイ事業部と共同企画でプレイホールを使用して巨大な紙の鯉を作り上げた。

造形スタジオでは中央スペースの天井に「巨大なかぶと」をつり、プレイホールの「デカデカ鯉」とともにこどもの日の雰囲気づくりをした。プログラムは、子どもたちの年齢、技術力に応じて柔らかい素材から硬い素材までいろいろ使って行った。小学生高学年の参加が多く、しっかりとした作品が多くできあがった。これは早くからプログラムの準備をしていたからであると思う。また「デカデカ鯉」も1か月以上前から、試作、実験、モジュール作り、そして骨組みの制作を行った。組み立てにはプレイ事業部職員を含め10人以上で延べ3日を要した。2つの事業部の職員が共同で作りに上げていった意義のあるプログラムであった。クレヨンと水彩のハジキ絵でうろこを作り、「デカデカ鯉」の骨組みの外側にはりつけていく内容であったが、内側にまですきまなくうろこがはりつけられた。

実施に当たってはプレイホールで造形指導を造形事業部職員及び指導員とプレイ事業部職員が連携して行った。また、ボランティアの協力を得たこともプログラム進行が円滑に行えた理由の1つであった。しかし、造形事業部職員及び指導員が造形スタジオとプレイホールに分かれたため、スタジオでの人員が足りなくなり、正規の活動に支障が生じたときもあった。今後、こういった複数スペースでの活動に関しては準備も含めて適正な人員配置についてより慎重に計画的に行っていきたい。

(イ) 造形発見展「音と造形」(夏休み)

「音と造形」は、子どもが身近な音に気づいたり、音の出る物を作る環境を設定して、それにより子どもたちのイメージーションが喚起され、造形感覚や表現の幅を広げるきっかけになることを目的としたワークショップであった。

展示・体験コーナーでは、「いろいろな音を仕掛けたイヤホーンの設置」「描かれた音(音の記号)の写真展示」「音具の展示」を行った。

制作コーナーでは「ストローラップ」「紙でっぼう」「紙だいこ」「はじきだいこ」「ポコポコ糸だいこ」「カズー」「耳めがね」「かんぶえ」のプログラムを行った。

また、会期中の火～金曜日には音をテーマとした小学生のための一日造形教室、土・日曜

3 造 形

日には音のイベントを行い、随時ミニ・ワークショップ・プログラムを実施した。

展示については、触って体験できる展示を目指したため、破損・故障がひんぱんに起きた。来館者多数のため、しばしば対処できない場面もあった。音具は子どもたちにたいへん好評であった。今後も展示と子どもたちの制作内容との関係について検討を加え、見ることと作ることが一体となった展示を考えていきたい。

制作については、来館者の状況に合わせ、柔軟にプログラムを変更した。しかし、あまりにも多い来館者のため、材料の準備や対応に職員・指導員はパニック状態であった。

一日造形教室は、全期間を通じ、約85%以上の参加率であった。各プログラムとも内容や材料など、事前に検討を加えていたので、実施に当たり時間配分などがうまくいった。子どもたちは、緊張感のある充実した制作ができたと思われる。

子どものための音のイベントについては、より新鮮な音空間が生まれた。ともすれば、長時間の催しでは画一的な環境になりがちな中で、興味深い音体験ができたようだ。

ミニ・ワークショップについては、今回は十分に実施することができなかった。しかし、来館児プログラムの中で1歩進めた展開ができるプログラムなので、今後、内容や実施方法にも検討を加えていきたい。

(ウ) 特別イベント「サウンド・ウォッチング」

大人のための音体験として、ニュージーランドのフロム・スクラッチ、鈴木昭男、吉村弘の3組に出演してもらい、スペシャル・イベントを行った。青山円形劇場の使用法・新しい音体験として、評価されよう。

(エ) 「造形の森」(開館1周年記念)

開館1周年記念プログラム「造形の森」は1年間の造形スタジオ活動をまとめ、概括できるようなプログラムとした。来館した子どもたちの制作したものが集合し、造形スタジオの環境が少しずつ「造形の森」になっていく設定である。プログラムは「森の木をつくろう」「森の虫や動物や花をつくろう」「森の中の家をつくろう」「森でおまつりをしよう」の4つで、それぞれを1週間から2週間で進行させた。また、スタジオ設定は展示・体験・制作からなるワークショップで実施した。

入り口部分に大きな本を作り上げ、それぞれのテーマにつながるコピー(言葉がけ)、資料写真を本の外側にはった。内部にはブラックライトやモーターなどを用いた装置を使ったジオラマを作り、のぞくと「造形の森」のイメージが広がるようにした。子どもたちがプログラムへ参加していくきっかけとなり、効果があったと思われる。また、いろいろなく木の風景<動物や花><家や家具><お面や仮装>などの各プログラムに添った資料写真を、子どもが見れば制作の参考になるようにした。展示と体験と制作が密接につながるように努力した。スタジオ中央にはダンボール板で作った大きな木に、子どもたちの制作物を順次はり加え展示していったので、全体で1つの大きな作品に仕上がった。

プログラムについては、その数が多かったためか、材料の選定・展示が弱かった。道具類の不足も解決しなければならない。また、音楽事業部と行った共同イベント「仮装舞踏会」

IV 各部の活動(1)

(造形スタジオで制作したお面と衣装をつけ、音楽スタジオBで行うガムラン舞踏会に参加したプログラム)では、制作する場所(3階造形スタジオ)とそれをを用いて行動する場所(4階音楽スタジオ)が隔っているため、子どもたちの緊張感を持続させる環境づくりと、それぞれの担当者が事前に密接な打ち合わせをする必要があることを痛感した。

今後の課題として、今回のように日々作り上げ、1か月たつて造形スタジオの環境ができていって行くというプログラムの場合には、開館記念日とプログラム最終日の設定(今回は期間が長く、最終日は開館記念という意味が弱くなった感もあった)、プログラム材料の整理など、検討の余地がある。また、いろいろな要因が作用し、スタジオ活動と同時進行であるべきギャラリーを使用した「造形スタジオ展」の日程がずれてしまったことは、悔恨を残した。これからはより総合的な活動を行っていきたい。

(オ) 「第1回造形スタジオ展」(開館1周年記念)

造形事業部の活動を来館する人々に知ってもらうために「造形スタジオ展」を企画した。ギャラリーを使用して、1年間を通し造形スタジオで制作された子どもたちの作品を展示した。造形スタジオでの開館1周年記念プログラム「造形の森」とを必然的につないだ。

展示は平面群、立体群、講座作品群、活動写真資料、活動記録ビデオで構成した。また、ギャラリー2階フロアでは、適宜ブルーノ・ムナーリ氏のミニ・ワークショップを催した。初めてのギャラリー使用ということもあって、パネルの設営、照明設置、作品展示など計画していた以上に時間・労力ともにかかった。しかし、このギャラリー展示は、造形スタジオに来館した子どもたちの、伸び伸びとした活動作品におけるイマジネーションの広がり、また素朴さ、表現の面白さなどが、展示の不備を越えて、来場者に新鮮に映ったようだった。

今回はできなかったが、プログラムの解説などのパンフレットがあれば、展示はもっと豊かになったと思われる。準備段階の反省としては、作品整理が十分行えていなかった。また、破損していた作品もあり、作品の整理方法、収納場所など、多くの問題点を残している。年々作品数が多くなっていくことでもあり、早急に検討、解決していきたい。

(カ) 「オープンスタジオ・造形ファクトリー」(冬休み)

冬休みオープンスタジオ「造形ファクトリー～ロボットをつくろう～」ではテーマを「ロボット」に統一し、造形スタジオ全体を、ファクトリーのようなイメージにした。子どもたちは、造形ファクトリーとして、工場のような雰囲気の中でロボットを制作した。今では、ほんとうの工場の中のロボットは、精巧にできていて必ずしも人間の形をしているとは限らない。しかし、もともとのロボットは、人間の代わりとして機械で作られたものだ。形は人間に似ているので、子どもたちには親しみやすいものである。造形ファクトリーで作るロボットはロボットでありながら人間らしいものだ。それは、子どもが自分の手でこつこつと作るからである。

子どもたちは木・紙・金属・アクリル・発泡スチロールなどの材料ごとに制作した。テーマを統一し、素材を変えることで、素材の特質を視覚的・触覚的に体験できるようにした。

材料と道具を設定し制作の仕方を示したとき、子どもが素材にどのような変化を与えてい

3 造 形

くかを視点にした。紙で作るロボットは、材料が使いよいので人気のあるコーナーだった。大きなダンボールや小さいボール紙の箱などを工夫して、それぞれのロボット像を造り出していった。協力して等身大のロボットを作った2人の子どもはそれを抱えて帰った。金属のコーナーでは空き缶をたたいてレリーフ状にしたロボットや、立体の缶ロボットを作った。大きい子どもたちには手ごたえのある材質のようだった。プラスチックのコーナーでは、テレビの機械などの廃材を利用して面白いロボットができた。中央に作った大きなロボットは、子どもたちの目を捉えて制作の意欲を持たせた。また、デモンストレーションとしてロボットにふんした職員が館内を歩いたことも子どもたちの興味を引いた。

ロボットのテーマは子どもにとって、楽しい主題だったようだ。

(キ) 素材との出会い展「紙と造形」～造形通りにはるがきた～（春休み）

「紙と造形」～造形通り～は、紙の性質を制作を通して経験する、素材のワークショップである。前回の「紙と造形 PART I・PART II」は、スペース分割も展示・体験・制作というワークショップのコンセプトを基にして実施した。今回は、造形スタジオ全体を「お店仕立て」にして、作るために見る、また見て楽しむ環境をつくった。子どもが興味を持ちやすく、また、多くの種類の紙を使って作れるという点からも「お店仕立て」の設定にした。

中央のスペースをファミリー・スペースとして、親子で作る場所にした。魚屋、八百屋を設け、平面と立体の制作ができるようにした。おもちゃ屋、家具屋、洋品屋、レストラン、花屋（園芸店）、造形シアター、そして紙すきコーナーを設け、乳幼児のためには粘土コーナーを設定した。紙という素材とは異なるが、テーマを同じものにして小さい子どもたちも楽しく参加・制作できる場所にした。プレイングボードは、時間を定めて「お店を描こう」を行った。そのほかの時間は子どもたちが自由に描いた。木・金・日曜日（13時～17時30分）に一日造形教室を開いた。紙でつくる変身お面「焼石に紙」を行った。

- (1) クレープ紙・和紙・障子紙・新聞紙などの軟かい性質の紙は、染めたり、折りたたんだり、ちぢらせたりして、花（「花屋」）や洋服（「洋品店」）を作るのに適している。
- (2) ダンボール・ボール紙などの硬い性質の紙は、切ったり、折り曲げたり、切り込みを入れて組み合わせたりして、いすや机（「家具店」）などを作るのに適している。
- (3) クラフト紙・ケント紙などの紙は、切り抜いたり、打ち抜いたり、丸めたりして、車・カメラ・時計（「おもちゃ屋」）や食器類（「レストラン」）などを、比較的思いのままに作ることができる。
- (4) そのほか、グラシン・トレーシングペーパー・セロハンなどの特殊な紙は材質によって出る音が変わったり、透き通ったりする性質が、カズー・たいこ（「おもちゃ・楽器屋」）や影絵（「造形シアター」）の制作に生かされる。形を自由に折り曲げることができるので「八百屋」「魚屋」の野菜や魚になる。

このように、子どもが作っているうちに紙の性質をおのずと経験できるものとして「お店仕立て」の環境設定となった。

IV 各部の活動(1)

事前に一般プログラム「おもちゃのスタジオシリーズ」で、紙と制作内容の検討を行ったので、今回の「素材との出会い展」は準備およびプログラムが無理なく進化した。今後の企画プロセスの1例である。

活動状況からみると、コーナーを多くしたので、子どもたちがいろいろな制作をして楽しんだ。乳幼児が参加できるコーナーは5か所、7歳以上は3か所、9歳以上は1か所であった。9歳以上の所では3時間以上も飛行機や帆船を作っている中学生もいた。一日造形教室は、参加人数が少なかったが、その理由は制作に3時間もかかることにあった。制作時間は造形において、本質的な問題につながるので今後の検討課題である。内容については、訪れる人が感心したり、興味を示すなど、充実したものだった。前回の「紙と造形」に比べて、プログラムに面白みと深さが加わったように思われる。春休みの特別プログラムは概して、子どもが楽しんで物を作っていたようだ。

3) 講座・クラブ

こどもクリエイティブ・クラブは造形スタジオの日常活動とは違って、継続して体験できる、制作時間に余裕を持たせた活動である。材料やテーマを工夫し、子どもたちが素材と新鮮にかかわったり、発想を柔軟に広げたりできるよう留意した。

(ア) I期「オリジナルTシャツをつくろう」

1日目、2日目はドロッピング(たらしこみ)技法、描画による大きな白地布(1×5メートル)の染めとスタンプ作りを共同制作で行った。小グループ活動的要素に加えて、大きな布を染めるといふ、日常あまり体験できない制作活動で、子どもたちに伸び伸びとした動きが見られた。そして、スタンプを使った版染めと染めた大きな布の中から自分の好きな形を見つけ切り抜く個々の作業へと徐々に移行した。子どもたちはその中で少しずつ他人と自分の選択の違いを認識しながらオリジナルを完成していった。また、今回の参加者年齢が7～10歳であったためか、全体的に同じペースで進行できた。

(イ) II期「でんきゅうをかざろう」

1日目に、新聞紙を細かく切り、再生紙を作ることを子どもたちに体験させた。日ごろ与えられる出来合いの材料でなく、材料そのものを子どもたち自身が作ったことは、その後の制作姿勢を含めて、子どもたちと造形のかかわりをより密接に楽しいものにしたようである。また、都会では触れることの少ない竹を割ってランプ・シェードの骨組みを組み立てるなど、子どもたちが制作過程で楽しい発見や新しい体験ができたプログラムであった。

(ウ) III期「おとをはっけんしよう」

1日目は、ポリ瓶にビニールホースをつないだ、音発見機を作った。ポリ瓶の中に水、砂、米、石など、思い思いのものを入れ、ホースの先を耳に当ててポリ瓶を振ったとき生じる、素材固有のぶつかり合う音を体験した。これは音楽になる前の音、それも非常に身近な素材の音に触れていくことから、子どもたちが音というものに関心を寄せることができたようである。

3 造 形

2日目、3日目に音の道具「カリンバ」を作った。日常使われているペンキ缶に、子どもたちが板バネを思い思いの長さで切り、木ねじで固定した。1人1人が固有の音階のある音が出る道具に仕上げた。これらの音具を使った小さな演奏も3日目に行った。子どもたちは既存の楽器にはない音を作り、音体験をしながら改めて音階を探し始めたようである。

(エ) IV期「うごくオブジェをつくろう」

透明塩ビ板、モーター、ギアなどの組み合わせで力の移動や原理を学びながら、楽しい動く鳥のオブジェを制作した。機構部品からギアの組み立てと、すべて子どもたち自身が作っていくため、年齢によっては少し難しく、手間どる子もいた。これは部品の穴あけの位置が数ミリずれたり、形があまりにも大きくなったり小さくなったりして、力の移動（クランク機構）に障害が生まれたりしたためである。こうした過程を経て、力の移動と形の間接的な関係を、プラモデルのように画一化したものではなく、すべて自分の手で作るという体験の中から学んだようである。

(オ) V期「ガラス絵をかこう」

ガラス絵というあまり知られていない技法を用いて、絵と額を一体にして制作するプログラムである。1日目に額を含めたガラス絵の下絵を描き、竹ペンと墨汁を使って、ガラス板に線書きをした。絵を描く支持体がガラス板のため、紙にペン書きをするのと違って滑りやすく子どもたちにとっては初めての体験であった。また、小学生の低学年ではあまり扱うことのない油絵の具の使用も水彩絵の具と違い、抵抗感のある新しい素材であったようだ。こうした材料、技法による抵抗感は子どもたちにとって、よい緊張となったようである。ガラス絵技法は木版の多色刷りと同じように、初めに彩色する工程を考え、2度塗りするところは絵の具が乾燥するまで時間をおかなければならない。しかし、このガラス絵技法のシステムを理解できないまま描いている子どももいた。子どもたち自身が額と額の内枠の形（四角だけでなく、丸くしたり、六角形にしたりした）を決めて作ったり、額自体をも彩色したことで、絵と額とのバランス（関係）がいかに大切であるかということを実感しながら、ユーモラスですてきな1枚の額絵に仕上げた。

(カ) VI期「うごくオブジェをつくろう！ パート2」

ボール紙、色セロハン、モーター、アクリル棒、電球を使って、エフェクトマットを作り、光の色が変わっていくアクリル棒のお城型オブジェを完成させた。

< I期からVI期までの反省 >

各プログラムとも3回完結、再度メンバー募集ということでプログラム作成に追われた。3回で1つの作品を作るので、作ることに時間を奪われ、導入時の話や制作終了後のみんなでの見直しなどがおろそかになった。今後は余裕を持った時間配分で企画していきたい。募集年齢が小学1～6年というのも幅がありすぎて、プログラムによっては進行しにくい点もあった。個人差はあるが、対象年齢、人数を綿密に考慮すべきである。

(キ) 「染めて織る」

ウールの持っている手触りの柔らかさや暖かさを、実際に染めて織りながら体験するクラ

IV 各部の活動(1)

ブであった。染織に入る前に染織のための道具作りから行った。図案を考え、それに合った色を決めていった。生なりの毛糸を、使いたい色に染め、「織り」に入った。

これらの「染織」の工程は、毛糸を「染める」ところまでは動きがあり、参加者同士が協力し合う活動だが、「織り」は単調な個人の仕事になる。織る速さは図案の複雑さや色の数によって異なるが、やはり年長の子のほうが手際がよく、自分のペースを保ちながら、制作していたようだ。

参加者の中に男子が1人いて、単調な仕事に耐えられるか少々不安だったが、図案のモチーフが気に入っていたようで最後までやり通した。参加した子どもは5人で、定員の半分だったが、共同作業のときも個人作業のときも楽しい会話の絶えない快活なクラスであった。

(ク) 「楽しい本作り」

子どもたちは素材の変化による表現の違いを体験した。異なった造形技法によって1ページずつを丁寧に制作し、1冊の本に仕上げたクラブであった。点で描く・から刷り・和紙漉(す)き・アクリル板に描く・型染・本に描く、とテーマが変わるごとに、材料、道具も変わる。参加者の中で1年生は、最初のころ戸惑いがあったようだが、回を重ねるにしたがって、雰囲気にも慣れ、少々騒がしいときもあるくらいになった。

参加者は11人で、日本語が分からない外国の女の子も積極的に参加した。制作過程では、各人の理解と興味の度合いの違いによってさまざまな様子が見受けられた。す早く仕上げてしまう子や、納得のいくまでやり直す子などそれぞれの性格が作品に反映した。最後の「製本」では、個人の作業が少し難しく、指導員が手を加えることが多くなった。手順を再考する必要がある。みんなの作品は、主題どおり各自にとって「楽しい本」になったように思われる。

(ケ) 「新しい絵本のために」第II期

第I期(61年1～3月)に引き続き、松居直氏、小野かおる氏を迎え、12回行われた。年度替わりのため便宜上I・II期に分かれたが、I期7回、II期12回、計19回と内容が一貫するものであった。

I期では受講生のうち、家における課題の重圧に耐えられずに約半数の受講者が、終了とともにやめ、それとほぼ同じ人数がII期に新しく参加した。講義の内容は、I期と同じく制作・講義指導・批評であったが、家における課題が同じように続き、受講者には少々負担であったようである。しかし、全員とも制作完了へといそしんだ。そのうち13人の人たちが絵本を仕上げた。これらは、ギャラリーの第1回造形スタジオ展に出品され、子どもたちの作品群に花を添えた。

I・II期を通じて総括できることは、絵本作りの基礎文法が徹底的に指導されたことである。また教養として絵本の見方を鍛える指導もあり、受講者にとっては手ごたえのある講座であったといえよう。ただし、造形スタジオにおける実地の指導が十分できないこともあって、自宅での制作時間が各人に負担になったことは、I・II期を通じて確認できた。しかし、創作を試みようとする人、何かを志す人にとって、1人で行う作業はつきものであり、結局

3 造 形

は受講者各人の問題に帰結することになるだろう。

こうした講座の運営を手際よく、また受講者を満足させながら進行していくのは、非常にたいへんである。今後は、講座の内容・対象・準備など含めて、企画段階における十分なプランニングが必要である。

4) グループ活動

前年度の反省を踏まえて、61年度は「木をつくろう」と「かげをうつそう」に整理して実施した。各プログラムとも、対象グループの事前の情報によって、少しずつ内容に変化を与えた。

「木をつくろう」は開館記念行事に招いたブルーノ・ムナーリ氏が実践したもので、そのプログラムを引き継いだ。デザインの計画性や物の成り立ちを、木の育成という分かりやすいプロセスで造形体験する。同じプログラムでも、幼稚園・保育所や学校によって反応が異なり、グループごとによる生活環境がさまざまに反映する。一貫していることは、葉、花、虫など身近なものでありながら、子どもたちは描くうちに集中し、それぞれに個性のある表現をすることである。今後はムナーリ氏の精神を受け継ぎながら、造形スタジオ版「木をつくろう」を展開させたい。

「かげをうつそう」は造形スタジオにあるプレイングボードを利用したプログラムで、ライトで影を映す、影をボードに絵の具で描き写す、描いた絵を紙にデカルコマニー（転写）で写すなど、「うつす」ことをさまざまな方法で体験するプログラムである。学校や幼稚園では設備の面でプログラム化しにくいので、子どもたちには新鮮な体験であると思われる。

今年度はインターナショナル・スクールの中学生の参加が著しい。通常のプログラムでなく、外国の子どもたちの体験として珍しいと思われるプログラム「型染」「から刷り」を組んだ。

障害児に関しては、障害の程度などを考慮して、特別なプログラムを組んだ。

グループ活動は約1時間の活動時間なので、その中で子どもが充実した感じを持つには、特に小さい子どもたちにとっては、構成的・演出的な配慮が必要である。年齢の高い子どもたちには、造形の技法的なものの要素が更に加わる必要がある。今後は、年に1本ずつ新しいプログラムを開発するペースで、内容を充実していきたい。

4 音楽事業部

IV 各部の活動(1)

(1) 60年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	火		水		木		金		土		日	
	スタジオ A	スタジオ B	スタジオ A	スタジオ B	スタジオ A	スタジオ B	スタジオ A	スタジオ B	スタジオ A	スタジオ B	スタジオ A	スタジオ B
	シンセ 室	音楽 ロビー	シンセ 室	音楽 ロビー	シンセ 室	音楽 ロビー	シンセ 室	音楽 ロビー	シンセ 室	音楽 ロビー	シンセ 室	音楽 ロビー
10:00	(グループ活動) (施設貸与)		(グループ活動) (施設貸与)		(グループ活動) (施設貸与)		(グループ活動) (施設貸与)				ユースバンド	
11:00												
12:00												
13:00			リトミックI						一般来館イベント		一般来館イベント	
14:00			一般来館イベント		一般来館イベント		一般来館イベント		一般来館イベント		一般来館イベント	
15:00	リズム・ム I		リトミックII					一般来館イベント	一般来館イベント	一般来館イベント	一般来館イベント	一般来館イベント
16:00	リズム・ム II					ビデオ(AV)		一般来館イベント	一般来館イベント	一般来館イベント	一般来館イベント	一般来館イベント
17:00	シンセサイザー(初級)		合唱						おはやし	シンセサイザー(初級)		
18:00	パーカッション・ アンサンブル											
19:00												
20:00	(施設貸与)		(施設貸与)		(施設貸与)		(施設貸与)		(施設貸与)			
21:00												

4 音 楽

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
やってみようコンサート	11.2~ 61.3.30 (土曜日)	13:00~ 14:00 15:00~ 16:00	音 楽 スタジオA	外部及び職員	ガムラン 6回 こと 2回 三味線 2回 竹の音 1回 おはやし 1回 パーカッション1回
わいわいスタジオ	11.2~ 61.2.9	13:00~ 14:00 15:30~ 16:30	音 楽 スタジオB	同 上	パーカッション7回 オペレッタ 1回 ガムラン 5回 おはやし 2回 こと・尺八 1回 シンセサイザー1回

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(開館記念) 楽器展示	11.1~4	10:00~ 17:00	音楽ロビー	職員	
(同上) わいスタスペシャル みんなで歌おう	11.2	13:00~ 14:30 15:00~ 16:30	音 楽 スタジオB	外部及び職員	
(同上) わいスタスペシャル パーカッション	11.3	13:00~ 14:00 15:00~ 16:00	同 上	同 上	
(同上) やってみよう コンサートスペシャル 「ガムラン」「邦楽」	11.2・4	13:00~ 14:00 15:00~ 16:00	音 楽 スタジオA	同 上	
(同上) わいスタスペシャル 三匹の子ブタ	11.4	13:00~ 14:00 15:00~ 16:00	音 楽 スタジオB	同 上	

IV 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(開館記念) ハローこどもの城 ほくらのサウンド21	11.10	13:30~ 14:30 16:00~ 17:30	青山円形劇場	(人) 児童合唱団 63 ユースバンド27 おはやし 8 職員	
(冬休み) わいスタスペシャル 合唱団 クリスマスコンサート	12.22	13:00~ 14:00 15:00~ 16:00	音楽スタジオ B	外部及び職員	
(同上) わいスタスペシャル シンセサイザー クリスマスコンサート	12.25	13:00~ 14:00 15:00~ 16:00	同 上	同 上	
(同上) わいスタスペシャル 新春コンサート こと・尺八	61. 1. 3	13:00~ 14:00 15:00~ 16:00	同 上	同 上	
(同上) 新春特別企画 こども獅子舞	1.3~5	13:00~ 16:00	屋 上 音楽ロビー プレイホール ピロティ	外部・職員及び 受講者	
(同上) わいスタスペシャル 新春コンサート こと・三味線	1. 4	13:00~ 14:00 15:00~ 16:00	同 上	同 上	
(同上) わいスタスペシャル 新春コンサート 三味線	1. 5	13:00~ 14:00 15:00~ 16:00	同 上	同 上	
(同上) わいスタスペシャル 新春特別企画 里 神 楽	1. 6	13:00~ 14:00 15:00~ 16:00	音楽ロビー	外部演奏家・団 体及び職員	
こどもの城 おまつり劇場 第1回	2.23	13:00~ 15:00 16:00~ 18:00	青山円形劇場	鳳凰の舞 (東京都日の出町) こども八木節 (桐生市) こどもの城 おはやしグループ ほか	
(春休み) わいスタスペシャル お話劇場	3. 27・28 (4.3・5・6)	13:00~ 13:30 15:00~ 15:30	音楽スタジオ B	職員	音楽とお話でつづる 童話の世界

4 音 楽

4) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 数						
パーカッション アンサンブル	小4～ 中3年	(人) 30	(人) 16	火曜日 17:00～ 19:00	音楽スタ ジオB	12.3～ 61.3.25 14回	(円) 15,000	武蔵野音大 講師 柳沼 輝子 田内 千代	
リズム ムービングI	3～4歳	15	17	火曜日 14:30～ 15:30	音楽スタ ジオA	11.12～ 61.3.25 16回	7,500	同 上	
リズム ムービングII	4～5歳	20	19	火曜日 15:45～ 16:45	同 上	同 上	同 上	同 上	
お母さんも いっしょ リトミックI	3～5歳	(組) 15	(組) 14	水曜日 13:00～ 14:00	同 上	12.4～ 61.4.2 14回	12,000	玉川大講師 吉村 温子 川口あづさ	
お母さんも いっしょ リトミックII	3～5歳	15	18	水曜日 14:30～ 15:30	同 上	同 上	同 上	同 上	
合 唱	小 1～6年	(人) 30	(人) 35	水曜日 16:30～ 18:30	音楽スタ ジオB	12.4～ 61.3.19 16回	同 上	同 上	
三 味 線	小4～ 中2年	30	13	日曜日 13:00～ 15:00	音楽スタ ジオA	12.1～ 61.3.30 14回	18,000	芸大講師 田島 佳子 細井 絵美 井上久仁子	
ガムラン	小4～ 高1年	20	9	日曜日 15:00～ 17:00	同 上	12.1～ 61.3.30 13回	15,000	芸大・桐朋大 講師 田村 史 福岡 正太	
シンセサイ ザー初級	小5～ 高3年	6	6	火曜日 16:00～ 18:00	シンセサ イザー室	61.1.7 ～3.25 11回	20,000	日本電子専門 学校講師 岩下 哲也	
同 上	同 上	6	6	土曜日 16:00～ 18:00	同 上	1.11～ 3.29 11回	同 上	同 上	

IV 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員 (人)	受 講 数 (人)						
児童合唱団 I (低学年)	小 1～2年	30	30	土曜日 14:00～ 16:00	音楽スタ ジオB	11.2～ 61.3.29 16回	(円) 12,000	玉川大講師 吉村 温子 川口あづき	
児童合唱団 II (高学年)	小 3～6年	30	32	土曜日 16:00～ 18:00	同 上	同 上	同 上	同 上	
おはやし グループ	小4～ 中2年	20	7	土曜日 16:00～ 18:00	音楽スタ ジオA	11.3～ 61.3.29 15回	同 上	長唄囃子方 川島 佑介	
ユースバンド	11～18歳	28	26	日曜日 10:00～ 12:00	音楽スタ ジオB	11.3～ 61.3.23 17回	18,000	芸大講師 山本 武雄 山本真理子 三田村 健 岡本 篤彦	

4 音 楽

(2) 61年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	火				水				木				金				土				日			
	スタジオ		イサ	音	スタジオ		イサ	音	スタジオ		イサ	音	スタジオ		イサ	音	スタジオ		イサ	音	スタジオ		イサ	音
	A	B	セサ	楽	A	B	セサ	楽	A	B	セサ	楽	A	B	セサ	楽	A	B	セサ	楽	A	B	セサ	楽
10:00	(施設貸与)				(施設貸与)				(ファミリービデオクラブ)				(保育幼児グループ)											
11:00	(施設貸与)				(施設貸与)				(ファミリービデオクラブ)				(保育幼児グループ)											
12:00																								
13:00																								
14:00																								
15:00																								
16:00																								
17:00																								
18:00																								
19:00																								
20:00																								
21:00																								
備考									※11:00～12:00 保育 (Bリハ)															

IV 各部の活動(1)

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
わいわいスタジオ	4.6～62. 3. 22 (日曜日 ・祝日)	13:30～ 14:30 15:30～ 16:30	音楽スタジオ B	出演は7～15人 (ゲスト, パー ト, 職員)	毎回80～120人。親子 連れが多く, 参加も積 極的。 AVと共同。
楽器体験コーナー	61. 4～7		音楽ロビー	インストラク ター 職員	シンセサイザー, ガム ランが中心。1日延べ 80～300人。
音楽ロビー ライブ・コンサート	9～ 62. 3 (火～土曜 日)		同 上	インストラク ター プレイヤー 職員	日替わりで体験・指導 とデモ演奏。 火=箏 水=パーカッション 木=バリ・ガムラン 金=ジャワ・ガムラン 土=三味線, おはやし

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(春休み) 音楽おもしろクイズ	4. 2	15:00～	音楽ロビー	職員	
(同上) わいスタスペシャル お話劇場	4. 3・5・6	14:00～ 15:00～ 16:00～	音楽スタジオ B	講師・助手 職員	音楽とお話でつづる童 話の世界
(同上) クラウス・ルンツェ ライブ・プレゼンテ ーション 「2つの手・12のキイ」	4. 17	16:00～ 17:30	同 上	K.ルンツェ 職員	新しいピアノ教授法を 開発した西独ピアニ ストによるデモンスト レーション。演奏と話と 指導。 東京ドイツ文化センタ ー共催

4 音 楽

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(児童福祉週間) わいスタスペシャル スタジオ5/5	5. 3~5	13:00~ 14:00 14:30~ 15:30 16:00~ 17:00	音楽スタジオ B	ゲスト 講師 職員 受講者・クラブ 会員	3日 箏・パーカッション・オペレッタ 4日 ユースバンド 5日 オペレッタ 子ども飛び入りのど自慢 全9回, 毎回100人以上
(同上) 楽器チャレンジコーナー	同 上	10:00~ 12:00 13:00~ 15:00 16:00~ 18:00	音楽スタジオ A	ゲスト 講師 職員	3日 シンセサイザー 4日 ガムラン 5日 箏
(同上) こども太鼓	同 上	3・4日 10:00~ 11:00~ 5日 11:00~	音楽ロビー 屋 上	職員 ボランティア	
(同上) 音楽ゲーム大会	同 上	12:30~ 14:00~ 15:30~	音楽ロビー	同 上	スタジオ5/5と併催
(同上) 鯉のぼり披露 ミニ・コンサート	5. 5	10:00~ 10:30	屋 上	講師・助手 職員	出演 こどもの城ユースバンド, こどもの城児童合唱団
七夕クイズ大会	7. 5・6	5日 15:00~ 6日 13:00~ 15:00~	音楽ロビー	職員 ボランティア	研修教養部共同
(夏休み) おもしろビデオ館 夏休みスペシャル“空・宇宙”	8. 14~16	12:00~ 13:00~ 14:00~ 15:00~ 16:30~	音楽スタジオ B	職員	AV共同

IV 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(夏休み) わいスタスペシャル お話劇場(怪談) シンセコンサート 人形劇・お話 バリ・ガムラン	8. 7~9 8. 10 8. 11~13 8. 17	13:00~ 14:30~ 16:00~	音楽スタジオ B	ゲスト 職員	怪談は9回とも大入り。 閉ざされた空間、照明 効果もあって子どもた ちの集中度は高い。子 どもにどうかなのと思っ たが「おもしろかった ヨ」。 人形劇はプレイ共同。
(同上) 楽器チャレンジコーナー 等・ガムラン	8. 1~5		音楽ロビー 音楽スタジオ A	インストラクタ ー 職員	
(同上) 音楽ビデオ・フェア	8. 6・11~13		音楽ロビー	職員	クラシックやファミリ ー向きVTRの放映 AV協力。
(同上) アジア民族楽器展	8. 14~24		同 上	インストラクタ ー プレイヤー 職員	ガムランなど、アジア の楽器を展示紹介。
(同上) こどもミュージック・ウ ィーク	8. 22~27		音楽スタジオ A・B 音楽ロビー	青音協各団体延 べ約100人出演 職員	13団体20プログラム クラシック、フォーク、 ポピュラー、邦楽、童 謡、言葉遊びなど。 日本青少年音楽団体協 議会共催。
(同上) 「こどもたちによる郷土 芸能」展	8. 26~31		音楽ロビー	職員	「おまつり劇場」と並 行し、楽器・人形など 特別展示。
(同上) 加勢園子 ピアノ・レクチャーコン サート	8. 26	13:00~ 14:30	音楽スタジオ B	加勢園子、こど もたち(8人) 職員	「バイエル」一辺倒の 日本のピアノ教育の歪 みを是正する新しいメ ソッド(クルタークラ)の紹介。
(開館1周年記念) 開館1周年セレモニー	11. 1	15:15~ 16:00	ピロティ	講師・助手 伴奏者 職員	出演 こどもの城ユー スバンド、こどもの城 児童合唱団。
(同上) わいスタスペシャル オープン記念ミニ・コン サート	11. 1	16:00~ 17:00	音楽スタジオ B	講師・助手 伴奏者 職員	出演 どもの城児童 合唱団。

4 音 楽

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(開館1周年記念) わいスタスペシャル オープン記念 ワイド・スタジオ	11. 2・3	13:30~ 15:00 15:30~ 17:00	音楽スタジオ B	講師・助手 伴奏者 職員	出演 ユースバンド, 児童合 唱団(2日) パーカッショングルー プ(3日)
(冬休み) わいスタスペシャル クリスマス・コンサート	12. 21	13:30~ 14:30 15:30~ 16:30	同 上	同 上	出演 ユースバンド 混声合唱
(同上) わいスタスペシャル ファミリー・クリスマス	12. 23~25	13:30~ 14:30 15:30~ 16:30	音楽ロビー 音楽スタジオ B	同 上	オペラクリエーション イン青山有志出演。 クリスマス・ソングで 構成。
(同上) わいわいスタジオ お正月スペシャル	62. 1. 3~5	13:30~ 14:30 15:30~ 16:30	音楽スタジオ B	ゲスト 職員	新春らしく箏と尺八を 中心に童謡メドレー, 児童参加コーナーな ど。
(同上) もちつき大会	62. 1. 4		屋 上 保 育 室	職員	出演 こどもの城獅子舞グル ープ, おはやしグルー プ プレイ, 企画と共同。
(同上) 新春ロビーライブコン サート	62. 1. 3~5		音楽ロビー	ゲスト インストラクタ ー 職員	三味線 お囃子
(同上) 新春特別企画 こども獅子舞	62. 1. 3・4		ピロティ 音楽ロビー 屋上ほか	クラブ会員(有 志) ゲスト(笛など) 講師 職員	

IV 各部の活動(1)

4) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考	
		定 員	受講数							
リズム・ムービングA	4・5歳	20	(1)	火曜日 15:00～ 16:00	音 楽 ス タ ジ オ A	(1)	(円) 7,500	武蔵野音大・ お茶の水女子 大講師 柳沼輝子		
			(2)			(2)				同 上
			(3)			(3)				
リズム・ムービングB	小 1～3年	20	(1)	火曜日 16:00～ 17:00	同 上	(1)	7,500	同 上		
			(2)			(2)				同 上
			(3)			(3)				同 上
パーカッション・アンサンブル	小4～ 中3年	20	(1)	火曜日 17:00～ 19:00	音 楽 ス タ ジ オ B	(1)	15,000	同 上		
			(2)			(2)				同 上
			(3)			(3)				同 上
お母さんもいっしょーリトミックA (3か月講座)	3～5歳	20	(1)	水曜日 13:30～ 14:30	音 楽 ス タ ジ オ A	(1)	12,000	玉川大講師 吉村温子 川口あづさ	3～5歳児(1人)と 母親のクラス。短期間 の講座なので出席率は 非常に高い。	
			(2)			(2)				同 上
			(3)			(3)				9,000
お母さんもいっしょーリトミックB (3か月講座)	3～5歳	20	(1)	水曜日 15:00～ 16:00	同 上	(1)	12,000	同 上	リトミックAが3か月 で終わってしまうため、 継続を希望する人が多 く、定員を上回る受講 者を毎回抱えている。	
			(2)			(2)				同 上
			(3)			(3)				9,000

4 音 楽

名 称	対 象	人 数		曜 日 間 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考	
		定 員	受 講 数							
合 唱	小 1～6年	30	(人)	水曜日 16:30～ 18:30	音 楽 ス タ ジ オ B	(1) 4.16～ 7.2 全12回	(円) 12,000	玉川大講師 吉村温子 川口あづさ		
			(人)			36	(2) 9.10～ 12.17 全12回			同 上
							(3) 62.1.14 ～3.18 全12回			同 上
(3 か 月 講 座) シン セ サイ ザ ー (火 曜 ク ラ ス)	小5～ 高3年	6	(1)	火曜日 16:00～ 18:00	シン セ サイ ザ ー 室	(1) 4.15～ 7.22 全12回	20,000	日本電子専門 学校講師 岩下哲也	リトミックと同じ短期 講座であるが年齢が高 いためか欠席がやや多 かった。 2期は中止。	
			(2)			0	(2)			—
			(3)			4	(3) 62.1.13 ～4.1 全10回			13,000
(同 上) シン セ サイ ザ ー (木 曜 ク ラ ス)	小5～ 高3年	6	(1)	木曜日 16:00～ 18:00	同 上	(1) 4.17～ 7.3 全12回	18,000	同 上		
			(2)			5	(2) 9.4～ 12.11 全12回			20,000
			(3)			4	(3) 62.1.8 ～4.1 全10回			15,000
(同 上) シン セ サイ ザ ー (土 曜 ク ラ ス)	小5～ 高3年	6	(1)	土曜日 16:00～ 18:00	同 上	(1) 4.19～ 7.19 全12回	20,000	同 上		
			(2)			4	(2) 9.6～ 12.6 全12回			同 上
			(3)			4	(3) 62.1.10 ～4.1 全10回			15,000
ガ ム ラ ン	小4～ 中3年	10	(1)	日曜日 15:00～ 17:00	音 楽 ス タ ジ オ A	(1) 4.13～ 7.6 全12回	15,000	芸大・桐朋大 講師 田村 史 福岡正太		
			(2)			11	(2) 9.14～ 12.14 全12回			同 上
			(3)			10	(3) 62.1.11 ～3.22 全12回			同 上

IV 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考		
		定 員 (人)	受 講 数 (人)								
三 味 線	小4～ 中3年	20	(1)	日曜日 12:30～ 14:30	音 楽 ス タ ジ オ A	(1)	18,000 同 上 同 上	芸大講師 田島佳子 井上久仁子 細井絵美			
			14			(2)				(2)	
			12			(3)				(3)	
こ ど も の 城 児 童 合 唱 団 A	小 1～3年	30	(1)	土曜日 14:30～ 16:30	音 楽 ス タ ジ オ B	(1)	12,000 同 上 同 上	吉村温子 川口あづさ			
			30			(2)				(2)	
			29			(3)				(3)	
こ ど も の 城 児 童 合 唱 団 B	小 4～6年	30	(1)	土曜日 16:30～ 18:30	同 上	同 上	同 上	同 上			
			32							(2)	(2)
			30							(3)	(3)
こ ど も の 城 ユ ー ス バ ン ド	11～18歳	28	(1)	日曜日 10:00～ 12:00	同 上	(1)	18,000 同 上 同 上	芸大講師 山本武雄 山本真理子 岡本篤彦 三田村健			
			25			(2)				(2)	
			23			(3)				(3)	
こ ど も の 城 お は や し グ ル ー プ	小4～ 中2年	20	(1)	土曜日 16:00～ 18:00	音 楽 ス タ ジ オ A	(1)	12,000 同 上 同 上	長唄嘶子方 川島佑介			
			12			(2)				(2)	
			10			(3)				(3)	
			10			(3)					

4 音 楽

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 数						
おとなのためのガムラン	高校生 以上	20	(1)(人) 24	日曜日 17:00~ 19:00	音 楽 ス タ ジ オ A	(1) 4.13~ 7.6 全12回	(円) 20,000	芸大・桐朋大 講師 田村 史 福岡正太	開講当初は定員を上回 る受講生を抱えていた が、社会人が多かった こともあってスケジュ ールがあわないため、 やめていく人が多かつ た。
			(2) 9.14~ 12.14 全12回			同 上			
			(3) 62.1.11 ~3.22 全12回			同 上			
混声合唱 —こどもにきかせる おとなのコーラス	高校生 以上	20	(1)	土曜日 18:30~ 20:30	同 上	(1)	/	玉川大講師 吉村温子 川口あづさ	9月開講。 開講時期がはずれてい たせいもあって少人数 でのスタートになった。
			(2) 7			(2) 9.13~ 12.20 全12回	12,000		
			(3) 6			(3) 62.1.10 ~3.21 全10回	10,000		

(特別期間)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
[サマー・セミナー] リズム・ムービング& パーカッション・アンサン ブル (クラスA)	7.25・26	10:00~ 15:00	音楽スタジオ A	講師 助手 担当職員	一般成人対象 (公募)。 名古屋・金沢から泊り 込み参加の人も。継続 希望多し。 受講者44人
(同上) リズムムービング& パーカッション・アンサン ブル (クラスB)	7.27・28	10:00~ 12:00 13:00~ 17:00	同 上	同 上	
(同上) 三味線	7.28~30	10:00~ 12:00	同 上	同 上	一般成人対象 (公募) 受講者7人
(同上) シンセサイザー	8.5~9	10:00~ 12:00	シンセサイ ザー室	同 上	一般成人対象 (公募) 受講者6人
(同上) ガムラン	8.11~13	10:00~ 12:00	音楽スタジオ A	同 上	一般成人対象 (公募) 受講者13人
(同上) おはやし	8.19~21	10:00~ 12:00	同 上	同 上	一般成人対象 (公募) 受講者7人

サマー・セミナー受講者統計 (計77人うち男14人)

10代…3 20代…32 30代…21 40代…15 50代…5 60代…1

23区内…41 都下…21 神奈川…10 埼玉…3 その他…2

IV 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
音楽特別教室 ガムラン	8. 14	13:00～ 16:00	音楽スタジオ A	(人) 講師・助手 職員	
講座・クラブ合宿研修 こどもの城ユースバンド	7. 22～25 (3泊4日)		栃木県今市市 まつもと山荘	講師 助手4 職員1	参加児童24人 玉川大学マスタース バンドと合同
講座・クラブ合宿研修 パーカッション講座	7. 22～24		スタジオA, 研修室, こど もの城ホテル	講師 助手2 職員1	参加児童12人 宿泊は22日夜のみ
講座・クラブ合宿研修 ガムラン講座	8. 5～7 (2泊3日)		音楽スタジオ A, こどもの城ホ テル	講師 助手2 職員1	参加児童9人
講座・クラブ合宿研修 こどもの城児童合唱団・ 合唱講座	8. 21～26 (5泊6日) 低学年は 8. 23～26 (3泊4日)		静岡県清水市 三保ユースホ ステル	講師・助手3 職員9 ボランティア7	参加児童83人

5) 劇場公演

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
オペラ公演 「フィガロの結婚」 〔参加・協力〕	5. 29～31	29・30日 18:30～ 31日 15:30～	青 山 劇 場	講師・助手 伴奏者 職員	児童合唱団出演(有志) 入場料 A4,500円 B3,500円
『金管バンドによる楽し いファミリーコンサ ート』 第1回	7. 26	14:00～ 18:00～	青山円形劇場	指揮者(講師) 助手 プロデューサー 裏方 表方 舞台監督	こどもの城ユースバン ド出演 (応援) 玉川大学マス ターズバンド こどもの城児童合唱団 進境著しく, 合宿の成 果も実って大健闘。玉 大応援もあり, 楽しい コンサートとなった。 入場料500円
『こどもの城アジア音楽 祭～マリンロードの響 き』	8. 25・26	18:30～	青 山 劇 場	ガムラン講座・ パーカッション 講座受講生出演 制作スタッフ 裏方スタッフ	インドネシア, インド, 韓国, ベトナム, 中国, 沖縄などの民族音楽大 集合。 入場料2,000円 子ども1,500円 「(株)インター・ミュー ジック」共催

4 音 楽

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
『こどもの城 おまつり劇場』 第2回	8. 30・31	30日 15:00～ 31日 13:00～ 16:00～	青山円形劇場	構成・演出者 プロデューサー 裏方 表方 舞台監督	浦賀虎踊（横須賀市） 相模人形芝居 長谷座（厚木市） ひがし座（厚木市） アンサンブル・箏むー じ／おはやし／三味線 ／合唱団 入場料800円（入館料込 み）
「絆コンサート」 〔出演〕	11. 1～3	1日 18:30～ 2・3日 15:30～	青山劇場	講師 顧問 職員	こどもの城おはやしグ ループ出演 入場料3,500円
「おとぎの国のメルヘン 通り」 〔出演・協力〕	12. 2～5	2～4日 18:00～ 5日 14:00～	青山円形劇場	講師・助手 職員	こどもの城児童合唱団 出演 入場料2,500円
『ジャズ・フォー・キッ ズ』 こどもの城特別コンサート	62. 1. 9・10	9日 17:00～ 10日 14:00～ 17:00～	同 上	職員	Paul Jackson ら一流 ジャズメンがボランテ ィアの出演。 正統的で、楽しいジャ ズ音楽は「城」らしい 企画で超大入り。 入場整理券1,000円
「イースター 国際子どもフェスティバ ル」 〔出演・協力〕	62. 3. 31	18:00～	青山劇場	講師・助手 職員	こどもの城児童合唱団 出演 入場料1,800円
『ほくらのサウンド'87』 こどもの城音楽クラブ合 同コンサート第1回	62. 3. 30・31 4.1	30日 15:00～ 18:00～ 31・4.1日 16:00～	青山円形劇場	講師・助手 顧問 職員	音楽クラブ・講座受講 者全 200人が総出演。 こどもの城音楽活動の デモンストレーションと 受講生の“卒業”発表 とを兼ねて、効果があ った。 無料（入館料対応）

(3) 60年度の活動

「こどもの城」は、新しい時代と環境に即した子どもの文化と福祉のための総合施設である。音楽事業部は、その一環を担い、来るべき世紀へはばたく子どもたちを、音楽を通して心豊かに健やかにはぐくむことが基本的な運営理念となる。

4階の音楽フロアーには、音楽スタジオA(約100平方メートル)、スタジオB(約190平方メートル)、音楽ロビー(約270平方メートル)、シンセサイザールーム、練習室1・2が設けられ、併せて伝統音楽・民族音楽から電子音楽に至る楽器が順次整備されつつある。

事業は大別して、来館者が自由に参加できる各種イベントと、公募によるメンバー制のクラブ・講座とに分けられる。そのほか、劇場におけるファミリー・コンサートや、公開セミナー、グループ活動、施設レンタルなど、音楽にかかわるユニークで幅広いプログラムが活動の骨子となる。

「こどもの城」の音楽事業は、狭義の音楽教育や専門家養成を目指すものではない。ここでは、音楽と出会い、体験することで、音楽の楽しさとすばらしさを、子どもたち1人1人が発見し、創造性や情操を豊かに花開かせることが目的である。

課題は多く、当面試行錯誤は避けられないだろうが、各分野のインストラクターを配して、新しい事業に向けてスタートした。

本年度に実施した事業は次のとおりである。

①一般来館対応(ロビー活動、土・日曜日・祝日イベント) ②特別期間イベント ③講座・クラブ ④グループ活動 ⑤劇場公演 ⑥施設レンタル。

初年度ということで、どの事業もシミュレーション的な色彩が強かった。内容、対象もあまり絞らず、さまざまな種類のものを違った形で実施するよう努めた。

1) 平常期間

〈ロビー活動〉

開館後しばらくは開館記念ということもあって、できるだけ多くの楽器をロビーに展示し、シンセサイザー室を開放し、一部のものは職員の指導に従って実際に触れることができるようにした。

しかし、来館者数の特に多い日曜日・祝日は、フォローも十分とはいえず、楽器の損傷も激しかったため、このような形のロビー、シンセサイザールームを使った一般来館対応は、いったん中止した。

その後、インストラクターを外部に委託した形での民族楽器ガムランの展示及び演奏体験を行った。またシンセサイザーコーナーをロビーの一角に設け、日曜日・祝日には台数を増やして対応することになった。

ガムランは、展示する楽器を開館当初よりも絞り、指導を専門の職員に委託したことで、

4 音 楽

スムーズに活動が行われるようになった。しかし、シンセサイザーは、日曜日・祝日に行く「わいわいスタジオ」がスタートするとともに職員による運営が難しくなった。

以降、平日のロビーは、ガムランの展示・体験コーナーと、職員がいなくても簡単な操作で楽しめるシンセサイザーを数台設置することになった。

本年度は全く1からの出発だったし、開館記念という特別の年度でもあったので、さまざまなものをさまざまな形で試行したが、ロビーは本来「音」を出す場として作られていないため、この特性を考えたプログラム開発が必要ではないだろうか。

<土・日曜日・祝日イベント>

土・日曜日・祝日は平日に比べ来館者が多いため、イベント性の強いものを実施した。

土曜日には、さまざまな音楽を知ってもらうと同時に実際に体験してもらうことを目的とした「やってみようコンサート」が企画された。

プログラムは非常に珍しいガムランなどの民族音楽系のもの、日ごろあまり触れることのない邦楽系のものを中心に行った。

外部の専門家によるデモンストレーション演奏・楽器紹介・体験コーナーなどの要素を含めた「やってみようコンサート」は、開館当初、非常ににぎわったが、次第にフリー観客の一定の確保が難しくなった。また外部の専門家に依存していたため費用もかかり、企画の見直しが求められた。

日曜日・祝日の「わいわいスタジオ」は「やってみようコンサート」よりいっそう、イベント性を重視しながら企画が立てられた。中止された「やってみようコンサート」のよき（実際に楽器に触れることができる）はこの中に取り入れることにした。

プログラムは、1回で観客がある程度の満足感を得られるような単発のもので、ショー的な要素が強いため、AVの館内放送なども取り入れた構成を考えた。

種類別に分けると、外部の専門家によるもの、職員によるもの、講座・クラブ受講生によるものの3つになる。企画・運営は、本来職員が中心になって行わなければならないのだが、外部プログラムは専門家に頼りがちであった。職員によるプログラムは、数も少なく、内容も希薄なものになってしまった。

2) 特別期間

(ア) 開館記念

開館記念事業は、開館当初の一般来館対応と土・日曜日・祝日イベントに集約された。

(イ) 冬休み

来館者が多いことや、期間中にクリスマスやお正月が含まれていることなどを生かしたイベントを企画した。

クリスマス期間中に実施した職員による「シンセサイザー・クリスマスコンサート」は、冬休み前の平日だったので、参加者が非常に少なかったが、日曜日と冬休みに入ってから2回行った「合唱団クリスマスコンサート」は好評だった。しかし、クリスマス以降の3日間

IV 各部の活動(1)

は、「やってみようコンサート」を行ったにもかかわらず、来館者はまばらで、参加者の確保が非常に難しかった。

お正月期間中は、邦楽系のイベントを中心にプログラムを実施した。

(ウ) 春休み

春休みは、冬休みに比べ来館者が多く、ロビーを使って参加型のイベントを幾つか実施した。

3) 講座・クラブ

60年11月からは、既にシミュレーションとして活動していた3つのクラブを含め4つの講座が、12月～61年1月からは更に5つの講座がスタートした。

各講座・クラブの活動内容もさることながら、「こどもの城」自体があまり知られていなかったため、ほとんどが定員の半分以下という苦しいスタートになった。

このような状況の中で、比較的順調にスタートできたのは、「お母さんもいっしょ・リトミック」と「リズム・ムービング」の2つの講座だった。いずれも対象が3～5歳の幼児で、“幼児教育”の必要性を重視する親が増えつつある現状に適していたためと思われる。

特に受講生の集まりが悪かったのは、邦楽・民族音楽系のものだった。学校や一般音楽教室ではできにくいものをといるねらいたが、講座・クラブの形態をとって指導を行うこと自体が非常に珍しいため、ある程度の活動実績ができるまでは受講生の確保は難しそうである。

今回の講座・クラブは、開講が年度の途中だったこともあって、申し込む側はスケジュールの都合がつかなくなかったり、通年講座に関しては、カリキュラムを作るのが難しいなどの運営面でも非常にやりにくいことが多かった。

4) グループ活動

グループ活動のシミュレーションとして開館前に行われた「宇宙ぼうけん旅行」から、音楽事業部はグループ活動に参加した。

開館後3か月間は月3回程度の割合で行われていたが、2月からは、週3回のペースになった。

60年度終了まで続いたこのような状態は、1つ1つのプログラムを充実させるには非常によかったが、職員の時間的な余裕がなくなり、ほかの事業（一般来館対応・講座など）に少なからず影響を及ぼす結果になった。

5) 劇場公演

本年度に実施・参加したものは、次の3つである。

- ・開館前から活動していた3つのクラブ（おはやし・ユースバンド・児童合唱団）の発表会である「ぼくらのサウンド21」。
- ・各地の民俗芸能、郷土芸能（子どもを中心としたもの）を紹介する「第1回こどもの城

4 音 楽

おまつり劇場」。

- ・国際交流の一環である「第1回イースター国際こどもフェスティバル」。

前者の2つは音楽事業部主催のもので、今後も定期的に行うものである。後者は、他事業部からの依頼による全館イベントで、講座・クラブ単位で出演するものであるが、今回は、準備期間が短かったため、音楽事業部内の他の事業に少なからず支障を来す結果となった。このような型の出演は今後ますます増えると予想されるが、講座・クラブの活動状況や音楽事業部全体の事業内容を考慮しながら、計画的に受け入れたい。

6) 施設レンタル

スタジオ貸与規程を作り、12月から貸与を開始した。スタジオのレンタル制度の存在がまだ知られていなかったため、件数は非常に少なく、諸経費を考えると赤字であった。しかし、少しでも多くの人に「こどもの城」の施設を利用してもらおうという点では、意義のある事業であり、今後の運営方針、規程の見直しが必要であった。

(4) 61年度の活動

本年度事業は前年度同様、次のように整理される。

①一般来館対応（ロビー活動など）②日曜日・祝日スタジオイベント ③特別期間イベント ④講座・クラブ ⑤グループ活動 ⑥劇場公演 ⑦施設レンタル。

①、②、④、⑤、⑦は通年の平常事業である。③、⑥は、特別期間を中心とした集中単発的なものだったが、準備を含め、実際には平常事業と平行、重複して行われた。

1) 平常期間

<ロビー活動>

本年度前半の音楽ロビーは、前年度に引き続き、外部専門家による民族音楽ガムランの楽器紹介・指導とシンセサイザーの楽器展示を中心に行った。しかし、フリーの来館者への働きかけが難しいため、活動の目的でもあった、来館者を巻き込んだ形での合奏には、なかなか発展しなかった。そこで、夏休みを機に、日ごろあまり聴くことのできない音楽や、受講生を増やすためにも広く紹介したい音楽5種類を日替わりで行う「ロビーライブコンサート」がスタートした。これは、ミニコンサートを中心に、子どもが参加・体験できるプログラムであった。平日の来館者はほとんどが幼児と母親で、ロビーという場所がら、リラックスして演奏を楽しみ、気軽に楽器に触れることができたので、非常に人気があった。しかしインストラクター（専門アルバイト）が、子どもに接することが苦手（経験不足）だったり、演奏することだけに気をとられがちになり、結局、前半と同じような問題点が生じてきた。

また、参加者のほとんどが幼児だったにもかかわらず、指導方法がやや専門的すぎて、実状に合わなかったため、年が変わってからは、曜日ごとにお話劇場ふうなものを取り入れたり、ただ、音楽を聴かせるだけでなく変化をつけたりして、幼児が受け入れやすいプログラムに変えていった。

<日曜日・祝日イベント>

日曜日・祝日のスタジオ事業は、すべて「わいわいスタジオ」のタイトルのもとに総括し、前年度に実施したものの充実、新企画の開発に努めた。

(1)外部専門家によるもの（パーカッショングループ・オペラクリエーション・ガムラングループなど）(2)講座・クラブの受講生によるもの(3)職員によるもの(4)児童館の子どもたちによるものの4種類に大別される。それぞれ、必ず観客が参加できるプログラムを盛り込み、前年度のようにジャンルの片寄りがないよう、年度初めの段階でスケジュールを立て、実施した。

(ア) 外部専門家によるもの

前年度は、すべて外部に依存した形で行われていたが、本年度から企画・構成は、職員が中心に行った。出演回数も、内部プログラムが充実してくるにつれて、絞られていった。

4 音 楽

(イ) 講座・クラブ受講生によるもの

「わいわいスタジオ」での発表会は、日ごろの成果を発表する場としても、また講座・クラブの活動紹介の場としても非常に有意義であった。しかし、講座・クラブの活動内容によって、発表会形式の「わいわいスタジオ」に出演できるものが限られていた。

(ウ) 職員によるもの

前年度は、プログラムの数も少なく、内容も未熟だったが、本年度は初めの段階でスケジュールが決まっていたので、計画を立てて練習できた。また、幾つかの新プログラムを実施し、回を追うごとに内容も充実してきた。しかし、まだ回数も少なく、新プログラムの開発も必要である。

(エ) 児童館の子どもたちによるもの

テストケースとして、東京近郊の児童館との交流を持つことを目的に実施した。こちらの体制は、不完全であったが、子どもたちにとってもこちらにとっても貴重な経験だった。

2) 特別期間

(ア) 児童福祉週間

こどもの日を含めた大型連休で、来館者が多いことも予測されたので、イベント性の強い「スタジオ5/5」を実施した。これは、「わいわいスタジオ」のスペシャル版で、子どもに楽しんでもらうバラエティー・ショー的に企画・構成した。

非常に好評だったが、出演団体が多かったため、ゲストたちのコントロールが大変だった。

(イ) 夏休み

夏休みならではのユニークなイベントを「わいわいスタジオ」形式で実施した。イベントの中には、音楽に直接関係ないものもあったが、スタジオBに適したものであれば受け入れていくという、新しい考え方が生まれた。プロの外部団体によるイベントも実施したが、「こどもの城」の音楽活動の基本方針との調整など、幾つかの問題が生じた。

(ウ) 開館1周年記念

各種セレモニーへの受講生の参加のほか、「わいわいスタジオ・スペシャル ハッピーバーズデーこどもの城」と題して、受講生によるミニコンサートを実施した。

(エ) 年末・年始

クリスマス・年末はさまざまな企画を立てたが、昨年同様来館者は少なかった。来年度は、このような現状を考慮した年末事業を考える必要があるだろう。

年始は前年同様、邦楽系を中心にした「わいわいスタジオ」を実施した。

(オ) 春休み

「ぼくらのサウンド'87」と題する講座・クラブ発表会を全会員・受講生参加のもと、青山円形劇場で行った。

<特別セミナー>

本年度初めて行った「サマー・セミナー」は、成人向けの短期集中型のもので着眼点は非

IV 各部の活動(1)

常によかったが、各セミナーによって申し込みに片寄りがみられた。講座・クラブ同様、邦楽・民族音楽系は極端に少なく、特殊なものだけにPRのやり方を改めて考えていく必要がある。参加者は、教育現場の人が多く、即戦力となるものが求められていた。熱意のある参加者や、遠方からの参加者もあり、夏休みに適した企画として好評だった。

3) 講座・クラブ

I, II期には全16コース, III期からは17コースが開講し, 受講生は3歳児から成人まで約700人に達した。「こどもの城」の知名度が高まり, 講座・クラブの存在と特徴がはっきりするにつれて, 受講生も順調に増えてきたが, 邦楽・民族音楽系のものは依然として受講者確保が難しかった。

邦楽・民族音楽系の指導は講座・クラブの形態で行っているが, 定着させるのはなかなか難しい。活動をどうアピールしていくかが, 今後の課題である。

また, 専門性の高いもの, 継続期間が長いものは, レベル差が生じ, 初心者を補充することができなくなりつつある。それぞれの講座・クラブの特徴や目的を踏まえたレベル設定, 受講期間の見直しが早急に必要である。

「こどもの城」の講座・クラブは, 本来, 学校や一般の音楽教室とは違った基本方針を持っている。「こどもの城」ならではの方針の確認とPRが不断に求められているといえよう。

<合宿> 7, 8月に, 講座・クラブ合わせて3つの合宿を行った。

合宿は, それぞれの特徴を生かした形で行われ, 参加した子どもにさまざまな成果が認められた。しかし, 参加人数から見て, 合宿という形態が適当かどうか見直すべきケースもあった。また, 実施期間が, 事業の多い夏休みに当たっているため, 多くの職員を必要とするものについては問題が残った。他事業部の事業も考慮しながら, 実施を考えていかなければならない。

4) グループ活動

前半は前年同様, ほかの事業との兼ね合いを考えずに受け入れていたが, 全体の事業が活発になるにつれて, 従来の体制ではグループ活動を受け入れることが難しくなった。

そこで, 活動を円滑に行っていくため曜日の限定, プログラムの整理など幾つかの点を改良した。

グループ活動全体が組織化されるにつれ, これが音楽事業部の重要な活動となってきた。

時間的な余裕がなく, 新しいプログラムを開発することはできなかったが, 既に実施しているプログラムを, 対象や, 目的に応じてアレンジできる柔軟性が生まれた。

5) 劇場公演

(ア) 音楽事業部主催

「ユースバンド・サマーコンサート」「おまつり劇場」「第1回講座・クラブ発表会」を開

4 音 楽

いた。

内容的には、意義のある公演だった。特に講座・クラブ発表会「ぼくらのサウンド'87」は、音楽事業部の活動を多くの人にアピールできた。しかし、1事業部では劇場公演の運営は難しい。劇場事業本部などとの協力体制が課題である。

(イ) 劇場からの参加依頼型のもの

「絆コンサート」「ファミリーフェスティバル」「アジア音楽祭」「イースター国際こどもフェスティバル」などに参加、出演した。

6) 施設レンタル

児童・学生・一般の音楽活動をサポートする目的で始められたが、次第にレギュラーに使用する合唱団体などが増えてきた。他方、これに伴い、職員の対応負担が急増するという課題が生じている。

5 A V 事業部

IV 各部の活動(1)

(1) 60年度活動一覽表 1) 週間事業実施時間

曜日 時間	火			水			木			金			土			日		
	AVライブラリー	マスターコントロール室	映像調整室															
10:00																		
11:00																		
12:00																		
13:00																		
14:00	AVライブラリー	収録・編集	一般来館対応															
15:00	AVライブラリー	収録・編集	一般来館対応															
16:00	AVライブラリー	収録・編集	一般来館対応															
17:00	AVライブラリー	収録・編集	一般来館対応															
18:00																		
19:00																		

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
ふしぎなふしぎな ビデオの世界II	61. 1. 28~ 3. 14	平日 13:00~ 17:30 土・日・祝日 10:00~ 17:30	音楽ロビー	(人) *木辺高敏 *昼間行雄	“テレビ電話” “ビデオ万華鏡” “音をみるテレビ” などビデオ機器を組み合わせたシステムを展示。
うごく— フィルムで遊ぼう①	1. 15	14:00~ 15:30	造形スタジオ	*昼間行雄 *木辺高敏 造形職員	造形事業部との共同企画。 透明な16ミリ映画フィルムに油性マジックで彩色させ、フィルムをつなぎ合わせて、スクリーンに映しだした。 参加30人。
うつす— ピンホールカメラ	1. 26	同 上	同 上	同 上	造形事業部との共同企画。 ピンホールカメラを紙とボール紙で作り、周囲の様子を映した。参加25人。
うつす— ビデオをうつしてみる	2. 2	同 上	同 上	同 上	造形事業部との共同企画。 ビデオカメラを使って、テレビ画面に自分たちの姿を映しだしてみた。参加20人。
うごく— フィルムで遊ぼう②	2. 16	同 上	同 上	同 上	造形事業部との共同企画。 透明な16ミリ映画フィルムの1コマ1コマに、文字や少しずつ動きの違う絵を油性のマジックでかいて、上映。 参加20人。
うごく— ビデオでアニメを作ってみよう	3. 9	同 上	同 上	同 上	造形事業部との共同企画。 動きの異なる2枚の絵を約4分の1秒ずつ交互にビデオに収録。それを再生して動いて見えることを体験した。

IV 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
うごくー フィルムで遊ぼう③	61. 3. 23	14:00～ 15:00	造形スタジオ	※木辺高敏 ※昼間行男 造形職員 (人)	造形事業部との共同企画。 記録的な大雪にもかかわらず13人参加した。
おもしろビデオ館	2. 6 ～3. 27 (木曜日, 計8回)	16:00～ 17:00	音楽スタジオ B	※昼間行雄 ほか1	AVライブラリーにあるソフトのなかから、タイトルが知られてないがために見られることの少ないソフトで、しかも優れた作品を選んで集団で視聴する。8回で延べ229人参加(1回平均約29人)。
おもしろビデオ館 特別上映会	2. 23	13:00～ 14:00	同 上	同 上	『ごんぎつね』『笛ふきの岩』『ペンギン村の消防隊』の3本のアニメを上映。参加50人。
わいわいスタジオ	11. 3～ 61. 3. 31 (日曜日, 全32回)	12:00～ 17:30	音楽スタジオ B 映像調整室	※木辺高敏 ※昼間行雄 ほか2	音楽事業部・研修教養部・造形事業部との共同企画。 音楽スタジオBで行われる各種イベントに、催事案内情報などを盛り込み、全館に中継。

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(開館記念) ふしぎなふしぎなビデオ の世界 I	11. 1～ 12. 20	平日 13:00～ 17:30 土・日・祝日 10:00～ 17:30	音楽ロビー	※木辺高敏 ※昼間行雄 ほか1 (人)	モニターTV, ビデオカメラ, テロップナーなどの機器を組み合わせで“自分自身の似顔絵書き”“テレビ電話”“マルチモニターTV”などを展示。
(冬休み) テレビディスプレイ	12. 21～ 61. 1. 26	平日 13:00～ 17:30 土・日・祝日 10:00～ 17:30	同 上	※木辺高敏 ※昼間行雄 ほか1	モニターTV15台をピラミッド状に積み重ね、イルミネーション等を配したクリスマスツリーを展示。“Merry Xmas”, “メリークリスマス”の文字などを放映。

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(冬休み) 童話の世界へタイムトラ ベル!	12. 25~ 61. 1. 7 (12. 29~ 61. 1. 2 休館)	10:00~ 19:00	AVライブラ リー 利用料 15分 100円 30分 200円 60分 300円 90分 400円 120分 500円	(人) 1日平均 職員3 非常勤職員5 パート5	10日間で利用組数(1 ソフト視聴1ブース単 位)2,474組,1日平均 247組 利用人数合計6,322人, 1日平均632人 平日平均100組(約250 人)の約2.5倍の利用 となり,活況を呈した。 童話ソフトが,よく見 られるようになった。
(同上) こんにちはこどもの城で す	12. 26~ 61. 1. 7	12:00~ 17:30	映像調整室	※木辺高敏 ※昼間行雄 ほか2	映像調整室にビデオカ メラを設置し,冬休み 特別期間の毎日の催事 情報,ニュース,映像 トピックス等をこども の城全館に生中継。 広報部,音楽事業部が 協力。
(春休み) 8ミリビデオ教室 (協力富士フィルム)	3. 26	13:30~ 14:30 15:30~ 16:00 (2回)	音楽スタジオ B	※木辺高敏 ※昼間行雄 外部スタッフ (富士フィルム インストラクタ ー 藤崎晴代ほ か2)	各回20人ずつが参加。 8ミリビデオカメラを 用い,5人ずつ4グル ープに分かれてビデオ 撮影。
(同上) ビデオでたんけん 動物 ランドへひとつとび!	3. 26~31	10:00~ 19:00	AV ライブラリー	1日平均 職員3 非常勤職員5 パート5	6日間で利用組数(1 ソフト視聴1ブース単 位)1,813組 1日平均302組 利用人数合計4,589人 1日平均765人 平日平均の約3倍の利 用となり,活況を呈し た。動物に関するAV ソフトが,よく見られ るようになった。

4) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受講数						
女性のための ビデオ教室	女性 (一般)	(人) 16	(人) 5	木曜日 10:30~ 12:30	音楽スタジオB	11. 21~ 61. 3. 13 全14回	(円) 20,000	※木辺高敏 ※昼間行雄	出席率86%

IV 各部の活動(1)

(2) 61年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	火		水		木		金		土		日	
	AVライブラリー・マスター・コントロール室	映像調整室	AVライブラリー・マスター・コントロール室	映像調整室	AVライブラリー・マスター・コントロール室	映像調整室	AVライブラリー・マスター・コントロール室	映像調整室	AVライブラリー・マスター・コントロール室	映像調整室	AVライブラリー・マスター・コントロール室	映像調整室
9:00												
10:00												
11:00		グループ活動		グループ活動		ファミリービデオクラブA		グループ活動				
12:00												
13:00												
14:00	収録・編集	収録・編集	収録・編集	収録・編集	収録・編集	収録・編集	収録・編集	収録・編集	収録・編集	収録・編集	収録・編集	わいわいスタジオ
15:00	AVライブラリー自由利用		AVライブラリー自由利用		AVライブラリー自由利用		AVライブラリー自由利用		AVライブラリー自由利用			
16:00												
17:00						ファミリービデオクラブB		母子のビデオ教室				
18:00						おもしろビデオ館						
19:00												

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
わいわいスタジオ	4～3月 (日曜日・祝 日, 全45回)	13:30～16:30	音楽スタジ オB及び映 像調整室	(人) 職員4(音楽 事業部の職 員も協力)	音楽スタジオBで行われる各 種イベントの中継に、催事案 内情報などを盛り込んで全館 に送出。音楽事業部との共同 企画。
ぱたぱたアニメを つくろう	4.16～7.9(水 曜日, 全12回) 9.20～62.3.14 (土曜日, ただ し祝日, 特別期 間は除く。17回)	16:30～17:30	音楽ロビー	職員3	2枚の絵を交互に約1/4秒ず つ20～30コマビデオ撮りし て、再生する。自分たちの書 いた(静止)画が動いて見え ることを体験する。映画・ア ニメーションが動いて見える 原理の根本を体験させる。
おもしろビデオ館 「世界ののりもの 大百科」	4.10～5.29 (木曜日, 全7 回)	16:30～17:00	音楽スタジ オB	職員3	AVライブラリー所蔵ビデオ ソフトの中から秀作ソフトを 選び、上映。(延べ65人参加)
おもしろビデオ館 「水のなかにはな にがいる?」	6.5～7.17 (木曜日, 全7 回)	同 上	同 上	同 上	水中で生活する生きもののビ デオ・ソフトを集め上映。 (延べ97人参加)
おもしろビデオ館 スペシャル 「動く絵本たち」	9.14・15	14日13:30～ 16:00(3回) 15日11:30～ 16:00(4回)	同 上	職員3(音 楽事業部の 協力1)	絵本を素材として作ったアニ メ作品4本(上映時間約30分) を上映。 (延べ1,417人参加)
おもしろビデオ館 「うごく!すてき な絵本たち」	9.18～10.2 (木曜日, 全3 回)	16:30～17:30	同 上	職員3	絵本を素材として作ったアニ メ作品を集めて上映。
おもしろビデオ館 「おどる画面だ! ビックリビデオ」	11.6～11.27 (木曜日, 全4 回)	同 上	同 上	同 上	新しい、不思議な映像の世界 を体験してもらおうと、ちょ っと変わったビデオを特集。
おもしろビデオ館 スペシャル インフォビジョン 「エンジョイ・ス ポーツ野球編」	10.10	13:00～16:00 (2回)	同 上	職員3(音 楽事業部の 協力1)	体育の日にちなんで、スポー ツ関係のインフォビジョンを 集団で視聴。
おもしろビデオ館 「みんなでみよう まんがえいが」	11.6～27 (木曜日, 全4 回)	16:30～17:00	同 上	職員3	昭和30年代に作られたアニメ ーション作品を上映。一部作 品は白黒。(延べ75人参加)
おもしろビデオ館 スペシャル インフォビジョン 「日本全国鉄道の 旅」	11.23・24	23日11:30～ 16:00(3回) 24日11:30～ 16:00(4回)	同 上	職員3(音 楽事業部の 協力1)	会場の人たちの意見を取り入 れて、コースを選択。 (延べ1,006人参加)

IV 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
おもしろビデオ館 「これが世界の鉄 道だ！」	12.4~18 (木曜日, 全3 回)	16:30~17:00	音楽スタジ オB	職員3	世界の蒸気機関車, 特急を紹 介するビデオを特集。 (延べ42人参加)
おもしろビデオ館 スペシャル インフォビジョン 「日本全国鉄道の 旅」	61.1.15	13:30~16:00 (2回)	同 上	職員3 (音 楽事業部の 協力1)	こどもの城オリジナルのソフ ト“インフォビジョン”を集 団で視聴。 (延べ199人参加)
おもしろビデオ館 「映像百科・くら しの日本地図」	62.1.22~2.26 (木曜日, 全6 回)	16:30~17:00	同 上	職員3	私たちの身近な生活を取りあ げた作品を上映。 (延べ14人参加)
おもしろビデオ館 スペシャル 「生きものはとも だち」	2.15	13:30~16:00 (3回)	同 上	職員3 (音 楽事業部の 協力1)	7作品上映。 (延べ277人参加)

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(春休み) 「どうぶつランド へひとつとび」	61.3.25~4.6	10:00~19:00	AVライブ ラリー	(人) 職員3 アルバイト 5	ライブラリーの数多くある動 物ソフトから, すぐれたもの を選んで特集した。
(同上) しねまていく 「兄貴たちのパワ フル・ムービー」	4.1 (2回)	11:00~19:45	音楽スタジ オB	職員3	東京造形大学映像学科の学生 が作った8ミリ映画, 16ミリ映 画作品を上映した。
(同上) おもしろビデオ館 スペシャル 「今日は1日ビデ オ, ビデオ!」	4.2	11:00~17:30	同 上	職員4	ビデオ・ジョッキー形式で13 本のビデオを連続上映。毎週 木曜日に行われている「おも しろビデオ館」のほかに, 祝 祭日及び特別期間に特別上映 会を行った。
(児童福祉週間) おとぎばなしが いっぱい	4.25~5.5	10:00~18:30	AVライブ ラリー	職員3 アルバイト 5	ライブラリーのビデオ・ソフ トから, 幼児向けのおとぎ話 のアニメ, 人形アニメを特集 した。

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(夏休み) あなたのおすすめ ベスト3	7.18～8.10	10:00～18:30	AVライブ ラリー	(人) 職員3 アルバイト 5	投票してくれた子どもたちの中から抽選で毎週10人にマックローのバッジを送付した。
(同上) 宿題に役立つかな	8.11～31	同 上	同 上	同 上	夏休みの宿題に役立つようなソフトを選び、工作物については実際に作品を展示してPRした。
(同上) AVアニメーション フェスタ					
おもしろビデオ館 スペシャル 「世界と日本のア ニメ」	8.1	11:00～17:30	音楽スタジ オB	職員2 ほか2	夏休みAVアニメーション・フェスタの一環として、世界各国のアニメ作品と、日本の昔のアニメ作品20本を一挙に上映。(延べ385人参加)
「高校生のアニメ 作品集」 「ふしぎアニメけ っさく集」	8.2(3回)	13:00～18:00	同 上	同 上	夏休みAVアニメーション・フェスタの一環として2プログラムを各3回上映。(延べ361人参加)
「アニメーション 動くヒミツ大公開」	8.3	13:30～17:00	スタジオB 及び音楽ロ ビー	同 上	わいわいスタジオを公開放送。アニメを作っている人たちを招いて、パネルディスカッションをした。終了後ロビーで、ばたばたアニメに挑戦。
(同上) おもしろビデオ館 スペシャル 「空・宇宙・未来 への挑戦」	8.14～16	12:00～17:00	同 上	同 上	5作品を連続上映。(延べ2,159人参加)
(同上) おもしろビデオ館 スペシャル 「地球の大自然 でっかいぞ!ぼく らの地球」	8.18～21	11:30～17:10	同 上	同 上	自然を取り上げたビデオソフト5作品を連続上映。(延べ1,491人参加)
(開館1周年記念) オリジナルソフト 特集	11.1～3	10:00～18:00	AVライブ ラリー	職員2 アルバイト 2	インフォビジョンを始め、青山劇場の収録作品など、こどもの城の自然ソフトを特集。
(冬休み) 「おとうさんおか あさんと一緒に昔 のヒーローに会い に行こう」	12.23～62.1.7	10:00～18:00	同 上	職員3 アルバイト 5	いつもはブースで寝ている父母が、積極的に番組を選択するよう昔のヒーロー物を特集。

IV 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(冬休み) おもしろビデオ館 スペシャル 「親と子で楽しむ 世界・日本のおは なし」	12.26~28 62.1.6・7	11:00~16:00 (各日とも2作 品を5回上映)	同 上	職員 2 ほか 2	人形アニメ10本を選び、各日 2本ずつ上映。 (延べ1,157人参加)
(春休み) しねまていく 「ふしぎ?フィル ム アニメーショ ン80けっさく集」	62.3.20・21	13:00~17:00 (各2回上映)	同 上	職員 3	自主制作アニメーション(8 ミリ,16ミリ)の上映。 (延べ687人参加)
(同上) しねまていく 「傑作アニメー ション」	62.3.26・27	11:30~17:00 (各3回上映)	同 上	同 上	上映会。カナダ・ソビエトの 秀作アニメーションの上映。 (延べ931人)

4) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定員 (人)	受講数 (人)						
女性のための ビデオ教室	一般女 性	16	5	木曜日 10:30~ 12:30	音楽スタ ジオB	4.17~7.3 全12回	(円) 20,000	*木辺高敏 *昼間行雄	出席率73%(第2 期以降は中止。継 続受講者はファミ リービデオ・クラ ブに)
母と子のビ デオ教室 (61年度I 期)	母子	8	4	金曜日 13:30~ 15:30	同 上	4.18~7.4 全12回	20,000	*木辺高敏 *昼間行雄ほか 1人	出席率90%
(同上) (61年度II 期)	同上	8	6	木曜日 13:30~ 15:30	同 上	9.11~ 11.27 全12回	20,000	同 上	出席率97%
(同上) (61年度III 期)	同上	8	10	金曜日 13:30~ 15:30	同 上	62. 1.9~3.13 全10回	16,000	同 上	出席率89%
ファミリー ビデオクラ ブ (61年度II 期)	こども の城ビ デオ教 室終了 者	6	6	Aコース 木曜日 10:30~ 12:30 Bコース 金曜日 13:30~ 15:30	同 上	9.11~ 11.27 全12回 9.12~ 12.5 全12回	15,000	*木辺高敏 *昼間行雄 (Bコースのみ ほかに1人)	各人のテーマに従 って、撮影・編集 等を行ううえで、 ハード・ソフトの 両面のアドバイス ・指導を行う。出 席率(A)95% (B)79%

5 A V

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定員 (人)	受講数 (人)						
ファミリー ビデオクラ ブ (61年度III 期)	こども の城ビ デオ教 室終了 者	12	9	Aコース 木曜日 10:30~ 12:30	同 上	62. 1.8~3.19 全10回	(円) 12,000	*木辺高敏 *昼間行雄 (Bコースのみ ほかに1人)	出席率70%
				Bコース 木曜日 13:30~ 15:30		同 上			出席率88%

(短期)

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定員 (人)	受講数 (人)						
保育クラブ の母と子の ビデオ教室	保育ク ラブの お母さ ん	8	6	7.11・18 13:30~ 16:30	音楽スタ ジオA	2回	(円) 2,000	*木辺高敏 *昼間行雄	保育クラブ会員に 対するサービスと 母と子のビデオ教 室のPR(体験) を兼ねたもの。
		8	10	8.28・29 13:30~ 16:30	音楽スタ ジオB	同 上			
保育クラブ のおとうさ んのための ビデオ相談 教室	保育ク ラブの お父さ ん	10	2	7.13, 8.31 10:00~ 12:00	音楽スタ ジオA	2回	1,500	*木辺高敏	保育クラブ会員 のお父さんを対象 とした、ビデオ全般 についての相談教 室。
夏休みこども ビデオ教室	小4~ 高校生	16	2	8.5・6 13:00~ 16:00	音楽スタ ジオB	同 上	2,000	*昼間行雄	
保育研究開 発部母子教 室(4期) (5期) (6期)			12 13 13	5.31 12.18 62.3.5・ 12				*木辺高敏	保育研究開発部 の母子教室の1コマ として、ビデオ・ カメラを通して子 どもを見ている立 場から、“みる” ことについてビデ オを使って講義。

IV 各部の活動(1)

61年3月分類別利用状況一覧

分類(コード:名称)	利用回数A	A/総回数	分類(コード:名称)	利用回数A	A/総回数
01 こどもの城オリジナル作品	27	0.5671	55 映画 1	144	3.0246
小計	27	0.5671	56 映画 2	125	2.6255
11 天文学と宇宙	78	1.6383	小計	325	6.8263
12 地球と科学	7	0.1470	61 音楽	12	0.2520
13 物体と運動	2	0.0420	62 クラシック音楽	9	0.1890
14 電気・音・光	5	0.1050	63 ロック・ポップス 1	32	0.6721
17 気象	5	0.1050	64 ロック・ポップス 2	54	1.1342
19 その他/宇宙と地球の科学	3	0.0630	65 ジャズ	1	0.0210
小計	100	2.1003	66 日本の音楽	301	6.3222
23 水の中の生き物	17	0.3571	68 その他/音楽と美術	27	0.5671
24 ほ乳動物	74	1.5543	69 美術と工芸	12	0.2520
25 鳥,へび,かえるの仲間	10	0.2100	小計	448	9.4096
26 昆虫	16	0.3361	71 海・山のスポーツ	22	0.4621
28 生態系	1	0.0210	72 球技(集団)	58	1.2182
29 その他/生き物(生物)	42	0.8822	73 球技(個人)	5	0.1050
小計	160	3.3607	75 武道・格闘技	40	0.8402
31 世界	13	0.2731	76 海と空の乗り物	7	0.1470
32 世界の歴史	3	0.0630	77 陸の乗り物	49	1.0292
33 アメリカ大陸	10	0.2100	79 その他/スポーツ・のり物	16	0.3361
34 中国	15	0.3151	小計	197	4.1378
35 アジア・オセアニア	22	0.4621	81 アニメ 1(童話)	556	11.6782
36 アフリカ	1	0.0210	82 アニメ 2(名作アニメ)	144	3.0246
37 ヨーロッパ・ソビエト	20	0.4201	83 アニメ 3(昔話/歴史)	148	3.1086
小計	84	1.7644	84 アニメ 4(マンガ)	278	5.8391
41 日本の歴史	4	0.0840	85 アニメ 5(マンガ)	1,656	34.7826
42 昭和の歴史	4	0.0840	86 アニメ 6(その他)	128	2.6885
43 日本の自然と旅	11	0.2310	87 世界のアニメ	63	1.3233
44 日本の風俗	2	0.0420	88 特撮TV 1	8	0.1680
45 日本の文化	3	0.0630	89 特撮TV 2	399	8.3806
47 産業	1	0.0210	小計	3,380	70.9935
小計	25	0.5250	92 身体の健康	7	0.1470
51 外国語	33	0.6931	93 看護と性	1	0.0210
52 趣味	13	0.2731	98 安全なくらし	2	0.0420
53 芸能 1(落語)	5	0.1050	99 その他/くらしと健康	5	0.1050
54 芸能 2	5	0.1050	小計	15	0.3150

62年3月分類別利用状況一覧

分類(コード:名称)	利用回数A	A/ 総回数	分類(コード:名称)	利用回数A	A/ 総回数
01 こどもの城オリジナル作品	39	0.6597	57 映画 3 (その他)	28	0.4736
02 インフォビジョン	109	1.8437	58 外国語1 (童話)	29	0.4905
03 こどもの城オリジナル作品	2	0.0338	59 外国語2 (その他)	3	0.0507
小計	150	2.5372	小計	202	3.4166
11 天文学と宇宙	32	0.5413	61 音楽	6	0.1015
12 地球と科学	11	0.1861	62 クラシック音楽	20	0.3383
13 物体の運動	2	0.0338	63 ロック・ポップス 1	42	0.7104
14 電気・音・光	6	0.1015	64 ロック・ポップス 2	48	0.8119
15 化学	3	0.0507	65 ジャズ	1	0.0169
17 気象	1	0.0169	66 日本の音楽	107	1.8099
小計	55	0.9303	67 世界の民謡	2	0.0338
21 生物全体	4	0.0677	68 その他/音楽と美術	16	0.2706
22 すごく小さな生き物	1	0.0169	69 美術と工芸	6	0.1015
23 水の中の生き物	13	0.2199	小計	248	4.1948
24 ほ乳動物	100	1.6915	71 海・山のスポーツ	20	0.3383
25 鳥,へび,かえるの仲間	12	0.2030	72 球技(集団)	28	0.4736
26 昆虫	14	0.2368	73 球技(個人)	3	0.0507
27 植物	3	0.0507	75 武道・格闘技	24	0.4060
28 生態系	1	0.0169	76 海と空の乗り物	14	0.2368
29 その他/生き物(生物)	23	0.3890	77 陸の乗り物	76	1.2855
小計	171	2.8924	78 宇宙の乗り物	19	0.3214
31 世界	7	0.1184	79 その他/スポーツ・のり物	7	0.1184
32 世界の歴史	5	0.0846	小計	191	3.2307
33 アメリカ大陸	8	0.1353	81 アニメ 1 (童話)	582	9.8444
34 中国	7	0.1184	82 アニメ 2 (名作アニメ)	210	3.5521
35 アジア・オセアニア	9	0.1522	83 アニメ 3 (昔話/歴史)	314	5.3112
36 アフリカ	1	0.0169	84 アニメ 4 (マンガ)	314	5.3112
37 ヨーロッパ・ソビエト	8	0.1353	85 アニメ 5 (マンガ)	2,179	36.8572
38 世界の文学	10	0.1691	86 アニメ 6 (その他)	51	0.8627
小計	55	0.9302	87 世界のアニメ	41	0.6935
41 日本の歴史	20	0.3383	88 特撮TV 1	21	0.3552
42 昭和の歴史	6	0.1015	89 特撮TV 2	1,068	18.0650
43 日本の自然と旅	6	0.1015	小計	4,780	80.8525
45 日本の文化	1	0.0169	91 福祉と心の健康	2	0.0338
小計	33	0.5582	92 身体と健康	2	0.0338
51 あそびとおもちゃ	10	0.1691	93 看護と性	5	0.0846
52 趣味	8	0.1353	94 発達と保有	1	0.0169
53 芸能 1 (落語)	8	0.1353	97 食べ物とくらし	3	0.0507
54 芸能 2	9	0.1522	99 その他/くらしと健康	14	0.2368
55 映画 1 (特撮)	60	1.0149	小計	27	0.4566
56 映画 2 (童話)	47	0.7950	合計	5,912	99.9995

(3) 60年度の活動

AV事業部門の活動は、子どもがAVソフトを視聴するAVライブラリーおよび、AVソフトの準備を行うAV資料室、AVライブラリー用自作ソフトを制作するマスターコントロールと、子どもに映像による表現を体験させるビデオ活動の3つに分けられる。

1) AVライブラリー・AV資料室

AVライブラリーは、子どもが自分でビデオソフトを選び、視聴してもらうことに重点を置いている。現代の子どもたちは、日常生活の中でかなり長時間テレビに接している。テレビの映像は一方的に流されるので、受け身になりやすい。

そこでAVライブラリーでは、押し付けられることなく、子どもが2,000本のソフトから、「どれが面白そうかな」と迷いながら自分で選択できる環境をつくることに重点を置いた運営を行い、自分から積極的に身につけるべきものを探す子どもを育てることを目指している。

ビデオソフトの場合、番組は選択できても、その中身は30分なり1時間なりの一方的な流れである。そこで更に番組の中で、そのとき自分が知りたいことを選べるプログラムとして、通常のビデオテープ、ビデオディスクのほかにコンピュータとビデオディスク、CDROMを組み合わせた対話型ソフトとして、「こどもの城」独自の「インフォビジョン」を用意し、きめ細かい選択の要求にこたえられるよう努めている。

AV資料室では、AVライブラリー用ビデオソフトの試視聴、データ処理、インフォビジョンのプログラミング、子どもたちが見たいものをより選びやすくするためのコンピュータを利用した申し込み機「けんさくくん」のプログラミング、目録制作、更に館内広報用週間催し物案内画面の制作などを行っている。

(ア) 平常期間

AVライブラリーは開館から5か月かかって、ようやく円滑な運営ができるまでにこぎつけたのが精いっぱい、それ以外には手が回らなかったというのが実感である。

11月オープン時には、ホスト・コンピュータダウン、ブースのハード障害、コンピュータ・プログラムと実際とのずれ、運用操作ミス、ビデオソフト不足などが重なり、混乱した。中でも待ち時間が不正確になる場合についての利用者の苦情が多かった。原因としては、準備期間の不足もあったが、むしろ設計時の予想と現実にはずれがあったことのほうが大きい。深く反省しつつ、これらを1つ1つ改善し、ホスト・コンピュータの応答速度を除いて、61年3月にはほぼ円滑な運営が行えるようになった。

AVライブラリーは日曜日、祝祭日は能力いっぱい稼動しており、平日の利用者をいかに増やすかが課題として残っている。

利用できるAVソフトは、オープン時約700本でスタートし、61年3月には約1,700本が登

録処理を終わり、利用可能になった。実際の利用者がオープン前の予想と異なり、小学校低学年以下の家族連れが大半だったため、現状では数の少ない低年齢向けのソフトの充実が必要である。

「インフォビジョン」は、59・60年度で4本を制作したが、オープン時に用意できたのは「エンジョイ・スポーツ サッカー・ラグビー編」のみであった。ほかには62年度に繰り越してしまった。

課題としては、まずAVライブラリーの独自性を持つための、AVソフトの充実が必要である。徹底した子ども向け市販ソフトの充実、ほかの施設にはないインフォビジョン・ソフトの充実及びマスターコントロール制作の自作ソフトの充実の3点である。

次に、利用者がソフトをより選択しやすくするために、きめ細かい目録の整備、キーワードの登録、相談に答えるための職員の知識の充実が必要であると思われる。

(イ) 特別期間

AVライブラリーでは、冬休み、春休みの特別期間に、「童話の世界へタイムトラベル」「動物ランドへひとつとび」というテーマを設け、“お勧め品”を用意した。こんな面白いソフトもあるんですよ、と利用者に知ってもらい、選択の助けとする目的である。しかし、特別期間は利用者数が能力いっぱいのところへ、利用が少数のソフトに集中して、待ちの原因になるなどのマイナス面もあり、むしろ重点を目録の整備に置いた、ゆるい形の視聴強調が適切かと思われる。

60年度・AVライブラリー利用実績

項目 月	利用組数 (1ソフト視聴 1ブース単位) (組)	利用 人数 (人)	利用料金換算 (入館券対応のため 実収でない) (円)	よく見られたAVソフト
11 (26日間)	5,610	14,871	1,307,980 (実収入は260千円)	1. エンジョイスポーツ 150回 471人 2. ウルトラマン1 116回 304人 3. みつばちマーヤの冒険 100回 321人 4. がんばれタブチ君 94回 247人 5. ウルトラマン2 92回 240人
12 (24日間)	4,009	10,066	1,002,550 (実収入は373千円)	1. ドラエもん「宇宙開拓史」 198回 516人 2. 〃 「のび太の恐竜」 144回 396人 3. 鬼太郎「妖怪水車」 142回 403人 4. エンジョイスポーツ 96回 214人 5. 怪物くん 77回 213人

IV 各部の活動(1)

項目 月	利用組数 (1ソフト視聴 1ブース単位)	利 用 人 数	利用料金換算 (入館券対応のため 実収でない)	よく見られたAVソフト
	(組)	(人)	(円)	
1 (26日間)	4,848	12,342	1,183,400 (実収入は400千円)	1. 鬼太郎「妖怪水車」 423回 1,132人 2. ドラエもん「宇宙開拓史」 239回 670人 3. // 「のび太の恐竜」 198回 556人 4. はだかの王様 74回 211人 5. もりの音楽隊 72回 206人 6. エンジョイスーツ 70回 168人
2 (24日間)	4,102	10,341	1,027,700 (実収入は415千円)	1. 鬼太郎「妖怪水車」 343回 922人 2. ドラエもん「宇宙開拓史」 214回 610人 3. // 「のび太の恐竜」 161回 418人 4. エンジョイスーツ 57回 132人 5. 怪物くん 48回 128人
3 (28日間)	5,548	13,934	1,440,200 (実収入は583千円)	1. 鬼太郎「妖怪水車」 262回 705人 2. ドラエもん「宇宙開拓史」 241回 686人 3. // 「のび太の恐竜」 107回 282人 4. 鬼太郎「妖怪裁判」 99回 281人 5. // 「妖怪大戦争」 80回 222人 14. エンジョイスーツ 36回 99人
計 (128日間)	24,117	61,554	5,961,830 (実収入は2,031千円)	① 鬼太郎「妖怪水車」 1,170回 3,162人 ② ドラエもん「宇宙開拓史」 892回 2,482人 ③ // 「のび太の恐竜」 610回 1,652人 ④ エンジョイスーツ 409回 1,084人 ⑤ 怪物くん 217回 625人

2) マスターコントロール・ビデオ制作

マスターコントロールは、青山劇場、青山円形劇場の収録機能、ロケ機能、ビデオ編集機能、コンピュータ画像制作機能、アトリウムの大型液晶テレビ及び案内テレビへの番組送出機能を持つ映像センターであり、AVライブラリーへの番組供給及び外部から依頼された番組制作を行っている。初期故障が多発し、改善中であるが収録に関しては支障なくこなすことができた。

本年度は劇場収録約40本、ロケ収録2本、館内記録約10本、館内案内2本の制作を行った。AVライブラリー向けの番組供給の増加、館内案内番組の制作の増加、及び外部依頼による収入の増加を目指したいが、少ない人数でいかに効率的に仕事を行うかが課題である。

3) ビデオ活動

「こどもの城」の将来構想に関する意見書(昭和60年9月)に、AV事業部門の在り方として、次のような提言がなされている。

「映像作品の鑑賞、ビデオ・フィルムの制作を通して、映像表現などに関するメディア活

用能力を開発する計画的なメディア教育を企画してはどうか。(略) わが国の場合は、そういう施設(メディア・センターのようなもの)がないので、ここ(こどもの城)で行うことが望ましい」。

A V事業部のビデオ活動は、上記の考え方を基本に試行錯誤を繰り返しながら、さまざまなプログラムを展開している。

子どもと映像のかかわりについては、できあがった映像作品を<見る>という受け身の形で捉えられることが多い。しかし、ビデオという新しい<道具>の出現で、だれもが映像メディアを使うことができるようになった。新しい映像とのかかわり方を創り出さなければならなくなった。映像を自分の手によって作り、表現し、伝えるという、能動的・積極的なかかわり方を考えなければならない。

新しい<道具>の出現は、同時に新しい可能性を与えてくれる。反面、新しさのみに目を奪われ、その本質を見誤まることが少なくない。最新のテクノロジーを駆使した映像のみが独り歩きする傾向がある中で、映像と私たちの新しい関係を考える<実践の場>として位置づけ、活動している。

具体的には、ビデオ・カメラを通して、人や物など自分を取り巻く環境を<見る>こと、ビデオという新しい道具を使って何かを<表現>すること、ほかに伝えたい情報を<伝達>すること、トータルなものとして<映像とのかかわり>を考えることなどを基本にプログラムを企画している。

ビデオの持つ幅広いメディア特性を考え、いろいろな角度からのアプローチを試みているのが現状といえよう。

(ア) 平常期間

活動実施状況については前掲一覧表のとおりで、映像を作る、映像で表現するという視点からのアプローチを試みた。

映像メディアはテレビ局や映画会社のものという意識がまだ強く、自分たちが使える(使う)メディアであるという考え方の人はまだ少ない。どうしても受け身になりがちである。私たち自身の手によって、簡単に映像を作り出すことができ、表現することができること、そして、映像を用いて何かを伝えることができることを体験的に知ってもらい、映像との新しいかかわり方を作り出してもらえようなプログラムを考えたい。

不思議な映像体験をする『ふしぎな ふしぎな ビデオの世界』の映像システムの展示、映像表現を身近なものとして感じてもらうための『多摩美術大学デザイン科学生の卒業制作ビデオ作品の上映』、造形事業部と共同で実施した映像のしくみを知ってもらうための『うごく』『うつす』の一連のプログラム、「こどもの城あそびガヤガヤ研究所」と共同で行った子どもたちの手によるビデオ取材、映像作品の見方、見せ方を考える『おもしろビデオ館』の上映、映像メディアの制作現場を疑似体験する『わいわいスタジオ』などのプログラムを企画し、実施した。

子どもたちの興味の持ち方、理解の仕方、参加意識などには“ばらつき”があったが、お

IV 各部の活動(1)

おむね好評だった。特に『うつす』『うごく』は、映画前史を探るという原初的なテーマであったが、そのことが逆に面白さ、不思議さを感じさせ、興味を引いたようだ。

自分が撮ったもの、描いたもの、あるいは自分自身がモニター・テレビの画面上に映し出されるだけで、子どもたちは大喜びする。ビデオというメディアが、だれのものでもない自分たちのものであることを実感する。そして、撮りたいと思った事柄や、伝えたいと思った事柄が、モニター・テレビの画面上にどこまで反映されているかを素早く感じ取り、落胆したり満足したりする。

それが素朴で、ささいな体験であっても、ビデオという新しいメディアを身をもって知ることになる。

継続して指導することができない一般来館児・者への対応にはおのずから限界がある。映像メディアが身近なものであること、それを使うといろいろなことができることなどが理解できれば、それでよしとしなければならない。より効果的なプログラムを考えていきたい。

『おもしろビデオ館』は、優れた映像（作品）との出会いの場。子どもたちの好きなもの（例えばテレビ・アニメなど）だけを見るのではなく、ほかにもすばらしい映像作品がAVライブラリーに、いっぱいあることを知ってもらおうと企画した。

AVライブラリーにあるたくさんのビデオ・ソフトの中から、子どもたちにぜひ見てもらいたいと思える作品をピック・アップして毎週木曜日の夕方、4階音楽スタジオBで開催した。

好きな作品を自由に選ばせて見せるというのではなく、いろいろなジャンルの優れた映像作品を紹介し、体験させることによって、映像（作品）に対する視野を広げてほしいという考えである。そして、スゴイ！ オモシロイ！ ヘューッ！と少しでも心を動かし、映像についての新しい発見をしてくれれば、と思う。

1か月または2か月ごとにテーマを決め、簡単なチラシ、ポスター、案内用ビデオ・テープを作成し、館内でPRする。

<おもしろビデオ館> 優れた作品への視野を広げる

上映は、まず作品の説明（鑑賞のポイントなど）をしてから始める。難しい内容の作品は、一緒にいる両親に尋ねながら見るようお願いしたり、場合によっては、ナレーションが理解できなくても、映像そのものが放つメッセージを自分なりに受け止めるよう勧めた。

顕微鏡撮影が捉えたメダカの卵の中の生命の営み、真っ赤な溶岩を吹き上げる火山口、ミルクの1滴が作り出す王冠状の輪、オホーツク沿岸に押し寄せる流氷の群れ—映像からたくさんのメッセージが伝わってくる。尊厳に満ちた生命の営み、人間の力の及ばない自然の驚異が実感できる。

また、61年9月からは、月1回程度、日曜日・祝日におもしろビデオ館を開いた。通常は平日の夕方ということもあり、来場者数は決して多いとはいえない。しかし、子どもたちに映像に関する幅広い視野を身に付けてほしい、という願いから、根気よく継続していきたい。

AVライブラリーのPRという側面だけでなく、子どもと映像のかかわりの場を我々職員スタッフも共有するという、貴重な“触れ合いの場”でもある。

(イ) 特別期間

プログラムを考えるうえで、特別期間と通常期間との区別はない。

開館特別期間の『ふしぎな ふしぎな ビデオの世界』では、テレビ番組や映画と違った、パフォーマンス的オブジェ的な映像表現の一端を体験してもらった。

作品を作ったり、できあがった映像作品を見るだけがビデオではない。撮す（撮る）ことと、映し出される（映し出す）ことが同時進行して行われることも、ビデオというメディアの特性を生かした映像表現の1つ。

この方法は、ビデオ・アートやパフォーマンスの世界で以前から使われているが、ビデオというメディアを端的に知ってもらうには最良の方法と考え実施した。

“自分自身の似顔絵書き”は、モニター・テレビ、テロップ、ビデオ・カメラを組み合わせたシステム。すべて家庭用の機器を使って作った。画面に映った自分の顔をなぞりながら、テロップ・カメラの下に置いた紙に似顔絵を書く。描いた線はテロップで合成され、画面上の自分の顔にだぶって映し出される。顔を動かさずに、上手になぞっていけば、そっくりの似顔絵が書ける仕組みになっている。

一見、簡単なようだが、大きな落とし穴が隠されている。画面上の顔は、鏡に映った顔と違って、自分が右に動けば画面の顔も右（向かって左）に動く。鏡に映った姿と左右が逆になる。このことが混乱を引き起こし、思うように自分の顔がなぞれなくなる。まさに不思議な不思議なビデオの世界が生みだされた。

『春休み8ミリビデオ教室』は、富士フィルムの協力を得て、ビデオ・カメラの撮影方法を指導した。

開館当初は、「こどものためのビデオ教室」を予定していたが、受講希望者がなく、断念した。料金、時間帯などさまざまな要因が考えられたが、ぜひ一度一般来館児を対象とした「ビデオ教室」を経験したいと考え、メーカーとタイアップして行った。

ビデオ・カメラを用いて撮影することの面白さは、参加した子どもたちすべてが感じてくれたようだ。しかし、一歩踏み込んで何かを作り出してみようとする、めんどくささになってしまう。私たちの指導能力の問題もあり、子どものためのビデオ教室は、これからの大きな課題として残された。

(ウ) 講座・クラブ

小学生、中学生、高校生を対象としたビデオ教室を計画したが、残念ながら応募者がいなかったため中止した。かろうじて応募者のあった『女性のためのビデオ教室』のみ開講した。

「こどものためのビデオ教室」に応募がなかったことについては、いろいろな原因が考えられよう。いわゆる“習い事”として保護者の認知が得られないこと、子ども自身が興味を持って受講料が高かったこと、来館者の年齢層が予想以上に低かったことなどが推察される。

ビデオというメディアを使えるようになって、初めてメディアの全体像を把握できると考えるならば、継続して映像表現に取り組める体制を作ることが必要であり、そのための努力

IV 各部の活動(1)

はしなければならない。しかし、現状では私たちの方法と社会環境とが、どこかでずれている。日常の活動を続けていく中で、たくさんの情報を集めて多くの子どもたちが集まるような方法を考え、また集まってくるような環境を作りだしていかなければならない。

まったくの暗中模索の状態ではあるが、近い将来なんらかの形で、子どもたちのためのビデオ教室を実現したい。

「女性のためのビデオ教室」は、少人数ながらも熱心な人たちが集まった。独身の女性1人、母親3人、孫のいる年配の方1人の5人。機械はまったく苦手という人がほとんど。

撮っている人の気持ちと映っている（撮られている）人の気持ちとが、素直に反映されるような画面作りを目指した撮影の練習、2台のビデオ・デッキを使った簡易編集の方法を、12回にわたって指導した。被写体に近づいて撮る、子どもの目の高さで撮る、相手に話しかけながら撮るなどの条件を設定し、撮影する。撮影し終わったものはすぐ再生して、チェック、撮れぐあいを全員で話し合う。講座というより、ワーク・ショップの形式をとった。

少人数ということもあり、受講者の理解度に合わせてきめ細かに指導できた。将来的には人数を増やさねばならないと考えるが、反面、多人数になったときの指導方法についての不安が無いわけではない。個人的なメディアである1/2インチ（あるいは8ミリ）のビデオの使い方を普遍化して指導することの限界もある。継続して受講する場合の次のステップの講座運営の在り方が課題となる。

(エ) 映像の記録と制作

ビデオは優れたメディアではあるが、万能ではない。さまざまな出来事を記録するに際しても、ビデオでなければならぬもの、ビデオであったほうがいいもの、ビデオでなくてもよいものなどにプライオリティをつけて考えることができる。

十分なスタッフと機材と時間があれば別だが、限られたスタッフ・時間では、何と何の活動を記録するのか一定の基準を設ける必要がある。地味な活動ではあるが、「こどもの城」の足跡を記録し後に伝えるという重要な仕事なので、今後とも努力していきたい。

60年度に収録した活動記録は以下のとおり。

- 健康キャンプ（肥満児）の記録－60年8月
- ジュニア・アウトドア・スクールの記録－60年8月
- こどもの城あそびガヤガヤ研究所第1回研究会の記録－60年8月
- こどもの城開館式典の記録－60年10月
- こどもの城オープンの記録－60年11月
- ムナーリ展公開指導の記録－60年11月
- ミュージカル「三匹のこぶた」の記録－60年11月
- 皇太子殿下・同妃殿下ご来館の記録－60年12月
- 国際クリスマス・フェスティバルの記録－60年12月
- 人形劇「ケロ吉ケロ子のひなまつり」－61年3月

(4) 61年度の活動

1) AVライブラリー・AV資料室

(ア) 平常期間

本年度のAVライブラリー、AV資料室、マスターコントロールの活動は、子ども向け市販ソフトの充実、インフォビジョンの充実、自作ソフトの充実の3点に重点を置き、AVライブラリーの特色を持たせることを目標にし、ほぼ順調に進んだと考えられる。

AVライブラリーは、4～10月は、日曜日、祝日はほぼ満員で、平日は非常にすいているという状態であった。11、12月は前年同期を大幅に下回り、1、2月も前年を下回ったものの、徐々にその差は少なくなり、3月は前年を上回った。

運営をより円滑にするため、待ち時間表示モニターの設置、受付端末、指示書発行機予備機の設置を行い、いずれもかなりの効果があった。特に待ち

時間表示モニターは、利用者のイライラ解消に役立ち、苦情も大幅に減った。また待ち時間を減少させるために、全ソフト、そのうち65分以内のソフト、同じく35分以内ソフトの3種の目録及び「けんさくくん」のプログラムを用意し、混雑に応じて使い分け、平均視聴時間を下げて、ブースの回転をよくした。61年4月の平均視聴時間は43分だったが、62年3月では27分にまで減少し、利用者数の増加に結びついた。しかし、ホストコンピュータの応答速度は能力増強以外に方法がなく、コンピュータ室に依頼して混雑時にほかのオンライン・システムをストップしてしのいだが、あまり効果はなく、根本的な解決が必要である。

ビデオソフトの登録は、前年度積み残し分を5月に終了し、本年度購入分475本のうち436本、及びマスターコントロール制作の自作ビデオ90本を、3月末までに登録した。

インフォビジョンの登録は、前年度の積み残し4本及び本年度制作分2本を完了して、ソフト関係の積み残しは解消した。登録ソフトの増加に応じて、徐々に一部ソフトへの申し込みの集中は減る傾向にある。特に本年度購入市販ソフトは、幼児向けをできるだけ集収し、本年度制作インフォビジョンも幼児向けのものを制作、利用者の大きな部分を占める低年齢児への対応に努めた。しかし、まだまだ不十分である。

利用者がソフトを選択するための目録は、コンピュータ室の協力で、絵入りのテーマ別目録、年齢別カタログ、英語版カタログ、時間別カタログの整備・更新を行った。十分とはい

AVライブラリー利用者状況 (月ごと)
(61.4-62.3)

月	入館者数	利用者	利用率	利用組	平均利用時間
61. 4	30,095	10,883	36.2	4,396	43
5	27,031	9,700	35.9	3,885	36
6	17,485	8,295	47.4	3,309	38
7	24,105	12,059	50.0	4,661	37
8	69,052	25,154	36.4	9,646	34
9	24,187	9,634	39.8	3,769	34
10	21,430	8,697	40.6	3,434	32
11	25,427	10,703	42.1	4,250	32
12	11,296	6,265	55.5	2,493	35
62. 1	20,333	9,615	47.3	3,762	35
2	19,586	9,391	47.9	3,689	30
3	31,015	15,110	48.7	5,938	27
総計	321,042	135,506		53,232	
平均	26,754	11,292	42.2	4,436	34

IV 各部の活動(1)

えないが、かなり整い始めたといえるだろう。また「けんさくくん」も、約2,200タイトルについて、全ソフト、65分以内、35分以内の3種類の登録を行い、前年度からの積み残しを解消した。

AV資料室では毎週、コンピュータ画像による週間催し物案内を制作した。

今後の課題として、利用者の相談に答えるための、ソフト知識の職員間での共有化をキーワード登録などを使ってどのように達成していくかを検討しなければならない。

(イ) 特別期間

AVライブラリーでは、特別期間ごとにテーマを決め、お勧めソフトの強調をしたが、この期間はほぼ満員のため、ソフト強調と利用者増は結びつかなかった。特別期間のテーマ強調を機会に、通年使用できるテーマ別目録を制作することに重点を置いている。

冬休みに行った「おとうさん、おかあさんと昔のヒーローに会いにいこう」では、これまで番組選択の主導権を子どもに握られ、ブースで寝ている姿が目についた父親たちが、積極的に番組を選ぶ場面もみられるようになった。親たちが子どものところにテレビで見ていた番組も、ある程度集めることに意味があるのではないかと思われる。また夏休みの「宿題に役立つかな」は、実際に見られた回数は少なかったものの、テレビ局、新聞社などの取材もあり、話題づくりという点で意味があった。

(ウ) グループ活動

本年度は、5件212人の利用があった。本年度中はAVライブラリーの利用がグループ活動のプログラムに入っていなかったために、例外的な利用のみであったが、今後プログラムに加えてもらい、積極的にグループ活動を受け入れていこうと考えている。

2) マスターコントロール・ビデオ制作

マスターコントロールでは、青山劇場、青山円形劇場の公演収録を82回、「こどもの城」の活動記録収録を、ロケ4回を含め18回、AVライブラリー向け番組90本の制作を行った。収入見込みも達成し、まずまずの成果を上げたものと考えている。今後は、特別期間の催し、PR番組なども積極的に制作していきたいと考えている。

3) ビデオ活動

開館前に机上でシミュレーションしてきたことと、開館後に実際に経験し得たことを重ね合わせて、より実際的なプログラムを提供すべく努力した。来館児・者の興味、関心の在り方などもある程度把握できるようになり、現実にあったプログラムが考えられるようになった。

子どもたちと接する機会を持ったことのない我々にとって、60年度の5か月間の活動は貴重な経験であり、それを踏まえて本年度の活動をどう展開していけるかが、課題となった。

来館児・者は開館前に考えていた以上に、親子連れの幼児が多く、小学校高学年以上の児童が少なかった。このため、プログラムの再検討が迫られた。ビデオ活動のように、主な対

象を小学校高学年以上に設定していたプログラムは、大幅な転換を余儀なくされた。0歳から18歳までの児童を対象とする「こどもの城」の活動の難しさを痛感させられた。

「こどもの城」に来る人たちの層に合わせて、ビデオ活動の焦点を次のようにしぼってみた。

映像とのかかわり方を、能動的なものと受動的なものに分けて考え、〈観る〉に代表される受動的な活動は、幅広い年齢層を対象に実施する。「おもしろビデオ館」「しねまていく」のプログラムを通して、テレビで放映するアニメ（以下テレビ・アニメと略）以外の映像の世界の面白さ、素晴らしさを体験してもらおうと努めた。しかし、幅広い層を対象とすることは、上映番組の決定に際して、やはりネックとなっている。

能動的な活動は、直接的にビデオ・カメラを操作して作品を作るのではなく、プリミティブなかたちで映像を作る楽しみ、表現する喜びを体験できるプログラム作りを模索した。60年度に造形事業部と共同で行った「うつつ」「うごく」の一連のプログラムを土台に「ばたばたアニメをつくろう」というプログラムを作り上げ、実施した。

これは、動き（形）の異なる2枚の絵を描かせ、交互に素早く動かしてみると、ばたばたと動いて見えるというもの。これをビデオのコマ撮り機能（約1/4秒）を使って撮影し、再生してみせる。

また、子どもの成長の様子をビデオで記録したいという母親が増えているので、母と子が一緒に参加できる「母と子のビデオ教室」に重点をおいた。保育クラブや母子教室の場で、

「ばたばたアニメをつくろう」は、AV事業部のオリジナル・プログラム。動きの違う2枚の絵を交互に素早く見ると動いて見える、というおもちゃは昔からあったが、それをビデオに応用したもの。

家庭用の高級ビデオ・デッキの一部には、コマ撮り機能（約1/4秒）を持つものがある。その機能を生かして、アニメーションが作れないかと考えたのが発端。2枚の絵だけならだれでも簡単に取り組むことができ、しかも〈動く映像〉の秘密も分かるということから、プログラム化した。

用紙にクレヨンやサインペンを使って2枚の絵を描いてもらう（原則的には動きの異なる絵を描いてもらうが、同じような絵でサイズの異なるもの、点や線の模様等でもかまわない）。これを、

＜ばたばたアニメ＞ アレッ！ボクの絵が動いたゾ

ビデオで約1/4秒ずつのコマ撮りをする。1人当たり20～30コマ撮影、その場で再生（数秒）してみせる。時間的余裕がある場合は、更に音声（擬音・セリフなど）をアフレコし、音声付きで再生してみせる。

これだけの内容だが、自分が描いた絵がテレビに映り、しかも動いて見えるということは、貴重な体験となったようだ。2回、3回と挑戦する子どもは、どうすればより自然に、よりスムーズに動かすかを工夫するなど、（動く）映像とかがわる入り口として効果をあげている。

グループ活動のように特定の集団に対して行う時には、4、5人のグループを作り、4コマまんが程度のストーリーを考えさせ、その1コマ1コマをばたばたアニメで制作させることも行った。

IV 各部の活動(1)

ビデオの面白さをPRして底辺の拡大を図った。

映像という新しいメディアを、子どもたちに対してどう展開し、親しみを持たせていくか、まだ手さぐりのことが多く、より一層の工夫と研究をしていかなければならない。先例が少ないだけに、自由で、豊かで、創造的な発想が望まれる。

(ア) 平常期間

動く映像の仕組みと映像を作る喜びを同時に、体験的に知ることができるオリジナルのプログラム「ばたばたアニメをつくろう」を7月までは毎週水曜日、9月からは毎週土曜日の夕方、4階音楽ロビーで実施した。自分が描いた絵がモニター・テレビの画面上に映しだされるだけでも、小さな子どもたちは歓喜の声をあげ、映像が動く様をみると、驚きと満足感の入り交じった得意気な顔をする。仕組みに気付いた子は、どうすればより動いてみえるかを工夫する。小さい子から、大人までが楽しめるプログラムとして好評を博している。

ビデオ以前からあり、映像表現の代表ともいべき映画の上映を「しねまていく」というタイトルで試みた。動く映像の仕組みを知るには、ビデオよりフィルムの方が適していることと、映像表現の先達として得るものが多いと考えることから、映画の上映を取り上げた。

映画を作ること（映像で表現すること）は、特殊なことではなく、鉛筆と紙で文章や絵をかくのと同じに、だれもができることで、そういう人たちが身近にいることを知ってもらおうという期待を込めて、大学生が作った作品や、コツコツと自主制作に励んでいるアニメーション作家の作品を上映した。作品としては優れたものとは言えないかもしれないが、作ろうというエネルギーを感じてもらえればと考えた。

「しねまていく」で上映したアニメーション映画は、意欲にあふれた若い人たちの作品。テレビ・アニメや劇場（ビデオ・ソフト）アニメとは別の、アニメーション個々の面白さに満ちている。生命なきものに生命を与えるという、アニメーションの本来的な意味において、セル・アニメ（透明なビニールシートに絵を描く、テレビ・アニメや劇場用アニメの常用的技法）以外のさまざまな技法を使ったアニメーションを知ってもらいたいと思って実施した。

また、館内のテレビ案内システムを活用したプログラムとして毎日曜日「わいわいスタジオ」を音楽スタジオBから放送した。音楽事業部との共同企画で、いわば「こどもの城」のCATV局。イベントの中継を中心に各種の情報を提供した。

一般来館児・者向けプログラムのめどがついたというのが、本年度の正直な感想だ。映像とのかかわり方の既成概念にとらわれない新しい展開を今後とも進めていきたい。

(イ) 特別期間

「ばたばたアニメをつくろう」「しねまていく」「おもしろビデオ館」「わいわいスタジオ」の4つのプログラムをドッキングさせ、夏休みに「AVアニメーション・フェスタ」を開催した。

現実にはありえない動きを作りだすことができるアニメーションの特徴を生かした作品の上映（ビデオ、16ミリ・8ミリの映画）と、作家を招いてアニメーション制作のノウハウを聞いた。止まっている絵が動いてみえる不思議さ、粘土や立体を使って作る方法などを実物

を示しながら、説明してもらった。

ふだん何気なくみているアニメーションも、それを作るためには多大の労力を必要とすること、しかし根気さえあれば自分たちの手で作ることができることを理解してもらった。

「わいわいスタジオ」は音楽事業部との共同企画。開館当初から日曜・祝日を中心に、音楽スタジオBで行われるイベントを中心に、当日の催事情報などを交えながら全館に生中継している。

音楽スタジオBに集まった人たちには、テレビ番組の制作現場の雰囲気を実感的に味わってもらうことによって、「こどもの城」ならではの体験をしてもらうのがねらい。同時に、音楽スタジオBにおける活動を全館の来館児・者に知ってもらうことにもなる。各フロアから生中継ができるようになれば、プログラムもより充実し、変化に富んだものにできるが、現状ではスタジオからの中継しかできない。

「わいわいスタジオ」の中継は、映像調整室、マスターコントロール室を経由して、アトリウムの大型液晶テレビをはじめ全館に送出される。チャンネルを「5」に合わせれば、館内どこでも視聴できる。3階、4階のロビーには、通常この5チャンネルの映像が映し出されているので「わいわいスタジオ」の中継をそれらの場所で見ることができる。館内テレビ・システムを利用したユニークな活動プログラムといえる。

＜わいわいスタジオ＞ テレビ局の雰囲気そのままに

この活動は、全館のイメージづくり、来館児・者へのサービスという一面も備えている。音楽スタジオBに限定されてはいるが、活動の実際をアトリウムやロビーで知ることができること、取材してきたビデオの放送や催事情報を提供することによって来館者の移動がスムーズに行えることなどのサービス向上が図れ、全館のイメージアップにもつながる。

ハード上の問題、マン・パワーの問題、我々の経験の問題などの課題も多いが、はっきりした目的意識を持って、より理想的なかたちにしていきたいと考えている。

「わいわいスタジオ」の経験は「こどもデパートCATV局」に生かされ、開店式と閉店式的全館への中継、売り場のPRやバーゲン情報の提供などイベント全体の雰囲気を盛り上げるのに貢献した。

「こどもの城」という狭い範囲ではあるが、館内のテレビ・システムを用いて、映像メディアの意味・性質を理解することの意義は大きい。そして、将来は映像メディアそのものの中に子どもたちが参画できるようなプログラムを考えていかなければならない。

(ウ) グループ活動

グループ活動には年度後半から本格的に取り組んだ。利用者が3学期に集中することが大きな原因だが、我々自身に低年齢向けのプログラムが十分に準備できていなかったことにもよる。＜ビデオ＞にこだわりすぎて＜映像＞というAV事業部の活動の原点を見失っていたのも原因といえよう。

開館以来の経験の中から、子どもと映像とのかかわりを生み出すプログラムも考えられるようになり、「みんなでつくろう“ぱたぱたアニメ”」「フィルムに絵を描いてみよう」「チャレンジ・ザ・ビデオ」「ビデオおもしろゲーム」の4つのプログラムを用意し、グループ活動に取り組んだ。

IV 各部の活動(1)

友達同士でインタビューし合ったり、体験レポートを作ったりして自分の手で映像を作り出す喜びを体験する「チャレンジ・ザ・ビデオ」。伝言ゲームや、しりとりでビデオで挑戦し、コミュニケーションの道具としてのビデオの魅力を知る「ビデオおもしろゲーム」。この2つのプログラムは小学校3年生以上が対象。

幼児以上向けには、アニメの原点を体験する「みんなでつくろう“ばたばたアニメ”」と透明な映画フィルムに着色して映写する「フィルムに絵を描いてみよう」の2つのプログラムを設けた。どちらも楽しみながら＜動く映像＞の原理を体験的に知ることができる。また、対象によってはストーリー性を加えるなどもでき、高学年の子どもにも対応できるようになっている。

20団体（すべて小学校以下）に対し、これらグループ活動のプログラムを実施した。

(エ) 講座・クラブ

ビデオ講座は、母と子が一緒に参加できる「母と子のビデオ教室」に焦点をしばって実施し、講座終了者が継続してビデオ作品作りに励めるように「ファミリー・ビデオ・クラブ」を設けた。教室、クラブとも受講者は多くないが、熱心にビデオ作りに取り組んだ。

幼児を連れた母親が多いという来館児・者層と、実際にビデオ・カメラを使って、子どもの成長を記録する機会が多いと思われる母親をターゲットにした。そのため、保育クラブの会員にダイレクト・メールを発送したり、短期の講座を開いたりした。また、母子教室にも積極的に協力し、＜みる＞ことについて一緒に考えると同時に、ビデオの面白さをアピールした。その結果、わずかながらも参加者が増えてきた。

子どもを対象としたビデオ教室は、試験的に2日間の短期教室を夏休みに開いたが、2人しか応募者がいなかった。募集の方法、PRの仕方などを含め検討をしていきたい。

(オ) 映像の記録と制作

「わいわいスタジオ」の放送に合わせ、各事業部の四季折り折りの活動を取材し、収録した。何を収録するかについては、我々自身の判断（日程上の問題も含めて）であるため、必要なものを記録していなかったり、必要でないものを記録していたりということがあってもいい。大きな問題点の1つだ。毎月1回程度の取材をしたが、イベントが集中する時期は、どこも多忙となるためスタッフのやりくりで苦労している。

全館的なものとしては、開館記念行事「こどもの創造性を考えるーブルーノ・ムナーリ氏を迎えて」や、「こどもの城 '85/'86 一年の歩み」などを制作した。

一般来館児対応のプログラムとして実施している「ばたばたアニメ」や「フィルムに絵を描いてうつそう」で作られた作品を集めて、音楽とタイトル（クレジット）をつけてビデオ作品化した「こどもの城のばたばたアニメ」や「“うつす”フィルム」、こどもの城児童合唱団と共同でミュージック・ビデオ「おーい 海」などを作った。

基本的には、「こどもの城」の活動の1つのまとめとして、作品化できそうなものを選んで制作活動を行っている。

このほかにも、各事業部のイベント展示用、PR用のビデオを多数制作した。イベント会

場入り口にスタンド・アローンのモニター・テレビを設置し、PR用のビデオを1日中放映するという方式が少しずつ広がり始め、そのためのビデオ・テープを数本制作した。各事業部とも、来館児・者への情報提供に苦慮しており、そのための1つの方法としてスタンド・アローン方式のビデオが注目されるようになった。

また「わいわいスタジオ」を中心とする館内テレビの送出に伴って、夏休みのイベント情報、秋と春の講座募集のお知らせ、ミステリーゾーン等の全館イベントのCMなどを制作し、館内テレビのシステムを通して、全館に送出した。

印刷物が書籍、ポスター、チラシ、パンフレットというようにさまざまなかたちで利用されているように、映像もさまざまなかたちで利用されていくと思う。そうなると、今以上に映像の使い方を考え、工夫をこらしていかなければならなくなり、漠然と映像を作るということが許されなくなる。使用の目的や意図にあったものを制作していかなければならないし、依頼者に対しても目的や意図を明確にするように助言していかなければならない。映像専門のセクションとして、意味のある映像作りを考えていきたい。

6 保育研究開発部

IV 各部の活動(1)

(1) 60年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 時間	月	火	水	木	金	土	日
10:00	幼児 グループ	幼児 グループ 保育活動	幼児 グループ 保育	幼児 グループ 保育活動	幼児 グループ 保育	一般来館親子に 保育室の開放	一般来館親子に 保育室の開放
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							

6 保 育

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
保育室IIの一般開放	12.7～ 61. 3.31の土・ 日曜日・祝 日と冬期・ 春期の特別 期間中	11:00～ 16:00	保育室 II	職員	主として1・2歳児の 親子。 平均して1日当たり30 ～40組の親子が来室し 設定された遊具を使っ て自由な親子遊びを行 った。

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(開館記念) 親子であそぼう	11.1～4	10:00～ 12:00 13:00～ 17:00	保育室 I 保育室 II 屋上遊園	職員	就学前の幼児1日当 り約150～200人以上
スプリングフェスティバル 講演及び手づくり音楽会	61.3.2	10:00～ 12:00	研 修 室	※巷野悟郎(小 児保健) ロバの音楽座 職員	大人75人,子ども78人 の申し込みがあり45組 の親子が出席した。

4) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 数						
幼児グループ A	1・2歳	10 (人)	22 (人)	水・金曜日 10:00～ 13:00	保育室II 音楽ス タジオ 造形ス タジオ プレイ ホール 体育室 屋上 AV	11.6～ 61. 3.26	20,000 /月 (円)	職員	延べ出席予定人数835人 実出席数697人 83% 保育日数41日(自由登 園日6日含む) 途中退会児1人

IV 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員 (人)	受 講 数 (人)						
幼児グループ B	3～5歳	30	7	月～金曜日 10:00～ 14:00	保育室I 音楽ス タジオ 造形ス タジオ プレイ ホール プール 屋上 AV	11.6～ 61. 3.26	(円) 30,000 /月	職員	延べ出席予定人数486人 実出席数443人 91% 保育日数78日 途中退会児2人
保育クラブ A	1・2歳 会員 251人	10 /時間		火～日曜日 10:00～ 18:00	保育室II	11.12～ 61. 3.31 保育日数 11月 16 12月 23 1月 22 2月 22 3月 20 計103日	900 /時間	月別利用者数 11月 117人 12月 134人 1月 177人 2月 188人 3月 198人 計 814人	利用率 73% 64% 76% 80% 83% 76%
保育クラブ B	3～6歳 会員 198人	同上		同上	保育室I	1月 22 2月 22 3月 20 計103日	700 /時間	1日当たりの平均利用者数8人(A =6.6人, B=1.3人) 土・日曜日を除いた平日の平均利用 者数10人	
母子教室 (第I期)	1歳児の 母子	(組) 10	(組) 13	月曜日4回 木曜日4回 日曜日1回 10:30～ 12:30	保育室II プレイ ルーム 1・2 和室 研修室 音楽ス タジオ	61. 1.6～ 2.27 9回	20,000	栄養士 手塚 文栄 社会活動研 石川志津子 ※巷野 悟郎 ※西山 里美 ※野村ひろみ ※竹内 里絵 ※小山 望	出席率87% 「おとうさんと一緒」 の出席率77%
母子教室 (第II期)	2歳児の 母子	15	17	月曜日4回 木曜日1回 土曜日3回 日曜日1回 10:30～ 12:30	保育室II プレイ ルーム 1・2 和室 研修室 音楽ス タジオ 造形ス タジオ	61. 2.3～ 3.29 9回	20,000	栄養士 手塚 文栄 ※巷野 悟郎 ※前田ちま子 ※西山 里美 ※野村ひろみ ※小山 望	出席率81% 「おとうさんと一緒」 の出席率82%

6 保 育

(2) 61年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間							
10:00							
11:00	母子教室	幼児グループ活動	幼児グループ活動	幼児グループ活動	幼児グループ活動	保育室一般開放	保育室一般開放
12:00							
13:00	保育	保育	保育	保育	保育	保育	保育
14:00	クラブ	クラブ	クラブ	クラブ	クラブ	クラブ	クラブ
15:00	保育	保育	保育	保育	保育	保育	保育
16:00							
17:00							
18:00							

IV 各部の活動(1)

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
保育室IIの一般開放	4. 1～ 62. 3. 30 の日曜日・ 祝日と冬期 ・春期の特 別期間中	11:00～ 16:00	保育室II	職員	季節、天候によってば らつきがあるが、主と して1・2歳児の親子 が、少ないときで1日 5, 6組。通常は、平 均20～30組の親子が遊 具を使って自由な遊び を楽しんだ。

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(児童福祉週間) 親子でつくろう 「こいのぼり」	5. 3～5	11:00～ 16:00	保育室II	職員	3日, 大人120人子ど も90人 4日, 大人250人子ど も250人 5日, 大人200人子ど も150人 計 大人570人子ども 490人が参加。年齢も, 1・2～4・5歳まで幅 があったが親子で楽し んで参加した。
(夏休み) 親子でつくろう 「でんでんだいこ」	8. 10・24	同上	同上	同上	10日, 大人77人子ども 90人 24日, 大人105人子ども 132人 計 大人182人子ども 222人が参加。 家族の参加で小学生も 加わるなどにぎわっ た。
(同上) 親子シアター	8. 2・9・16	11:00～ 12:00	フリーホール プレイホール	職員 大妻女子大パネ ルシアター同好 会	2日, 大人20人子ども 70人 9日, 大人20～30人子 ども50人 16日, 大人40～60人子 ども80～100人が参加。 一般来館者の出入りの ある場所で行ったので 途中で入れ替わりがあ ったが多数の参加が得 られた。

6 保 育

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(開館1周年記念) 保育相談 パネルシアター等	11. 1～3	11:00～ 17:00	保育室Ⅰ・Ⅱ	職員	1日, 184人 2日, 500人 3日, 480人 保育室Ⅰで保育に関する展示, 保育室Ⅱでパネルシアター。保育相談の受け付けも行い数名相談があった。
(冬休み) 親子で遊ぼうクリスマス	12. 24～27	11:00～ 16:00	保育室Ⅱ	同上	24日, 大人31人子ども39人 25日, 大人15人子ども29人 26日, 大人10人子ども17人 27日, 大人7人子ども9人 午後になって参加者が増えていった。
(同上) 親子で遊ぼうお正月	62. 1. 3～6	11:00～ 16:00	同上	同上	3日, 大人36人子ども32人 4日, 大人42人子ども42人 5日, 大人32人子ども40人 6日, 大人13人子ども19人
(春休み) 親子で遊ぼう 「春が来た」	3. 27～29 4. 2～4	13:00～ 14:00～ 15:00～	同上	同上	3月27日, 大人31人子ども45人 28日, 大人22人子ども31人 29日, 大人56人子ども53人 4月2日, 大人23人子ども28人 3日, 大人32人子ども45人 4日, 大人25人子ども33人

IV 各部の活動(1)

4) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員 (人)	受 講 数 (人)						
保育クラブ	1～5歳	—	698	火～日曜日 10:00～ 18:00	保育室 I ・ II	年間 285日	(円) 1・2歳 900/時間 3～5歳 700/時間	職員	単位時間当 たりの定員 1・2歳10人 3～5歳7人
幼児グループ	2～5歳	25	21	火～金曜日 10:00～ 14:00	保育室 I ・造形ス タジオ・ 音楽スタ ジオ・プ ール・プ レイホー ルその他	4.8～ 7.18 9.2～ 12.19 62.1.8～ 3.26 (年間)	1・2歳 20,000/月 3～5歳 30,000/月	職員	
母子教室Ⅲ期	1歳児母子	(組) 12	(組) 12	月・日曜日 10:30～ 12:00	保育室Ⅱ ・研修室 ・音楽ス タジオ	2か月 全7回	20,000	元品川区保健所 手塚文栄 *巷野悟郎 *野村ひろみ *西山里美 職員	出席率88%
母子教室Ⅳ期	2歳児母子	同上	同上	土・月曜日 10:30～ 12:00	同上	同上	同上	*木辺高敏 *神代千佳子 *西山里美 *野村ひろみ 職員	出席率80%
母子教室Ⅴ期	2歳児母子 (保育クラ ブ会員)	13	13	木・土曜日 10:30～ 12:30	同上	3か月 全10回	22,000	聖心女子大学 岡 宏子 *巷野悟郎 *木辺高敏 *西山里美 *野村ひろみ	出席率89%
母子教室Ⅵ期	2歳児母子	同上	同上	木曜日 10:30～ 12:30	保育室Ⅱ ・研修室	同上	22,000	*巷野悟郎 *木辺高敏 *西山里美 職員	出席率93%
幼児を考える I	幼児を持つ 母	(人) 25	(人) 16	木曜日	研修室	1か月 全5回	8,000	東京学芸大学 小川博久 NHKディレクター 武井 博 *巷野悟郎 職員	
幼児を考える II	1・2歳児 の母	20	10	火曜日	同上	同上	8,000	NHKプロデュー サー 近藤康宏 *巷野悟郎 *野村ひろみ 職員	

(3) 60年度の活動

今日の乳幼児を取り巻くさまざまな問題として①核家族化が進み、育児文化の伝承が薄れ、育児不安が増加している ②少子化が進み、子どもの生活の中に異年齢交流が失われつつある ③婦人の生活形態の変化により、保育需要が多様化してきている ④地域の中での家庭間の連携が弱くなり、地域の持つ保育機能が低下してきている、などの点を踏まえて保育研究開発部では、総合的な施設の特徴を生かして健全育成を積極的に進める新しい保育プログラムの実践を行うことを目指した。少人数の異年齢混合保育を行う幼児グループ、多様な保育ニーズに柔軟に対応する保育クラブ、母と子が一緒に活動する中で育児について考える母子教室、「こどもの城」のプログラムに保育所や幼稚園などのグループが参加するグループ活動、更に「こどもの城」を訪れる一般来館者のために、幼児の親子を対象とする遊びや催しの提供を行った。

1) 幼児グループ

(ア) 募集方法・応募状況

少人数の異年齢保育を行うため、1, 2歳児10人、3～5歳児30人の計40人を公募したところ、1, 2歳児92人、3～5歳児11人、計103人が応募した。抽選及び面接により1, 2歳児22人、3～5歳児7人、計29人を登録児とした。

(イ) 活動の内容

幼児グループは①「こどもの城」の諸機能を生かした保育内容の実践 ②少人数異年齢集団保育により、望ましい人間形成の効果をあげる ③保育クラブの核としての役割を果たす、などを目的として1, 2歳児のグループ、3～5歳児のグループを編成、保育室Ⅰ、Ⅱ、を中心にして保育活動を行った。保育室では活動別のコーナーを設定し、子どもたちが選択して遊べるように準備した。プレイホール、フリーホールを使っての遊びも取り入れ、また、音楽スタジオ、造形スタジオ、体育室、プールでは、各部によるプログラムを継続的に実施した。小児保健部で定期的な身体計測を行い、また、けがや発病の場合の応急処置に対応した。「こどもの城」の屋内のみでなく、屋外スペースや地理的に近い青山学院大学の構内、東京都児童会館の近隣公園なども活用した。

不定期的に保育を受ける保育クラブの児童との統合保育を試みようとしたが、スタートの時点では子どもが安定せず無理があった。特に、1, 2歳児については不定期メンバーとの統合は行わず、ひとりひとりの安定に力を入れた。61年2月から1, 2歳児と3～5歳児の合流を試み、3歳以上については不定期メンバーとの統合も少しずつ試みた。保育クラブの核として位置づけた幼児グループと、保育クラブの活動を同時にスタートさせたために子どもの安定を得ることが難しく、また低年齢児が多かったことは母子分離がうまく進まないという問題を生み、受け入れの方法や保育の形態を、そのつど検討する必要があった。

IV 各部の活動(1)

「こどもの城」全館を使つての保育活動展開についても、場所に慣れるための時間がかかり、少しずつ活動の場を広げていくようにした。家庭との密接な連絡はたいへん重要であり、連絡帳の活用、観察室からの保育参観、親子活動、個別面談などを通じて連携を深めていくよう努力した。次年度への課題として、①保育内容、プログラムの充実を図るために、各部門との協力が重要である ②子どもの成長発達を促すため家庭との連携に力を入れ、母親及び父親を取り込んだ保育プログラムの開発研究を進めていく ③保育クラブとの統合活動について受け入れ方法や保育の形態についての検討を進めていく ④異年齢混合保育を行っていくうえで、低年齢に片寄っているため、さまざまな配慮が必要であるが、この点についてなお検討すること、などがあげられた。

2) 保育クラブ

(ア) 募集方法・応募状況

多様な保育ニーズに柔軟に対応することを目的とし、保育の日時を選択できるフリータイム保育や親子遊び、保育相談を内容として、こどもの城友の会会員を対象に募集した。登録に際しては、子どもの個人情報を読み、また保育クラブの趣旨を理解してもらうために30分程度の親子の面接を行った。面接の予約が年度内は11月中旬で満員になったため、受け付けを締め切り、1、2歳251人、3～5歳198人、計449人が3月末日までに登録を済ませた。

(イ) 活動の内容

① フリータイム保育

集団遊びを体験させたい、母の用事、仕事、緊急の用件などさまざまな理由により、保育日時を予約して利用するフリータイム保育を実施した。午前10時から午後6時まで、3時間を基準として受け入れた。3歳以上児と3歳未満児に分けて受け入れ、3歳以上児は幼児グループとの統合も試みた。利用は低年齢児が多く、母子分離不安が大きいことに加えて保育経験がまちまちであるため、児童の安定を得ることが難しく、また、ローテーションを組んで保育者が配置されるので保育の進め方について細かい配慮が必要であった。また利用時間帯は平日の午前中に集中し、午後や休日の利用者はごく少数で、運営上の検討事項であった。フリータイム保育の受け入れを行う場合に親の都合を優先する結果が、子どもに無理な状態にならないよう、親への働きかけを十分に考えていく必要が感じられた。

② 保育相談

会員の育児に関する相談に応じるため、心理の専門スタッフによる保育相談を行った。母子分離不安に関する問題、母子関係、しつけ、情緒に関する問題など8件のケースがあった。小児保健部へ紹介したケース、また逆に小児保健部から保育へ紹介されたケースなど連携をしながら行った。相談は保育クラブ会員を対象に、予約により無料で行われたが、保育相談の機構についてはなお検討の必要がある。

③ 親子活動

保育クラブ会員有志による懇親会や、親子を対象としたイベント「スプリング・フェスティ

6 保 育

バル」を3月に実施した。手づくり音楽会と育児についての講演で構成し、約50組の親子が参加した。

(ウ) 利用の状況

会員総数449人のうち、95.5%が都内居住者で、渋谷区、港区が約50%を占めている(表1-①)。年齢別では、1、2歳が55.9%で半数以上、次いで3歳が23.6%と1～3歳の会員数が多くなっている(表1-②)。

保育クラブを実際に利用したのは、1～3歳が多く、161人であったのに対し、4～6歳は30人で低年齢児のニーズが高かった(表1-③)。利用目的は年齢によって異なっており、1、2歳は集団保育の目的が最も多く、3～5歳は「母の用事」が多かった(表1-④)。利用の時間帯は1～3歳は、午睡とぶつからず活動的な時間帯である午前中に、集団参加の目的で利用したものが多く、3～5歳は午後、学校行事など特別な用事ができたときに利用している(表1-⑤)。

表1 保育クラブ活動状況

① 居住地域分布

			会員全体		利用者					会員全体		利用者	
都府	道県	市区	人数	%	人数	%	都府	道県	市区	人数	%	人数	%
東京都		港区	89	19.8	45	23.6	東京都		葛飾区	0	0.0	0	0.0
		渋谷区	128	28.5	52	27.2			江戸川区	2	0.4	1	0.5
		世田谷区	59	13.1	27	14.1			荒川区	2	0.4	0	0.0
		目黒区	30	6.7	12	6.3			中野区	6	1.3	1	0.5
		新宿区	11	2.4	3	1.6			墨田区	2	0.4	0	0.0
		大田区	14	3.1	3	1.6			練馬区	2	0.4	2	1.0
		品川区	19	4.2	7	3.7			23区外	12	2.7	4	2.1
		杉並区	10	2.2	7	3.7	神奈川県	川崎市	7	1.6	2	1.0	
		台東区	1	0.2	0	0.0			横浜市	9	2.0	5	2.6
		千代田区	8	1.8	4	2.1			その他の市	5	1.1	3	1.6
		板橋区	5	1.1	3	1.6	静岡県	1	0.2	0	0.0		
		豊島区	3	0.7	2	1.0	千葉県	2	0.4	0	0.0		
		江東区	8	1.8	5	2.6	茨城県	1	0.2	0	0.0		
		中央区	4	0.9	0	0.0	埼玉県	1	0.2	0	0.0		
		北区	3	0.7	0	0.0	その他の県	1	0.2	1	0.5		
		足立区	1	0.2	1	0.5	合計			449	100.0	191	100.0
		文京区	3	0.7	1	0.5							

② 性別・年齢(カッコ内は%)

		1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	合計
男	児	50 (11.1)	73 (16.3)	57 (12.7)	27 (6.0)	16 (3.6)	4 (0.9)	227 (50.6)
女	児	52 (11.6)	76 (16.9)	49 (10.9)	18 (4.0)	22 (4.9)	5 (1.1)	222 (49.4)
合	計	102 (22.7)	149 (33.2)	106 (23.6)	45 (10.0)	38 (8.5)	9 (2.0)	449 (100.0)

IV 各部の活動(1)

③ 利用の頻度 (カッコ内は%)

	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	合計
1 度も利用 していない	63 (61.8)	76 (51.0)	57 (53.8)	30 (66.7)	27 (71.1)	5 (55.6)	258 (57.5)
今まで数回利用 している	20 (19.6)	44 (29.5)	32 (30.2)	9 (20.0)	11 (28.9)	4 (44.4)	120 (26.7)
月1回以上利用 している	18 (17.6)	25 (16.8)	17 (16.0)	6 (13.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	66 (14.7)
週1回以上利用 している	1 (1.0)	4 (2.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (1.1)
合 計	102 (100.0)	149 (100.0)	106 (100.0)	45 (100.0)	38 (100.0)	9 (100.0)	449 (100.0)

④ 利用の目的 (カッコ内は%)

	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	合計
集 団 保 育	90 (35.3)	172 (44.0)	47 (37.3)	4 (13.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	313 (37.5)
緊 急 時	5 (2.0)	9 (2.3)	3 (2.4)	1 (3.4)	2 (8.3)	0 (0.0)	20 (2.4)
就 労 ・ 就 学	80 (31.4)	63 (16.1)	7 (5.6)	2 (6.9)	2 (8.3)	0 (0.0)	154 (18.4)
用 事	58 (22.7)	100 (25.6)	50 (39.7)	12 (41.4)	19 (79.2)	10 (100.0)	249 (29.8)
講座・サークル	18 (7.1)	44 (11.3)	18 (14.3)	10 (34.5)	1 (4.2)	0 (0.0)	91 (10.9)
保 育 相 談	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
そ の 他	4 (1.6)	3 (0.8)	1 (0.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (1.0)
合 計	255 (100.0)	391 (100.0)	126 (100.0)	29 (100.0)	24 (100.0)	10 (100.0)	835 (100.0)

⑤ 時間帯別利用回数

	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	合計
A (午 前)	145	251	82	10	4	1	493
B (午 後)	90	101	36	18	18	9	272
C (終 日)	17	22	2	1	1	0	43

3) 母子教室

(ア) 募集方法・応募状況

子育てについて母と子が一緒に参加し、遊んだり講義を受けたりして新鮮な気持ちで自分と我が子を見つめ直し、育児に取り組むことを目的として、1歳児の母子、2歳児の母子を

6 保 育

対象に一般公募した。1歳児の母子教室は定員10組に対して26組の申し込みがあり、2歳児の母子教室は定員15組に対し29組の申し込みがあった。受け付けは先着順とし、受け付けられなかった母子は、次回優先のリストに載せた。

(イ) 活動の内容

それぞれのプログラムは次のとおりである(表2-①~③)。実績を通して、募集手続き、活動プログラム、活動の中での母子分離の問題、講座終了後のアフターフォローの在り方などについて検討課題が残された。

表2 母子教室プログラム

① 母子活動

自由遊び……母子、スタッフで保育室で遊ぶ。遊具は、たいこ橋、すべり台、ボール、パズル、玉ころがし、ままごと、汽車など。
おやつ……担当者で母子という形でおやつを囲む、回を重ねるうちに保育内容と並行して小グループで座る。
朝・帰りのまとめ……朝は、片づけ、集まり、出席、手遊び歌を、帰りは、手遊び、出席表配りを、2回ずつ、保育者が担当して、進行させていった。
手遊び……1歳児、2歳児に合うものを選び、数回ずつ繰り返して、母子が覚えていけるよう指導していった。
<1歳児> 手遊び……「どんぐりころころ」「お馬の親子」「小人のお家」「お花がわらった」歌……………「小守歌」「思い出のアルバム」
<2歳児> 手遊び……「雪やこんこん」「ころころ卵」「小人のお家」「お花がわらった」歌……………「小さな世界」「小守歌」

② 母親活動Ⅰ期(1歳児)

回	月 日	テーマ・講師	ね ら い	内 容
1	61. 1. 6 (月)	<母子遊び・オリエンテーション> 小山 望, 菊田弓美子 (保育研究開発部)	新しい場所と人に接する。 母子のスキンシップを深める。	母子で身体を使い、触れ合って遊ぶ 母子遊び紹介「さる親子」「ブランコ」「かくれんぼ」 オリエンテーションテキスト配布
2	1. 13 (月)	<栄養と食事> 手塚 文栄氏 (元保健所栄養士)	食事に関する不安にこたえ、子どもを見直す。	講義…1歳児の食行動でよくみられる「少食」「ムラ食い」「遊び食べ」について 試食会
3	1. 20 (月)	<手作りおもちゃ> 石川志津子氏 (社会活動研究所)	おもちゃ作りを通して、子どもの遊びを振り返る。	実習…こどもが遊べるおもちゃを作る。軍手を利用した「手長猿」のぬいぐるみ作り
4	1. 27 (月)	<1歳児の行動を観る> 小山 望	子どもの様子を客観的に見る。	講義…1歳児の平均的な行動「いたずら」「模倣」のビデオ 1歳児の行動について
5	2. 6 (木)	<子育ての医学 パート1> 巷野 悟郎 (小児保健部長)	医学・健康面の不安にこたえ、育児知識を持つ。	講義…医学的知識、特に脳の発達と子育ての関連について 質疑応答

IV 各部の活動(1)

回	月 日	テーマ・講師	ね ら い	内 容
6	61. 2. 13 (木)	<子育ての医学 パート2> 巷野 悟郎	医学・健康面の不安にこたえ、育児知識を持つ。	講義…排尿、しつけについての医学的立場からの解説 質疑応答
7	2. 16 (日)	<おとうさんと一緒に> 西山 里美 (体育事業部)	父親と子どものかかわりを深める。	実技…父子でスキンシップを高める柔軟体操や親子遊び
8	2. 20 (木)	<ジャズダンスで 楽しく> 野村ひろみ、竹内里絵 (保育研究開発部)	母親自身のリフレッシュ	実技…音楽に合わせて、ジャズダンスを踊る。
9	2. 27 (木)	<子育ての心理学・ お別れパーティー> 小山 望	育児を振り返り、母親同士の交流を深める。	ディスカッション…子育てについて身近な話題「分離不安」などを話す。 パーティー…ゲーム、終了式、お茶会

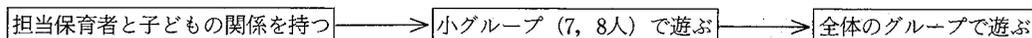
母親活動II期(2歳児)

回	月 日	テーマ・講師	ね ら い	内 容
1	61. 2. 3 (月)	<母子遊び・オリエン テーション> 小山 望、菊田弓美子 (保育研究開発部)	新しい場所と人に接する。母と子のスキンシップを深める。	母子で身体を使って遊ぶ「ブランコ」「つかまり前転」手作りおもちゃ紹介「紙コップ風船」「ハンカチ動物」
2	2. 10 (月)	<栄養と食事> 手塚 文栄氏 (元保健所栄養士)	食事に関する不安にこたえ、子どもを見直す。	講義…おやつの量、内容について 質疑応答…おやつ、食事の量について
3	2. 17 (月)	<幼児と造形> 前田ちま子 (造形事業部)	子どもの遊び、造形を新たな視点で見直す。	実習…母子一緒に造形活動に取り組む。子どもの自由画を母が模写する。粘土、紙のおふる、スタンプなどで母子で遊ぶ。
4	2. 24 (月)	<2歳児の行動を観よう Part 1> 小山 望	子どもの様子を客観的に見る。	講義…「けんかの場面」「模倣」「ごっこ遊び」のビデオをみて2歳児の行動について ディスカッション…「けんかの対応」「分離不安」など
5	3. 6 (木)	<子育ての医学> 巷野 悟郎 (小児保健部長)	医学、健康面での不安にこたえ、育児知識を持つ。	講義…2歳という年齢は、記録や言語の発達が十分でない。子どもの立場になって子どもを見る必要がある
6	3. 15 (土)	<ジャズダンスで 楽しく> 野村ひろみ、竹内 里絵 (保育研究開発部)	母親自身のリフレッシュ	実技…音楽に合わせてジャズダンスを踊る。
7	3. 16 (日)	<お父さんと一緒に> 西山 里美 (体育事業部)	父親と子どものかかわりを深める。	実技…父子でスキンシップを高める。柔軟体操や親子遊びを行う。

6 保 育

回	月 日	テーマ・講師	ね ら い	内 容
8	61. 3. 22 (土)	<2歳児の行動を観よう Part 2> 小山 望, 岩田 泉, 佐竹由利子 (保育研究開発部)	子どもの心を探る。	実技…子どものけんかの場면을母親が 子どもになって演じるロールプレ イ。 ディスカッション…演じた感想を話し 合う。
9	3. 29 (土)	<子育ての心理学・お別 れパーティー> 小山 望	育児を振り返り, 母親同 士の交流を深める。	ディスカッション…10回を振り返り近 所づきあいについて, 意見交換。 パーティー…ゲーム, 終了式, お茶会

③ 母子分離して実施された保育プログラム



- ・担当制……保育者1人が子ども3, 4人を担当し, 受け入れを行ったり, おやつ時間に子どもの様子を伝えた。
- ・自由保育…自由遊びの中で子どもの中から発生した遊びを継続, 援助していく。
- ・場 所……プレイルーム1, 2を中心としてフリーホール, 保育室IIで遊ぶ。

() は母子教室の回数, < > は, ねらい

I 期 (1 歳 児)		II 期 (2 歳 児)	
61. 1. 13 ① (月) (2)	<担当保育者と各子どもの関係を持つ> 分離後, 約半数の子どもが泣き, 安定させるかかわりが多かった。	61. 2. 3 ① (月) (1)	<20分程度, 分離を経験する> 分離時は, 3分の2の子どもが泣く。全員でフリーホールで遊ぶ。終始泣く子とごっこ遊びなどをする子どもがいた。
1. 20 ② (月) (3)	< 同 上 > 分離後, 約半数の子が泣く。安定した所で, リズム運動を入れるが2, 3人のみやる。	2. 10 ② (月) (2)	<担当保育者と各子どもの関係を持つ> 分離時, 半数の子どもが泣き, 激しく母を追う。遊べる子どもは, 他児とごっこ遊びやけんかもする。
1. 27 ③ (月) (4)	<担当保育者との関係を基盤に小グループで遊ぶ> 泣く子が多い。 音の出るおもちゃを中心に遊ぶ。	2. 24 ③ (月) (4)	<小グループに分かれて遊ぶ> 泣く子どもは固定化してくる。設定遊びは「トンネルくぐり」で数人の子どもがやってみる。ままごとと, ピistolごっこがみられる。
2. 6 ④ (木) (5)	<泣く子, 泣かない子に分かれて遊ぶ> 泣き続ける子をグループ化して遊ぶが, 最後まで保育者にまわりつくのみであった。	3. 6 ④ (土) (5)	<小グループから全体で行き来して遊ぶ> 間があき泣く子が多く, 不安定であった。
2. 13 ⑤ (木) (6)	<小グループで遊ぶ> ③のグループに戻って遊ぶ。 クレヨン画を課題とするが2, 3人のみ行う。	3. 15 ⑤ (土) (6)	< 同 上 > 泣く子後半は落ち着きだす。課題として小麦粉粘土を設定し, 多くの子どもが興味を示す。

IV 各部の活動(1)

	I 期 (1 歳 児)		II 期 (2 歳 児)
2. 20 ⑥ (木) (8)	<全体のグループで遊ぶ> 泣く子どもが減ってくる。全員でフリーホールへ移動、ボール、ごっこ遊び、おいかげっこなどをする。	3. 22 ⑥ (土) (8)	<小グループから全体で行き来して遊ぶ> 泣く子どもも後半は落ち着く。子ども同士のかかわり、けんかも増える。
2. 27 ⑦ (木) (9)	< 同 上 > ほとんどの子どもが泣かずに遊ぶ。プレイルームで全員で、今までなじんできたおもちゃで遊ぶ。	3. 29 ⑦ (土) (9)	<全体のグループで遊ぶ> 泣く子どもはほとんどなく、子ども同士のかかわりも増える。安定して遊ぶ。

4) 催 し

(ア) 保育室の一般開放

「こどもの城」来館児は幼児の占める割合が高く、活動の場が不十分であることなどから、保育クラブの利用者の少ない週末及び祝祭日、「こどもの城」の特別期間に限り保育室IIを一般来館者に開放した。

主に1,2歳児を対象として保育室内におもちゃを置き、来室した親子が自由に遊べるように用意した。入館者数の多い、少ないによって来室した親子の数も上下したが、1日当たり平均30~40組が利用した。

(イ) 親子であそぼう (開館記念)

保育室IIにおもちゃを置いて自由に遊べる場を用意し、懇談コーナーを設けて当部の事業の説明を中心に、職員と来室した親が、子どもをめぐるテーマで懇談した。調理室では手作りのおやつを用意し、作り方の資料とともに来室者に提供した。

保育室Iでは職員による歌、ボードビル、体操などのバラエティーショーや、紙工作、小麦粉粘土遊びのコーナーなどで主に3~5歳児に対応した。

(4) 61年度の活動

前年度の事業を継続し、本年度は更に検討を加えながら各活動を次のように行った。

1) 幼児グループ

(ア) 活動の概要

前年度から継続した2歳児5人、3歳児13人、4歳児3人、計21人の小グループで異年齢混合保育を行った。2歳児5人は週2回、3、4歳児は週4回を活動日とし、「こどもの城」各部門のプログラムを取り入れた保育、保育クラブメンバーとの統合保育を実践した。

前年度に続いて家庭との連携を大切に考え、積極的に親子活動のプログラムを取り入れた（代々木公園へ月ごとの親子遠足、運動会、クリスマス会、ハローウィンのお祭り、手作りの昼食会など）。また、観察室からの保育参観や、保育活動のビデオを視聴するなどの保育参観、母と子のリトミック活動などの保育参加も実施し、個別の懇談などを通じて、子どもの理解を相互に深めるよう努力した。他部門活動も週1回のプール指導、隔週1回の造形、音楽プログラムを実践した。

他部門活動は各部門のスタッフによる指導が行われたが、そのほかにも、子どもたちが場所や移動に慣れてきたため、日常の遊びや活動の場として少しずつ使えるようになった。各部門のプログラムの内容は表1-①～③に示した。保育クラブのメンバーとの統合保育は、幼児グループがグループとして安定してくるにつれて受け入れるゆとりが生まれ、年長の幼児グループのメンバーが年少の保育クラブのメンバーの世話をする場面が見られるようになった。しかし、保育クラブのメンバーが大きなグループに溶け込むためには、細かい配慮が必要で、継続的なプログラムに不定期に参加させていくときの工夫が非常に大切であり、抵抗なく楽しめるようになるまでには、長時間を要し、うまく溶け込めず参加しなくなっていく子どもも出てきた。

(イ) 課題と展望

異年齢混合保育を行っていくうえで、年齢構成のばらつきがあった。特に、4歳児はわずか3人で、この子たちが5歳児になっていく過程では同年齢の、もう少し大きいグループの経験の場を用意していく必要があると思われる。自然環境が乏しいので、館外活動や、ハムスター・金魚の飼育、草花や野菜の栽培を心がけたが、家庭での補いも含めて、考えていく必要がある。3～5歳児の遊びのプログラムは「こどもの城」でできることについて、なお検討する必要がある。全館を使い屋外スペースも活用して、充実を考えていきたい。保育クラブとの統合保育は、不定期に参加する子どもの受け止め方について、また迎え入れる幼児グループの子どもの気持ちの動きについて検討する必要がある。継続的なプログラムへの参加のさせ方についても工夫を重ねることが必要である。

IV 各部の活動(1)

表1 幼児グループのプログラム(造形・音楽)

① 4～7月

造 形

(隔週1回)

回	月 日	活 動 内 容	回	月 日	活 動 内 容
1	4・15	粘土 素材との出会い ○まるめる。細長くする。	4	6・10	粘土, 道具を使って Part 1 ○竹べら, 金べら, 筒, 金網を使 って。 ○道具を使って遊び込む。
2	4・13	粘土で遊ぶ Part 1 ○円すい, 長方形を作る。 ○道を作り, 広げて友達とのつな がりを持つ。	5	6・24	粘土, 道具を使って れんが作り ○れんがを作って家を造る。 ○四角体を作る。
3	5・27	粘土で遊ぶ Part 2 ○少し水気のある粘土に少しずつ 粉を入れて粘土をこねていく。街づくり。 ○グループ分けをする。	6	7・8	粘土を作る ○水と粉を使って粘土を作る。

素材との出会いでまず粘土を選ぶ。粘土はなじみやすいらしく、スムーズに活動に入っていく、素材自体を楽しむ。また、なかなか、活動に入れなかった子どもも少しずつ、粘土に慣れていき、興味を持つようになった。1つの素材でいろいろな方向から活動の視点を変えていくことで、子どもの遊び方も違った点が見られた。経験の積み重ねの中でも遊べたり、突然来ても遊べるというのは、粘土という可塑性に富んだ素材がたいへんよかったからのようだ。

音 楽

(隔週1回)

回	月 日	活 動 内 容	回	月 日	活 動 内 容
1	4・10	○何の音? (車, ノック, 鳥, 水, 汽 車等) ○ゴージャンケン ○おはなし指さん, 手をたたきましょ う (歌)	5	6・5	○リトミック ○スカーフで遊ぼう
2	4・24	○おはなし指さん (歌) ○製作 指人形を作る ○小さな畑 (手遊び)	6	6・19	○リトミック ○忍者ごっこ
3	5・8	○手をたたきましよう (歌) ○リトミック ○クルクルだこ作り, たこ揚げ	7	7・3	○七夕のうた ○七夕まつり, 飾り作り
4	5・22	○ペーパーサート作り ○「雨降りくまのこ」の歌	8	7・16	○ストーリーテリング (太宰先生) 王様の耳はロバの耳

音楽のみの活動だけでなく製作という活動が入ることで子どもたちのイメージが広がったようだ。

保育室の中で歌や手遊びが出て来るようになる。また、自由遊びの中で忍者ごっこが発展しプレイホール、造形スタジオでやる姿も見られるようになった。造形スタジオでは、宝地図やしゅりけんを作る。

全体的に一斉指導の中で指導者の言うことを聞いて動いたが、少しレベルが高いこともあり、子どもたちが受動的になりがちであった。

6 保 育

②9～12月

造 形

(隔週1回)

回	月 日	活 動 内 容	回	月 日	活 動 内 容
1	9・9	絵の具 ○色水遊び ○色混ぜ 導入“青ちゃん黄ちゃん”	5	11・11	絵の具 ○染め紙 〈木を作ろう〉 和紙を葉っぱに切ったものを染める。
2	9・30	○大きな紙にローラーで描く。 ○型押し遊び	6	12・2	○影を写そう プレイングボードに影を写し、 絵の具で型をとり色を塗る。デ ザインする。
3	10・21	○筆を太きで分ける。 ○点と線と面の基礎を子どもに知 らせる。 ○基本的な筆による技法を知らせる。	7	12・16	○大きな紙に描こう。 道を作りローラーで道を描く。 ロボットの足跡をつける(手型 押し)。
4	10・28	○金網を使って 筆で絵の具を金網につけ上から 吹き込む。			

絵の具は、粘土より取りかき方が楽しそうだ。しかし、その回の活動の方向性がはっきりしていないと年齢が低い子どもほど自分が何をしたらいいかわからなくなる傾向があるので、ある程度方向を示してやる必要があると思われる。

絵の具を利用することで、筆やローラー、金網などを使い筆だけとは違う表現の仕方を習得していったのではないだろうか？

音 楽

(隔週1回)

回	月 日	活 動 内 容	回	月 日	活 動 内 容
1	9・18	中 止	5	10・23	○リトミック ○人形のまねっこ 身体表現 ○忍者ごっこ うた 小さな世界
2	9・25	中 止	6	11・6	○リトミック ○“くつや”(リズム遊び) ○身体表現 のびちぢみ ○人形のまねっこ ○手あそび“ころころたまご”
3	10・9	○リトミック ○8こかんのマーチ ○うた“まつぼっくり”“とんぼのめがね” ○身体表現 種→芽→木	7	11・21	○リトミック のびちぢみ ○手あそび“うどんやさん” ○うた“あわてんぼうのサンタクロ ース”“赤鼻のトナカイ”
4	10・16	○リトミック ○うた“まつぼっくり”“とんぼのめ がね”“小さな世界” ○手あそび“六匹のかたつむり”	8	12・11	○リトミック ○のびちぢみ ○うたのれんしゅう(クリスマスのお うた)

身体でリズムを覚え、1つの柱としてリズムを組み込んでいくことにした。

幼児グループの子どもは、自己主張が強く自分の言いたいことを言い、のびのび活動することができるが、音楽活動の流れが分からない保育クラブの子どもは初めは、おもしろくてつられて活動するが、時間がたつてくると疲れてイライラする子が目立つ。テンポをゆっくりにしてゆったり伝えていくほうが子どもたちも物覚えがよくなってすぐに歌詞等を覚えるようだ。

積み上げがなく年齢が低い子がはずれてしまう場合は、保育のスタッフのフォローが必要だ。

IV 各部の活動(1)

③ 1～3月

造 形

(隔週1回)

回	月 日	活 動 内 容	回	月 日	活 動 内 容
1	61. 1. 20	紙を使って ペープサート作り 三匹のやぎのがらがらどん	4	3. 3	紙を使って トーテムポール作り もう1つの面
2	2. 3	三匹のやぎのがらがらどん 大道具小道具作り 橋, おめん, 山, トロルの衣装	5	3. 17	トーテムポール作り 色塗り
3	2. 17	トーテムポール作り 片面の顔 グループ分けて活動する			

音 楽

(隔週1回)

回	月 日	活 動 内 容	回	月 日	活 動 内 容
1	61. 1. 29	○リトミック ○歌“小さな世界” ○まねっこ遊び	2	3. 5	○リトミック ○縄遊び ○ストーリーテリング“ぶた姫様”

経験の浅い保育クラブ児は、1つ1つの活動は楽しめるが、全部の活動には入りきれなかった。単発的に来る子を、どの程度まで活動に引き込んでいくか、定期的に来る子へのかかわりとの兼ね合いが難しい。単発的に来る子は単純な活動であれば、ある程度楽しむことができるようだった。

2) 保育クラブ

(ア) 活動の概要

保育クラブのプログラムとして3時間を単位とするフリー予約の保育、親子活動プログラム、相談を行った。また、保育クラブ通信を発行して「こどもの城」の活動や保育クラブの活動について情報を提供し、会員との連絡を密にするよう努力した。

① フリータイム保育

〔1, 2歳〕 保育者、保育室に慣れ、安定して過ごせることを大きな目標として受け入れ、簡単な“ごっこ遊び”や集団遊びを楽しめるようにプログラムを展開した。実施に当たっては、保育クラブの特殊性から個別対応を特に丁寧に行っており、また受け入れに際しても保育者のローテーション、母親との連絡などの点に配慮した。

〔3～5歳〕 幼児グループとの統合活動、1, 2歳児との異年齢混合の保育活動を行った。1, 2歳児と別々に受け入れを行い、3歳の誕生日とともに3～5歳の受け入れに移行するシステムを実施したが、スムーズに移行できない子が目立った。

② 親子活動プログラム

親子の造形活動、親子のプールのほか、親を対象としたビデオ教室、エアロビクス教室を実施した。10月からは3歳以上の親子を対象として、館外活動（遠足、運動会）、クリスマス会、昼食会を実施し、幼児グループの親子とも交流を図った。また、保育クラブの2歳児

6 保 育

を対象とした母子教室を10回コースで実施した。3月には親子対象のイベントを開催した。

(イ) 利用の状況

会員総数は698人となり、ほとんどが渋谷区、港区、世田谷区を中心とした都内居住者であるが、神奈川県を始め近県居住者も1割加わった。前年度から登録を更新した会員が成長し、2、3歳児の層が更に厚くなった(60.3%)。1歳児の利用を1歳6か月以上と制限したため、1歳児の率は低くなった(1.7%。表2-②)。保育クラブを実際に利用した人は6歳を除いて、各年齢ともに前年度より増えており、1～3歳の利用者が多く、2歳がそれに次いだ(表2-③)。利用の目的は集団保育が多く、特に2～4歳はこれが中心となり、次いで“母の用事”があがっている(表2-④)。

利用時間帯が午前中に片寄るため、会員数を増やして午後の活性化を図ろうとしたが、いぜん午前中に集中した(表2-⑤)。

表2 保育クラブ活動状況

① 居住地域分布

		会員全体		利用者				会員全体		利用者		
都府	道県	人数	%	人数	%	都府	道県	人数	%	人数	%	
東京都	港区	134	19.2	68	21.3	東京都	葛飾区	2	0.3	1	0.3	
	渋谷区	159	22.8	57	17.8		江戸川区	4	0.6	1	0.3	
	世田谷区	98	14.0	48	15.0		荒川区	3	0.4	1	0.3	
	目黒区	47	6.7	21	6.6		中野区	9	1.3	1	0.3	
	新宿区	24	3.4	10	3.1		墨田区	2	0.3	1	0.3	
	大田区	22	3.2	11	3.4		練馬区	3	0.4	1	0.3	
	品川区	23	3.3	8	2.5		23区外	23	3.3	10	3.1	
	杉並区	16	2.3	9	2.8		神奈川県	川崎市	20	2.9	7	2.2
	台東区	10	1.4	9	2.8		横浜市	17	2.4	9	2.8	
	千代田区	11	1.6	7	2.2		その他の市	7	1.0	2	0.6	
	板橋区	7	1.0	6	1.9		静岡県	岡 県	3	0.4	3	0.9
	豊島区	6	0.9	5	1.6		千葉県	千 葉 県	7	1.0	2	0.6
	江東区	8	1.1	4	1.3		茨城県	茨 城 県	3	0.4	1	0.3
	中央区	7	1.0	5	1.6		埼玉県	埼 玉 県	4	0.6	2	0.6
	北区	5	0.7	3	0.9		その他の県	そ の 他 の 県	8	1.1	2	0.6
	足立区	2	0.3	2	0.6		合計	合 計	698	100.0	320	100.0
	文京区	4	0.6	3	0.9							

② 性別・年齢(カッコ内は%)

		1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	合計
男	児	7 (1.0)	89 (12.8)	118 (16.9)	86 (12.3)	35 (5.0)	21 (3.0)	356 (51.0)
女	児	5 (0.7)	105 (15.0)	109 (15.6)	73 (10.5)	21 (3.0)	29 (4.2)	342 (49.0)
合	計	12 (1.7)	194 (27.8)	227 (32.5)	159 (22.8)	56 (8.0)	50 (7.2)	698 (100.0)

IV 各部の活動(1)

③ 利用の頻度 (カッコ内は%)

	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	合計
1 度も利用していない	5 (41.7)	92 (47.4)	99 (43.6)	104 (65.4)	39 (69.6)	39 (78.0)	378 (54.2)
今まで数回利用している	4 (33.3)	70 (36.1)	82 (36.1)	45 (28.3)	17 (30.4)	10 (20.0)	228 (32.7)
月1回以上利用している	3 (25.0)	27 (13.9)	33 (14.5)	9 (5.7)	0 (0.0)	1 (2.0)	73 (10.5)
週1回以上利用している	0 (0.0)	5 (2.6)	13 (5.7)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	19 (2.7)
合計	12 (100.0)	194 (100.0)	227 (100.0)	159 (100.0)	56 (100.0)	50 (100.0)	698 (100.0)

④ 利用の目的 (カッコ内は%)

	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	合計
集団保育	141 (32.0)	571 (42.7)	404 (44.8)	53 (39.0)	5 (7.6)	1 (7.1)	1,175 (40.6)
緊急時	10 (2.3)	21 (1.6)	8 (0.9)	0 (0.0)	1 (1.5)	1 (7.1)	41 (1.4)
就労・就学	74 (16.8)	257 (19.2)	145 (16.1)	4 (2.9)	12 (18.2)	1 (7.1)	493 (17.0)
用事	93 (21.1)	308 (23.0)	248 (27.5)	53 (39.0)	47 (71.2)	9 (64.3)	758 (26.2)
講座・サークル	119 (27.0)	162 (12.1)	94 (10.4)	25 (18.4)	1 (1.5)	2 (14.3)	403 (13.9)
保育相談	1 (0.2)	9 (0.7)	1 (0.1)	1 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (0.4)
その他	3 (0.7)	9 (0.7)	2 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (0.5)
合計	441 (100.0)	1,337 (100.0)	902 (100.0)	136 (100.0)	66 (100.0)	14 (100.0)	2,896 (100.0)

⑤ 時間帯別利用回数

	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	合計
A (午前)	255	888	655	79	11	2	1,890
B (午後)	147	292	140	49	51	11	690
C (終日)	28	87	53	6	3	1	178

(ウ) 課題と展望

多様な保育ニーズに、柔軟にこたえる保育を目指して実践してきたが、定期的にご利用する子どもが増え、しかも低年齢の集団参加を希望する親が増えてきた。会員総数が増えたことにより、保育者が会員を把握することが難しくなり、きめ細かい保育をしていくうえで会員の適正な数について検討するの必要が感じられた。また、利用目的の半数近くが、集団保育を希望するためとなっているが、不定期メンバーによる保育グループによって、その目的を果たすことが適当かどうかは課題となった。保育クラブは1、2歳児と3～5歳児に分けて保育を行い、3歳の誕生日を迎えた2歳児は、3～5歳のグループに移行させる。この移行がなかなかスムーズにいかないことも課題であった。原因は、1、2歳児の保育の進め方と、

6 保 育

3～5歳児の保育の進め方に十分な連携がとれないでいること、保育担当者や保育室が変わったり、集団が大きくなるなど、変化が大きくて子どもが不安定になることなどが考えられる。母親活動、相談活動が保育クラブ活動の中で大切なプログラムであるが、本年度は内容を十分に検討することができなかった。

3) 母子教室

(ア) 活動の概要

1歳児の母子教室を1期、2、3歳児の母子教室を3期行い、うち1期は保育クラブの会員を対象にした。このほか母親を対象に講座を2期実施した。各講座のプログラム内容は表3のとおりであった。

表3 母子教室幼児を考えるプログラム

<第III期1歳児の母子教室>					<第IV期2～3歳児の母子教室>				
回	月日	テーマ	講師	場所	回	月日	テーマ	講師	場所
1	4・7 (月)	母子で遊ぼう オリエンテー ション	保育研究開発部 小山 望	保育室II	1	5・24 (土)	母子で遊ぼう オリエンテー ション	保育研究開発部 小山 望	保育室II
2	4・14 (月)	栄養と食事	元品川区保健所 手塚 文栄氏	研修室901	2	5・31 (土)	ビデオで撮ろう	AV事業部 木邊 高敏	研修室901
3	4・21 (月)	1歳児の行動を 観る	小山 望	研修室801	3	6・2 (月)	2歳児の行動を 観よう	小山 望	研修室801
4	4・28 (月)	子育ての医学	元都立母子保健院長 二木 武氏	和 室	4	6・9 (月)	子育ての医学	小児保健部 神代千佳子	和 室
5	5・12 (月)	ジャズダンスで 楽しく	元保育研究開発部 野村ひろみ	音 楽 スタジオ	5	6・15 (日)	お父さんと一緒	体育事業部 西山 里美	保育室I
6	5・18 (日)	お父さんと一緒	体育事業部 西山 里美	保育室I	6	6・23 (月)	ジャズダンスで 楽しく	元保育研究開発部 野村ひろみ	音 楽 スタジオ
7	5・26 (月)	子育ての心理学 お別れパーティ ー, 修了式	小山 望	和 室 保育室II	7	6・30 (月)	子育ての心理学 お別れパーティ ー	小山 望	和 室 保育室II

・母子教室I・II期に準ずる形で母親は講座、子どもは保育という分離形式で行った。

・母親の講座の活動、子どもの保育活動なども、I・II期に準じた。

母は講師による講義受講後、ディスカッション。子どもは担当保育者との関係を基に、おもちゃで遊ぶ。

<反省>

- (1) 母子分離について低年齢のため、また、短期間のため母子ともに大きな刺激になっており、慎重に考えていく必要がある。
- (2) 申し込み手続きが複雑なため、簡素化が問われた。公募の形式をとっていくことを検討していく。
- (3) 母子分離のため、子どもの保育のねらいが、子どもを安定させることに終始した。分離を見直し、子どもの保育活動に広がりを考えていく必要がある。
- (4) 母親活動と子どもの保育活動を2分して進行していくのではなく、結びつけていく工夫が必要である。

IV 各部の活動(1)

<幼児を考える I 3歳以上児の母親>

<幼児を考える II 1,2歳児の母親>

回	月日	テーマ	講師	場所	回	月日	テーマ	講師	場所
1	6・5 (木)	子育て論考 ～子どもの生活 を通して子育て を考える	東京学芸大学 小川 博久氏	研修室	1	6・17 (火)	1,2歳児の行 動を観る	保育研究開発部 小山 望	研修室
2	6・12 (木)	子どもの行動を 観る	保育研究開発部	同上	2	6・24 (火)	子育ての医学	小児保健部長 巷野 悟郎	同上
3	6・19 (木)	幼児とテレビ	NHK ディレクター 武井 博氏	同上	3	7・1 (火)	幼児とテレビ	NHK プロデューサー 近藤 康宏氏	同上
4	6・26 (木)	子育ての医学	小児保健部長 巷野 悟郎	同上	4	7・8 (火)	ジャズダンスで 楽しく	元保育研究開発部 野村ひろみ	同上
5	7・3 (木)	子育ての心理学 ～フリーディス カッション	保育研究開発部 小山 望	同上	5	7・15 (木)	子育ての心理学 ～フリーディス カッション	小山 望	同上

・母親のみ講座に参加し、育児について他方面から考えていけるように医学、教育、心理学の専門家、また、幼児向けTV番組のディレクターなどが講義を行い、その後、質疑応答を行う。

<反省>

- (1) 講義を受けて、考えさせられることも多かったと思われるが、講義以外の活動がなかったので、十分なフォローができない。
- (2) 母子の参加でないので、実際に子どもに接するときの母親の姿と、言葉で語っている姿のズレなどが把握しにくい。
- (3) 参加者が定員を割り、子どもの保育も引き受けるという形にして、若干、参加者が増えた。低年齢児の場合、母子一緒に参加したいというニーズが高いようである。

<第V期保育クラブ会員の2歳児の母子教室>

<第VI期2歳児の母子教室>

回	月日	テーマ	講師	使用した場所	回	月日	テーマ	講師	使用した場所
1	11・6 (木)	お母さんと遊ぼう(1) オリエンテーション	保育研究開発部	保育室II	1	61・1, 22 (木)	お母さんと遊ぼう(1) オリエンテーション	保育研究開発部	保育室II
2	11・13 (木)	お母さんと遊ぼう(2)	同上	同上	2	1・29 (木)	お母さんと遊ぼう(2)	同上	同上
3	11・20 (木)	お母さんと遊ぼう(3)	同上	同上	3	2・5 (木)	お母さんと遊ぼう(3)	同上	同上
4	11・27 (木)	2歳児を考える	聖心女子大学 岡 宏子氏	研修室905	4	2・12 (木)	お母さんと遊ぼう(4)	同上	同上
5	11・30 (日)	お父さんと一緒	体育事業部 西山 里美	保育室I・II	5	2・19 (木)	おやつと子ども	同上	同上
6	12・4 (木)	ジャズダンスで楽しく	元保育研究開発部 野村ひろみ	音楽スタジオ	6	2・26 (木)	子育ての医学	小児保健部長 巷野 悟郎	研修室905

6 保 育

回	月日	テ ー マ	講 師	使用した 場 所	回	月日	テ ー マ	講 師	使用した 場 所
7	12・13 (土)	子育ての医学	小児保健部長 巷野 悟郎	研修室906	7	3・5 (木)	「みる」～ビデオを通して「みる」	AV事業部 木邊 高敏	研修室905
8	12・18 (木)	子どもの行動を観る	AV事業部 木邊 高敏	研修室905	8	3・8 (日)	お父さんと一緒	体育事業部 西山 里美	保育室 I・II
9	61・ 1・8 (木)	子育ての心理学	保育研究開発部 小山 望	同 上	9	3・12 (木)	「みる」～いろいろな「みかた」	木邊 高敏	研修室905
10	1・17 (土)	お別れパーティー 修了式	保育研究開発部	保育室II	10	3・19 (木)	お別れパーティー 修了式	保育研究開発部	保育室II

(1) 第V期、第VI期は、母子関係を重視し、分離をもう一度見直す。

母子と一緒に過ごし、楽しむプログラム開発を課題として、初回から3、4回は「お母さんと遊ぼう」というテーマを設定する。

子どもが、親しみやすい題材を選んで、連続して1つの劇を仕上げていく。母だけ、母と子、子だけ、という活動を織り込んでいく。

短い時間、母親の見える場所からの分離から始め、徐々に、時間を延ばした。その際、母親のそばにいたい子どもは、無理に離さない。

第V期は、保育クラブ会員で、常時利用していた人が多かったので、第VI期は、母子の活動を1回増やす。

(2) 子どものプログラム

徐々に、母親から分かれ、子どもが遊べるように保育内容を工夫していく。お話やパネルシアターなどの静的な活動、スロー散歩、美竹公園での「こどもの城」の外での動的な活動を織り込んでバランスを考える。保育者との関係から、友達関係を広げる言葉かけ、働きかけを行う。

(3) 母親のプログラム

医学、心理学、栄養などの専門家の講義を受ける形式から、自分自身について考えることができるようなプログラムに変えていった。つまり、実際に集団の中で母子で遊び、子どもを見つめ直したり、楽しんだりする母子遊びから入り、母親同士が交流し、支え合いながら子どもに見せる劇をつくる活動や、フリーディスカッション、ビデオを通して自分自身を振り返る実技、子どもの保育観察などを織り交ぜていく。

<反省>

- (1) 母親集団構成員の個性を把握し、有効な仲間づくりのフォローをしていく。
- (2) 1人1人が自由にリラックスして自己表現できるような雰囲気をつくる。
- (3) 子ども同士の交流を大切にされた保育内容を更に充実させる。
- (4) 母子関係を大切にされたプログラム開発を更に充実させる。

(イ) 課題と展望

1, 2歳の低年齢児の活動プログラムであるため、母子を一体として考えていくことが必要である。子どものプログラムについては、年齢や個人差を十分考慮し、母子分離活動も柔軟に取り入れて、子どもに合わせた保育内容を充実させていく。母親のプログラムは実技やフリーディスカッション、母親同士の協力活動などさまざまな角度から、育児や子ども、自分自身について考えることができるようなプログラムを検討していく。また講座終了後のアフターフォローの考え方、方法についても検討が必要である。

4) 催し

(ア) 活動の概要

一般来館者を対象とした活動として土・日・祝日及び特別期間中に保育室Ⅱを開放、特別期間中に幼児親子を対象とした親子遊びを実施した。保育室の開放は低年齢幼児に遊びのスペースを提供するねらいで、遊具、おもちゃを置き、親子や家族で自由に遊べる場として保育室Ⅱを午前10時から午後4時まで開放した。汽車、レール、はめ絵パズル、玉さし、ブロック、絵本などに人気が集まった。特別期間中のイベントは行事、季節感を取り入れて、親子の楽しい遊びを紹介した。親子で作って遊んだり、歌や人形劇、影絵、ゲームなど親も子も一緒に活動し、また参加者同士の触れ合いも深められるよう工夫した。開館1周年記念行事として、おもちゃの紹介、1年間の保育活動、給食活動の展示紹介、保育相談を行った。

(イ) 保育室の開放

保育室の開放は、季節・天候により利用者数にばらつきがあり、混雑時には親子でいっぱいになったが、1日に数組という日もあった。親が休憩の場として利用する姿も見られたが、親子でおもちゃを仲立ちと一緒に楽しく遊んで帰る姿も増えてきた。何回か繰り返し来室する子どもは、目当てのおもちゃにひかれてやってくる様子もみられ、準備や遊びについて工夫していく必要がある。また季節ごとに行った親子遊びを楽しみに、再び来室する親子も増えてきた。

7 小児保健部

7 小児保健

(1) 60年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 時間	火	水	木	金	土	日
9:00						
10:00	総合健康相談	ミーティング	総合健康相談	総合健康相談	総合健康相談	神経相談 談月1回
11:00						
12:00						
13:00						
14:00		総合健康相談	育児・生活相談	心理相談	健康教室 (肥満)	心理相談
15:00						
16:00						
17:00						
18:00						

IV 各部の活動(1)

2) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
(開館記念) オープニング記念 健康相談	11. 2～9 (ただし、 5～8 を除く)	11. 2 13:00～15:00 11. 3 10:00～12:00 14:00～16:30 11. 4 10:00～12:00 13:00～15:00 11. 9 13:00～15:00	小児保健部	(人) 二木 武 飯倉 洋治 河合 洋 巷野 悟郎 川井 尚 高橋 種昭 高嶋 宏哉 高橋悦二郎 村田 光範 平山 宗宏 ほか小児保健職 員	相談の内訳 0 歳 2 1～3歳 22 4～6歳 19 7～12歳 12 13歳以上 1 合計 56
(冬休み) 「寒さに負けない健康と 栄養」 (明治乳業後援)	12. 25～ 61. 1. 7 (12. 29～ 61. 1. 2は 休み)	10:00～ 17:00	研 修 室	*巷野 悟郎 *太田百合子 ほか	乳児・幼児対象 利用者数約60～70人 そのうち育児相談9件
(春休み) 「おもちゃで遊ぼう」 障害をもった幼児・小学 生のためのコーナー	3.27～ 4. 2	13:00～ 16:00	小児保健 プレイルー ム1	*吉田弘道 *井口由子 ほか	障害をもった幼児・小 学生(低学年) 利用者数総計約200人 そのうち障害児親子25 組 そのほかは健常児親子

3) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受講数						
健康教室 <肥満児 クラス>	太りすぎ の子ども (小2～ 6年)	30 (人)	17 (人)	土曜日 14:00～ 17:30	小児保健 体育室 プール 健康開発 室 プレイ 造形 音楽	12. 7～ 61. 3. 15 14回	(円) 24,000	医学指導 東京女子医大 教授 村田 光範 ほか 栄養指導 和洋女子大 教授 坂本 元子 ほか	出席率 (対現員比・全期間) 83.6% 造形・音楽・プレイ活 動 45.9% 全体で72.0%

7 小児保健

(2) 61年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日	火	水	木	金	土	日
時間						
9:00						
10:00	総合健康相談 ぜんそく相談(月1回) 耳鼻科相談(月1回) マタニティ・ スイミング	ミーティング	総合健康相談 マタニティ・ スイミング	総合健康相談 心理相談 言語相談	総合健康相談 精神相談(月1回)	総合健康相談 心理相談 神経相談(月1回)
11:00						
12:00						
13:00		総合健康相談 心理相談	育児・生活相談 母と子の リトミックハダ ウン症クラスV	心理相談 言語相談	健康教室 (ぜんそく) (肥満)	心理相談
14:00						
15:00						
16:00						
17:00						
18:00						

IV 各部の活動(1)

2) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	対 象	場 所	料 金	要 員	備 考
(児童福祉週間)「おもちゃで遊ぼう」	5.3~5	13:00~ 16:00	障害をもった幼児 小学生 (低学年)	小児保健部 プレイルーム	(円) 無料	(人) 職員 2	障害児親子 7組 と健全児親子約 110人
(夏休み) 健康教室 集中講座	7.31~8.2	10:00~ 12:00	とりすぎ の小1~6 年生とその 母親	研修室 体育室	3,000	東京女子医大 教授村田光範 和洋女子大学 教授坂本元子	定員30組 子24人 母親24人 参加
(同上) 育児相談コー ナー	8.19~25	14:00~ 16:00 (20日のみ 10:00~ 16:00)	乳幼児と 親	小児保健部 プレイルーム	無料	職員	相談17件
こどもの城 マタニティ・コ ンサート	9.5	14:00と 18:00 (2部に分 け各回約 2時間)	妊婦(5 ~9か月) その夫、 将来子ど もを持ち たい人	青山円形劇 場	1,500 (パパ& ママ券 2,800)	出演者 亀淵由香 野末源一 市川英子 ※巷野悟郎	マチネ214人 ソアレ253人 計467人
(開館1周年記 念) シンポジウム 世界最低になっ た乳児死亡率	10.4	13:30~ 17:00	母子保健 児童福祉 関係者お よび一般	青山劇場	同上	基調講演 2パネ ラー 6 司会 1 (体育事業部に よる新体操デモ ンストラেশヨ ン)	一般706人 招待者44 報道関係10 新体操関係100 計860人
(冬休み) ベビー相談コー ナー	12.26・27 62.1.4~6	10:00~ 16:00	乳幼児と 親	小児保健部 プレイルーム	無料	職員	展示内容 アトピー お正月の栄養 サンプル 来所250人 相談12件
マタニティ・ス イミング同窓会	62.3.7	11:30~ 13:30	マタニテ ィ・スイ ミング卒 業生	研修室	大人 1,200 幼児800	小児保健、体育 職員	案内を出した72 人中35組の卒業 生と赤ちゃんが 参加。
(春休み) 育児相談コー ナー	62. 3.27~31	10:00~ 16:00	乳幼児と 親	27日相談室 28~31日プ レイルーム	無料	職員	展示内容 かぜ あそび 食事行動 おやつ サンプル 来所175人 相談 6件

7 小児保健

3) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定員 (人)	受講数 (人)						
健康教室 太りすぎク ラス(II期)	小 3～6年 の太り すぎ児 童	30	9	土曜日 14:00～ 17:30ほ かに日曜 日10:00 ～11:30 1回	研修室 小児保健 部 体育室 プール 健康開発 室 造形スタ ジオ 音楽スタ ジオ	4.26～ 7.19 全15回	(円) 18,000 ほかに 診察検 査費 8,000	東京女子医大教授 村田光範 和洋女子大教授 坂本元子 体育、音楽、造 形職員	
健康スポー ツ教室 太りすぎク ラス(III 期)	小 1～6年 の太り すぎ児 童	30	15	土曜日 14:00～ 17:30 ほかに日 曜日 10:00～ 11:30 2回	小児保健 部 体育室 プール 健康開発 室 造形スタ ジオ 音楽スタ ジオ 研修室	9.20～ 62.2.28 全24回	30,000 ほかに 診察検 査費 8,000	東京女子医大教授 村田光範 東京女子医大 山崎公恵 和洋女子大教授 坂本元子 和洋女子大助教授 小林幸子 和洋女子大講師 石井莊子 和洋女子大助手 川野辺由美子 体育、音楽、造 形職員	
健康教室 ぜんそく児 クラス (I期)	小 1～3年	20	20	土曜日 15:30～ 17:30	小児保健 部 研修室 音楽スタ ジオ プール	4.19～ 7.12 全12回	20,000	臨床アレルギー研 究所 高嶋宏哉 同研究所看護婦 体育、音楽職員	
健康教室 ぜんそく児 クラス (II期)	小 1～3年	20	7	土曜日 15:30～ 17:30	小児保健 部 研修室 音楽スタ ジオ プール	11.22～ 62.2.21 全12回	24,000	臨床アレルギー研 究所 高嶋宏哉 東埼玉病院 平野昭彦 愛国学園短大 飯田恭子 体育、音楽職員	

IV 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定員 (人)	受講数 (人)						
マタニティ ・スイミング	妊婦 (妊娠 16週以 降)	4・ 5月 20 6月 ～ 35	23～ 25 32～ 37	水泳 火・木曜 日 10：00～ 12：30 レクチャ ー月1回 火または 木曜日 13：30～ 14：30	プール 小児保健 部ほか	通年 毎月7回	(円) 4～10月 月 8,000 11月～ 登録料 5,000 月 10,000 (臨月 に限り DHC ビジタ ー扱い)	日本赤十字社医療 センター 産婦人科医師 助産婦 レクチャー講師 体育職員	主治医の診断書必 要 欠員分を月初めに 補充
母と子の リトミック <ダウン症 クラス>	3～5歳 のダウ ン症児 と母親	(組) 10	(組) 4	木曜日 14：00～ 15：00	音楽スタ ジオA	62.1.22～ 3.26 全10回	12,000	*吉村温子 川口あづき ほか音楽職員	ボランティアとし て健常児親子1組 が参加
肥満児指導 者講習会 (第1回)	養護教 諭, 栄 養士	(人) 50	(人) 47	14：00～ 17：00	研修室	11.8	3,000	東京女子医大教授 村田光範 和洋女子大学教授 坂本元子	
肥満児指導 者講習会 (第2回)	同上	(人) 50	(人) 61	10：00～ 17：00	研修室 体育室	62.1.31	6,000 (昼食, コーヒ ーつき)	東京女子医大教授 村田光範 和洋女子大教授 坂本元子 体育職員	

(3) 60年度の活動

小児保健部の活動は、大きく分けると、①診療・相談 ②特別企画（催し）③講座 ④研究活動の4つになる。

診療・相談活動では、発育・発達のうえで気がかりなことがある子どもや、情緒・行動・性格などについて心配のある子ども、アレルギーやぜんそく・肥満など日常生活に関する指導の必要な子どもについての相談や、育児についてのお母さんからの相談、健康診断などを実施している。

特別企画としては、夏・冬・春休みの特別期間に一般来館者を対象として行う企画と小児保健・医療関係者や特定の人を対象としたシンポジウムなどの催しを行っている。

講座は、「こどもの城」の施設とスタッフを生かして、小児保健部での活動と体育、音楽、造形などの活動を行うもので、肥満児、ぜんそく児の健康教室、妊婦対象のマタニティスイミング、ダウン症児のための母と子のリトミックがある。以上のように小児保健部の活動は、「こどもの城」の施設を利用してさまざまな分野の専門スタッフの協力により運営されており、小児保健医療施設としては日本では初めてのものである。したがって、それぞれの活動における新しい試みは、十分な検討が必要である。小児保健部では、研究活動として、来所者、受講者についての調査やデータの検討、新しい設備・機器を利用した実験と結果の解析・検討を実施し、学会などで発表を行っている。

1) 診療・相談

60年11月5日から、診療・相談活動を開始し、小児保健クリニック（医療法による診療所；11月1日保険医療機関指定）における診療活動も並行して実施している。

診療・相談の受診は、原則として予約制をとっており、初めて相談に来所した小児については、小児科医による診察を中心とする総合健康相談を行い、必要に応じて心理相談、育児相談、その他の専門相談へ移る。また、乳幼児健康診査委託医療機関として、6・9か月児、1歳6か月児の健診も実施している。

総合健康相談、心理相談、育児相談は、60年11月から小児保健部のスタッフによって実施したが、61年2月から精神相談（筑波大学 長畑正道教授担当）、3月から神経相談（瀬川小児神経学クリニック 瀬川昌也先生担当）とぜんそく・アレルギー相談（日本臨床アレルギー研究所 高嶋宏哉先生担当）の専門相談を開始した。

本年度の来所見数は152人であった。小児保健部（小児保健クリニック）は、医療法上の診療所ということもあって、「こどもの城」の他部門のように活発な広報はできない。利用者を通じて情報が浸透するのを期待するとともに、小児保健医療関係者・関係機関・施設に事業内容および特色を理解してもらうことが重要と思われる。

IV 各部の活動(1)

(ア) 来所者の居住地域

地元の渋谷区が最も多く、次いで世田谷、新宿、港区の順であった。また、神奈川県川崎市、横浜市など交通の便のよい地域からの来所者も多かった。

(イ) 相談の内容

来所児の主訴・問題別の集計結果からみると、ほぼ初期の目的を達成していると思われる。主訴の中では、ぜんそく・肥満に関するものが最も多く、これに対しては、健康教室を中心とした集団プログラムと、個別の医学・栄養・日常生活面の指導とにより取り組んでいる。次いで、神経症・習癖等に関する主訴で来所するものが多く、これらには、医学および心理学面からのアプローチを行っている。

〈小児保健部来所児の概要〉

(1) 新規来所児数

	実数 (人)	延べ数 (人)
オープニング記念相談	56	56
診療・相談	96	266
（うち相談のみ）	(12)	(18)
（うち健康教室）	(17)	(55)
合計	152	322

(2) 来所児の居住地域

地域	人数 (人)	%
渋谷区	20	13.2
港区	12	7.9
世田谷区	17	11.2
新宿区	14	9.2
目黒区	4	2.6
その他の区	39	25.6
都内(市部)	13	8.6
神奈川県	17	11.2
千葉県	9	5.9
埼玉県	4	2.6
その他	3	2.0
合計	152	100.0

(3) 新規来所児の主訴・問題

言語発達遅滞	14
神経症、習癖等	21
（遺尿、夜尿、緘黙、恐怖症など）	
精神・運動発達遅滞	8
登校(園)拒否	7
自閉症	2
ぜんそく・アトピー・湿疹	23
肥満	22
育児・健康相談	31
その他 心理面の相談	12
（遊べない、社会的不適応など）	
その他 体の面の相談	12
（斜視、てんかん、脳性まひ、低身長、頭痛など）	

計 152人

(4) 初回来所時年齢

0歳	18	乳幼児健診が多い
1	12	
2	20	言語・精神発達遅れ (継続のケース) が多い
3	17	
4	11	
5	20	神経症、登校(園) 拒否が多い
6	13	
7	5	
8	5	
9	7	健康教室(肥満)
10	12	
11	7	
12歳以上	5	

計 152人

7 小児保健

(ウ) 来所時の年齢

就学前児（0～6歳）が全体の3分の2を占めた。0，1歳は，乳児健康診査による来所が多く，2～5歳は言語精神発達の遅れによるものが目立った。また，5～8歳は，夜尿や不登校（園）等に関する内容が多い。学齢児のほとんどは健康教室受講者であるが，上記の遅れに関する問題が継続されることなどから学齢児の来所の増加が予想される。

2) 特別期間

(ア) 心とからだの健康相談（開館記念）

こどもの城開館の記念行事として，小児の健康に関する各方面の専門家による無料健康相談を実施した。

受診者は56人で，この中で継続指導や他の医療機関への紹介が必要なケースは，これまでに通院しているものがほとんどであった。特に指導や紹介の必要がないケースでは，母親がそれを聞いて安心するとともに，十分時間をかけて相談にのってくれる施設を希望する声が聞かれた。また，数は少なかったが，在宅の障害児の健康相談のケースがあり，小児保健部の機能を生かした対応ができるものと思われた。

〈開館記念無料健康相談〉

日 時	担当者（敬称略）	受付内容	受診者数	主 な 内 容	事 後 処 置
11月2日（土） 13：00～15：00	東京都立母子保健院 院長 二 木 武	育児生活 保健一般	7	少食，便秘，熱性けいれ ん，遺尿，遺糞， 夜泣き，健康相談	特になし （自宅で経過観察）
同 上	国立小児病院 アレルギー科 飯 倉 洋 治	アレルギー ・ぜんそく	7	気管支ぜんそく，アトピ ー性皮膚炎	広尾病院，慈恵医大， 高橋小児科紹介
同 上	国立小児病院 児童精神科 河 合 洋	心の相談	3	登校拒否，自閉 母子分 離の問題	国立小児病院紹介
11月3日（日） 10：00～12：00	こどもの城 小児保健部長 巷 野 悟 郎	育児生活 健康一般	7	気管支ぜんそく，肥満 発 達の遅れ，夜尿，健康相 談	館内他部門紹介
同 上	東京精神医学総合研 究所 川 井 尚	心の相談	2	情緒・発達に関する相談	特になし （自宅で経過観察）
同 上 14：00～16：00	日本女子大学教授 高 橋 種 昭	同 上	3	発達遅滞，てんかん， 登校拒否	児童相談所紹介
同 上	こどもの城 小児保健部 吉 田 弘 道	同 上	3	性格，しつけに関する相 談	特になし （自宅で経過観察）

IV 各部の活動(1)

日 時	担当者(敬称略)	受付内容	受診者数	主 な 内 容	事 後 処 置
11月4日(月) (振替休日) 10:00~12:00	日本臨床アレルギー 研究所 高 嶋 宏 哉	アレルギー ・ぜんそく	3	気管支ぜんそく, 乳児湿 疹	特になし (自宅で経過観察)
同 上 13:00~15:00	総合母子保健セン ター 高 橋 悦二郎	育児生活 健康一般	8	アレルギー・ぜんそく, 熱性けいれん, 育児・生 活に関する相談	同 上
同 上 10:00~12:00	東京女子医科大学教 授 村 田 光 範	身体の発育	6	肥満	健康教室紹介
11月9日(土) 13:00~15:00	東京大学医学部教授 平 山 宗 宏	育児生活 健康一般	7	アレルギー, 斜視, 障害児の健康相談	東大病院分院 小児科紹介

(イ) 寒さに負けない健康と栄養(冬休み)

無料育児相談, 栄養相談, 栄養・育児のパネル展示, 栄養食品の展示などのコーナーを設け, 冬休み期間に実施した。利用者は約70人で, 育児相談は9件であった。

(ウ) おもちゃで遊ぼう～障害を持った幼児・小学生のコーナー(春休み)

障害を持った比較的年齢の低い子どもたち楽しく遊ぶ場を提供する目的で, 小児保健部プレイルームで実施した。おもちゃは, 「こどもの城」の各部門から適したものを集め, おもちゃの選び方, 遊び方の小冊子を作成・配布し, 遊びについての相談を行った。利用は, 全期間で25人程度だったが, 障害児と健常児と一緒に遊ぶという場面もみられた。

障害児関係の学校や施設からの来館の希望は多く, 「こどもの城」全体として, 障害を持った子どもたちへの対応は, これからの課題といえよう。

3) 講 座

集団指導を主な目的とする講座として, 健康教室<肥満児クラス>を実施した。

「こどもの城」は, 体育や音楽, 造形などの各部門を備えているので, 小児保健部ではこの特色を生かした保健指導を行う講座を企画し, 本教室は, その第1号で, 太り過ぎの小学生を対象に, 12月7日から3月15日までの土曜日の午後を中心に実施した。専門医による医学的指導, 栄養士による栄養指導, 体育事業部スタッフによる体育指導及び音楽, 造形, プレイ(パソコン), 研修(ゲーム)部門のスタッフによる指導を行った。

教室終了時, 受講者自身に, 食事に気をつけたり, 運動量を増やしたりなどの変化がみられ, 肥満度は17人中8人に改善がみられた。しかし, 3か月間で3キログラム体重を減らすという目標の達成はできなかったため, 全受講者に対し継続受講を勧めたが, 希望者は1人であった。参加者の感想としては「指導内容が分かりやすく, ためになった」「造形, パソコン, 音楽などの指導があり, 単にやせるための教室という感じがなくてよかった」などの

7 小児保健

ほか「土曜日の午後2時までに来るのは大変」「親の時間がとられて負担が大きい」など、時間帯や指導内容の見直しを考えさせられる意見もあった。

4) 研究活動

小児保健部は、各方面にわたるスタッフと新しい施設・設備を備え、同じ建物内に体育、音楽、造形、AV、プレイ、保育といった部門のあるこれまでに例のない保健医療施設として活動を開始し、特色を生かした企画を行っている。したがって、個別指導、集団指導いづれにおいても、他部門と協力しての治療・相談の在り方を検討し、新しいプログラムに生かすこと、また、各種検査機器を有効に活用して、診療・相談活動に役立てることが重要であり、次年度からの課題といえる。

本年度の「こどもの城」の設備を利用した研究としては、「こどもの城」の大型コンピュータを使っての成長発育評価支援システムの作成と、青山劇場における情緒反応計測実験がある。前者については、コンピュータ部の協力を得て、実際に肥満児の指導に利用できるシステムが完成した。その作成過程やシステムの内容については、60年度小児保健部事業報告書に詳しい。情緒反応計測実験については、長期にわたる研究であり、次年度以降も継続するので、61年度の項で述べる。

(4) 61年度の活動

1) 診療・相談

診療・相談活動は、前年度同様に実施された。方法については変化はないが、本年度4月から言語相談、10月から耳鼻科相談（帝京大学 田中美郷教授担当）を開始した。

診療・相談来所者の数、居住地域、主訴・問題（相談内容）、来所時年齢については、表に示した。本年度の来所者数は414人であった。この中には、本年度から開講されたマタニティスイミング受講者も含まれている。

再来所者を含めての月別診療・相談件数は後半に増加し、ほぼ一定の数値になった。

(ア) 来所者の居住地域

前年度同様、地元の渋谷区が最も多く、次いで世田谷、新宿、港区の順であり、神奈川県川崎市、横浜市からの来所者も多い。

(イ) 相談の内容

前年度に比べ、ぜんそく及び肥満に関する相談の来所者が増えている。この中には健康教室の受講者以外の来所者もあり、教室の活動を通じて、ぜんそくやアレルギー、あるいは肥満に対する相談体制が整いつつあることを示している。

そのほかの相談、特に心理、精神、神経等の相談については、新規来所者の占める割合は増えていないが、これは前年度からの継続者が多かったためである。

(ウ) 来所時の年齢

マタニティスイミングの開講に伴い、18歳以上のものが、前年度に比べ急増した。

これ以外では、前年度同様、0～6歳の乳幼児が多く、小児の来所者の3分の2を占めた。0,1歳では、乳幼児健康診査の受診者が多く、2～6歳では、心理相談を中心とする専門相談の受診者が多くみられた。また、学童の占める割合が前年度より多くなっているが、これは健康教室として前年度の肥満クラスに加えてぜんそく児クラスが開講したためである。

〈小児保健部来所者の概要〉

(1) 新規来所児数

	実数(人)
診療・相談	269
（うち健康教室肥満クラス受講児）	20
（うち健康教室喘息クラス受講児）	23
（うちダウン症クラス受講児）	4
マタニティスイミング	145
合計	414

(2) 来所児の居住地域

居住地域	人数(人)	%
渋谷区	65	15.7
世田谷区	67	16.2
新宿区	9	2.2
港区	40	9.7
目黒区	18	4.3
その他の区	107	25.8
都内(市部)	26	6.3
神奈川県	53	12.8
千葉県	15	3.6
埼玉県	7	1.7
その他	7	1.7
合計	414	100.0

7 小児保健

(3) 初回来所時年齢

0	33 (人)
1	29
2	34
3	28
4	25
5	13
6	19
7	20
8	19
9	16
10	9
11	11
12~17	4
18歳以上	150
合計	414

(4) 新規来所児の主訴・問題

主 訴 ・ 問 題	人 数 (人)	%
ぜんそく・アトピー・湿疹	50	12.1
肥 満	55	13.3
神経症・習癖・情緒障害等 (遺尿・夜尿・緘黙・恐怖症など)	27	6.5
言語発達遅滞 (疑いも含む)	24	5.8
精神・運動発達遅滞 (疑いも含む)	15	3.6
自 閉 症	1	0.2
微細脳障害	1	0.2
育児・健康相談	51	12.3
その他心理面の相談 (遊べない, 社会的不適応など)	16	3.9
その他身体面の相談 (斜視, てんかん, 脳性まひ, 低身長, 頭痛等)	24	5.8
ダウン症	5	1.2
マタニティスイミング受講者	145	35.0
合 計	414	100.0

(5) 月別診療・相談件数 (特別期間の無料相談コーナーの相談者を除く)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
診 療	80	92	108	100	94	107	118	116	119	103	106	89	1,232
相 談	7	8	8	5	8	10	4	5	5	10	13	11	98
計	87	100	116	105	102	117	122	121	124	113	119	100	1,330

2) 特別期間

(ア) おもちゃで遊ぼう (児童福祉週間)

前年度と同様に、障害児のために遊べる場所作りと心理スタッフによる遊びの相談を行った。期間中に立ち寄った障害児親子は7組で、他は健常児であった。障害児も気軽に遊べる常設のコーナーを希望する声もあり、このような「場所」の提供も有意義であると考えられた。

(イ) 育児相談コーナー (夏休み, 冬休み, 春休み)

館内での小児保健部PRのため、一般来館者を対象に無料相談を実施した。授乳コーナーを兼ね、季節に合わせた育児のパネルを置き、離乳期の食品のサンプルを展示した。

相談件数は、夏休み17, 冬休み12, 春休み6で、友達とうまく遊べない, 食べ方に問題が

IV 各部の活動(1)

ある、湿疹、習癖などの内容であった。

このコーナーは、育児相談コーナーとしてよりも、授乳コーナーとしての利用が多かった。乳・幼児を対象としたスペースが「こどもの城」の中には少なく、授乳室を兼ねた赤ちゃんコーナーの需要は大きいと思われた。

〈こどもの城マタニティコンサート〉（第1回）

「こどもの城」の施設と機能を生かし、医療面からのアドバイスも含め、妊娠中に楽しい生活を送るためのコンサートとして、劇場事業部との協力で実施した。対象は妊婦とその夫及び、将来子どもを持ちたい人とし、青山円形劇場で行った。

ジャズシンガーの亀淵友香の歌及び宮間利之とニューハードの演奏によるポピュラーやジャズを中心としたプログラムで、従来クラシック主流であったいわゆる「胎教コンサート」とはひと味違って、妊婦自身が楽しめ、リラックスできることをねらいとした。また一方では、演奏の合い間に、産婦人科と小児科の医師の話や助産婦による呼吸法の指導を行い、特色あるものとした。開催について、朝日新聞が記事として取り上げてくれたこともあり、当日は、昼・夜ともにほぼ満員で、アンケート調査の結果によると、参加者のほとんどが満足したとのことであった。次年度以降も毎年開催する予定である。

このコンサートを機に、一般にマタニティコンサートへの関心が高まったように思われる。

〈開館1周年記念シンポジウム〉

「こどもの城」開館1周年を記念し、「世界最低になった乳児死亡率－こどもたちは求めている－」をテーマに、青山劇場でシンポジウムを開催した。

基調講演は、医学の立場から馬場一雄日本大学医学部教授が、家庭・社会の立場から大熊由紀子朝日新聞社論説委員が行い、乳児死亡率低下の経過を振り返った。

パネルディスカッションでは、基調講演を受けて、「こどもたちは求めている」をテーマに話し合いが行われた。パネリストは、近藤健文厚生省児童家庭局母子衛生課長、小林登国国立小児病院小児医療研究センター長、岡宏子聖心女子大学名誉教授、澤田啓司ひさいこどもクリニック院長、作家の佐江衆一氏に、基調講演の2人を加え、平山宗宏東京大学医学部教授の司会により討議が行われた。

各方面への広報や講演者との連絡調整などをはじめ、小児保健部がスタートしてから最も大きい事業であったが、劇場事業部、体育事業部（新体操デモンストレーション）の協力もあり、成功であったと思われる。今後も、開館記念日の行事として、毎年シンポジウムを開催する予定である。

3) 講座

(ア) 健康教室肥満児クラス（途中から健康スポーツ教室と改称）

前年度に引き続き、4月から7月（Ⅱ期）、9月から2月（Ⅲ期）の2回開講した。プログラムは、昨年度とほぼ同様であったが、定員30人に対し、受講者はそれぞれ9、15人と少なかった。

II期では、9人中6人に肥満の改善がみられ、受講者の多くに肥満改善のため体をまめに動かす、間食を減らすなどの日常生活の変化がみられた。また、指導については、分かりやすいと好評であったが、調査などの負担が多いという声も聞かれた。また、待ち時間が長いという意見があったが、これは限られた時間内に集団指導と個別指導を行わなければならないためであり、検討が必要であると考えられる。

III期については15人中9人に肥満の改善がみられ、II期同様、受講者の多くに日常生活の変化がみられていた。また、指導内容や方法についてもII期と同様の意見がみられた。

このクラスの経験をもとに、夏休み健康教室集中講座と肥満児指導者講習会を実施したが、これについては(オ)(カ)に述べる。

(イ) 健康教室ぜんそく児クラス

4月から7月(I期)、11月から2月(II期)の2回開講した。対象は気管支ぜんそくの小学生(1, 2, 3年のみ)で、楽しくのびのび体を動かすことを主目的として、プールでの水泳指導を中心に音楽指導、レクリエーション活動、鍛練指導、母親への日常生活指導などを行った。受講者は、I期20人、II期7人であった。

教室の期間が3か月と短期であったため、水泳技術や呼吸機能の著しい向上はみられなかったが、参加者からは、楽しく活動ができた、友人ができた、ぜんそくを自分でコントロールしようとするようになったなどの感想があり、第1の目的は達したと考えられる。特にII期では、参加者が少なかったため、各児の能力や状態に応じた指導ができた。

今後は、更に日常生活の中で自分でできるトレーニングについての具体的な指導、保護者へのアドバイスや指導などを取り入れ、内容を充実する必要がある。

(ウ) マタニティスイミング

「こどもの城」の機能を生かす企画として、日本赤十字社医療センターの協力で、4月から開講した。妊娠中の生活を心身ともにより快適に送ってもらうことによって出産や我が子を迎える準備ができることをねらった。また、妊娠期の水泳が母体や胎児に与える影響、水泳プログラム実施のためのスタッフ・設備面での望ましい条件や基準を検討することも目的の1つである。

定員は20人から始め、35人まで増やした。受講者は、ほとんどが20代後半から30代前半の初産の主婦であった。

プログラムは、毎週火・木曜日の月7回で、水泳は原則として午前11時から正午まで、検診を水泳前後に行い、月1回レクチャーを実施した。

受講者からは、水泳後は腰背痛が軽減する、教室が友人づくりや気分転換など精神衛生面で役に立ったなどの感想が多かった。

本教室は、マスコミの報道や関係機関の協力で入会希

〈月別新入会生・在籍者数・出席率〉

月	新入会生	在籍者総数	出席率
4月	23人	23人	75%
5月	4	25	77
6月	7	31	68
7月	9	31	72
8月	8	31	71
9月	11	33	67
10月	8	30	63
11月	13	32	66
12月	13	34	71
1月	12	35	64
2月	14	35	74
3月	9	37	73

IV 各部の活動(1)

〈レクチャーのテーマと講師（敬称略）〉

望者が多数あり、
医師・助産婦の立
ち会いのもとに事
故もなく、軌道に
乗っている。ま
た、卒業生の乳児
健診利用も増えつ
つある。今後も検
討を進めるととも
に、有意義なプロ
グラムを提供した
い。

月	講 義 テ ー マ	講 師
4月	お産の呼吸法	日赤分娩室 助産婦 市川英子
5月	お産あれこれ	日赤産婦人科 医局長 浦野晴義
6月	昼食会	日赤・小児保健・体育事業部スタッフ
7月	健やかな赤ちゃんを産み育てるために	都立精神医学総合研究所 川井 尚
8月	先輩達を囲んで（茶話会）	小児保健部 神代・上別府・近藤・柳谷
9月	妊婦・授乳期の栄養	小児保健部 栄養士 太田百合子
10月	お産の呼吸法	日赤分娩室 助産婦 市川英子
11月	今から子育て（昼食会）	小児保健部 部長 巷野悟郎
12月	妊娠中気になる症状と暮らし方	日赤医療センター 副院長 野末源一
1月	健やかな子どもを産み育てるために	都立精神医学総合研究所 川井 尚
2月	妊娠中の乳首の手入れ	日赤分娩室 助産婦 国重由美子
3月	先輩達を囲んで（茶話会）	小児保健部 神代・上別府・近藤・柳谷

(エ) 母と子のリトミック〈ダウン症クラス〉（I期）

遊びを通じて母子のかかわり方や発達の見方を考えることを目的としたダウン症児のためのクラスで、「こどもの城」における障害児対象の初めての講座として発足した。62年1月から3月に開講され、音楽事業部の協力で、母子一緒のリトミック活動を週1回1時間、4階音楽スタジオで実施した。

スタッフにとって、初めての経験だったため、今年度はシミュレーションとして関係施設から受講者を受け入れた。次年度からは、小児保健部におけるダウン症相談と並行してプログラムの内容等の検討を重ねる予定である。

(オ) 夏休み健康教室集中講座

(ア)で述べた健康教室の夏休み企画として、短期間に、小児肥満の原因や肥満と健康との関係を理解させ、肥満改善の方法を身につけさせることを目的に実施した。母親には、医学面、栄養面の講義と個別の栄養指導、児童には体育指導と表現活動の指導を行った。

受講者は、小学校1年から6年の肥満児童23人とその母親で、その多くが学校の養護教諭からの紹介であったためか、通常健康教室受講者より肥満度の高い児童が多くみられた。

(カ) 肥満児指導者講習会（第1回、第2回）

学校保健関係者によると、肥満児童の増加に伴い、肥満の予防と改善指導の方法が保健指導の大きな課題になっていることである。前述したように小児対象の健康教室は「こどもの城」オープン以来継続しているが、この中で学校の養護教諭や栄養士との協力の必要性を感じ、また、現場では、指導者を対象とした講習の機会が求められていることを知り、本講習会を実施した。

第1回は、研修室で医学、栄養、体育の講義が行われ、47人が参加した。第2回は、講義に加え、体育室で体育の実技指導を行い、61人が参加した。

4) 研究活動

診療・相談の内容や効果を検討する目的で幾つかの調査研究を実施した。小児保健部発足後1年間の来所者に対して行った医療需要実態調査、肥満児の生活習慣・心理的特性に関する調査、健康教室ぜんそく児クラスの受講者を対象としたぜんそく児の心理的特性に関する研究、発達障害児の注意行動理解への瞬時心拍数 (heart rate) の応用性に関する研究などであり、これらについては、各学会で発表を行った。

また、前年度に続いて青山劇場における情緒反応測定実験を行ったので以下に報告する。

赤外線サーモグラフィーは、遠隔から非侵襲的に、人体の表面皮膚温度を計測するものである。「こどもの城」では、この赤外線サーモグラフィーによる手法を用い、小児の情緒的な発達過程を検討することを目的として、青山劇場内に情緒反応計測装置として赤外線カメラ及びビデオ装置を設置し、観客の顔面温度の計測に関する研究を行ってきている。

それぞれのカメラは、最大客席20席を記録することができ、得られた計測結果からは、個人の顔面の平均温度あるいは、全員の平均温度などの温度情報を求めることが可能である。このようにして得られた温度情報と、ビデオカメラにより撮影された観劇状況や舞台情報を照合することにより、観客の情緒的変化の様子を観察した。計測対象や劇の内容によって、温度を指標とした反応はさまざまであった。また、集団の平均値を用いて全体の傾向を把握することも可能な場合があるが、個々のデータの検討が更に必要な場合もあり、計測や解析の際には、十分考慮が必要であることが分かった。

今後は、更に小児に関するデータを蓄積するとともに、サーモグラフィー以外の生理学的なデータと比較するなどして、観劇時の皮膚温変化の特性を検討する必要があると考えられる。

5) 今後の課題

小児保健部の利用者はしだいに増えつつあるが、「こどもの城」の中にこのような施設があることを知らない人も多い。館内掲示や、関連病院・施設との連絡・調整の見直し、学会での報告などで更に広く、有効に利用されるようにしたい。

研究成果を各方面に発表すること、健康教室の内容の見直しや新分野の検討なども必要と考えられる。また、一般来館者に対する企画として、小児保健部がどのようなものを提供できるか、あるいはするべきかの検討も課題の1つであろう。

また、小児保健部内の各相談間の連携及び外部他機関との連絡のあり方を見直すことも重要と思われる。

8 劇場事業本部

IV 各部の活動(1)

(1) 60年度演目一覧表

1) 青山劇場

公演名	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率
<自主>			(円)	(人)	(人)	(%)
宮城まり子「かがやくこどもたち」	11.1	1		1,078	931	86.4
ガムラン「天の舞・地の響き」	11.1	1		1,078	644	59.8
英雄ダマルウラン物語	11.2～4	3	5,000・4,000	3,564	1,602	45.0
ツトム・ヤマシタ「天地の夢」	11.2～4	3	5,000	3,198	2,276	71.2
ブルーノ・ムナーリ「シンポジウム」	11.22	1	1,500	1,200	478	39.9
近松座「心中天の網島」	61.3.8～23	24	5,000・4,000・3,000	27,072	10,213	37.8
イースター国際子どもフェスティバル	3.30	1	800	1,090	901	82.7
(小計) 7		34		38,280	17,045	44.6
<貸館>						
劇団四季「ドリーミング」	11.15～2.28	132	5,000・4,000・3,000・2,000	142,296	127,837	89.9
児童福祉施設文化祭	11.23	1		1,078	1,017	94.4
宮城まり子「350人による春のコンサート」	61.3.27	2	2,000	2,156	1,935	89.8
ライスカレーコンサート	3.29	1		1,154	900	80.0
(小計) 4		136		146,684	131,689	89.8
青山劇場 計 11		170		184,964	148,734	80.5

8 劇 場

2) 青山円形劇場

公 演 名	期 間	回 数	料 金	総 席 数	入 場 者 数	入 場 率
<自主>			(円)	(人)	(人)	(%)
大どろぼうホッツェンプロッツ	11.1	2		472	373	79.1
劇場ばんざい	11.2~4	6	2,500	1,416	1,356	95.8
シェイクスピア・シアター公演	11.6~28	22	2,500	6,776	5,305	78.3
ハロー こどもの城	11.10	2		400	380	95.0
ブルーノ・ムナーリ「公開指導参観」	11.23・24 ・26・27	4	500	800	728	91.0
新体操デモンストレーション	12.1	2	100	340	260	76.5
オールラウンドジャズ1	12.3~5	6	2,000	1,692	481	28.5
ファミリークリスマス	12.23~26	5	500・300	1,880	1,409	75.0
トランク劇場	12.22~27	12	2,000	2,640	1,670	63.3
音と光のアラベスク 「パレ・ド・クリスタル」	12.28~30	3	1,500	576	520	90.3
とんとむかし	61.1.3~7	10	2,000	2,200	1,640	74.6
オールラウンドジャズ2	1.11・12	4	2,000	984	390	39.7
ひばり児童合唱団「雪ん子」	1.14~19	9	3,000	2,250	1,978	88.0
デフ・パベットシアター・ひとみ公演	1.21~30	12	2,000	2,040	1,491	73.1
打楽器の祭典	2.5~9	8	3,000・2,000	1,480	970	65.6
オールラウンドジャズ3	2.11・12	3	2,000	846	342	40.5
グリムふぁんたじあ	2.15~19	7	3,000	1,470	1,282	87.3
こどもの城・おまつり劇場	2.23	2	500	656	341	52.0
音と光のアラベスク2「プレリュード」	2.27・28	3	1,500	693	311	44.9
近松シンポジウム	3.4	1	500	300	218	72.7

IV 各部の活動(1)

公演名	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率
オールラウンドジャズ4	3.8・9	4	2,000	984	390	39.7
どんどこどん	3.12~16	10	2,000	2,400	1,795	74.8
重力の虹	3.20~23	5	3,000	1,065	858	80.6
ブンナよ、木からおりてこい	3.26~30	8	3,000	1,920	1,281	66.8
(小計) 24		150		36,280	25,769	71.1
<貸館>						
劇あそびフェスティバル	11.9	1		300	286	95.4
花柳寿美「曼珠沙華」	12.7~11	8	4,000	2,256	1,265	57.1
カヤバナイトパフォーマンス	12.12	1		188	178	94.7
おめでとう ろばの会	12.14	2	3,000・2,000	752	686	91.3
ひばり児童合唱団	12.15	1		282	239	84.8
SNOW WHITE	12.17~20	7	4,000・3,000	1,848	1,367	74.0
矢吹誠コンサート	2.20・21	3	2,800	1,008	750	74.5
全国ボランティア会議	2.26	1		366	360	98.4
ファミリーソングフェスティバル	3.2	1	500・300	282	174	61.8
きよならスクエア	3.4	2	6,000・5,000	600	450	75.0
(小計) 10		27		7,882	5,755	73.1
青山円形劇場 計 34		177		44,162	31,524	71.4
劇場合計 45	60.11.1~ 61.3.31	347		229,126	180,258	78.7

(2) 61年度演目一覧表

1) 青山劇場

公 演 名	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
<自主>						
松竹新喜劇 「笛吹童子」「船場の子守唄」	4.2～10	17	5,000・4,000	20,400	11,318	55.5
山本安英の会 「夕鶴」	4.12～17	6	4,500・4,000	7,200	6,644	92.3
民話劇場 「彦市ばなし」「鯉女房」	4.19・20	3	4,000・3,500	3,600	1,620	45.0
オペラクリエーション・イン・青山 「フィガロの結婚」	5.29～31	3	4,500・3,500	3,234	2,363	73.1
第1回青山バレエフェスティバル	8.16・17	3	4,000・3,500	3,234	2,892	89.4
こどもの城アジア音楽祭 「マリンロードの響き」	8.25・26	2	2,000・1,500	2,156	976	45.3
小児保健シンポジウム	10.4	1		1,200	849	70.8
前進座 「新平家物語」	12.6～25	32	6,000・4,000	38,400	22,604	58.9
こどもの城友の会 ファミリー フェスティバル	12.27	2	1,000	2,400	1,892	78.8
イースター国際こどもフェスティバル	62.3.31	1	1,800	1,200	943	78.9
(小計) 10		70		83,024	52,101	62.8
<提携>						
夏休み世界こどもフェスティバル	8.14・15	3		2,400	1,758	73.3
SKD 「銀河鉄道999」	9.21～10.3	26	5,000・4,000・3,000	28,860	16,116	55.8
「黒蜥蜴」	10.9～29	28	7,000・5,000	32,480	27,464	84.6
「絆コンサート」	11.1～3	3	3,500	3,126	2,805	89.8
(小計) 4		60		66,866	48,143	72.0

IV 各部の活動(1)

公 演 名	期 間	回 数	料 金	総席数	入場者数	入場率
<貸館>			(円)	(人)	(人)	(%)
日本テレビ 「アニー」	4.26～5.24	37	5,000・4,000	44,400	35,756	80.5
劇団四季 「エクウス」	6.5～29	36	6,000～2,000	36,360	31,667	87.1
童謡の日 マラソンコンサート	7.1	1	2,000・1,500	1,200	1,519	126.9
少年隊 「PLAYZONE」	7.5～27	30	5,000・4,000	32,340	29,457	91.1
こどものうたコンサート '86	8.1	1		1,200	1,080	90.0
西友 「アリババVS大盗賊」	8.6～13	15	3,000・2,500	15,197	13,190	86.8
JBBY こどもの本世界大会	8.18～22					
世界こども音楽祭	8.24	2		2,400	685	28.5
国際社会福祉会議	8.27～30					
谷村新司リサイタル '86 「CORAZON」	9.3～9.13	11	5,000・4,000	12,936	12,142	93.9
NHK児童合唱団 定期発表会	9.14・15	2	2,500	2,400	1,005	41.9
児童福祉施設文化祭	10.5					
劇団四季 「ロミオとジュリエット」	11.9～11.30	31	6,000～2,000	35,650	31,432	88.2
劇団四季 「ハンス」	62. 1.9～2.20	52	5,000・4,000・3,000	56,056	49,238	87.8
劇団四季 「ロミオとジュリエット」	2.23～27	6	5,000・4,000・3,000	6,900	4,733	68.6
ディズニー 子供大会	3.1	1		1,200	1,183	98.6
東宝 「ジョージの恋人」	3.6～30	40	8,000・3,500・3,000	44,400	21,020	47.3
(小計) 17		265		292,639	234,107	80.0
青山劇場 計 31		395		442,529	334,351	75.6

(注) 以上のほか、JBBYこどもの本世界大会、国際社会福祉会議関係の入場者数 2,001人

8 劇 場

2) 青山円形劇場

公 演 名	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率
<自主>			(円)	(人)	(人)	(%)
劇団仲間「それゆけクッキーマン」	4.2~6	} 16	2,500	4,000	2,041	51.0
	5.1~3					
弦楽カルテットの夕べ	4.7・8	2	2,500	740	318	43.0
オールラウンドジャズ IN 青山 No.5	4.15・16	2	2,000	656	451	68.8
「ミロぼうやのふしぎの国」	4.18~20	6	1,500	1,974	1,119	56.9
音と光のアラベスク 「浪漫」	4.23・24	3	1,500	600	280	46.7
世界こどもの日ファミリーイベント	5.4・5	5	1,200	1,600	562	35.1
シェイクスピアシアター 「恋の骨折り損」	5.8~15	10	2,500	2,820	2,241	79.5
オールラウンドジャズ IN 青山 No.6	5.17・18	2	2,000	600	400	66.7
宮沢明子の世界	6.2~5	3	3,000・1,500	1,110	989	89.1
音と光のアラベスク 「ENERGY FLOW」	6.27~29	4	1,500	1,128	394	34.9
重力の虹 「暗闇のスキャナー」	7.10~13	6	3,000	1,500	889	59.3
金管バンドコンサート	7.26	2	500	470	359	76.4
サウンド・ウォッチング 「FROM SCRATCH」	7.30~8.3	7	2,500	2,296	1,112	48.4
「べっかんこおに」	8.7~11	10	2,000	2,460	1,332	54.1
ファミリーディスコ 「アイスクリームパラダイス」	8.13・14	2	1,000	560	372	66.4
こどもの城 おまつり劇場	8.30・31	3	800	846	482	57.0

IV 各部の活動(1)

マタニティコンサート	9.5	2	1,500	526	467	88.8
「ガムラン・金香花頌」	10.14~17	4	3,500~3,200	924	689	74.6
劇団青い鳥「青い実をたべた」	10.23~31	} 19	3,000・2,500	5,795	4,872	84.1
	11.4~6					
ファミリーディスコ 「ファースト パースデー パーティー」	11.1・2	3	1,500	1,128	1,084	96.1
「マイクロゴス」	11.20~24	6	3,500	2,256	1,999	88.6
オペラクリエーション・イン・青山 「おとぎの国のメルヘン通り」	12.2~5	4	2,500	1,128	1,084	96.1
岡田知之打楽器合奏団 「ミラクル・パーカッション」	12.9~14	7	2,500	1,960	1,167	59.5
ファミリーディスコ 「カントリー クリスマス」	12.24~26	3	1,500・1,000	900	718	79.8
ジャズ・フォー・キッズ	62.1.9・10	3	1,200・1,000	1,128	1,020	90.4
清水高師「フレッシュ・コンサート」	1.15~18	4	3,500・3,000	1,352	873	64.8
バレエ雪月花	1.21~25	6	4,000	1,692	1,229	72.6
劇団青い鳥「青い実をたべた」 アンコール公演	2.10~16	10	3,000・2,500	3,050	2,960	97.0
音楽クラブ合同発表会	3.30	3		940	479	51.0
(小計) 30		157		46,139	31,982	69.3
<提携>						
「やってきたアラマせんせい」	4.26~29	8	2,000	2,256	1,368	60.6
「ロミオとジュリエット」	7.17~24	10	2,500	2,820	1,770	62.8
'86 こどものうた フェスティバル	8.23~27	13	2,000	2,554	1,659	65.0
「やってきたアラマせんせい」	9.6~10	} 14	2,300・2,000	3,948	1,611	40.8
	10.3~5					

8 劇 場

能と狂言	62.1.3~7	9	2,500・2,000	2,583	1,662	64.3
シェイクスピアシアター 「リチャードⅢ世」	1.28~2.8	15	3,000	4,500	2,519	56.0
(小計) 6		69		18,661	10,589	56.7
〈貸館〉						
桜チャリティランド	4.12	1		284	250	88.0
「ファンタスティックス」	5.20~30	12	3,000	3,744	1,653	44.2
石井不二香 「舞踊公演」	6.1	2		423	413	97.6
「オリッシイ」	6.6・7	2	2,500	628	581	92.5
ファミコン名人戦	6.8	1		376	370	98.4
ミュージカル ファクトリー 「アニマルファーム」	6.11~15	9	3,000	2,079	1,290	62.0
「TICK TACK」	6.16・17	2	3,500・3,200	656	513	78.2
黙劇 「待合室」	6.19~22	6	3,000・2,700	1,308	1,095	83.1
ビリヤード 世界選手権大会	6.30	1		316	234	74.1
国学院吹奏楽コンサート	7.2	1		312	164	52.6
井上鑑コンサート 「東京インスタレーション」	7.7・8	2	3,500	528	495	93.8
「渋谷学」	7.25	1		280	210	75.0
ミス・リンコ コンテスト	7.28	1		230	150	65.2
JBBY 親子の劇場	8.17・18	4		872	761	87.3
国際社会福祉会議	8.28・29					
ソプラノ パフォーマンス	9.1・2	2	2,800	564	246	43.6
サイケデリック 物理学	9.3・4	2	3,500・3,000 3,300・2,800	552	374	43.6

IV 各部の活動(1)

「夏」	9.13～21	10	2,500	2,000	595	29.8
小熊達弥コズミックディメンション	9.23	2	3,500・3,000	516	292	56.6
男闘呼組ライブ	9.24～28	13		6,300	4,726	75.0
日航特選名人会 VOL.1	9.29	1		312	169	54.1
乱舞座	10.1・2	4	3,000・2,500	820	712	86.9
舞踊作家協会シンポジウム	10.6	1	2,000・2,500	240	145	60.4
エワンデ・アフリカン・ パーカッションアンサンブル	10.7・8	2	2,500	752	314	41.8
日航特選名人会 VOL.2	10.12	1		228	216	94.8
NTT トーク フェスティバル	10.18・19	1		600	600	100.0
「風の歌コタンの歌」	11.9～11	6	2,000	1,380	865	62.7
日航特選名人会 VOL.3	11.12	1		250	231	92.4
雙蓮花譜	11.14～16	6	5,000	1,476	982	66.5
創作舞踊展	11.18～19	2	3,000	492	328	66.7
ミュージカル ファクトリー 「若草物語」	11.26・27	8	3,000	1,488	1,031	69.3
	12.15～17					
カレイド・スコープ 「はじまりのはじまり」	11.28～30	5	2,800・2,500	1,250	976	78.1
「菩提樹」	12.6・7	3	3,500・3,000	738	291	39.4
「ザ・ピンク・スポット」	12.19～23	7	3,500	1,722	1,342	77.9
日航特選名人会 VOL.4	12.27	1		228	113	49.6
日航特選名人会 VOL.5	62.1.8	1		228	214	93.9

8 劇 場

コールパパス 「十一ぴきのネコ」	1.11	1		354	316	89.3
「パンプボーイとディナーガール」	1.12~14	3	2,000	822	528	64.2
黒人歴史こどもセレブレーション	2.17	1	1,500・1,000	300	87	29.0
日航特選名人会 VOL.6	2.18	1		228	195	85.5
日本映画学校 「荒廃のカルテ」	2.20~24	7	1,500・1,300	1,435	1,108	77.2
チェーホフ 「かもめ」	2.28~3.21	22	3,000	5,544	3,155	56.9
日航特選名人会 VOL.7	3.22	1		250	242	96.8
「フロドの冒険」	3.25~29	10	2,000・1,800	2,180	1,729	79.3
(小計) 44		170		45,285	30,301	67.0
青山円形劇場 計 80		369		110,085	72,872	66.2
劇場合計 111	61.4.1~ 62.3.31	791		552,614	407,223	73.7

(3) 60・61年度の活動

1) 青山劇場

青山劇場は、全床スライド方式の2面の主舞台や24基の小迫（ぜ）り機能などが備えられた舞台面を始め、音響・照明・客席等に最新鋭の劇場工学の粋を集めて建設された。これは劇場機構によって舞台表現が制限されることなく、あらゆる舞台芸術のジャンルにおいて、最大の芸術効果をあげられるよう作られている。

21世紀を目前にして、人間を取り巻く社会や環境は、ますます複雑になっていく。舞台芸術が時代の表現であり、その時代の人間や社会の在り方、かかわり方を表現するものだとすれば、当然、その表現方法も時代によって変わっていく。より複雑になっていく現代において、それに見合う形で変ぼうしていく舞台芸術を、より高度な表現として観客にお届けする——それが青山劇場の姿勢である。

開場以来、青山劇場が取り上げた公演ジャンルは、ミュージカル、現代劇、歌舞伎、バレエ、オペラ、コンサートなど、多岐にわたっている。この2年間の青山劇場の軌跡は、最初から公演ジャンルを限定してしまうことなく、青山劇場に最も見合う企画を探るための模索の軌跡であり、別な言い方をすれば、劇場と演目と観客という3者の理想的な出会いを探るための模索なのである。

観客層について言えば、メイン・ターゲットとして青少年層とファミリー層が中心に置かれた。ただし、いわゆる「お子さま向き」「ご家族向き」というものではなく、真に青少年が欲しているもの、ファミリーで（あらゆる世代の人が同時に）楽しめるもの、ということを考えてきた。更に国際交流や若手才能への援助、身体障害者・母子家庭の方へのチャリティーなどの面からも演目に配慮がなされている。

青山劇場では、まず「こどもの城開館記念」として、宮城まり子「かがやくこどもたち」、ガムラン演奏と舞踊による「天の舞・地の響き」「英雄ダマルウラン物語」、ツトム・ヤマシタ「天地の夢」が行われた。「かがやくこどもたち」はファミリーを対象として、「天の舞・地の響き」は「こどもの城」の音楽事業部と協力して、「こどもの城」の多面体としての特徴を出すために、そして「天地の夢」は実験的な方向性でと、それぞれが、その後の青山劇場の方向性に大きな意味を持っていた。こけら落としは、劇団四季のミュージカル「ドリーミング」。この作品は、内容的にはメーテルリンクの不朽の名作「青い鳥」をベースにしたオリジナル・ミュージカルであること、演出的には青山劇場の持つ舞台機構をフルに用いたこと、また約4か月にわたるロングランにもかかわらず高い動員率をマークし、青山劇場の名を観客層にアピールしたことで注目される。

その後の特徴的な公演を列挙すると、以下のようになる（順不同）。

○近松座「心中天の網島」＝日本のシェイクスピアといわれる近松門左衛門の作品と、古

典芸能である歌舞伎を、若い世代の人に訴えかける。

- 山本安英の会「夕鶴」及び民話劇場「彦市ばなし」「鯉女房」＝民話の再評価を通して民話の底に流れる人間の情念を見つめ直す。
- 「イースター国際こどもフェスティバル」及び「夏休み世界こどもフェスティバル」＝国際交流の視点から、日本在住の各国の子どもたちに発表と観賞の場を提供。
- オペラクリエーション・イン・青山「フィガロの結婚」＝若手の才能の育成と、新しいオペラの創造。
- 青山バレエフェスティバル＝発表の場の少ない日本の優れた若手舞踊手たちに場を与え、日本バレエ界の発展に寄与する。
- 前進座「新・平家物語」＝国民的作家、吉川英治の名作を舞台化。日本の歴史をモチーフにして、世代を問わず日本人の意識の底に共通する生き方を問い直す。
- 劇団四季「ロミオとジュリエット」＝青山劇場の持つ舞台機構をストレート・プレイでもフルに用いて評価される。

2) 青山円形劇場

青山円形劇場は、日本初の完全円形劇場としてユニークな特徴を持っている。既存の額縁型の劇場は、演者と観客が定まった位置に固定されていたが、青山円形劇場は、この関係を根本からとらえ直したため、より密度の高い斬新な演出効果が得られる。また、床面全体は44基の迫りに分かれ、段床可変型の構造をとっている。客席数は最大約370席で、小劇場としては理想的な形態といえよう。

公演ジャンルは青山劇場と同じように限定していないが、特徴の1つとしては、実験的なものも含めて円形というユニークな形態を生かすもの、そしてもう1つは、対象を青少年やファミリーに重点を置いたものが、セレクトされている。

まず「こどもの城」開場記念として、日本児童演劇劇団協議会所属の劇団による合同公演「大どろぼうホッツェンプロッツ」と「劇場ばんざい」が行われた。観客層は、ねらいどおりファミリーが集まり、児童劇の最大の功績は、親と子という世代の違う人間が1つの感動を分かち合えることだ、ということを改めて実感できた公演となった。

続く、こけら落とし公演として、シェイクスピア・シアターのシェイクスピア劇3本連続公演（夏の夜の夢、じゃじゃ馬ならし、十二夜）が行われた。この公演では、それぞれの演目に見合う形で舞台・客席パターンを変化させ、青山円形劇場の可能性を具象化した。

その後の公演の意図と意義については以下のとおりである（順不同）。

- 「サウンド・ウォッチング」「新体操デモンストレーション」「ジャズ・フォー・キッズ」「金管バンドコンサート」＝音楽事業部・造形事業部・体育事業部など他部と協力することで「こどもの城」の多面的な特徴を打ち出す。
- 「ミロぼうやのふしぎの国」「世界こどもの日ファミリーイベント」「ファミリーディスコ」＝国際交流の視点から、日本在住の各国の子どもたちに発表と観賞の場を提供。

IV 各部の活動(1)

- オペラクリエーション・イン・青山「おとぎの国のメルヘン通り」＝「こどもの城」のスタッフによって、より観客と密接したオリジナル・オペレッタを創作。
- 「宮沢明子の世界」、岡田知之打楽器合奏団「ミラクル・パーカッション」、清水高師「フレッシュ・コンサート」＝著名なアーティストによる円形劇場バージョンでの演奏。円形劇場の特徴を生かすコンサートの在り方を探る。
- マタニティ・コンサート＝妊婦並びにその家族を対象とし、「リラックス」をテーマとするコンサート。音楽を鑑賞する際の妊婦と胎児の心拍数等もデータとして記録。
- ダンス・アット・ザ・ギャザリング＝クラシック・モダン・日本舞踊など、ジャンルを取り払った新しいダンス形態を模索する。同時に若手ダンサーの発表の場とする。
- 劇団青い鳥「青い実をたべた」＝小劇場系の劇団による新しい感性の演劇。次代の演劇を追求するとともに、小劇場としての青山円形劇場の可能性を広げる。
- 「やってきたアラマせんせい」＝子どもたちを対象に日本語の楽しさと美しさを伝える。
- 「能と狂言」＝古典芸能としての「能」と「狂言」を、ファミリー対象に、やさしく解説しながら公演し、古典芸能の楽しさを伝える。
- 「マイクロゴス」＝海外の音楽（パフォーマンス）を紹介し、文化の国際交流の一環とする。

各部の協力活動

「こどもの城」各部門のスタッフが協力し、その専門性が効果的に融合された形でプログラムに生かされ、館内のスペースを有効に活用し、事業を行うのが全館行事の目的である。しかし、全事業部のすべての専門性を1つの催しの中に生かすプログラムというのは、テーマが難しく、各部独自のプログラムとの時間的調整、人員確保も容易ではない。そのため、60・61年度は2～3部門が中心となって企画したプログラムに、その他の部が人的協力（専門性を特に考慮しないスタッフ派遣）、技術的協力（専門的アドバイス・物品提供）などを行う形となった。この場合、必ずしも全事業部が参加するという形にはならなかったが、規模として大きな事業（1つの催しにおける参加来館者1,000人／1日単位）を行うことができた。このスタイルをステップとして、将来的には全館が1つのコンセプトのもとに、1つの事業を行う形も研究していきたい。また、大きな催しを行うとき、華やかさばかりを追う傾向になりがちだが、「こどもの城」のポリシーを忘れず、各部の専門性を有機的に機能させながらプログラムを組むことが今後の課題の1つである。

61年度全館行事

名 称	期 間	時 間	ス ペ ース	活 動 (参 加) 状 況 (参加者、人数等)
—みんなの手による チャリティーバザー— こどもデパート	61. 4. 29	11:00～ 15:00	音楽ロビー プレイホール エントランスホ ール	こどもの城合唱団児童・母親、あそびガヤガヤ研 究所児童、保育クラブ母子、青年・婦人ボラン ティア、音楽・プレイ・保育・小児保健・研修教 養・企画・営業・広報の各部職員。 一般参加者約1,200人
ミステリーゾーン	61. 7. 20 ～30	10:30～ 17:30	音楽ロビー 音楽スタジオB	劇場・プレイ・音楽・AV・管理・広報・造形・ 研修教養・企画の各部職員、青年・婦人ボラン ティア、一般参加者9,088人
こどもの城の夕涼み	61. 8. 22 ～8. 24	16:00～ 20:00	屋上ふしぎが丘	プレイ・音楽・保育・広報・研修教養・劇場・小 児保健・振興福祉・管理・AV・営業・企画の各 部職員、渋谷区青年団体、ボランティア、小学館 レクリエーションサークル 一般参加者約2,400人

1) こどもデパート

61年4月29日（祝）に、4階音楽ロビー・3階プレイホール・1階エントランスホールを使い、チャリティーバザー第1回こどもデパートを行った。これは、子どもたちの手作りの品や、古本・中古雑貨品を来館者に販売し、売り上げ収入の一部を（社福）日本肢体不自由児協会に寄付したものである。中心となったのは、こどもの城児童合唱団員とその母親、あそ

IV 各部の活動(1)

びガヤガヤ研究所児童で、これに関係部職員とボランティアなどが協力して運営に当たった。

スタッフとなる児童に対するプログラムの目的は、①集団活動を通して、個人の役割とチームワークを学習する ②集団の中でのルールとマナーを学び、社会を認識する ③お店やさんごっこを通して、一般来館児童（お客さん）との交流を図る、ということである。児童はそれぞれ4、5人ずつのグループに分かれて1店を担当することにし、1か月前から企画・準備に当たった。店の中身は児童が考えたものだが、品物を作って販売するだけでなく、ある種のゲームを行い、景品に自分たちの手作りの品を当てるというスタイルが多かった。特に“ガヤ研”のゲーム店「スパケット」「金魚ふくい」などは、ゲームにオリジナル性があり、スタッフ児童、来館児童ともに楽しみながら交流が持たれたようだ。

合唱団の母親、婦人ボランティアは、それぞれタオル人形、ブローチなどの手作りの品を販売し、人気があった。また、合唱団母親、「こどもの城」職員らが各家庭から持ち寄った古本、雑貨品などもほぼ完売し、収入も全体の60%を占めた。

買い物はすべて金券で行い、現金を扱うことがないようにした。来館者は4階に設けられたこどもバンク（銀行）で現金を金券に換え、買い物をするという仕組みである。金券は100円券（10円券10枚組み）と500円券（100円券5枚組み）の2種類を用意した。こどもバンクの運営は、合唱団児童が窓口業務を行い、企画部が担当した。そのほか、1階エントランスホールにこども喫茶店を設け、営業部の協力で合唱団児童が運営した。また、広報部の協力で、当日の様子をニュースとしてまとめたこども新聞をその日のうちに発行し、これも合唱団児童が担当した。

店舗数

音楽事業部	合唱団児童店（こども喫茶店含む）	9店
音楽事業部	合唱団母親店（バザー店）	3店
	あそびガヤガヤ研究所店	3店
研修教養部	青年ボランティア店	1店
研修教養部	婦人ボランティア店	1店
保育研究開発部	幼児と母親店	1店
		計 18店

反省点としては、①来館児童がただのお客さんとしてだけでなく、目的を持って能動的に参加できる形を考えたい ②閉店前に金券が売り切れたので、1人に販売する額の上限を設定するなどの工夫が必要 ③各階がそれぞれ孤立しており、一体感がない。中間報告会を行うなど相互に情報交換の場が欲しい ④材料費等準備予算額が少ない ⑤1か月では準備期間が短いなどがあげられた。

収 支

収 入	(当日金券売上)	466,385円
支 出	(材料費等)	205,723円
収 支		260,662円

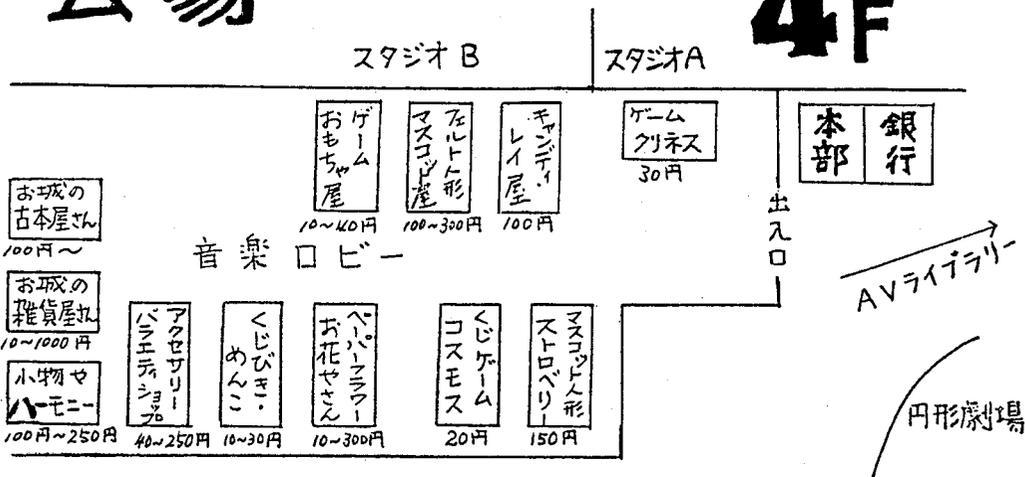
このうち、100,000円は日本肢体不自由児協会へ寄付。残金160,662円は62年度へ繰り越し。

全体を通して、プログラムの目的は果たされ、事故や金銭をめぐるトラブルなどもなく、予想以上に収入もあったので、催しとしては成功であった。純益260,662円のうち、100,000円を（社福）日本肢体不自由児協会に寄付、残りは第2回目の準備材料費に充てるため、次年度に繰り越した。

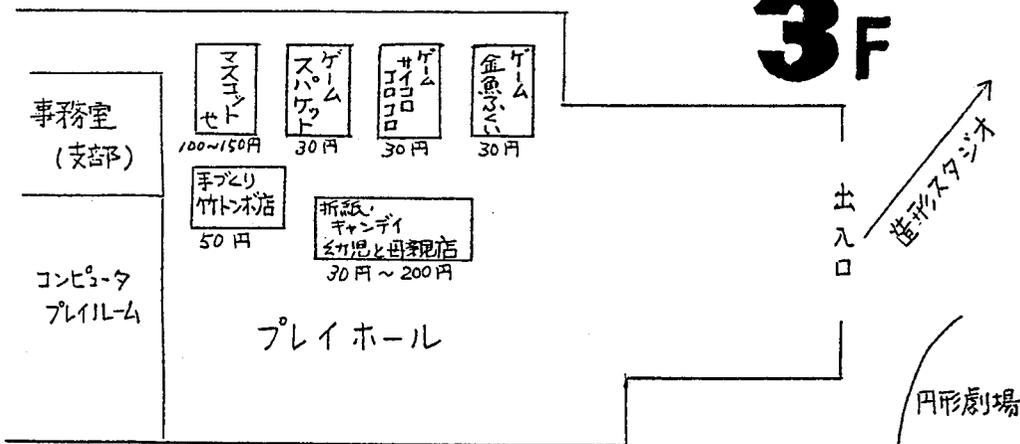
こどもデパート会場レイアウト (当日のちらしより)

会場

4F



3F



こども
喫茶店
1F
エントランスホール

※ デパートの利益は、社会福祉法人 日本肢体不自由児協会へ、寄付します。

買物をするお客さまへ

- 4Fの銀行で金券(こどもの城発行)を買って下さい。
- ここに書いてある場所でのみ、金券が使えます。
- 金券の使用は、4月29日の11時〜15時半の間だけです。
- 金券は現金へ払い戻ししません。

IV 各部の活動(1)

2) ミステリーゾーン

61年7月20日～30日の夏季特別期間に、4階音楽スタジオBとロビーを使ってミステリーゾーンを行った。これは音楽、AV、企画各部が中心となって企画し、その他の事業部とボランティアの協力により実施した。

目的としては、音楽、AV事業部にある音響機器、映像機器を活用した「ふしぎ空間」を作り、児童の創造性を刺激するアトラクションにすることであった。ただし、ふしぎ空間だけで構成するには機材及び技術力が不足気味なので、お化け屋敷的雰囲気を加えてアクセントをつけることにした。内容は音響関係のコーナーが3点、映像関係が5点、お化け的装飾4点の計12コーナーに分け、全体コースは平台を立てて仕切り、Bスタジオ内の照明はブラックライトに統一した。各コーナーで特に人気があったのは、自分の言ったことをそっくりまねする「まねっこぞう(ディレイ・ボゴダーなどの音響機器を組み合わせたもの)」と、テレビの前を通ると画面の様子が不思議に変化する「ふしぎなマド(テレビカメラのフィードバック効果を活用したもの)」と、ブラックライトで浮かび上がる「手がいっぱい(蛍光塗料で染めたゴム手袋)」であった。

コースには、30秒～1分おきに2、3人の小グループで入っていく形にした。そのために、混雑時は10～20分ぐらい順番待ちになったが、その間は担当スタッフがフリーに自分の知っている不思議な話、怪談、ゲームなどを行い、プレ・ショーとしての役割を果たした。

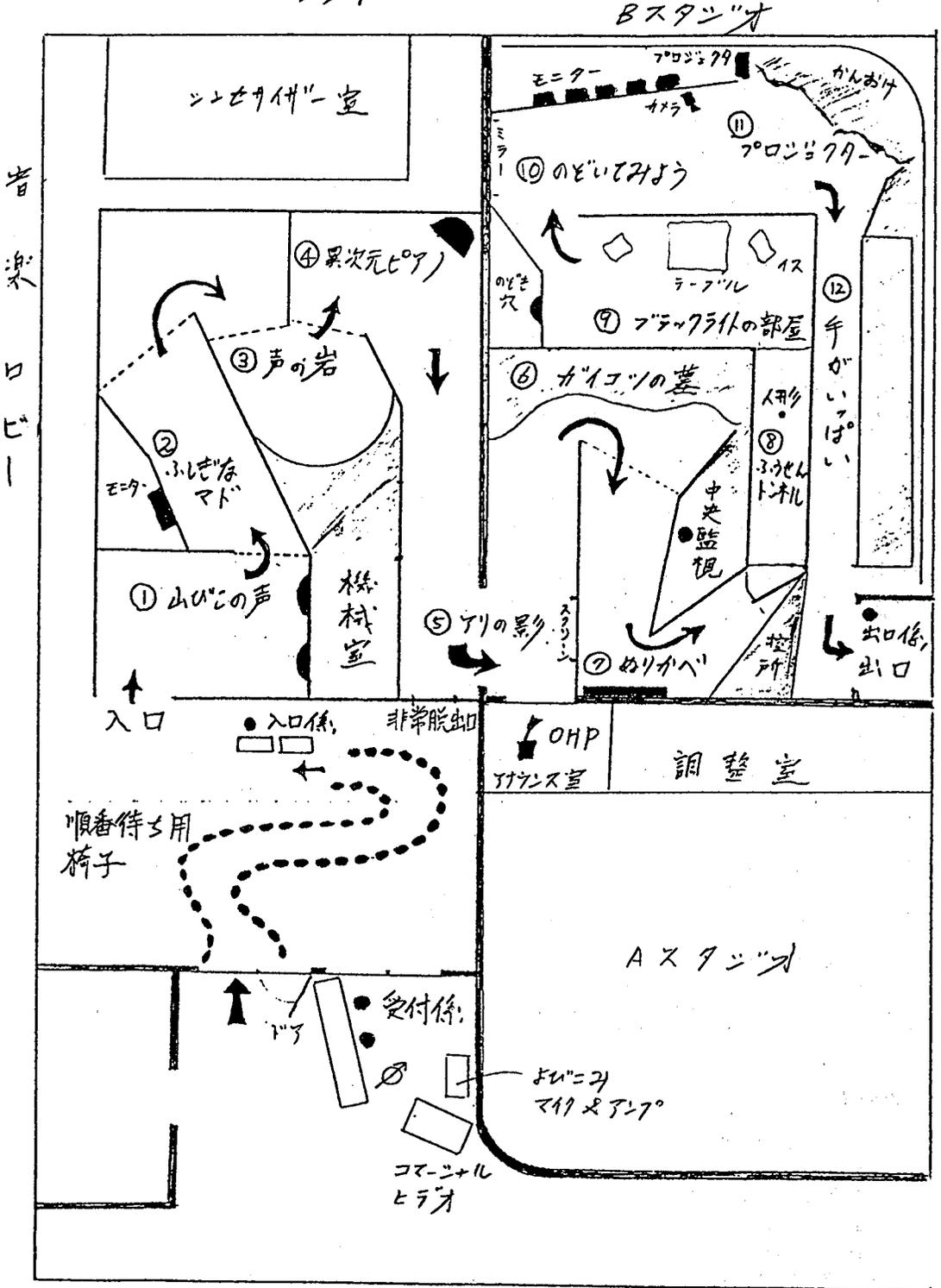
ショッキングに人を驚かせることはしなかったので、家族連れや幼児でも楽しめた。ただし、“不思議”という面では弱い所もあったので、映像や音響などの技術面を研究し、さまざまなアイデアで身近な道具でできる「不思議感」のレベルアップを図りたい。

受付、入り口、出口でのスタッフの対応も評判がよかった。単なる誘導係でなく、それぞれが子どもたちに話しかけをすることでコミュニケーションの場となり、「こどもの城」らしい運営の形となった。スタッフがそれぞれの人間性を生かして子どもと触れ合うことが、マニュアル的対応の遊園地とは違うべき点で、活動の中では極めて大切な要素であろう。

ミステリーゾーン入場者数(単位:人)

曜日	天気	10:30～ 11:00	11:00～ 12:00	12:00～ 13:00	13:00～ 14:00	14:00～ 15:00	15:00～ 16:00	16:00～ 17:30	計
7/20	日 雨	27	133	112	150	109	162	256	949
22	火 雨	84	133	130	130	161	184	140	962
23	水 晴	32	150	138	135	139	119	89	832
24	木 晴	26	103	99	89	116	150	140	723
25	金 曇	81	101	101	159	148	120	118	828
26	土 晴	26	111	133	149	150	185	221	975
27	日 晴	59	148	223	185	209	224	181	1,229
28	月 晴	61	80	126	151	134	39	59	650
29	火 晴	112	119	118	111	180	201	159	1,000
30	水 晴	68	113	145	150	135	127	202	940
〈参加部門〉 劇場, プレイ, 音楽, AV, 管理, 広報, 造形, 研修教養, 企画									9,088

ミステリーゾーン レイアウト



IV 各部の活動(1)

3) こどもの城の夕涼み

61年8月22日～24日、屋上・ふしぎが丘を使って「こどもの城の夕涼み」を催した。目的は、縁日、映画会、ゲーム大会などを通して、同世代、異世代、親子などの幅広いコミュニケーションの場とし、地域との交流を図ろうというものである。メインとなる縁日には、地元渋谷区の青年団体の協力も得られ、飲食関係の屋台など計14店が出店され、来館者が楽しいひとときを過ごすことができた。また、ゲーム大会は外部へのアピールも兼ねて、1階のピロティで小学館レクリエーションサークルのメンバーにより行われ、映画会は屋上壁面に3×6メートルのスクリーンを設置して上映した。

開催時間は午後4時～同8時とし、地域サービスの意味で入館券販売終了時間（午後5時30分）以降は無料で入館できるよう、会場直通の屋上スロープを開放した。

反省点としては、①5階屋上だけが縁日会場だったので、雰囲気がやや寂しかった。店数を増やしてスロープ全体を会場としたい。また、1階のゲーム大会は、メイン会場と離れすぎており、一体感がなかった ②地域サービスの目的があったが、お客さんの大半は一般に来館した人であったので、開始時間が遅かったようだ、などがあげられた。以上の問題点を改善していけば、基本的な内容は幅広い世代が楽しめるものであるから、夏の催しの核として位置づけられるであろう。また、回を重ねるごとに地域に根付くことも期待できる。

夕涼み収支（3日間・計）

（単位：円）

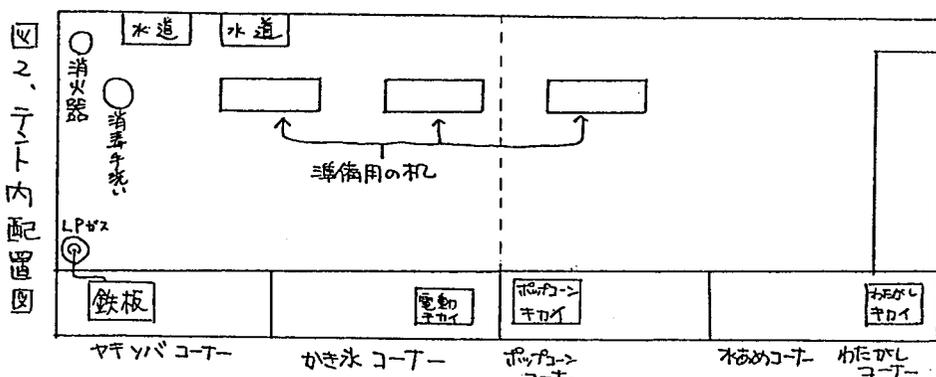
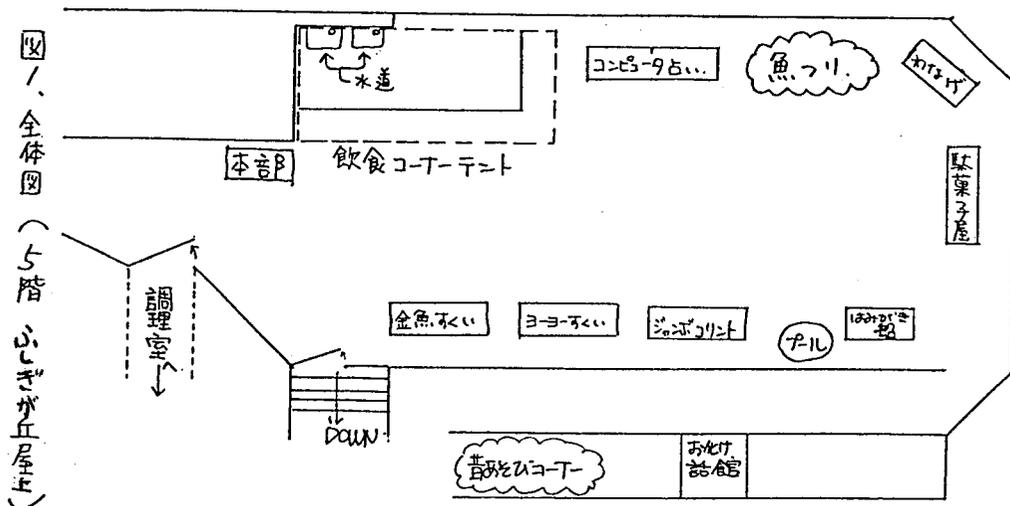
項 目	収 入	支 出	備 考
縁 日	510,310	441,971	仕入れ材料費 (306,591) 協力費・食費 (127,220)
屋上ディスコ	8,500	7,800	レコードレンタル (6,000) ドリンク (1,800)
屋上映画会	—	60,000	映写機レンタル (30,000) スクリーン (30,000)
レクリエーション大会	—	101,720	協力費 (75,000) 賞品代 (26,720)
会場設営費	—	256,000	電気工事等
合 計	518,810	867,491	収支差 (△ 348,681)

参加部門

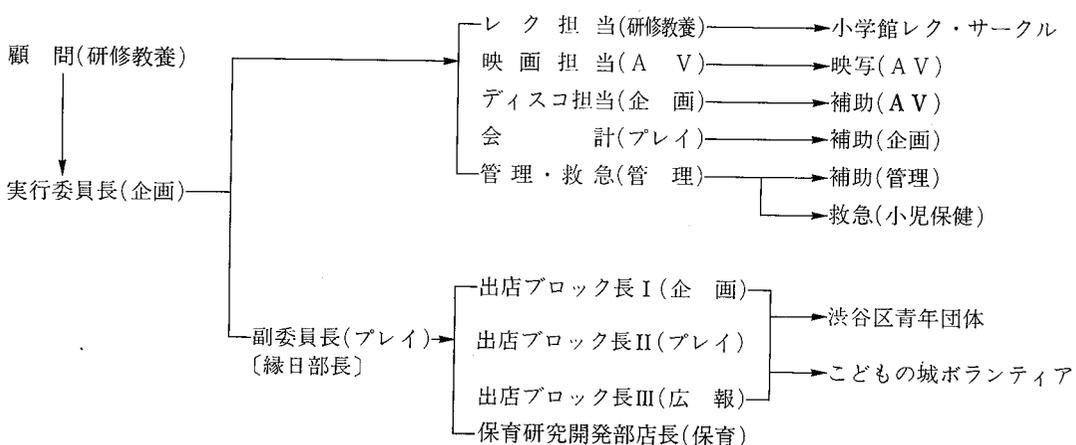
- ・プレイ事業部
- ・音楽事業部
- ・保育研究開発部
- ・広報部
- ・研修教養部
- ・劇場事業本部

- ・小児保健部
- ・振興福祉部
- ・管理部
- ・AV事業部
- ・営業部
- ・企画部

夕涼み会場レイアウト



〈実行委員〉



V 各部の活動 (2)

1	研修教養部	231
	こどもの城あそびガヤガヤ研究所	247
2	広報部	250
3	営業部	253

1 研修教養部

1 研修教養

(1) 60年度活動一覧表 1) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 間 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員 (人)	受 講 数 (人)						
手話入門講座 —ひろげよう コミュニケー ション— 協賛 (財)広げよう 愛の輪運動 基金	高校生 以 上	30	34	金曜日 16:00~ 18:00	研修室	61. 1.10~ 3.28 全12回	(円) 8,000	全日本聾啞連盟 竹島昭三郎 ほか5人	出席率72.8% 延べ登録人員408人 延べ出席人員297人
思春期講座 —思春期の 子どもをも つ親のため に— 協賛 (財)広げよう 愛の輪運動 基金	思春期の 子どもをも つ親・思 春期問題 に関心のある人	50	20	土曜日 (隔週) 14:00~ 16:00	研修室	12.14~ 61. 2.22 全6回	12,000	筑波大学教授 稲村 博 ほか5人	出席率89.2% 延べ登録人員120人 延べ出席人員107人

2) その他の活動

名 称	対 象	人 数		曜 日 間 時 間	場 所	期 間 回 数	講 師 等	備 考
		定 員 (人)	受 講 数 (人)					
ボランティア 養成講習会 (第4期)	18歳以上 の男女	50	51	18:00~ 20:30	研修室 市川市少年 自然の家	60. 6.10~ 7.11 (うち6.28 ~7.3 宿泊研修 全9回)	明治学院大教授 福田 垂穂 ほか5人 *理事長 ほか職員	後援 日本キャンプ協 会 都レクリエー ション連盟 修了者50人
ボランティア 養成講習会 (第5期)	同 上	同 上	41	同 上	同 上	61.2.18~ 3.18 (うち3.7 ~9 宿泊研修 全9回)	玉川大教授 高城義太郎 ほか5人 *理事長 ほか職員	後援 日本キャンプ協 会 都レクリエー ション連盟 修了者35人
婦人ボラン ティア講習会 (第1期)	家庭婦人	30	21	14:00~ 16:00	研修室	60. 10.15~18 全4回	明治学院大教授 福田 垂穂 ほか1人 *理事長 ほか職員	

(注) 59年度において「こどもの城」開館前にボランティア養成講習会を3回開催した。

修了者数 第1回 37人, 第2回 44人, 第3回 46人

V 各部の活動(2)

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員 (人)	受 講 数 (人)						
(夏休み) ジュニア・ アウトドア ・スクール (第2回)	小3～ 中学生	60	33	3泊4日	群馬県立 大原教育 キャンプ 場	60. 7.30～ 8.2	(円) 25,000	職員3人 ボランティ アリーダー 22人	
ふれあいセ ミナー —身障者介 助法講習 会—	こどもの 城ボラン ティアの うちから の希望者	50	39 (修了 者 37人)	18:00～ 20:30	研修室	9.30～ 10.20 全6回	無料	都心身障害者 福祉センター 職能科長 三ツ木任一 ほか4人	
(開館記念) 児童厚生員 等造形実技 指導研修会	こどもの 城全国連 絡協議会 加入施設 の児童厚 生員等	30	23	9:00～ 21:30	研修室 各事業部 スペース	11.22～ 24 (2泊3日 宿泊研 修)	15,200	ブルーノ・ ムナーリ 職員、造形 職員	
(春休み) ジュニア・ スキー・ キャンプ (第2回)	小4～ 中学生	60	37	4泊5日	新潟 苗場高原 グリーン ピア津南	61. 3.30～ 4.3	41,000	職員3人 ボランティ アリーダー 17人	

(注) 59年度において「ジュニア・アウトドア・スクール」1回、参加児童42人及び「ジュニア・スキー・キャンプ」1回、参加児童32人、それぞれ開催した。

1 研修教養

(2) 61年度活動一覧表 1) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定員 (人)	受講数 (人)						
手話講座入門編(前期)	高校生以上	30	29	火曜日 18:00~ 20:00	研修室	4.8~6.24 全12回	(円) 8,000	東京都手話通訳派遣協会 小橋ヒロ子 全日本聾啞連盟 山脇由美子ほか	出席率69.3%,入門編,実用編を後期に計画していたが,それぞれ合併し,「手話初級編」として開講した。
手話講座実用編(前期)	入門講座修了者・手話を学んだことのある人	30	14	金曜日 18:00~ 20:00	同 上	4.11~6.27 全12回	8,000	トット基金 貞広邦彦 全日本聾啞連盟 山脇由美子ほか	出席率63.4%
手話講座初級編	高校生以上	30	21	火曜日 18:30~ 20:00	同 上	9.30~ 62.3.17 全18回	9,000	同 上	出席率63.0%
お話講座—ストーリー・テリング—	図書館・保育所の職員ほかお話に興味のある人	25	28	木曜日 18:00~ 20:00	同 上	4.10~ 10.16 全12回	12,000	東京こども図書館 佐々梨代子 山口雅子	出席率50.0%
点訳入門講座	高校生以上	30	21	水曜日 18:00~ 20:00	同 上	4.9~9.17 全24回	12,000	日本点字図書館 河井久美子ほか	出席率62.7%
点訳サークル	点訳入門修了者	10	10	水曜日 18:30~ 20:00	同 上	10.8~ 62.3.11 全6回	参加費 3,000 (1回 500)	日本点字図書館 河井久美子	点訳入門講座で習得した技術を更に向上させる。また点訳ボランティアとして活動する。延べ出席人員45人
公開講座—現代の子どもたちを考える—	児童問題に関心のある人	70	64	16:00~ 17:30	同 上	11.15	500	東京都立大学教授 詫摩武俊	当初は,全12回日本児童学会及び児童育成学会と共催により講座を予定したが,応募者も少なく,1回のみの実施にとどめた。

V 各部の活動(2)

2) その他の活動

名 称	期 間	時 間	対 象	場 所	料 金	要 員	備 考
こどもの城ボランティア養成講習会(第6期) 後援:日本キャンプ協会,東京都レクリエーション連盟	6.7~7.8 (全9回,宿泊研修を含む)	18:00~20:30	こどもの城の活動に協力できる18歳以上の男女	研修室・狭山青年の家(宿泊研修)	(円) 無料,ただし宿泊合宿費実費負担	(人) 明治学院大学教授福田垂穂ほか5 *理事長,常務理事ほか職員	定員50人 参加者40人
同上(第7期)	11.8~12.11 (全9回,宿泊研修を含む)	同 上	同 上	研修室・青梅青年の家(宿泊研修)	同 上	東洋大学教授吉澤英子ほか5 *理事長,常務理事ほか職員	定員50人 参加者47人
同上(第8期)	62.2.7~3.12(全9回,宿泊研修を含む)	同 上	同 上	研修室・市川少年自然の家(宿泊研修)	同 上	淑徳短期大学教授木谷宣弘ほか5 *理事長,常務理事ほか職員	定員50人 参加者54人
第2回ふれあいセミナー —障害をもつ子どもたちと親しくなるために—	5.21~6.6 (全5回)	18:00~20:30	ボランティア講習会修了者を対象に介護技術などを学ぶ	研修室	無料	心身障害者福祉センター三ツ木任一ほか5	定員50人 参加者26人
婦人ボランティア講習会(第2期)	10.8~17 (全4回)	14:00~16:30	こどもの城の活動に協力できる家庭婦人	同 上	同 上	社会活動教育研究所長新谷弘子ほか1 *理事長ほか職員	定員30人 参加者17人
ジュニア・アウトドア・スクール	7.31~8.3 (3泊4日)		小4~中3	山梨県・県民の森グリーンロッジキャンプ場	参加費 26,000	職員3 ボランティア22 (ボランティア養成を兼ねる)。	定員60人 参加者50人
ジュニア・スキー・キャンプ	62.3.31~4.4 (4泊5日)		小4~中3	新潟県・苗場高原・グリーンピア津南	参加費 41,000	職員4,スキー講師6,ボランティア14(ボランティア養成を兼ねる)。	定員60人 参加者71人

1 研修教養

名 称	期 間	時 間	対 象	場 所	料 金	要 員	備 考
第1回児童厚生員等初級実技指導講習会	6.13～15 (宿泊研修)		こどもの城全国連絡協議会加入施設の児童厚生員等	研修室ほか	(円) 参加費 15,000	(人) 日本野外教育協会伊藤昭彦ほか3 ※理事長, 常務理事ほか職員	定員30人 参加者25人
第2回児童厚生員等中級実技指導講習会	12.5～7 (宿泊研修)		同 上	同 上	参加費 15,000	都レクリエーション連盟東正樹ほか3 ※理事長, 常務理事ほか職員	定員30人 参加者26人
三宅島アドベンチャー・キャンプ 主催: こどもの国協会, こどもの城	8.5～9 (4泊5日)		小4～6年	三宅島・人間牧場キャンプ場	参加費 35,000	こどもの国職員4 ボランティア5 職員1 ボランティア4	定員40人 参加者17人

(3) 60・61年度の活動

1) 社会福祉関係講座

「こどもの城」にふさわしい魅力ある教養講座を開設することを前提とし、福祉関係講座のほか、子どもをめぐる諸問題をテーマに学術公開講座などを企画、地域・福祉活動に興味がある人への積極的な参加を促した。これには「財団法人広げよう愛の輪運動基金」の協賛をいただき、円滑に実施された。

(ア) 手話講座

高校生以上の成年男女を対象に、手話の技法を学ぶだけではなく聴覚障害者との交流会を開くなど広く社会福祉の情報交換の場となることを期待し、“目で見る言葉”“胸の思いをそのまま伝える心の言葉”としての手話を通じて、“言葉と心”を豊かにし、聴覚障害者への理解を深め、友情の輪を広げることをねらいとして開設した。

(1) 60年度 入門編 全12回 (61. 1～3)

(2) 61年度①前期入門編 全12回 (61. 4～6)

②前期実用編 全12回 (61. 4～6)

②は前年度の入門編修了者を中心に実用的な内容として開講。修了者は、地域のサークルに参加して、障害者と交流するなどボランティア活動も可能となるよう方向づけた。

③初級編 全18回 (61. 9～62. 3)

61年度9月以降は、前期入門編と前期実用編を引き続き開講する予定だったが、前期の内容及び講師の助言によって、手話講座のコースを一本化し、全18回として実施することとなった。これによって、「こどもの城」の手話講座はいわゆる専門家（手話通訳）養成ではなく、手話に対する動機づけに重点を置くという方向が定まった。

また、以前の講座は、毎週コンスタントに開講されていたが、おおむね月3回として、更に開始時間も30分繰り下げて18：30～20：00とした。職業人が多かったので好評だった。

(イ) お話講座（ストーリーテリング）

図書館、児童館等に勤務する職員や、お話に興味を持っておられる方を対象とし、親子の触れ合い、対話を通じて子どもの感性を育てるために昔話や童話を語り聞かせるための実習（お話の意義、選び方、語り方）をねらいとして開講した。

当初順調にスタートしたものの、回を重ねる度に欠席者が増え、修了者は4分の1になった。講座内容のほとんどが実習（受講生がお話を語る）であったので、受け身の受講を予想していた受講者が多かったのも一因と思われる。実習には準備を要するため、その時間がとれず、次回の講座に出席しにくくなったこともあげられていた。

この点、募集パンフレットの記載内容に不親切なところがあり、また事前段階で、講師との打ち合わせも十分でなかったことがあり反省している。今後の課題として①講師との事前

1 研修教養

打ち合わせは、できるだけ具体的に話し合い、受講者募集の内容をできるだけ詳細に記載すること②内容を初心者に取り組みやすくし、ある程度単発的要素を入れた講座を開設したい。

(ウ) 点訳入門講座

高校生以上の成年男女が対象。視覚障害者のための図書は点字奉仕者に頼るところが多く、当講座においても視覚障害者への理解を深めるとともに、日常生活の中で、点字が打てるように指導、奉仕活動ができることをねらいとして開設した。

この講座は全24回の長期間にわたるものであるが、特に正確な国語力が要求され、文法事項の習得がかなりのウエイトを占めることが分かった。毎週開講することもあり、1回欠席すると講義が遅れることにより、継続が困難となるためか欠席者が多く、修了者が2分の1となった。しかし、修了者の熱意により講座終了後も毎月1回、「こどもの城」において点訳サークルとして活動することになり、入門講座で得た技術を実際に役立たせると同時に点訳技術を更に向上させ、将来は点訳ボランティアの活動ができるよう実力をつけるべく実施した。

これは、講座受講者修了者のアフターケアをどうするかについてひとつの提案となった。

(エ) 思春期講座（思春期の子どもをもつ親のために）

思春期の子どもを持つ親並びに思春期問題に関心のある人を対象とし、講師は現場の第一線で思春期問題の研究、相談指導に当たっている先生に依頼した。なるべく平易に、分かりやすくし、かつ実際に役に立つものとして企画した。全6回にわたる講座とし、まず、思春期の心の赤信号をどう見分けるか—子どもの心理—から始まり、以後4回にわたり、登校拒否、問題を持つ親子関係、不安・悩み、性といじめ、などについて具体的事例をあげながら話を進め、最終回は総括的しめくりを行い、好評のうちに終了した。

	開催日時	担当講師（敬称略）	内容
第1回	昭和60年12月14日（土） 午後2時～4時	筑波大学助教授 稲村 博	思春期はいま —その心理と特徴—
第2回	昭和60年12月21日（土） 午後2時～4時	明治学院大学教授 神保 信一	登校拒否、家庭内暴力 にどう対応するか
第3回	昭和61年1月11日（土） 午後2時～4時	大妻女子大学教授 平井 信義	問題をもつ子の親子関係
第4回	昭和61年1月25日（土） 午後2時～4時	いのちの電話常務理事 斎藤 友紀雄	思春期の性について —一人に言えない彼らの 不安・悩み—
第5回	昭和61年2月8日（土） 午後2時～4時	思春期問題研究所長 江幡 玲子	思春期の子どもと行動 —性といじめについて—
第6回	昭和61年2月22日（土） 午後2時～4時	都立大学教授 詫摩 武俊	しめくり 思春期の子どもをもった 親の今後の課題

V 各部の活動(2)

(オ) 現代の子どもたちを考える (児童学術研究公開講座)

児童問題について関心のある人を対象とし、日本児童学会及び児童育成学会との共催で開催した。

児童学術研究公開講座は初の試みで、当初全12回を企画したが、応募者が少なく、1回の実施にとどまった。

講義終了後のアンケートに、出席者の8割が協力してくれたが、それをみると、今後のテーマについて“子どもの発達としつけ”に関するものの関心がかなり高かった。次いでいじめや非行など“現代の児童問題”に関するものであった。

また、公開講座として開設する場合、長期的な講座よりも、単発講座として、内容的にもタイムリーな話題を取り入れ、対象者の範囲をある程度限定、広報についても十分検討を要すると考えられる。

2) こどもの城のボランティア

「こどもの城」の開設準備に当たり、「こどもの城」を運営するためにはボランティアの支援が、ぜひ必要であると考え、59年3月にボランティアに理解のある17大学により「大学生ボランティア問題連絡協議会」を開催し、検討を始めた。「こどもの城」についての説明、大学生の協力体制について協議が行われ、ボランティア養成がスタートした。

ボランティアは特に専門性や技術を必要とせず、「こどもの城」の活動を理解し、その活動の一端に携わることを通じて、子どもの問題にかかわる事業への奉仕意欲を持ってもらい、「こどもの城」の共鳴者であることが望ましいと考えられる。

青年ボランティアについては、59年度3回、60年度2回、61年度3回、婦人ボランティアについては60年度1回、61年度1回、それぞれ講習会を開催した。修了者数374人、登録者数281人にのほり、各事業部において活動を展開している。

なお、59年10月にボランティア部会を設置し、ボランティアに関する企画、検討、各部門との連絡調整機関とした。

(ア) 「こどもの城」におけるボランティア活動の考え方

「こどもの城」のボランティアとは、児童の福祉・文化を高めることを目指す「城」の趣旨に賛同し、「城」における各種の事業に主体的に協力・参加し、その活動に対して報酬を期待しない人のことをいう。

「城」が生き生きとした楽しい活動を通し、健康で創造的な子どもを育てる場となるためには、ボランティアの活動を欠かすことはできない。特に、来館児同士の触れ合いや対話を活発にし、活気あふれる「城」の雰囲気や醸成するリーダーとしての役割に期待すること大である。また、このような奉仕活動を通して、「城」がボランティア自身の知識・技術の研修、人間形成の場となることの意義も極めて大きい。併せて、将来的には「城」で養成されたボランティアが、他の施設・団体等で活躍することにより、「城」の活動が全国に広がる契機ともなる。

1 研修教養

(イ) 「こどもの城」ボランティアの養成

① ボランティア部会の設置

「こどもの城」におけるボランティア活動を円滑に進めるために、ボランティア部会を設け、ボランティアに関する企画、検討、各部門との調整を図る。

② ボランティアの募集

- (1) 「こどもの城」では、高校生、大学生、短大生、専門学校生、勤労青年、婦人のボランティアを広く受け入れる。
- (2) ボランティアの募集は、パンフレットを作成し、協力学校・団体・施設に配布し、併せて区広報・新聞等の紙面に掲載を依頼して行う。
- (3) ボランティア活動希望者に対して、面接を実施し、希望を聞くとともに、施設としてボランティアに期待している活動内容を伝え、インターク時の意思疎通を図るよう配慮する。

③ ボランティア講習会の開催

- (1) 面接と一連の活動として、「城」におけるボランティア活動の位置づけを明確にし、児童健全育成活動に対する共通の理解を得る目的で「こどもの城ボランティア講習会」を実施する。
- (2) 実施に当たって、その生活時間帯や経験等を考慮し、大学生・短大生・専門学校生・勤労青年には夜間を中心に8回の講義と、2泊3日の実技講習会を受講してもらい、婦人には平日の午後に4回の講義を受講してもらうことにしている。
- (3) 講習会の内容は、日本キャンプ協会・東京都レクリエーション連盟の後援を得て、各公認指導者の資格取得の申請に必要な単位として認定を受けられるものとし、講習会修了者（全講習の8割以上の出席）にその単位認定証を授与する。
- (4) 前記講習会の研修内容を体験的に深める目的で、3泊4日の野外活動を年に2回（「ジュニア・アウトドア・スクール」と「ジュニア・スキー・キャンプ」）実施し、子どもたちとの24時間の共同生活を通しての学習機会とする。

ボランティア養成状況 (62. 3. 31現在)

	期 別	養成（研修）の時期	登録数	修了者数
学 生	1	昭和59年6月～7月	13 (人)	37 (人)
	2	昭和59年11月～12月	20	44
	3	昭和60年2月	21	46
	4	昭和60年6月～7月	30	50
	5	昭和61年2月～3月	36	36
	6	昭和61年6月～7月	35	35
	7	昭和61年11月～12月	43	43
	8	昭和62年2月～3月	49	49
	計		247	340
婦 人	1	昭和60年10月	19	19
	2	昭和61年10月	15	15
	計		34	34
合 計			281	374

〔注〕外国人ボランティアについては、特別期間及び行事などの際に随時30人程度の協力を得ている。

- (5) 身体の不自由な方々に対す

V 各部の活動(2)

る理解を進め、具体的にお手伝いの方法を学ぶための「ふれあいセミナー」をボランティア研修の一環として実施する。

④ ボランティア登録

- (1) 「こどもの城ボランティア講習会」を受講した人は「ボランティア登録簿」に従って、コンピュータに登録される。
- (2) 併せて、登録されたボランティアについてはボランティア保険に加入し、万一の事故に備える。
- (3) この登録については、新年度ごとに、活動継続の意思の有無を確認して、更新を行う。

(ウ) 「こどもの城」におけるボランティアの受け入れ

- (1) 実際の活動に当たって、「城」の各事業部門は、その協力内容・日時・人数等について、ボランティアのコーディネート活動を行っている研修教養部あてに協力要請をする。
- (2) 協力要請を受けて研修教養部では、「ボランティア通信」を通し、登録ボランティアに対して、活動協力者募集を行う。
- (3) 活動協力の希望者については、研修教養部の職員と各事業部の担当職員がオリエンテーションを実施し、その後、実際の活動を開始する。活動にボランティアを交え、活動内容に対する反省・検討を行い、専門的な見地からスーパーバイズ（助言・指導）を必ず実施する。
- (4) ボランティア活動の拠点となる部屋を用意し、雑誌・図書・資料をそろえ、いつでも学習活動が可能になるよう整備を進める。
- (5) 関係各団体が主催する児童健全育成活動に関する知識・技術の習得を目指した講習会・研修会の紹介をする。
- (6) 登録ボランティアで、講習会後援団体等の公認指導者資格の取得を希望する人には「城」が推薦を行う。

(エ) 活動の状況

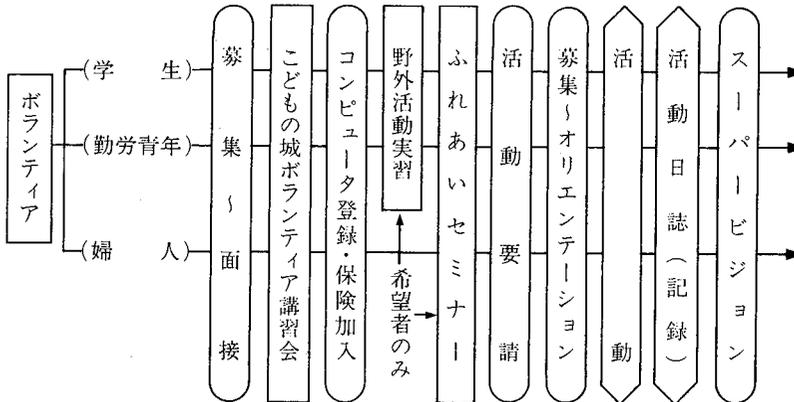
- (1) 曜日ごとの紙芝居、ゲーム大会、ダンスの集いなどの定期的な活動と、屋上ふしぎが丘、プレイホールにおけるプレイリーダーとしての活動が中心である。
- (2) イベント活動として、祝・祭日、学校の季節休み中などの定期的なゲーム大会、季節行事の企画から実施までの一連の活動が中心。連続的な活動を行うことによって、それぞれイベントが回を追うごとに充実し、「こどもの城」の目玉行事として定着しつつある。
- (3) 劇場等に実施されるチャリティー公演時の介護活動。
- (4) 年間を通してグループ活動を行う子ども集団、「こどもの城あそびガヤガヤ研究所」のグループカウンセラーとして、1年を通して異年齢の子どもたちの育成にかかわる活動。
- (5) その他、特定部門の事業活動における補助指導。

傾向として、社会人の参加が目立ち、それぞれ活発な活動を展開しているが、メンバー構

1 研修教養

成も多様化を示し始めている。今後は、息の長いボランティア活動を目指すことを考えると、大学1，2年の若い年齢層のボランティアの育成に力を入れることが大切と考える。

こどもの城ボランティアの流れ



青年ボランティア養成講習会カリキュラム例 (第6期)

月 日	講 師	内 容
6. 7 (土曜日)	(財)日本児童手当協会 理事長 竹内嘉巳	ボランティア希望者面接 「こどもの城」プロジェクトについて
6. 12 (木曜)	協会職員 常藤恒良	「こどもの城」ボランティアの心得 ※「保育研究開発部」事業概説
6. 17 (火曜)	板橋区弥生児童館 東 正樹先生	安全管理とボランティア活動 ※「プレイ事業部」事業概説
6. 19 (木曜)	跡見学園女子大学教授 中村典男先生	こどもの心をつかむ ※「体育事業部」事業概説
6. 24 (火曜)	明治学院大学教授 福田垂穂先生	施設におけるボランティア活動 ※「AV事業部」事業概説
6. 27～29	横浜市立太田小学校教諭 森 孝昭先生	野外炊事・野外ゲーム、グループワークトレーニング、 ロールプレイング等の実習指導
7. 1 (火曜)	江東区文化センター 恩田大進先生	記録のつけ方・活かし方 ※「造形事業部」事業概説
7. 3 (木曜)	日本野外教育協会会長 伊藤昭彦先生	こども集団の指導方法 ※「音楽事業部」事業概説
7. 8 (火曜)	協会職員 神谷明宏	「こどもの城」におけるボランティア活動 ※「小児保健部」事業概説

V 各部の活動(2)

婦人ボランティア養成講習会カリキュラム例 (第2期)

日 時	内 容	講 師
10. 8 (水) 14:00~16:30	「こどもの城」プロジェクトについて	協会理事長 竹内嘉巳 ほか
10. 15 (水) 14:00~16:30	こどもの城ボランティアの心得	協会職員 常藤恒良・神谷明宏
10. 16 (木) 14:00~16:30	婦人のボランティア活動	社会活動教育研究所所長 新谷弘子先生
10. 17 (金) 14:00~16:30	施設におけるボランティア活動	東京ボランティアセンター 所長 山崎美貴子先生

(オ) ふれあいセミナー

「こどもの城」ボランティアの講習会として、障害を持つ子どもたちと親しくするための基礎知識と、具体的な援助の方法を、体験を通して学習することを趣旨として実施した。障害児を取り巻く環境を全般的にとらえ、障害という意味を考えていくことから始まり、聴覚、視覚、精神薄弱、肢体不自由などの各障害別に正しく理解することとし、その介助等援助方法を学ぶことを中心とした。対象は、60年度、61年度ともボランティア養成講習会を修了した人とした。チャリティー事業援助介護活動や自己研さんの場としても役立ったと考えられる。今後は、社会福祉関係講座の一環として広く一般公募したいと考えている。

60年度カリキュラム例

回	日 時	内 容	講 師
1	9. 30 (月) 18:00~20:30	障害をもつということの意味	東京都心身障害者福祉センター職能科長 三ツ木 任一先生
2	10. 3 (木) 18:00~20:30	手足の不自由な人たちのこと	東京都心身障害者福祉センター 肢体不自由科長 寺山 久美子先生
3	10. 7 (月) 18:00~20:30	耳やことばの不自由な人たちのこと	東京都心身障害者福祉センター幼児科長 相楽 多恵子先生
4	10. 11 (金) 18:00~20:30	目の不自由な人たちのこと	東京都心身障害者福祉センター 視覚障害科長 山梨 正雄先生
5	10. 15 (火) 18:00~20:30	障害をもつ人たちとの交流プログラムを計画しよう	日本肢体不自由児協会 飯笹 義彦先生
6	10. 20 (日) 9:30~15:00	交流プログラムを実行しよう	同上

1 研修教養

3) 「こどもの城」実習生及び研究生の受け入れ

「こどもの城」の開設準備に当たり、「大学生ボランティア問題連絡協議会」を開催、その中で実習生・研究生の受け入れが検討された。一方、60年9月19日付厚生省児童家庭局長通知として「保母養成所における保育実習の実施基準等について」の一部改正が行われ、「保育実習実施基準」の中に、実習施設として児童手当法第29条の2に規定する福祉施設の「こどもの城」が加えられ、保育実習の受け入れが明確になった。

61年度に実習・研究を受け入れるについて、「こどもの城」が総合施設であり、実習施設として適当であるが、受け入れ人員に限度があることなどから、初年度は試行的に玉川大学文学部の協力を得て実施した。なお、保母資格取得以外の施設実習としても、一部受け入れをした。

(ア) 実習生

「こどもの城実習生及び研究生指導基準」により受け入れ、各事業部で実習を行った。

① 受け入れ事業部及び実習者

- (1) 保母資格取得実習＝保育研究開発部4人、体育事業部1人、音楽事業部2人計7人（玉川大学）
- (2) 施設実習＝体育事業部5人、プレイ事業部2人、計7人（国際武道大学4人、駒沢大学1人、東京健康科学専門学校1人、日本福祉教育専門学校1人）

② 実習日程及びカリキュラム

- (1) 保母資格取得に伴う実習については、10日間（90時間）コースのうち、9日間を受け入れ事業部に配属し、1日を希望他事業部の実習にあてた。
- (2) 保母資格取得以外の施設実習については、全日数受け入れ事業部で実習を行った。

③ 実習時期及び期間

61年度は各大学からの実習希望について、各事業部の運営状況などを勘案して決定した。

④ 実習報告、評価等

実習日誌、実習評価表及び実習出勤簿のほかは、所属大学等の書式を使用し、各事業部実習指導担当者が確認と所見を記載した。

(イ) 研究生

「こどもの城実習生及び研究生指導基準」により受け入れ、研究を行った。

受け入れ事業部＝小児保健部3人（日本女子大学大学院家政学研究所2人、玉川大学文学部芸術学科1人）

研究課題「発達から見た子どもの臨床について」

「臨床場面における子どもの発達についての研究」

「児童の保健・福祉の諸問題と家庭環境に関する福祉方法論的臨床研究」

(ウ) 今後の実習生の受け入れについて

① 保母資格取得のための実習

V 各部の活動(2)

「こどもの城」が、児童福祉施設である保育所、児童厚生施設などくらべ、活動の曜日、時間帯が異なり、実習依頼者指定の期日、時間に合致しないことがあるので、あらかじめ承諾を得て、受け入れたい。

② 実習日程及びカリキュラム

- (1) 保母資格取得実習については、10日間の実習のうち最初の3日間は「こどもの城」全体についての機能及び設備内容等の習得とし、所管は研修教養部としたい(61年度は1日)。4日目以降は受け入れ事業部において実習させることとしたい。
- (2) 保母資格取得実習以外の施設実習については、実習依頼者の希望事業部及び実習期間に応ずるものとするが、この場合でも、保母資格取得に準じてその期間内に「こどもの城」全体についての機能及び設備内容等について習得させたい。

保育実習カリキュラム例(10日;90時間)

日程	実習項目	実習内容
第1日	見学観察 実習	幼児グループ、保育クラブの保育場面の観察 —観察を通して子どもの状況、集団の動き、生活及び保育内容の把握—
第2日	見学観察 実習	幼児グループ、保育クラブの保育場面の観察 —ビデオ撮りなどを通して子どもの状況、集団の動き、 生活及び保育内容の把握—
第3日	参加実習	幼児グループへの保育参加 (1)保育内容、保育者の動き、子どもの動き、子どもとのかかわり方の実習 (2)母親とのかかわり方の実習
第4日	参加実習 (インタークカウン セリングを含む)	保育クラブへの保育参加 (1)保育内容、保育者の動き、子どもの動き、子どもとのかかわり方の実習 (2)インターク・ケースワークの実習
第5日	他部門実習	他部門における運営、活動状況の把握及び実習 (教材研究)
第6日	部門実習	幼児グループの保育内容、生活、活動、集いなどの保育指導の計画。その一部の実績を通して保育者としての動き、子どもとのかかわり方の実習
第7日	部門実習	保育クラブの保育内容、活動、集いなどの保育指導の計画。その一部の実践を通して保育者としての動き、子どもとのかかわり方の実習
第8日	指導実習	1日の保育指導内容を計画。その実践と反省を通して、保育者としての動き、子どもの動き、子どもとのかかわり方、指導方法についての実習
第9日	指導実習	同上
第10日	実習のまとめ	(1)見学観察、参加実習、部分実習、指導実習、教材研究などについての反省 (2)特に指導実習について指導計画、方法についてのまとめ

1 研修教養

児童厚生員等実技指導講習会カリキュラム例 (61年度第2回)

月日 時間	第 1 日 12月5日(金)	第 2 日 12月6日(土)	第 3 日 12月7日(日)
7:00		起 床 洗 面	起 床 洗 面
8:00			
9:00		朝 食・休 憩	朝 食・休 憩
10:00	受 付 開講式・オリエンテーション	プログラムの実際Ⅱ —奇術・手品から学ぶリーダーの魅力— 日本奇術会会長 児 玉 恭 治 先生 (実技・講義) 音楽スタジオ B	活動の援助者を得る —ボランティアの協力を得るために— こどもの城 神 谷 明 宏 (講義) 研修室
11:00	レクリエーションで自己紹介		
12:00	昼 食・休 憩	昼 食・休 憩	昼 食・休 憩
13:00			
14:00	こどもの城施設見学	年間活動を考える —参加意欲を高めるプログラムを 展開するために— 日本野外教育協会会長 伊 藤 昭 彦 先生 (講義) 研修室	講習のまとめ 閉 講 式 解 散
15:00			
16:00	プログラムの実際Ⅰ —おもしろ記録ゲーム大会を参考に— 東京都レクリエーション連盟講師 東 正 樹 先生 (実技・講義) 屋上, 研修室	自 由 時 間 夕 食・休 憩	
17:00			
18:00			
19:00	夕 食・休 憩	自 由 観 劇 「新・平家物語」	
20:00			
21:00	グループワークトレーニング こどもの城 神 谷 明 宏 (実技) 造形スタジオ		
22:00	消 灯 就 寝	消 灯 就 寝	

4) 児童厚生員等実技指導講習会

こどもの城全国連絡協議会が主権して、同連絡協議会加盟の都道府県、指定都市行政区域内の児童館、児童センター並びに児童厚生文化施設等に勤務する児童厚生員等を対象に実技指導講習会を開催した。児童健全育成活動及び児童福祉文化の推進を図ることをねらいとし、「こどもの城」における活動を十分理解してもらうとともに、地域における活動状況などの情報交換、交流の場として、児童館等活動の新しい展開が図られることを期待した。60年度を初年度とし、2泊3日の宿泊研修として実施した。

・60年度 造形部門

「こどもの城」開館特別記念行事の一環としてイタリアの造形作家ブルーノ・ムナリー氏の講演、パネルディスカッション、公開講座の実地指導を受けた(60.12)。

・61年度 プレイ部門 第1回レクリエーション初級実地指導(61.6)。第2回レクリエーション中級実地指導(61.12)。

年間2回を計画し、初級実技指導については主として基礎的な「レクリエーションのこどもにおける教育効果」のほか、レクリエーションのゲーム、ソング、ダンスの指導法を中心に、中級実地指導は現場におけるプログラムの実際として、おもしろ記録ゲーム、奇術・手品、レクリエーションの年間活動を考えるプログラムの展開など児童厚生員の資格の有無、経験年数を問わずに十分理解できるものとして実施した。

なお、今後の講習会の開催について、「こどもの城」のスペースを十分に活用するとともに、具体的なテーマを設定し、各事業部の全面協力を得て実施したい。

60・61年度の活動

1) 趣旨

子どもと「こどもの城」を結ぶパイプとなり、互いに機能しながら、子どもたちの発想や考えを引き出し、城の活動に生かしていくことをねらいとする。また、子ども自身がこの活動に取り組んだ喜びを感じとり、各地で、城での活動を生かし、広げていくように展開する。遊びを軸とする、生き生きした「子ども文化」を築いていけるよう継続して活動する。

2) 目的

- (1) 子どもたちのニーズを把握し、具体化させる窓口として、遊びについてなどの情報収集や交換をしながら、城の活動に積極的に参加する。また、実践報告とともに城のPRを行う。
- (2) 伝統的な遊びから、流行の遊びまでを収集・実践・紹介するとともに、独自の遊びをつくりだす。それらの成果を広く子どもたちに知らせ、「子ども文化」の発展に努める。
- (3) 全国規模の活動へ広げる。

3) 運営方法

- (1) 研究所事務局が、全体的運営に当たる。
- (2) 事務局は、定期的に会議を開き、必要に応じて各事業部の協力を求める。
- (3) 研究員・レポーターは、1年任期で一般公募し、選考のうえ、決定する。任命された研究員・レポーターには、任期中入館料無料などの特典を設ける。
- (4) 研究員の活動には、各グループ付きリーダーとしてボランティアに協力を依頼する。
- (5) 異年齢集団のグループ活動を基本として、研究員同士の意思疎通の活性化を図り、活動を通して共同作業におけるルールの大切さや、達成の喜びを体験させる。

4) 活動概要

(ア) 第1期の活動 (60年8月20日～61年8月17日)

① 活動目標

- (1) 遊びに関しては、特に「いま、はやっている遊び」「いま、やってみたい遊び」を中心に情報を交換する。
- (2) 「こどもの城」全館を十分に活用する。
- (3) 城の活動に関心を持たせ、次期への継続を図る。

② 参加者

研究員：34人 (小学5年生～中学2年生の男子13人、女子21人)

V 各部の活動(2)

③ 年間実施運営記録

グループ活動を基本とするプログラムを作り、仲間意識の高揚を図りながら、共同作業を行った。イベントへの参加や企画・運営に向けての制作活動とチームワークづくりが主な活動となった（実施内容は表1参照）。

表1 第1期ガヤ研年間実施プログラム

		実施日	活動場所	活動内容
60 年 度	研究会	60. 8. 20	東京都児童会館	第1期開所式, 完成前の「こどもの城」見学
	研究会	61. 1. 6	「こどもの城」研修室	新年会, ビデオによる館内取材
	春季合宿	3. 26~27 (1泊2日)	研修室, プレイホール, ホテル和室ほか	こどもデパート参加計画準備
61 年 度	自主活動	61. 4. 6	音楽スタジオA, B	こどもデパート準備・制作
	〃	13	プレイホールテラス	〃
	〃	20	プレイルーム 1	〃
	〃	27	プレイホールテラス	〃
	こどもデパート参加	4. 29	プレイホール	ゲーム屋(3店) 出店
	夏季合宿	8. 15~17 (2泊3日)	研修室, プレイホール ふしぎが丘ほか	館内キャンプ実践, 主催行事準備, 第1期総括・修了式
	遊び探検ラリー	8. 17	屋上ほか	一般来館児向けイベントの運営 (178組参加)

研究会, 合宿のほかに, 事務局が, 子どもたちの作品などを掲載しながら「ガヤガヤ通信」を発行(61年3月9日と5月26日)し, また, 「こどもの城」についてのアンケート調査も実施した。

④ 反省と課題

- (1) 具体的な目標を子どもたちに意識づけることが難しく, 子どもたち自身の自主的, 創造的な活動を展開するに至らなかった。
- (2) グループ活動の中で, よりよい人間関係や仲間意識を形成していくには, 年に数回集まるだけの一過性集団では, 十分な対応ができなかった。
- (3) 目的を明確にし, 楽しく有意義な活動を考えたい。したがって, 定期的な会合を持つ必要がある。

(イ) 第2期の活動(61年9月28日～)

① 活動目標

- (1) 「こどもの城」の活動に積極的に参加する。
 - ・城の活動に関する意見交換。
 - ・レポーターを通して, 城の活動の紹介。
 - ・ガヤ研独自の企画の立案と運営。
- (2) 「むかしあそび」の研究を行うー探す・やってみる・広めるー

- ・伝統的な遊びの再確認
- ・昔の遊びの発掘
- ・以上の実践・紹介・まとめ

② 参加者

- (1) 研究員：60人（小学4年生～中学3年生の男子17人，女子43人）
- (2) レポーター：23人（同上男子7人，女子16人）
特別レポーター：4人（成人の男性2人，女性2人）

③ 年間実施運営記録

第2期は、前期の反省から、活動内容の一部を変更し、以下のように実施することにした。

- (1) 原則として月1回，第3日曜日の午前10時から12時まで定例会を開き，研究員の自主的な企画や運営を活動の基本とする。
- (2) 研究員のほかに，ガヤガヤレポーターを設け，全国から積極的に募集し，通信を行う。
- (3) 対象は，第1期の「小学5年生から」を「小学4年生から」に変更する。

年間を通じての活動は，前期と同様なプログラムのほかに，研究員・レポーターの意見や感想，情報を載せながら，活動PRを行う壁新聞作成も取り入れた（表2参照）。

表2 第2期ガヤ研年間実施プログラム

		実施日	活動場所	活動内容
61 年 度	研究会	61. 9. 28	研修室	第2期開所式，父母説明会
	〃	10. 12	〃	「こどもの城」1周年行事参加準備
	1周年行事参加	11. 2	正面広場ほか	パスデーケーキ制作
	研究会	12. 14	研修室	壁新聞づくり
	〃	62. 1. 15	〃	館内ビデオ取材
	〃	2. 8	〃	壁新聞第1号完成
	春季合宿	3. 26～27 (1泊2日)	研修室，プレイホール	館内にテント宿泊 こどもデパート準備計画

※なお，ガヤ研第2期の終了は62年8月。今後，終了までの予定は，こどもデパート参加，夏季合宿，ガヤガヤ通信と作品集の発行など。

2 広 報 部

V 各部の活動(2)

60・61年度の活動

〈開館前後の広報作業〉

「こどもの城」は、開館まで、ほとんどその存在が知られていなかった。これには、厚生省から、「こどもの城」の経営が日本児童手当協会に正式委託されるまで、表だったPR活動が差し控えられてきた、という背景があった。

したがって「こどもの城」に関する一切の宣伝・広報活動は、経営委託終了時点から11月1日オープンまでの1か月半という短期間に、手早く、かつ猛然と展開しなければならなかった。更に、経営要請としての露出順序が①青山劇場（切符の前売り）②講座・クラブ受講者募集（開館前に募集開始）③城本体、という奇妙な形になったため、「こどもの城」とは何か、という一般への印象づけが混乱する心配もあった。

ちなみに、開館から62年3月まで、「こどもの城」自体が行った広告とその媒体は表のと

60・61年度の新聞広告・その他の使用媒体

	媒 体	掲載日（朝・夕刊）	スペース	目 的
60 年 度	1. 朝日新聞別刷り 「マリオン」	60年10月3日（木）夕刊	全15段	講座の受講者募集及び城のPR
	2. 朝日新聞 毎日新聞 読売新聞	60年10月31日（木）夕刊 同 上 同 上	全15段 全15段 全15段	開館及び事業内容等の告知
	3. 朝日新聞	61年2月21日（金）夕刊	全15段	新年度講座受講者募集
	4. 読売新聞	61年3月18日（火）夕刊 （単色カラー）	全10段	講座またはクラブ受講者追加募集
	5. こどもの国ニュース	60年10月, 11月, 12月各号		「こどもの城」PR
	6. 電光ニュース	61年3月15日（土）から 4月15日（火）まで。渋谷駅前大外ビル壁面。		行事及び青山劇場・青山円形劇場の公演案内
61 年 度	1. 朝日新聞 東京版	61年7月13日（日）朝刊	全2段	夏季集中講座受講者募集及び夏季イベントPR
	2. 朝日新聞 東京版	61年8月6日（水）朝刊		秋期（第2期9月～12月）講座受講者募集及び館内イベントと劇場公演PR
	3. 朝日新聞 毎日新聞 読売新聞	62年2月20日（金）夕刊	全10段	新年度講座受講者募集
	4. 電飾掲示（東急文化会館と渋谷駅の連絡通路内）	61年12月1日（月）設置	サイズ 1.2メートル × 1.8メートル	渋谷駅から「こどもの城」来館者誘導（写真入り）

2 広 報

おりであるが、このうち「こどもの城」本体の紹介をスッキリした形で紙面に反映できたのは、開館前日、朝日、毎日、読売の3紙夕刊に掲載された1ページ広告のみで、ほかはすべて講座募集をねらいとしたものであった。

もちろん、巨費を要するテレビCMなどの電波媒体は一切使える余裕はなく、あとは、ひたすらマスコミにどう取り上げてもらえるかが、すべてのカギであった。

この意味から、オープン直前にマスコミ関係者を招いて、数回にわたる内見会を実施、館内をつぶさに案内して、この施設の持つ意義を理解してもらうよう、首脳部とともに努力を重ねた。反応はしたたかで、①国有施設という点で、信頼感があること ②「子ども」という命題が、マスコミにとって、常に良質の素材であること ③科学万博が終わり、この種のテーマが途切れた折であったこと、などが手伝って、「こどもの城」は電波、活字を通して、爆発的なブーム、ともいえる話題になり始めた。

開館前後の各紙の扱いは、代表的なものだけでも次のようになる。

10月7日	オープンする「こどもの城」	世界日報	7段
16日	こどもの城、11月1日オープン	公明新聞	6段
17日	大小の劇場続々誕生	朝日新聞	6段
22日	神宮前にこどもの城	サンケイ新聞	8段
23日	夢いっぱい、こどもの城	朝日新聞	6段
〃	ジャンボなこどもの城	読売新聞	4段
〃	ワイ こどもの城だ	東京新聞	6段
28日	文化情報の発信基地こどもの城	毎日新聞	4段
31日	ひと欄 竹内理事長	朝日新聞	
〃	東京にこどもの城	ジャパントイムズ	
11月2日	マルチなこどもの城	東京新聞	

このほか、地方紙にも、自社取材または共同通信社の配信により、大きく報道され、電波ではNHKをはじめ、民放の在京各キー局から、ニュースや話題として、全国に放映された。反応を待つまでの広報部の気苦労は大きく、それだけに結果が表面化したときの喜びは、ひとしおだった。

< 1年半で取材600件 >

「こどもの城」に対するマスコミ関係の取材は、オープン直前から61年の3月までで312件、61年度は287件、1年半のうちに約600件という驚くべき数字に達した。その内訳も新聞、テレビ、ラジオ、雑誌、情報誌(紙)はもとより、年鑑、百科事典、業界誌(紙)、社内報、PTA会報など、多種多様にわたった。

取材を受けた件数

	60年度	61年度	計
テレビ、ラジオなど	66	64	130
新聞など	81	51	132
雑誌など	96	78	174
情報誌など	49	84	133
官公庁機関紙など	12	18	30
計	304	295	599

V 各部の活動(2)

「こどもの城」創設の趣旨をくみ取り、広く社会に呼び掛けてくださった、これら関係の方々に、心から感謝を申し上げている。

なお、取材の中には、欧米諸国、アジア各国、そして共産圏の国の方々も多数含まれており、世界のいずこでも、いかに児童問題についての関心が高いかをうかがわせた。もちろん、この取材の結果は、各国で電波に乗り、活字となって「こどもの城」が紹介されている。

〈こどもの城ニュースなどを発行〉

取材などへの対応に追われる一方で、広報部は、次のような、編集・発行関係作業を行った。主なものは、①総合パンフレット ②各種リーフレット ③こどもの城ニュースなどである。

総合パンフレットは、開館記念式典に間に合わせるため、密度の濃い作業となり、殊に城自体が完成しない時点から制作に入ったので、まだ備品が置かれていない、人がいないなど写真撮影のスケジュール調整に苦労しながら、辛うじてゴールインした。開館式およびオープン当日に3,500部を無料配布、ほかは1部200円の販売用として、合計7,000部を印刷した。

なお、この総合パンフレットは、在庫が底をついたため、61年9月、写真その他を全面的に改訂、20,000部を印刷した。販売定価は1部300円とした。

各種リーフレット類は、入館者に無料配布する「こどもの城案内(和・英文)」をはじめ、各事業部の案内など10数種を作成、印刷した。61年度は、引き続き、これらの新版、または改訂版を発行している。このほか、社内印刷による季節行事のチラシなど多数を作成した。

ビデオ・ソフト「こどもの城総合案内」は、外部に発注、約13分の館内ガイドを作成した。貸し出し用、または贈呈用として使われている。

また、児童手当制度の広報誌である月刊「児童手当」誌に60年6月号からとじ込みで4ページを増設、年12回のうち4回(6・9・12・3月号)を「ネットワーク」のページとしてこどもの城全国連絡協議会を通じて配布、8回(1・2・4・5・7・8・10・11月号)を「こどもの城」のページとして、いろいろな情報を提供している。このページの編集はすべて広報部で行っている。

「こどもの城ニュース」は、年6回発行、新聞紙大の2ページ(表面4色カラー、裏面モノクロ)で、開館とともに第1号を11月15日付けで発行、以来、広報部で編集を行っている。発行部数25,000部、こどもの城全国連絡協議会、こどもの城友の会会員、地元幼稚園、小・中学校などのほか、館内で無料配布している。制作費をカバーするため、表面3段、裏面5段の有料広告を掲載している。61年2月には、講座募集と行事案内を印刷して臨時号を発行、新聞に折り込み、渋谷、世田谷区などに配布した。

なお、青山劇場、青山円形劇場の宣伝関係は、広報部と別に劇場事業本部が行っている。

3 営 業 部

3 営 業

60・61年度の業務概要

昭和60年11月1日から「こどもの城」利用者に対するサービスの一環として営業部は、次の事業を実施してきた。

1) 利用者サービス事業一覧表

業 種	場 所	利用客席数等	開業日・開業時間等	備 考
こどもの城ホテル	6・7階	客室数27 客室定員64	無休 (12. 29～ 1. 2を除く)	洋室24室 (シングル3, ツイン10, デラックスツイン11) 和室3室 (4人用1, 5人用1, 10人用1) 料金1泊5,500円から (朝食付き)
レストラン・ラプニール	8階	客席数60	月曜日休業 (ホテル宿泊客の朝食を除く) (開業時間) モーニングタイム 7:30～9:00 ランチタイム 11:30～14:00 ディナータイム 17:00～21:30	洋食全般, パーティー及びホテル宿泊者の食事等
カフェテラス・アンファン	1階	客席数42	無休 (12. 29～1. 2を除く) (開業時間) 10:00～21:30	喫茶, 軽食及び弁当の仕出し等
すし・ひさご	1階	カフェテラス・アンファン内	無休 (12. 29～1. 4を除く) (開業時間) 10:00～21:30	すし, 和食及び弁当・料理の仕出し等
コーヒーラウンジ・アミティーエ	2階	客席数60	月曜日休業 (開業時間) 11:00～21:00	喫茶, 軽食
劇場内スナック	青山劇場内地下ロビー及び2階ロビー	立食	公演に合わせて開業 (開業時間) 開演前・幕間	喫茶, 軽食

V 各部の活動(2)

業 種	場 所	利用客席数等	開業日・開業時間等	備 考
研修室	8・9階	室数10 (一部通して使用できる) 利用人員350人 ぐらいまで	無休 (12. 29～1. 2を除く) (開業時間) 9:00～21:00	研修及び会議等 料金1単位時間9,500円から
ギャラリー	1階アトリウム		無休 (12. 29～1. 2を除く) (開業時間) 9:00～21:00	各種展示会及び実演等 料金1日30,000円から
フリーホール	地下1階		無休 (12. 29～1. 2を除く) (開業時間) 9:00～21:00	自由な企画で利用 料金1日55,000円から
売店	1階アトリウム 3階ロビー 4階ロビー 青山劇場地下ロビー	4か所	月曜日休業 (劇場ロビー売店は公演に合わせ開業) (開業時間) 開館時間と同じ。	絵画, 造形用品, 文具, 遊具, 玩具, 印刷出版物, 電気用品, 音楽用品, 衣料, スポーツ用品, 劇場関連用品, 催事関連用品, 雑貨等
自動販売機	館内各所	飲食・乳販売 9か所 物品販売 4か所 たばこ販売 7か所	無休	通常ドリンク類, 牛乳類, スナック類 記念メダル等
酒類販売	青山劇場地下ロビー及び2階ロビー	2か所	青山劇場公演に合わせて開業	全酒類の小売り
公衆電話取扱	館内各所	16台	無休	
駐車場	地下2～4階	約90台 (業務用車両分を含む)	無休 (12. 29～1. 2を除く) (開業時間) 8:00～22:30	一般車両は地下駐車, バス等大型車両は1階ピロティに駐車 料金 普通車両の場合1時間400円

- 注) 1. 春休み, 夏休み, 冬休みなどの特別期間については, 「こどもの城」全館の日程に合わせて休業日にも営業を行っている。
 2. 劇場公演日程に合わせて関連部門は休業しないで営業している。
 3. 各事業部の事業上必要なときは, 当該事業に合わせて可能な限り上記場所以外でも営業を行っている。

2) 業種別の状況

(ア) ホテル

開業後、逐次利用客が増加してきている。これを営業収入でみると、60年度（5か月分）3,280万円、61年度（12か月分）9,586万円となり、両年度について1か月平均で比較してみても増加が認められる。客室がどのように利用されたかを昭和61年度についてみると、客室利用率（注1）は全体で77%、客数比率（注2）では65%となっており、ツインルーム及び和室の1室当たり利用人員が定員より低い状況にあった。これら利用効率の向上は、直ちに言いえないものではあるが、今後受注などに際して更に努力していく必要がある。

$$\text{注) 1 客室利用率} = \frac{\text{期間中利用室延数}}{\text{期間中日数} \times 27 \text{室}} \times 100$$

$$\text{2 客数比率} = \frac{\text{期間中利用客延人員}}{\text{期間中日数} \times \text{定員64人}} \times 100$$

(イ) レストランなど

飲食5店舗の営業状況をみると、ほぼ入館者数、劇場公演及び大規模な国際会議などの影響を受けた業務運営となっている。営業収入でみると、60年度1億5,449万円、61年度3億4,204万円となっている。60年度の収入が多いのは、「こどもの城」開館当初の入館者が極端に多かったこと、劇場のこけら落とし公演などがあったことなどのためである。年間を通じての業務の繁閑をみると子どもたちの夏休み中などは忙しく、冬期とか梅雨ごろは比較的業績が伸びない状況にある。「こどもの城」の各種事業に即応していくとともに今後とも喫食需要を見極め、メニューの改善、料金の低廉化とサービスの向上を図っていく必要がある。

(ウ) 研修室

開業後、逐次利用が増加してきている。これを収入面でみると、60年度1,122万円、61年度4,340万円となっており、1か月当たりの収入で比較しても増加が認められる。貸室のうち、研修室、フリーホールの利用状況を61年度についてみると、1日のうち空室になる時間はあるものの、ほぼ満杯に近い状況となっている。その利用の内容をみると、有料貸し付けと無料使用がほぼ同程度となっており、無料使用は、「こどもの城」事業活動に使用したものと及び日曜日、祝祭日、夏休みなどの入館者休憩室、授乳室としての利用などとなっている。アトリウム内のギャラリーの使用は比較的少ない状況となっているが、今後更に利用効率を高め、「こどもの城」のよいイメージづくりに貢献していく必要がある。

(エ) その他の業務

売店、自動販売機による販売、駐車場の提供など、「こどもの城」事業活動に即応する形で利用者サービス事業を行ってきている。これらの収入の状況は、60年度5,987万円、61年度1億3,324万円となっている。「こどもの城」の利用を促進していくうえで、これらの利用者サービスはいずれも欠くことのできないものであるため、引き続き多様な利用者需要に合わせたサービスの向上を図る必要がある。

V 各部の活動(2)

3) ギャラリー・フリーホール使用一覧

ギ ャ ラ リ ー			フ リ ー ホ ー ル		
催 事 名	期 間	主 催	催 事 名	期 間	主 催
肢体不自由児・者の美術展	60.12.9～15	日本肢体不自由児協会	第35回児童福祉施設文化祭	60.11.23	日本民生文化協会
福武チャレンジランド	61.2.1～26	福武書店	多摩美術大学卒業制作展	61.3.10～14	多摩美術大学グラフィックデザイン専攻映像クラス
第33回文部大臣賞 全国小中学生優秀作品展	3.1～6	児童憲章愛の会	忍者ハットリくんファミコン選手権	5.17～18	ハドソン、小学館プロダクション
日中友好青少年書道展	3.8～16	日中友好二十一世紀委員会	第4回東京母性衛生学会 学術集会	5.25	東京母性衛生学会
福武チャレンジランド	3.18～4.13	福武書店	トンカワールド発表会	5.27～29	バンダイ
アートスケープ (インターナショナルスクール の生徒作品)	4.26～5.7	インターナショナルスクール10校	おばけ劇場	7.22～27	プレイ事業部
1986年子どもの本世界大会 のためのバザール	5.18	日本国際児童図書評議会	親子劇場	8.2	保育研究開発部
福武チャレンジランド	6.17～8.14	福武書店	人形劇	8.3	プレイ事業部
ねむの木こども展覧会	10.28～11.20	ねむの木学園	親子劇場	8.9	保育研究開発部
第1回造形スタジオ展	11.21～12.7	造形事業部	人形劇	8.15	プレイ事業部
肢体不自由児・者の美術展	12.8～15	日本肢体不自由児協会	親子劇場	8.16	保育研究開発部
プチタンファン写真展	12.16～25	婦人生活社	1986年子どもの本世界大会	8.18～22	日本国際児童図書評議会
アタック・アドベンチャー・ランド	62.1.4～7	日本経済広告社	1986年国際社会福祉会議	8.26～30	全国社会福祉協議会
第34回文部大臣賞 全国小中学生優秀作品展	3.19～26	児童憲章愛の会	「高橋名人の面白ランド」	10.1	東通企画
ブルーノ・ムナーリ キット展	3.27～4.22	造形事業部	「NTT子供トークフェスティバル」	10.19	NTT
ちえおくれの人たちの造形「土をうたう」展	8.16～8.31	朝日新聞東京厚生文化事業団	人形劇	11.1～3	プレイ事業部
銀河鉄道999原画展	9.2～9.7	松竹歌劇団(劇場事業本部共催)	ディズニーこども大会新作ソフトチャレンジコーナー	62.3.1	サンコミュニケーション
「NTTトークフェスティバル」児童画展	10.18～10.26	NTT	多摩美術大学卒業制作展	3.9～13	多摩美術大学グラフィックデザイン専攻映像クラス

VI グループ活動

グループ活動

VI グループ活動

(1) 60年度の活動

保育所や幼稚園、小学校などを単位に児童たちが「こどもの城」で行う園外活動——グループ活動は、全事業部スタッフによるストーリー形式の「宇宙ぼうけん旅行」や、造形、音楽、体育の各部指導型プログラムを準備し、実施日指定による予約形式で事業が開始された。また、プレイ、AVなどの施設利用型プログラムも重視しながら、指導型と利用型の館内活動を複合した受け入れ体制で実施された。

1) 利用状況

利用団体は幼児施設45団体、学校関係31団体、計76団体であり幼児1,341人、就学児1,298人、計2,639人の子どもたちが利用している（表1-a, b）。幼児施設では保育所の利用が最も多く、学校では特殊学級を含む小学校、次いで中高生を含む養護学校の利用が多いことが特徴的である。

表1-a 利用者数〈幼児〉（年齢別）

区分	件数	人数	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳以上
保育所	21	672	12	62	120	478	
幼稚園	9	321		43	88	190	
児童館	2	39		39			
通園施設	3	42	2	4	17	19	
自主保育グループ	3	51	2	23	13	13	
自主訓練グループ	1	13	2	3	6	2	
その他	6	203			40	142	21
計	45	1,341	18	174	284	844	21

表1-b 利用者数〈就学児〉（年齢別）

区分	件数	人数	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
通園施設	1	40	40											
小学校	11	801	127	198	160	52	171	93						
養護学校	10	309	11	8	10	15	15	4	16	61	15	49	60	45
小学校特殊学級	8	140	62	7	10	13	13	35						
その他	1	8						4	4					
計	31	1,298	240	213	180	80	199	136	20	61	15	49	60	45

月別利用では、幼児・就学児ともに当初の実施日指定による利用方法の影響があり、オープン時の利用は少なかったが、61年3、4月には増えており、“おわかれ遠足”や“社会科見学”などの目的が多く、園や学校行事のひとつとして利用されたことがうかがえる。また、関係機関へのPRの浸透や、ネットワークづくりの効果が少しずつ現れてきている。月別利用者数についても同様であり、受け入れ体制が整うとともに利用人数が増してきている。

地域別利用団体数(表2-a, b)では、23区内の利用者が多く、次いで都下、神奈川県、埼玉県などの近郊地域利用者が多い。

VI グループ活動

表2-a 地域別利用団体数〈幼児〉

区 分	都道府県	市 区	件 数
保 育 所	東京都	板橋区	5
		品川区	3
		足立区	2
		昭島市	2
		世田谷区	1
		台東区	1
		文京区	1
		豊島区	1
		墨田区	1
		江東区	1
	日野市	1	
	神奈川県	藤沢市	2
		横浜市	2
幼 稚 園	東京都	渋谷区	2
		千代田区	2
		豊島区	2
		港区	1
		台東区	1
調布市	1		
児 童 館	東京都	板橋区	1
		品川区	1
通 園 施 設	東京都	品川区	2
		台東区	1
自主保育グループ	東京都	世田谷区	3
自主訓練グループ	神奈川県	川崎市	1
そ の 他	東京都	渋谷区	3
		港区	1
		新宿区	1
		目黒区	1
計			45

表2-b 地域別利用団体数〈就学児〉

区 分	都道府県	市 区	件 数
通 園 施 設	東京都	板橋区	1
		渋谷区	2
		世田谷区	2
		杉並区	1
		千代田区	1
		中央区	1
		文京区	1
		目黒区	1
		調布市	1
		横浜市	1
養 護 学 校	東京都	世田谷区	1
		足立区	1
		北区	1
		墨田区	1
		練馬区	1
	神奈川県	小平市	1
		川崎市	2
		横浜市	1
		横浜市	1
		藤沢市	1
小学校特殊学級	東京都	世田谷区	2
		足立区	1
		中野区	1
		板橋区	1
		狛江市	1
そ の 他	埼玉県	三鷹市	1
		川口市	1
		武蔵野市	1
計			31

利用された部門をみると(表3-a, b), 幼児施設では利用型中心のプログラムを持つプレイ部門が多く、次いで音楽、造形部門の利用が多い。これは父母会主催の誕生会などはプレイホールの自由利用を希望する場合が多く、保育所・幼稚園では音楽、造形の指導プログラムを希望したためと考えられる。学校でも同様の傾向がみられ、プレイ部門の利用が多いが、養護学校・特殊学級では音楽、造形などの指導プログラムを持つ部門の利用が多い。

表3-a 施設別利用部門〈幼児〉

	A	V	プレイ	音 楽	造 形	体 育	全 部 門	計
保 育 所		6	1	6	7	4	1	25
幼 稚 園		1	4	5		1		11
児 童 館			2					2
通 園 施 設				2	1			3
自主保育グループ			1		1	1		3
自主訓練グループ			1					1
そ の 他			5					5
計		7	14	13	9	6	1	50

VI グループ活動

表3-b 施設別利用部門<就学児>

	A	V	プレイ	音楽	造形	体育	全部門	企画	計
通園施設		1		1					2
小学校	8		3	3	2				16
養護学校	3		3	6	2	1		1	16
小学校特殊学級	2		2	4	2				10
その他					1			1	2
計	14		8	14	7	1	0	2	46

月別の利用部門の推移(表4-a, b)でもこの傾向がみられ、オープン当初はプレイホール、AVライブラリーの自由利用が多く、指導プログラムの充実とともに音楽、造形、体育などの各部門に利用が分散している。

表4-a 月別利用部門<幼児>

月	A	V	プレイ	音楽	造形	体育	全部門	計
61年 11			6		1			7
12			3		3			6
1			1	1	2	1	1	6
2		1	1	4	3	2		11
3		6	3	8		3		20
計		7	14	13	9	6	1	50

表4-b 月別利用部門<就学児>

月	A	V	プレイ	音楽	造形	体育	全部門	企画	計
60年 11		1		2				2	5
12		2	1	1	1				5
61年 1		4	2	2	3				11
2		6	1	6	2				15
3		1	4	3	1	1			10
計		14	8	14	7	1	0	2	46

プログラムの実施数(表5-a, b)では、利用型プログラムであるプレイでの誕生会及び自由遊び、AVライブラリーでのビデオソフト視聴の実施率が高い。指導型プログラムでは、音楽の「まつりばやし」「どうぶつえんにいこう」、造形の「ムナーリおじさんのプレゼント」「かけをうつそう」及び体育の「すてきな新体操」などが幼児施設に好評であり、就学児ではいろいろなプログラムが試行され、利用もさまざまであるが、音楽の「ガムランを体験しよう」造形の「はしる汽車」などの利用が多く、どちらも保育・学校施設にはない「こどもの城」ならではの特色を出すことができたようである。

VI グループ活動

表5-a プログラム実施数<幼児>

部 門	プログラム名	実施数	部 門	プログラム名	実施数
A V	ビデオプログラム	7	造 形	うごくちょうこく	1
	計	7		ムナーリのプレゼント	3
プレイ	自由遊び	6		モビールのコンサート	1
	誕生日会	8		かけをうつそう	3
	計	14		紙のふしぎ	1
音 楽	ガムランであそぼう	1	計	9	
	まつりばやし	4	体 育	すてきな新体操	5
	スカーフであそぼう	2		マ ッ ト 運 動	1
	おむすびころりん	2		計	6
	どうぶつえんにいこう	3	全部門	宇宙ぼうけん旅行	1
	いもむしダンス	1		計	1
計	13	合 計	50		

表5-b プログラム実施数<就学児>

部 門	プログラム名	実施数	部 門	プログラム名	実施数
A V	ビデオプログラム	14	企 画	見 学	2
	計	14		計	2
プレイ	インディアン村のおまつりだ	3	造 形	うごくちょうこく	1
	コンピュータゲーム	2		はしる汽車	4
	自由遊び	2		紙と造形 PART II	1
	大型積木遊び	1		木をつくろう	1
計	8	計	7		
音 楽	こどもディスコ	3	体 育	体 力 測 定	1
	ガムランを体験しよう	10		計	1
	シンセサイザー	1	合 計	46	
	計	14			

また、全部門の協力プログラムである“宇宙ぼうけん旅行”は、各部門との調整のうえで61年1月に保育所を対象に実施したが、「こどもの城」の専門性、施設等を生かしたプログラムであり、子どもたちの印象に強く残る内容のものであった。全部門スタッフが協力し、活動施設もプレイ、円形劇場を利用するが、実施規模が大きく、時間的、場所的条件をかなり規制されるためその後、実施が事実上不可能であった。今後の検討が必要であろう。

2) 活動の実際

実施日指定による予約形式で活動が実施されたが、各部の事業の進展とともにグループ活動の受け入れ体制も整理され、一定の形態が整った。特に予約後の下見打ち合わせは、利用施設の引率者に「こどもの城」の下見及びプログラムの打ち合わせを依頼し、プログラム担当者との情報交換、内容の打ち合わせなどを行うことで、なるべく実施プログラムが利用施設の状況や子どもたちの様子に適するよう調整するよい機会となった。

指導型プログラムの概要は表6のとおりである。

VI グループ活動

3) 今後の課題

- (1) グループ活動の利用ニーズは、利用する施設の生活の流れ、行事などにより異なってくると考えられる。したがって、各部門のプログラム内容をそれぞれ深める一方、利用者側のニーズに合ったプログラムの年間計画を考えていくことが望まれる。
- (2) 利用団体のほとんどが、グループ活動のプログラム利用だけでなく、全館での自由活動を希望しており、プログラム枠の拡大や利用スペースなどを検討する必要がある。
- (3) 利用団体には、あらかじめ、グループ活動の目的を伝え、更に利用施設の目的も考慮して活動ができるようにインテークすることが重要である。

利用の諸規定	申し込み方法
	保育研究開発部に電話又は郵送で予約をする。 利用日の1週間前までにこどもの城の下見及びプログラム打ち合わせを行う。
	参加定員
	それぞれのプログラムは30人から60人が参加できる。
	料 金
音楽、造形、体操プログラムは子供1人当たり150円。就学児200円。 宇宙ぼうけん旅行は1人当たり200円。 (引率者は20人につき3人まで無料)	
時 間	
10：00～17：00 (ただし、プログラム実施時間は10：00～14：00)	

表6 各部の活動プログラム

音 楽	概 要	ね ら い
まつりばやし	こどもの城の音楽スタジオはおまつり広場、いろんなたいこや笛の音が、にぎやかです。うたのお姉さん、たいこのお兄さんと元気にうたったり、おどったりしてみよう。	和だいたいこやおはやしのリズムをきいたり自分でたたいたりしてそのひびきを楽しみます。うたやたいこのリズムにあわせてスタジオいっぱいに動きます。
クリスマスのうた	世界中のこどもたちのうたうクリスマスうた、きれいな鐘やベルの音がきこえます。うたのお姉さんと一緒にたのしいおはなしの世界にでかけてみましょう。	うたのお姉さんの美しい歌声をきいたり一緒に歌ったりして歌を楽しみます。 また、いろいろな鈴やベルなど楽器の音色を鑑賞します。クリスマスにふさわしい小さなお話、参加劇も組み込んであります。
スカーフであそぼう	音楽スタジオに雪がふってきました。元気に冬のうたをうたおう。みんながスカーフを持つと…魔法使いに変身しました。 さあ、何になって遊ぼうか。	スカーフをつかったムーブメント活動です。うたやおはなしでイメージをひろげ、のびのびと自分を表現することをねらいとします。
どうぶつえんにいこう	春が近づいたので動物園が元気になってきました。うたのお姉さんと動物たちに会いにいこう。耳をすましてよくきいてごらん。じいっとよくみてごらん。何がみつかるかな。まねっこあそびで、みつけたものになってみよう。	楽しく、元気に歌います。音あてあそびをして、いろいろな音に気づき、まねっこあそびでいろいろな表現をたのしみます。

VI グループ活動

造 形	概 要	ね ら い
紙のふしぎ	紙の服, おもちゃ, かざり…紙でつくられたものが, こんなにたくさんあります。折ったり, 切ったり, 穴をあけたり, いろんなことができる紙。さあ, みんなで紙つくりにちょうせんしてみよう。	毎日, 身近に使っている紙をいろいろな角度から見直してその特徴に気づいたり紙すきの体験をしたりして, 紙との新たな出会いの場をつくりまします。
ムナーリおじさんのプレゼント	イタリアからやってきたブルーノ・ムナーリおじさんが日本のこどもたちに楽しいあそびをたくさんおしえてくれました。イタリアのおともだちから届いたおたよりもたくさんまっています。	こどもの城オープニング記念で来日したイタリアのブルーノ・ムナーリ氏の指導プログラムを紹介します。
かけをうつそう	大きな白いかべにかけが踊ります。私のかげやあなたのかげ, さあ, そのかげに, たくさんの色をつけてみましょう。	うつすことの面白さを体験します。形・色・動きを組み合わせて, その楽しさ, 面白さに気づきます。
うごくちょうこく	切ったり, はりつけたり, 描いたりしてつくりましょう。 さて, できたものは人間ちょうこく。音にあわせて動くちょうこくです。	紙や布などを使って1人1人が体にコラージュします。彫刻になり, 音に合わせて動きます。
モビールのコンサート	音の出るモビールをつくりましょう。光をあけると, さらに楽しいモビールです。	動きの面白さをとりあげます。音と動きを組み合わせて, イメージのひろがりをおねらいます。

体 育	概 要	ね ら い
すてきな新体操	音楽のリズムによって, リングの中に入ったり, 出たり, ボールをついたりころがしたり, きれいなりボンを大きくふるとへびやまるや波がつぎつぎにうまれてきます。 新体操の先生と楽しくあそんでいるうちに, 1つの間にかみんなすてきな新体操の選手です。	リングや, ボール, リボンなどの手具を使って, リズミカルな動きのたのしさ, 美しさを体験します。

参 加 劇	ス ト ー リ ー	趣 旨
宇宙ぼうけん旅行	ひかり姫キララがやみの大王シャドンにつかまって地球のこどもたちに助けを求めています。こどもの城宇宙トレーニングセンターで訓練をして, キララを助けて宇宙へ行こう。 ワープする場所は……? ファイト隊員と一緒にやる訓練はどこで役に立つのかな。 つくろう隊員とつくった不思議なものは何に使うのだろう。 みんなで力をあわせてキララ姫を助けるために宇宙へワープ。 光と音と映像の効果を十分にとり入れた夢とファンタジーの世界です。	青山円形劇場を舞台として, 本格的な照明, 音響, 装置を使った効果により, こどもたちを劇中の人物にさせてしまいます。こどもの城のスタッフ総出のリードによって, こども達は劇中で造り, 動き, 語り, うたい, 主役を演じてしまおう, 今までになかったグループパフォーマンスです。

(2) 61年度の活動

前年度の実績、反省点を踏まえてグループ活動の考え方、対象、料金、受け入れ方法、障害児プログラムなどについて検討し、グループ活動を利用する子どもたちに、学校や園ではできない新しい体験を提供すること、グループでの活動の特性を生かし、子どもたちの感性や社会性に働きかけること、そのために「こどもの城」の全部門がかかわり、その機能を総合的に活用したプログラムの開発を行うことを目的に、準備を行った。具体的にはグループ活動に関する連絡会を月1回定例化し、「こどもの城」の全館事業としての位置づけを行う一方、活動データの集積、PRの充実、関係機関・利用団体との連携、公開グループ活動の実施、特別プログラム活動の実施などを企画した。

1) 利用状況

グループ活動の平常のプログラム利用者は、幼児42団体、1,145人、就学児40団体、1,439人、計82団体、2,584人である（表1-a, b）。幼児では前年度同様に保育所・幼稚園の利用が多く、就学児では団体として養護学校の利用が多い。利用人数では小学生が多い。

表1-a 利用者数<幼児> (年齢別)

区 分	件 数	人 数	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳
保 育 所	25	654		20	84	550
幼 稚 園	12	388		28	44	316
児 童 館	1	25		9	8	8
研 究 所	3	62			27	35
自主保育グループ	1	16	1	3	5	7
計	42	1,145	1	60	168	916

表1-b 利用者数<就学児> (年齢別)

区 分	件数	人数	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
通 園 施 設	1	30	30											
小 学 校	13	762	40	76	205	120	45	252	24					
中 学 校	2	100							25	50	25			
養 護 学 校	14	333			4	11	22	35	10	24	41	48	35	103
小学校特殊学級	10	225	19	28	33	32	33	46	9	9	5			
計	40	1,439	89	104	242	163	100	333	68	83	71	48	35	103

月別利用状況（表2-a, b）では、幼児施設の利用は6月及び11月ごろから漸増し、2月、3月の利用が多い。学校関係も同様の傾向がみられ5月、6月及び12月から3月までの利用が多く、これらは園や学校の遠足や、社会科見学、園外・校外活動などの行事時期と一致している。月別利用者数（表3-a, b）も同様の傾向である。

VI グループ活動

表 2 - a 月別利用団体数<幼児>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
保 育 所			2					3	5	3	6	6
幼 稚 園	1	1	2					1	1		3	3
児 童 館			1									
研 究 所			2			1						
自主保育グループ			1									
計	1	1	8			1		4	6	5	9	9

表 2 - b 月別利用団体数<就学児>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
通 園 施 設			1									
小 学 校	1	4	1	1			1		1	2	2	
中 学 校		2										
養 護 学 校	1	1		2		1	1	2	1	1	3	3
小学校特殊学級			2			1	1			2	1	1
計	2	7	4	3		2	3	2	2	5	6	4

表 3 - a 月別利用者数<幼児>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
保 育 所			67					59	153	74	169	132
幼 稚 園	12	16	89					7	27		104	133
児 童 館			25									
研 究 所			39			23						
自主保育グループ			16									
計	12	16	236			23		66	180	74	273	265

表 3 - b 月別利用者数<就学児>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
通 園 施 設			30									
小 学 校	40	184	25	22			81		75	120	215	
中 学 校		100										
養 護 学 校	26	18				14	6	30	8	33	108	90
小学校特殊学級			26	38		14	20			90	13	13
計	66	302	81	60		28	107	30	83	243	336	103

地域別利用団体数（表 4 - a, b）では、23区内の利用者がやはり多く、次いで都下、近県の利用が少しずつ増えている。

VI グループ活動

表4-a 地域別利用団体数<幼児>

区 分	都道府県	市 区	件 数
保 育 所	東京都	板橋区	5
		江東区	3
		保谷市	3
		品川区	2
		昭島市	2
		江戸川区	1
		渋谷区	1
		足立区	1
		台東区	1
		文京区	1
		北区	1
		墨田区	1
		調布市	1
		大和市	1
藤沢市	1		
幼 稚 園	東京都	渋谷区	4
		江東区	1
		港区	1
		杉並区	1
		台東区	1
		豊島区	1
		我孫子市	1
		船橋市	1
		岩瀬郡	1
		北 区	1
児 童 館	東京都	北 区	1
		港 区	3
研 究 所	東京都	世田谷区	1
自主保育グループ	東京都	世田谷区	1
計			42

表4-b 地域別利用団体数<就学児>

区 分	都道府県	市 区	件 数			
通 園 施 設	東京都	板橋区	1			
		小 学 校	渋谷区	5		
			港区	1		
			新宿区	1		
			千代田区	1		
			豊島区	1		
			目黒区	1		
			横浜市	1		
			静岡県	賀茂郡	1	
			千葉県	八千代市	1	
			中 学 校	東京都	渋谷区	2
					養 護 学 校	東京都
			大田区	1		
			北区	1		
日野市	1					
八王子市	1					
武蔵村山市	1					
川崎市	2					
伊勢原市	1					
横須賀市	1					
横浜市	1					
平塚市	1					
三郷市	1					
和光市	1					
小 学 校 特 殊 学 級	東京都	世田谷区	3			
		三鷹市	1			
		杉並区	1			
		板橋区	1			
		狛江市	1			
		東久留米市	1			
		八王子市	1			
		川口市	1			
		計			40	

施設別に利用した部門をみると(表5-a, b), 幼児施設は音楽, 造形, 体育, AVの順で, プレイホールの自由利用と併用する活動形態が中心である。学校関係は音楽, 造形, プレイ, AV, 体育の順であり, 特殊学級・養護学校も同様の傾向がみられている。

表5-a 施設別利用部門<幼児>

	A V	音 楽	造 形	体 育	計
保 育 所	5	10	4	9	28
幼 稚 園	3	5	7	1	16
児 童 館		1			1
研 究 所		1	1	1	3
自主保育グループ		1			1
計	8	18	12	11	49

VI グループ活動

表5-b 施設別利用部門<就学児>

区分	月	A	V	プ	レ	イ	音	楽	造	形	体	育	計
通園施設						1							1
小学校			6			7		8		9		4	34
中学校								6		2			8
養護学校			4			5		9		3		1	22
小学校特殊学級			2			3		6		5			17
計			12			16		29		19		5	81

月別利用部門の推移は表6-a, bのとおりである。年間のプログラム実施数は表7-a, bのとおりである。

なお、今年度の新しい企画として特別プログラム活動を行い、従来から希望の多かった観劇をプログラムとして取り入れた。内容は音楽事業部による「おとぎの国のメルヘン通り」で、保育所、こどもの城幼児グループ・保育クラブの幼児など93人の参加を得ることができた。グループ活動のような季節や時期により利用状況に変動がある事業では、今後もこのような企画が重要になるものと考えられる。

表6-a 月別利用部門<幼児>

月	AV	音楽	造形	体育	計
61年 4			1		1
5			1		1
6		6	2	2	10
7					
8					
9			1		1
10					
11			3	1	4
12	2	4	1		7
62年 1		1		2	3
2	3	4	2	3	12
3	3	3	1	3	10
計	8	18	12	11	49

表6-b 月別利用部門<就学児>

月	AV	プレイ	音楽	造形	体育	計
61年 4			1	1		2
5	1	1	13	7		22
6	1	2	1	1		5
7		2	1			3
8						
9	1		1	1		3
10	1	1	1	2		5
11			2			2
12	1	2		1	1	5
62年 1	1	2	3	4	2	12
2	5	4	3	2	1	16
3	1	2	3		1	7
計	12	16	29	19	5	81

表7-a プログラム実施数<幼児>

部門	プログラム名	実施数
A V	アニメーションってふしぎだね	8
	計	8
音楽	おむすびころりん	1
	どうぶつえんにいこう	1
	まつりばやし	4
	「ア!」って何色, どんな音?	1
	スカーフであそぼう	11
	計	18

部門	プログラム名	実施数
造形	うごくちょうこく	2
	かげをうつそう	3
	土粘土をこねる	1
	木をつくろう	6
	計	12
体育	すてきな新体操	5
	フロア運動	6
	計	11
合	計	49

VI グループ活動

表 7 - b プログラム実施数<就学児>

部 門	プログラム名	実施数	部 門	プログラム名	実施数
A V	A V を 見 よ う	4	音 楽	シ ン セ サ イ ザ ー	3
	お も し ろ ゲ ー ム	3		和 楽 器 に 触 れ て み よ う	10
	ア ニ メ ー シ ョ ン っ て ふ し ぎ だ ね	3		計	29
	チ ャ レ ン ジ ビ デ オ	1	造 形	お も し ろ い 鬼	2
	フ ィ ル ム に 絵 を 書 い て み よ う	1		か ら 刷 り	2
	計	12		は し る 汽 車	1
プ レ イ	イ ン デ ィ ア ン 村 の お ま つ り だ	2		か げ を う つ そ う	6
	グ ル ー プ レ ク リ ー シ ョ ン	4		型	5
	コ ン プ ュ ー タ ゲ ー ム	2	版	1	
	パ ソ コ ン 体 験 教 室	5	木 を つ く ろ う	2	
	自 由 遊 び	1	計	19	
	誕 生 会	1	体 育	す て き な 新 体 操	4
大 型 積 木 遊 び	1	フ ロ ア 一 運 動		1	
計	16	計		5	
音 楽	こ ど も デ ィ ス コ	2	合 計		81
	ガ ム ラ ン を 体 験 し よ う	14			

2) 活動の実際

申し込み方法、対象、料金、時間、プログラム実施日についての主な変更点は、活動予定日の1か月前までに予約をし、活動日の3週間前までに下見打ち合わせを行うこと。前年度は活動日の1週間前に下見打ち合わせを行っていたが、プログラムの検討や準備に時間をかけ、子どもたちの様子に合わせたり、プログラムの質的な向上を図ることが目的である。また、対象人数もプログラムにより異なること、養護学校や特殊学級は比較的少人数であることを考慮し、幼児は15人以上30人、就学児は15人以上80人とした。更に、幼児の対象年齢を3歳以上と限定したが、2歳児のプログラム開発は今後の検討課題である。料金はグループ活動料金として幼児150円、就学児200円となっているが、反省点としてプログラム単位料金という案が出ている。

本年度の活動プログラムは表8、表9のようである。前年度のプログラム活動に検討を加え、幼児のためのプログラムと就学児のためのプログラムを開発し、計30のプログラムを企画した。このほか、AVライブラリー、プレイホールの自由活動も重視した活動を行った。また、活動プログラムの質的な向上と、プログラムの関係機関への普及を目的として、公開グループ活動を10月、62年1月に実施し、保育園や幼児通園施設とプログラムについての懇談を行った。

3) 問題点と今後の展開

「プログラム」や「グループ活動」の考え方については、統一的な考え方を模索しているのが実状である。各部とも重要な活動であり、質のよいプログラムを提供していきたいという点は一致している。対象については、2歳児のプログラム、中高校生のためのプログラム

VI グループ活動

の充実を図っていききたい。料金について、本年度はプログラム試行段階なので、前年度の料金を継承しているが、プログラムの向上とともにプログラム料金制なども考えられる。申し込み方法では、下見打ち合わせの時点で活動担当スタッフが集合できない面もあり、改善する必要がある。更に、本年度は多くのプログラムを開発しているが、各部の共同プログラムがなく、今後もこの点について検討する必要がある。また、実際には特殊学級・養護学校の利用が多く、特に養護学校の場合、障害の程度も重度の子どもたちであり、主に音楽プログラム“ガムランを体験しよう”で対応しているが、実施することによりさまざまな面で担当スタッフの得るものも大きく、今後もプロジェクトを組み合わせながらプログラム開発を行っていききたい。

〈利用の諸規程〉

申し込み方法

- ・活動予定日1か月前までに電話で予約をする。
- ・利用日の3週間前までにこどもの城で下見・打ち合わせを行う。

対象年齢・定員

- ・幼児 3歳以上就学前 15名以上30名
- ・就学児 小学校1年生以上高校3年生 15名以上80名

料金

- ・幼児 1名150円
- ・就学児 1名200円

プログラムにより特別料金1,000円がグループ単位で加算されるものがある。先生は子ども20名につき3名まで無料。

障害児の場合付添者は無料。プログラムにより就学児のみ材料費100円又は200円加算されるものがある。

時間 10時～13時

実施プログラム（幼児）				
火			AV	体育
水	音楽		AV	
木	音楽	造形		体育
金	音楽	造形	AV	

実施プログラム（就学児）				
火	音楽	体育	AV	プレイ
水	音楽		AV	プレイ
木	音楽	造形	体育	プレイ
金	音楽	造形	AV	プレイ

表8 幼児プログラム

音楽プログラム

テーマ	まつりばやし	定員	15～30人	時間	40～60分	対象	3～5歳
テーマ	スカーフであそぼう	定員	15～30人	時間	40～60分	対象	3～5歳 障害児
テーマ	どうぶつえんにいこう	定員	15～30人	時間	40～60分	対象	3～5歳 障害児
いずれも内容・ねらいは前年度と同じ							

テーマ	おむすびころりん	定員	15～30人	時間	40～60分	対象	3～5歳
内 容				ね ら い			
「おむすびころりんすっとなん……」みんなでおじいさん、おばあさんのお手伝いをして大きなおにぎりをたくさんつくってねずみさんの国に出かけよう。				おむすびころりんのお話を劇あそび形式で展開します。うたとおはなしによる表現活動を体験します。			

VI グループ活動

テーマ	ガムランで遊ぼう	定員	15～30人	時間	40～60分	対象	3～5歳
内 容				ね ら い			
南の国のめずらしい楽器ガムラン。大きい楽器や小さい楽器、不思議な形をしています。どんな音がするのか。みんなもいっしょにたたいてみよう。				ほかでは接することができないインドネシアの民族楽器ガムランの演奏をきき、楽器にふれる、不思議な音楽体験です。			

テーマ	「ア！」って何色、どんな音？	定員	15～40人	時間	40～60分	対象	5～8歳
内 容				ね ら い			
あくびのアーアア、びっくりのア！。いやだなのアーア……。 「ア！」って何色、どんな音。 みんなでことばの国へ探検へ行こう！。				ことばこそ音楽！。日頃私たちが使っている言葉に注目し言葉と音楽のむすびつきを考え、また音を体で表現することを体験します。			

造形プログラム

テーマ	木をつくろう	定員	15～30人	時間	40～60分	対象	3～5歳 障害児
内 容				ね ら い			
みんなで大きな木をつくろう。幹から太い枝が伸び、枝から細かい小枝が出ます。木の葉をつけると虫や動物達もやってきました。出来上がったあとは……。				床に紙をつなぎあわせて木をつくります。木の成長の法則を知り、木を壊すことによって計画することを造形活動を通して学びます。			

テーマ	かげをうつそう	定員	15～30人	時間	40～60分	対象	3～5歳
内容・ねらいは前年度と同じ							

体育プログラム

テーマ	すてきな新体操	定員	15～30人	時間	40～60分	対象	3～5歳
内容・ねらいは前年度と同じ							

テーマ	フロアー運動	定員	15～30人	時間	40～60分	対象	3～5歳
内 容				ね ら い			
体操のお兄さんと一緒に元気に体操をします。マットや巧技台、フープやボールを使って楽しいゲームや競技をやってみよう。				体の動きやマット運動など体育室で思い切り体を動かすたのしみを体験します。			

AVプログラム

テーマ	アニメーションってふしぎだね	定員	20人	時間	60分	対象	4～5歳
内 容				ね ら い			
AVライブラリーにあるアニメーションを見たり、動かない絵が動いているようにみえる“2コマアニメーション”を作ってみよう。				単にアニメーションのビデオソフトを視聴するだけでなく、アニメーションの原点ともいえる2コマアニメーションを作ることによって映像表現への関心を高めます。			

VI グループ活動

テーマ	フィルムに絵を書いてみよう	定員	20人	時間	60分	対象	4～5歳
内 容			ね ら い				
透明のフィルムに油性のマジックインクで自由に着色したり絵を描いたりしたものをつなげて上映します。さあ、スクリーンにうつされる映像は……。			自分で色を塗った16mmフィルムがスクリーンの上で躍動するおもしろさを体験してもらうと同時に、映画のしくみを知り制作します。				

表9 就学児プログラム

音楽プログラム

テーマ	ガムランを体験しよう	定員	15人	時間	45分	対象	小中高 障害児
内 容			ね ら い				
インドネシア・ジャワ島の青銅製打楽器ガムランの演奏を聞き、簡単なアンサンブルを体験してみよう。			学校では触れることのできないインドネシアの民族楽器ガムランの演奏体験を通して、民族楽器のおもしろさとアンサンブルの楽しさを体験します。				

テーマ	こどもディスコ～ナメドンと踊ろう～	定員	50～60人	時間	40～60分	対象	障 害 児
内 容			ね ら い				
ぬいぐるみ“ナメドン”が登場するディスコ形式のプログラム。さあ、みんなで楽しくナメドンとおどろう。			音楽スタジオの照明、音響をフルに利用し、ディスコの雰囲気を作り出します。リズムのある音楽を身体全体で受け止めて思い切り動きまわる楽しさを体験します。				

テーマ	パーカッションに触れよう	定員	30人	時間	30～40分	対象	小 学 生 障 害 児
内 容			ね ら い				
音楽のお兄さん、お姉さんの打楽器演奏を聞いたり、いろいろな打楽器に触れてみよう。そのあとは好きな打楽器を使ってともだちどうし、アンサンブルを楽しもう。			学校では、あまり触れることのできない多種類のパーカッションの演奏を聞き自分の耳でそれぞれの楽器の音を確認めます。気に入った楽器を使って全員でアンサンブルを楽しみ、たたくという表現活動を通して自己を発散、開放していきます。				

テーマ	和楽器に触れてみよう	定員	30～40人	時間	45分	対象	小 学 生 障 害 児
内 容			ね ら い				
和だっこ、琴などの演奏を聞いて簡単なリズムでみんなで和だっこをたたいてみよう。			日ごろ、触れる経験の少ない和楽器の演奏を体験します。たたくというストレートに楽器の反応が返ってくる活動を通して自己表現、開放の場を作ります。				

テーマ	レッツ・プレイシンセサイザー	定員	40～80人	時間	45～60分	対象	小 学 生
内 容			ね ら い				
音楽のお兄さん、お姉さんによるシンセサイザーの演奏に合わせて音楽ゲームや歌を楽しもう。			シンセサイザーのおもしろさや様々な使い方を知り、音楽ゲームや歌唱等自分達が参加することによって音楽の楽しさを味わうショー形式のプログラムです。				

VI グループ活動

造形プログラム

テーマ	木をつくろう	定員	30～50人	時間	60分	対象	低学年
内 容				ね ら い			
みんなで協力して大きな木を作ります。幹から太い枝が伸び、枝から細い小枝が出ます。部屋いっぱいに広がった木にマジックや切り紙で花・鳥・虫など描いたりはったりしてあそぼう。				床に紙をつなぎあわせて木を作ります。木の成長の法則を知り、木を壊すことによって計画することを造形活動を通して学びます。			

テーマ	かげをうつそう	定員	15～30人	時間	60分	対象	低学年
内容・ねらいは前年度と同じ							

体育プログラム

テーマ	すてきな新体操	定員	15～30人	時間	40～60分	対象	小 中 高 障 害 児
内容・ねらいは前年度と同じ							

テーマ	フ ロ ア ー 運 動	定員	15～30人	時間	40～60分	対象	小 中 高 障 害 児
内 容				ね ら い			
体操の先生と一緒に元気に体操をします。マットや巧技台、フープやボールを使って楽しいゲームや競技をやってみよう。				体の動きやマット運動など体育室で思い切り体を動かすたのしみを体験します。			

プレイプログラム

テーマ	大 型 遊 具 遊 び	定員	40～80人	時間	60～90分	対象	幼児・小学 生・障害児
内 容				ね ら い			
プレイホールにある、アスレチック遊びや不思議の館を使っての遊び、また大型積木。ブロックやままごとセットなどを使った遊びをやる。				楽しいレクリエーション活動を通して友だち同士の結びつきをさらに深め積極的に自己を表現する機会として日常生活と異なる体験を通して創造性や自主性を高めることをねらいとします。なお、遊具の使い方の指導を含めたプログラムもご相談に応じます。			

テーマ	グループレクリエーション	定員	20～60人	時間	60～90分	対象	小 学 生 障 害 児
内 容				ね ら い			
こどもの城のいちばん広いスペースでのレクリエーションゲーム、ダンスやクイズ大会などで楽しもう。				レクリエーション活動を通して友だち同士の結びつきをさらに深め、積極的に自己を表現する機会とし、また、日常の生活と異なる体験を通して創造性や自主性を高めることをねらいとします。			

VI グループ活動

テーマ	パソコン体験教室	定員	40人	時間	90～120分	対象	小高学年～中学生
内 容			ね ら い				
パソコンの基本的な操作からLOGO (ロゴ) というプログラミング言語を使ってパソコンで図形や絵を描くプログラムをつくります。			LOGO (ロゴ) 言語によるプログラミングの初歩を学びます。また、そのプログラミングを通して、パソコンを楽しく親しみのあるものとして理解します。				

テーマ	コンピュータプレイ	定員	20人	時間	60分	対象	小高学年～中学生、障害児
内 容			ね ら い				
パソコンを使ってコンピュータグラフィックスや音楽を演奏したり、また熱気球やヨットのシミュレーションゲームでみんなで遊ぼう。			コンピュータでどんなことができるのか？パソコンによる楽しい遊びを通して新しい体験をします。				

AVプログラム

テーマ	アニメーション つてふしぎだね	定員	20人	時間	90～120分	対象	小中高
内 容			ね ら い				
AVライブラリーにあるアニメのビデオソフトを見たり動かない絵が動いているようにみえる“2コマアニメーション”作りにチャレンジしよう。			単にアニメーションのビデオソフトを視聴するだけでなく、アニメーションの原点ともいえる2コマアニメーションを作ることによって映像表現への関心を高めます。				

テーマ	フィルムに絵を 書いてみよう	定員	30人	時間	90～120分	対象	小中高
内 容			ね ら い				
透明のフィルムに油性のマジックインクで自由に着色したり絵を描いたりしたものを編集し上映します。さあ、スクリーンにうつされる映像は……。			自分で色を塗った16mmフィルムがスクリーンの上で躍動するおもしろさを体験し、映画のしくみを知ります。				

テーマ	チャレンジ・ビデオ	定員	20人	時間	90～120分	対象	小中高
内 容			ね ら い				
ビデオカメラを自分たちで操作して友達にインタビューしてみたり、こどもの城館内取材レポートする楽しいビデオ体験をしてみよう。			ビデオカメラを自分の手で操作して撮影することにより、映像メディアへの関心を高めます。				

テーマ	ビデオカメラを使った “おもしろゲーム”	定員	20～30人	時間	90～120分	対象	小中高
内 容			ね ら い				
①ことばの伝達ゲームと同じように“動作”の伝達ゲーム。 ②身近なものを、超クローズアップで撮影。それが何かをあてるクローズアップクイズ。 ③ビデオしりとり。 ビデオカメラを使ったゲームで楽しもう。			見慣れている世界をビデオカメラを通して見直してみると別な世界があらわれてきます。新しい世界、もの見方の発見を体験します。				

VII その他の活動

1	国際交流活動	273
2	こどもの城全国連絡協議会	276
3	チャリティー事業	280
4	こどもの城友の会	282

1 国際交流活動

1 国際交流

(1) 60年度の事業

名 称	期 間	時 間	対 象	場 所	料 金 (円)	備 考
こどもの城 ファミリークリスマス	60. 12. 23~ 26	18:00~ 21:00	一般ファミ リ ー 友の会 西町インタ ーナショナル スクール	青山円形 劇場 プレイホ ール 音楽ロビー	600	出演 サトコジャズダンススタジオ テリー・オプライエン サンタクロースバンド
イースター 国際子どもフェス ティバル	61. 3. 30	14:00	一 般 ファミリ ー	青山劇場	800	東京シティバレエ団 東京シアターフォーチルドレン 聖心・西町・聖メリーインター ナショナルスクール 全日本鼓笛バンド連盟、合唱団 ほか

(2) 61年度の事業

インターナショナル スクール展覧会 アートスケープ	61~ 4. 26~ 5. 5	開 館 時間中	一般来館者	アトリウ ムギャラ リー		聖心・聖マリア・サンモール・ 横浜・横田・聖ヨゼフ・清泉・ 西町インターナショナルスクール アメリカンスクールオブジャパ ン・クリスチャンアカデミー
世界こどもの日ファミ リリーイベント ディスコ・サーカス	61. 5. 4・5	17:30~ 20:00	一 般 ファミリ ー	青山円形 劇 場	2人 2,500 3人 3,500	鳳蘭, 麻実れい 劇団ブーク 聖心インターナショナルバンド ほか
国際交流ファミリー ディスコ アイスクリーム パラダイス	61. 8. 13・ 14	17:00~ 19:00	同 上	同 上	1,000	大和田りつ子「NHK・わんつ ーどん」 田中青児 ベープ・ハナほか
国際交流ファミリー ディスコ ファーストバース デーパーティー	61. 11. 1 2	{ 18:00~ 20:00 14:30~ 16:30 18:00~ 20:00	同 上	同 上	1,500	ベープ・ハナ ガムラングループほか
国際交流ファミリー ディスコ カントリー・ クリスマス	61. 12. 24~ 26	18:00~ 20:00	同 上	同 上	1,500	カントリーウェスタンバンド ほか
イースター国際こど もフェスティバル キャッチスプリング	62. 3. 26	18:00~ 20:00	同 上	青山劇場	1,800	余バレエアカデミー オペラクリエーションイン青山 アナ・スクールオブダンス サンモールインターナショナル 合唱団 こどもの城新体操・合唱団

(3) 60年度の活動

(ア) こどもの城ファミリークリスマス

「こどもの城」では、国際交流イベントの1つとして、ファミリー・ディスコを60年12月から開始した。ここでは“ディスコ”という言葉の持つにぎやかな感じより、むしろ、家族の触れ合いやファミリーフォーラムを大切にして、親子と一緒に歌ったり、踊ったりしながら対話の新しいきっかけが見つけられることを目的とした。加えて、外国人をキャストとゲストに交え、日・英2か国語を使って習慣・風習などの話をするなかで、国際的な理解や文化交流を目指した。家族で踊る習慣の少ない日本だけに、どんな形で受け入れられていくか心配しながらのスタートだったが、固定的なゲストも少しずつ増え、「こどもの城」の国際交流の一環として重要な役割を果たしてきている。

その第1弾として実施したのが「ファミリークリスマス」である。初めての試みであり、大人の参加者が踊りに加わるまでに時間を要することが予想されたので、大人を中心とするゲームを取り入れたり、外国人の父親にサンタクロースを演じてもらった。子どもたちを楽しませるために司会者は場面ごとに衣装を替えたりといろいろな工夫をこらし、家族で楽しい一時を過ごしてもらった。

(イ) 第1回イースター国際こどもフェスティバル

日本ではなじみの薄い“イースター（復活祭）”を、世界各国の遊びや風習を織りませ春の祭りとして実施した。春の歌・パレエ・ゲーム・ボンネットコンテスト（帽子のコンテスト）、イースターパレードを行い、ゲームやコンテストでは子どもたちをステージに上げ、劇場を使った参加型イベントとした。

(4) 61年度の活動

本年度に「ファミリーディスコ」を4回実施した。前年度の反省から、新たな工夫として次の2点を加えた。①出演したキャストは、ステージ上でショーを演ずるだけでなく、ゲストの中に入って踊り、キャストとゲストが一体となること ②ディスコタイムはダンスのコンテストではないため、参加者が“上手な踊り”でなく、“楽しい踊り”ができるように演出すること。そして1つの試みとして“楽しい踊り”をしている人に随時プレゼントをした。

(ア) アート・スケープ1986

7回目を迎えたインターナショナルスクールの美術展を、アトリウムギャラリーで行った。参加校は、東京・横浜地区のインターナショナルスクール10校で、11歳から19歳までの子どもたちの絵・版画・エッチング・彫刻・焼き物など400点以上が展示された。

(イ) 世界こどもの日ファミリーイベント「ディスコサーカス」

今回は、子どもたちの大好きなサーカスをテーマとした。ピエロが登場したり、自転車乗

1 国際交流

り、手品、風船作りなどや、司会者が大きなパジャマを着てスキットを演じるなどのショー的要素も取り入れた。メークをしたピエロが登場すると、外国の子どもたちは大喜びしたが、日本の子どもたちの中にはピエロの顔を怖がる子もいて、大人には興味深い光景だった。

(ウ) 国際交流ファミリーディスコ「アイスクリーム・パラダイス」

NHK「ワン・ツー・ドン」のチームが中心となった企画。テレビによく出演するタレントが登場し、ゲームやダンスも、子どもたちがよく知っているものが多く、楽しいイベントであった。

(エ) 国際交流ファミリーディスコ「ファーストバースデーパーティー」

開館1周年を記念して実施したファミリーディスコである。アフリカ、インドネシア、タイ、スペイン各国の音楽とダンスをテーマに、オリジナルのファミリーディスコのテーマソングも発表した。

(オ) 国際交流ファミリーディスコ「カントリークリスマス」

アメリカのスクエアダンスや、クリスマスの詩などを取り入れ、クリスマスを祝った。4回のディスコを終え、来年度にはディスコなど劇場を使った催しに定期的出演できるグループを組織していきたい。また、参加する子どもたちの年齢層が当日になるまでつかめないため、ゲームなどは対応がきくように何種類か準備しておかなくてはならないだろう。

(カ) 第2回イースター国際こどもフェスティバル「キャッチスプリング」

昨年に引き続き“イースター”のお祭りを青山劇場で実施した。“春をつかまえよう”，をテーマに、春の祭りといースターの面白い歴史の話や、音楽と踊りで春を探す楽しい冒険物語を繰り広げた。

子どもたちを2時間近く集中させるのは難しく、今後とも歌・ショー・ゲームなどを上手に組み合わせ、展開があり、内容の凝縮されたプログラムを練り上げていく必要があるだろう。

60・61年度の活動

1) 設立まで

(ア) はじめに

「こどもの城」は昭和54年6月、こどもの城企画委員会（座長・葛西嘉資氏）が厚生省児童家庭局長に提出した「こどもの城の基本構想に関する意見書」に「国が設置する施設として全国の子どもの健全育成の推進に資するものでなければならない」と、その性格を明記している。

日本児童手当協会は、この提言を踏まえ、都道府県・指定都市を単位に、その行政区域内の地方自治体及び児童館・児童センター、その他児童文化施設などにより構成される団体を会員とする「こどもの城全国連絡協議会」を組織し、「こどもの城」のナショナルプロジェクトとしての性格を明確にすることとした。

(イ) 協議会の設立準備

「こどもの城」を、全国の子どもの健全育成に役立つ施設とするため、開館2年半前から本協議会の構想を固め、次のとおり厚生省始め関係各機関と意見交換を行うなど、発足の準備に取り組んだ。

- (1) 厚生省関係各課との意見交換。
- (2) 東京都（都立児童会館を含む）との意見交換。
- (3) 社団法人全国児童館連合会・全国児童厚生文化施設協議会との意見交換。
- (4) 厚生省及び日本児童手当協会から各都道府県・指定都市児童福祉主管課に対する働きかけ。
 - ① 厚生省から各都道府県・指定都市児童福祉主管部局へ協力要請通知を送付。
 - ② 各都道府県・指定都市児童福祉部局の「課長ブロック会議」に出席し、厚生省及び当協会から協力を要請。
 - ③ 厚生省の協力を得て当協会職員を各都道府県・指定都市児童福祉部局へ派遣し、協力を要請。

2) 協議会の発足

(1) 昭和58年3月から協議会発足の準備を進めてきたが、昭和59年9月に本協議会に関する設立構想について、ようやく大方の都道府県・指定都市の賛同を得たので、同年10月26日「こどもの城」の建設現場に近い青学会館において、厚生省関係各課・各都道府県・指定都市の児童福祉主管課並びに全国児童館連合会など関係各団体が集まり、本協議会の設立準備会を開催、「こどもの城全国連絡協議会」の在り方などについて意見の交換を行った。

(2) 出席者の総意により、引き続きこの会を設立総会に切り替え、当協議会の規範となる「こどもの城全国連絡協議会の規約・同施行細則・役員選出母体並びに設立初年度の事業計

2 連絡協議会

画及び予算について審議・決定し、昭和60年4月1日から発足することとなった。

3) 会 員

本協議会の会員は都道府県・指定都市を単位（県内児童館連絡協議会又は県児童福祉主管課等）に組織し、ほとんどの県が入会している。①都道府県・指定都市—51 ②関係団体—6

60・61年度こどもの城全国連絡協議会会員

県名等	会 員 の 名 称	県名等	会 員 の 名 称
北海道	北海道児童館連絡協議会	島根	島根県社会福祉部児童家庭課
青森	青森県児童館連絡協議会	岡山	岡山県民生労働部家庭福祉課
岩手	岩手県社会福祉協議会児童館部会	広島	広島県児童館連絡協議会
宮城	1. 宮城県市町村児童館連絡協議会 2. 宮城県中央児童館	山口	山口県児童センター
秋田	秋田県市町村児童館連絡協議会	徳島	徳島県児童館連絡協議会
山形	山形県児童館連絡協議会	香川	香川県児童館連絡協議会
茨城	茨城県児童館連絡協議会	愛媛	愛媛県児童館連絡協議会
栃木	栃木県児童館連絡協議会	福岡	福岡県
群馬	群馬県児童館連絡協議会	佐賀	佐賀県福祉生活部児童家庭課
埼玉	埼玉県児童館連絡協議会	長崎	長崎県生活福祉部児童保育課
千葉	千葉県児童館連絡協議会	熊本	熊本県児童館連絡協議会
東京	東京都公立児童厚生施設連絡協議会	大分	大分県福祉生活部児童家庭課
神奈川	神奈川県公立青少年育成施設連絡協議会	宮崎	宮崎県福祉生活部児童家庭課
新潟	新潟県児童館連絡協議会	鹿児島	鹿児島県県民福祉部青少年婦人課
富山	富山県児童館連絡協議会	札幌市	札幌市教育委員会社会教育部
石川	石川県児童館連絡協議会	川崎市	川崎市民生局青少年部青少年課
福井	福井県児童館連絡協議会	名古屋市	名古屋市民生局児童課
山梨	山梨県児童館連絡協議会	京都市	京都市児童館学童保育所運営委員長連絡協議会
長野	長野県児童館連絡協議会	大阪市	大阪市民生局福祉部児童家庭課
岐阜	岐阜県児童館運営連絡協議会	神戸市	神戸市民生局福祉部児童家庭課
静岡	静岡県民生部児童課	広島市	広島市民生局福祉部青少年婦人対策課
愛知	愛知県児童館連絡協議会	北九州市	北九州市民生局福祉部母子福祉課
三重	三重県福祉部児童家庭課	福岡市	福岡市民生局社会部児童家庭課
滋賀	滋賀県厚生部児童家庭課	団 体	財団法人愛知県青少年公団協会
大阪	大阪府民生部児童課	〃	愛知県国際児童年記念館
兵庫	兵庫県民生部児童福祉課	〃	社会福祉法人こどもの国協会
奈良	奈良県児童館協議会	〃	社団法人全国児童館連合会
鳥取	鳥取砂丘こどもの国	〃	財団法人日本民生文化協会
	鳥取県児童館連絡協議会	〃	学校法人ねむの木学園ねむの木子ども美術館

4) 総会・幹事会

総会及び幹事会は年1回定期に開催し、協議会の運営・事業及び予算等に関し審議決定した。

- ① 昭和60年5月21日（青学会館） ② 昭和61年2月28日（こどもの城） ③ 昭和62年3月5日（こどもの城）

VII その他の活動

60・61年度こどもの城全国連絡協議会役員

	氏名	選出ブロック	所属する会員組織の役職名
会長	竹内嘉巳	こどもの城	日本児童手当協会理事長
副会長	大野正	東京	東京都公立児童厚生施設連絡協議会長
副会長	中村政司	近畿	大阪府民生部児童課長
幹事	森正	北海道	北海道児童館連絡協議会長
幹事	富沢歌子	関東	埼玉県児童館連絡協議会長
幹事	吉村依子	中国・四国	広島県児童館連絡協議会長
幹事	久々山義人	九州	熊本県児童館連絡協議会長
幹事	杉本敏雄	こどもの城	日本児童手当協会常務理事
会計監事	阿部久義	東北	宮城県市町村児童館連絡協議会長
会計監事	味岡拓男	中部	愛知県児童館連絡協議会長

5) 事業の概要

(ア) 情報交換・資料提供

全国の児童館等を対象に、こどもの城全国連絡協議会機関紙及び「こどもの城ニュース」などを発送し、その活動状況についてお知らせするほか、地域児童館活動実践集等の資料を各地の児童館等へ提供するなど情報交換を行った。

- (1) こどもの城全国連絡協議会機関紙 年4回発行・計16,000部配布
- (2) こどもの城ニュース 年6回発行・計24,000部配布

(イ) 児童文化・芸能活動

(1) 全国各地に伝承される、子どもたちによる民族芸能を「こどもの城」青山円形劇場で披露し、この集いを通して心の触れ合いを図った。

第1回 (61年2月23日)

- 群馬県桐生市の子どもたちによる「こども八木節」
- 東京都日の出町の子どもたちによる「鳳凰の舞・奴の舞」
- 東京都杉並区第3小学校の子どもたちによる「邦楽合奏」
- こどもの城音楽グループの子どもたちによる「おはやし・三味線演奏」

第2回 (61年8月30日, 31日)

- 神奈川県横須賀市の子どもたちによる「浦賀虎踊」
- 神奈川県厚木市の子どもたちによる「相模人形芝居」
- こどもの城音楽グループの子どもたちによる「おはやし・三味線演奏・児童合唱」

(2) イタリアの造形作家ブルーノ・ムナーリ氏の作品の巡回展示を、児童関係施設などと連帯して開催した。

- 61年4月～5月 ねむの木子ども美術館 (静岡県)
- 61年8月 国立京都国際会館 (京都市)

2 連絡協議会

(ウ) 児童厚生員等の研修・現任訓練

全国の児童館・児童センターなどに勤務する児童指導員などの指導技術の向上を目指し、「こどもの城」を利用して実技を中心とした研修を実施した。

- (1) こどもの城開館記念事業（60年11月・2泊3日）＝イタリアの造形作家ブルーノ・ムナーリ氏を迎えての造形実技指導研修会……23人参加
- (2) 第1回児童厚生員等実技指導講習会（61年6月・2泊3日）＝レクリエーション指導研修…25人参加
- (3) 第2回児童厚生員等実技指導講習会（61年12月・2泊3日）＝レクリエーション指導研修…26人参加

3 チャリティー事業

VII その他の活動

60・61年度の活動

「こどもの城」は、すべての児童を対象とした福祉・文化活動施設であり、ハンディキャップを持つ児童もともに活動するところであることは、「運営の基本的な考え方」にも述べられているとおりである。このような観点からハンディキャップを持つ児童、家庭的に恵まれない児童などのための広範なチャリティー事業を「こどもの城」の重要な活動の1つとして、強力かつ継続的に展開しなければならないと考えている。

60年度及び61年度に実施したチャリティー事業は、青山劇場・青山円形劇場の観劇招待を中心に、プラモデル模型工作教室への招待、館内見学及びクリスマスなど季節行事、各種イベントへの招待など幅広く事業を進めている。

なお、今後「こどもの城」の各部門を活用し、体育・音楽などの体験を通して障害を持った子どもたちの健康増進、生活指導、療育の指針として役立たせるための各種プログラムにも積極的に協力、援助するなど、新しい形のチャリティー事業を開発、促進していきたい。

× × ×

60年11月開館以来、62年3月末までの「こどもの城」青山劇場・青山円形劇場におけるチャリティー観劇は、養護施設等の児童などを対象に延べ52回、9,329人の方々を招待した。

内訳は、養護施設など75か所、1,777人、母子寮35か所、245人、障害児・者のグループ90か所、1,536人、その他へき地の児童・老人ホームの入居者・ボランティアなど5,771人となっている。

また、これらの観劇以外に、プラモデル模型工作教室に延べ3回105人の施設入所児童を無料招待した。

チャリティー事業による観劇招待

(60年度)

実施月日	実施回数	実施場所	実施演目	参加実人員	対象者
11・2～ 4	(回) 3	青山劇場	インドネシア・ソロの舞踏とランバンサルグループ「ジャワの舞踏劇とガムラン」	(人) 24	在宅障害児・者
12. 5・ 20・26	3	同上	ミュージカル「ドリーミング」	2,426	養護施設等の児童 母子寮入寮の母子 在宅障害児・者ボラン ティア等
61. 1. 7・9	2	同上	ミュージカル「ドリーミング」	1,848	同上
計	8			4,298	

3 チャリティー

(61年度)

実施月日	実施回数	実施場所	実施種目	参加実人員	対象者
61. 4. 4・7 ～10	(回) 5	青山劇場	松竹新喜劇 「ザ・カンピ」	(回) 773	養護施設等の児童 母子寮入寮の母子 在宅障害児・者 老人ホーム等の入居者
4. 30 5. 14	2	同上	ミュージカル 「アニー」	1,790	同上
7. 19・ 21	2	青山円形劇場	デフ・パペットシアター 「ロミオとジュリエット」	178	ろう学校生徒 在宅ろうあ児・者
8. 7・ 8・11	3	同上	児童劇 「ベッカンコおに」	236	養護施設等の児童 在宅障害児・者 都立児童相談センター
8. 15	1	青山劇場	NHK 「世界こどもフェスティバル」	192	養護施設等の児童 母子寮入寮の母子 在宅障害児・者
8. 25・ 26	2	同上	アジア音楽祭 「マリンロードの響き」	173	養護施設等の児童 母子寮入寮の母子 在宅障害児・者 老人ホーム等の入居者
9. 24・27 10. 1	3	同上	松竹ミュージカル 「銀河鉄道999」	370	同上
10. 14～ 17	4	青山円形劇場	ガムラン 「金香花頌」	29	都盲人福祉協会 視力障害児・者
11. 29・ 30	2	同上	カレード・スコープ 「世界こどもフェスティバル」	18	母子寮入寮の母子
12. 2	1	同上	オペラクリエーション 「おとぎの国のメルヘン通り」	8	母子寮入寮の母子
12. 15～ 25	8	青山劇場	前進座 「新・平家物語」	246	老人ホーム等の入居者 ホームヘルパー(家庭奉仕員) 在宅老人ボランティア
12. 25・ 26	2	青山円形劇場	クリスマス 「ファミリー・ディスコ」	21	母子寮入寮の母子
62. 1.6 ・7	2	同上	能と狂言	30	養護施設等の児童
62. 1.9 ・10	2	同上	ジャズ・フォー・キッズ	30	養護施設等の児童 母子寮入寮の母子
62. 2.8 ～18	5	青山劇場	ミュージカル 「ハンス・アンデルセン」	937	養護施設等の児童 母子寮入寮の母子 在宅障害児・者など
計	44			5,031	

4 こどもの城友の会

VII その他の活動

60・61年度の活動

「こどもの城」を多くの人に理解してもらい、その支援の輪を広げるとともに、利用の促進を図ることを目的として「こどもの城友の会」を設けた。

この会は、ファミリーで「こどもの城」とのつながりを持ち、利用してもらうことを願って、入会を家族単位としたところに特色がある。

会員の募集は、「こどもの城」オープン前の60年10月3日から開始し、会員数は61年3月末現在で2,947家族に、62年3月末現在で3,332家族に達した。

- (1) 友の会のしくみ（入会資格、入会金、会費、特典等）は、具体的には「こどもの城友の会会則」に定められている。
- (2) 会員に対する特典は、会則の7の(1)から(7)までに掲げられているが、そのうち、青山劇場及び青山円形劇場での公演への優待等の状況は次のとおりである。

60年度 招待：1公演 優待：8公演 優先予約：1公演

61年度 招待：3公演 優待：20公演 優先予約：2公演

(注)「優待」の内容 61年度中に割引と優先予約のセット1公演、友の会会員の集い1公演。

そのほかは割引。

こどもの城友の会会則

1 名称

この会は「こどもの城友の会」と称します。

2 趣旨

こどもの城友の会（以下「友の会」と略称します）は、こどもの城を多くの方に理解していただき、より多く利用し、支援していただくことを願って設けられたものです。

3 事務局

友の会の事務局は、こどもの城の中に置きます。

4 入会資格

- (1) 入会は、家族単位でしていただきます。
- (2) 特別の入会資格はありません（家族構成員の人数、年齢も問いません）。

5 入会の時期及び会員期間

- (1) 入会は、いつでもすることができます。
- (2) 会員期間は、3年間（入会した月の3年後の応答月の末日まで）です。
- (3) (2)の会員期間は、その間に会費を継続して納めていただくことを前提としています。したがって、会費の有効期間が継続しない場合は、途中で会員資格がなくなることになります。

6 入会金及び会費

(1) 入会金

- ① 入会にあたっては、入会金の納入が必要です。② 入会金の額は、家族単位で1,500円です。

(2) 会費

- ① 会員は、毎年、会費を納入していただきます。② 会費の額は、家族単位で年額2,000円

4 友の会

です。③ 会費の有効期間は、1年（入会した月の応答月の末日まで）です。④ 会費は、入会の際に3年分を一括納入することができます。この場合には、3年分の額の10%を割引させていただきます。

(3) 額の改定

入会金及び会費の額は、今後、経済事情によって改定することがあります。

7 特典

会員は、次の特典を受けることができます。

- (1) こどもの城の事業活動内容、会員の特典の具体的な利用方法などについてお知らせする「こどもの城ニュース」を定期的にお送りします（家族単位）。
- (2) こどもの城が実施する講座又はクラブに参加するために必要な登録料の割引をします（割引率20%。登録された家族構成員全員に適用）。
- (3) こどもの城入館招待券を1家族当たり1年につき5枚をさしあげます。
- (4) こどもの城の劇場での公演について次の優待をします。
 - ① 前売り予約の優待受け付けをします。
 - ② こどもの城が指定する日時の公演について優待をします。
- (5) こどもの城が行う催しなどに特別案内又は優待をします。
- (6) こどもの城が行う保育クラブは、友の会会員のみが利用することができます。
- (7) こどもの城の売店で買物をする際に5%の割引をします。

8 入会手続

- (1) 入会の申し込みは、所定の申込書に入会金と会費を添えてしていただきます。
- (2) 入会の申し込みにあたっては、家族の中から代表者（こどもの城から郵送する場合のあて先となったり、会費を納入されたりする方）を定めていただきます。
- (3) 入会すると会員登録を行うとともに会員証を発行します。
- (4) 会員登録は、家族単位で行いますが、その構成員についても個別に登録します。
- (5) 会員証の発行方法及びその取扱いは、次のとおりです。
 - ① 会員証は、家族単位で1枚発行します（氏名の表示は代表者のみ）。
 - ② 会員証の有効期間は、納入した会費の有効期間と同じです。したがって、会費の継続納入をされますとあらためて会員証を発行することになります。
 - ③ 会員証は、会員の特典をお受けになるときには提示していただくこととなりますので、御来館の際には必ず御持参ください。
- (6) 納入された入会金及び会費は、お返しいたしません。

※こどもの城友の会会員地域別分布

62.3.31現在

区分	東京都					埼玉県	神奈川県	千葉県	その他	合計
	特別区			市町村	計					
	渋谷区	港区	その他							
家族数	575	464	1,517	192	2,748	123	271	116	74	3,332
人数	3,002	2,387	6,986	813	13,188	549	1,205	525	341	15,808

注1「家族数」・「その他」の道府県別内訳

北海道2, 秋田1, 岩手1, 宮城1, 山形1, 福島5, 茨城14, 栃木5, 群馬6, 新潟1, 長野5, 山梨1, 富山1, 静岡13, 三重3, 京都2, 大阪1, 兵庫1, 山口1, 香川1, 徳島2, 高知1, 福岡1, 大分1, 熊本1, 鹿児島1, 沖縄1

2「家族数」・「神奈川県」のうちの川崎市及び横浜市の数 川崎市96, 横浜市105

3「人数」は、家族構成員（登録された人）の数である。

財団法人 日本児童手当協会役員

昭和62年3月31日現在

役 職	氏 名	
会 長	石 野 清 治	
理 事 長	竹 内 嘉 巳	
副 理 事 長	小 島 弘 仲	
常 務 理 事	杉 本 敏 雄	
常 務 理 事	大 野 出 穂	
理 事	葛 西 嘉 資	医薬品副作用被害救済基金理事長
理 事	井 川 博	日本商工会議所専務理事
理 事	内 藤 寿七郎	愛育病院名誉院長
理 事	花 村 仁八郎	経済団体連合会副会長
理 事	肥 後 和 夫	成蹊大学教授
理 事	松 崎 芳 伸	日本経営者団体連盟専務理事
理 事	松 本 武 子	聖徳学園短期大学教授
理 事	河 合 三 良	経済同友会副代表幹事
監 事	武 内 稔 和	(財)厚生団常務理事
監 事	村 上 松 五郎	社会福祉調査会常務理事

こどもの城事業年報 昭和60・61年度

昭和62年11月1日発行

財団法人 日本児童手当協会

理事長 竹内 嘉巳

〒 150 東京都渋谷区神宮前 5-53-1

電話 03 (797) 5666

印刷所 ヨシダ印刷両国工場